徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第89集

清　成　遺　跡

徳島県立農林水産総合技術支援センター整備運営事業
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

≪第１分冊≫

２０１７

徳　島　県　教　育　委　員　会
公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

本文目次

《第１分冊》

Ⅰ　調査及び整理の経緯……1
　1　調査に至る経緯……3
　2　発掘調査の方法……5
　3　発掘調査の経過……6
　4　整理作業の経過……6
　5　発掘調査・整理作業の体制……7
　6　発掘調査日誌抄……8

Ⅱ　遺跡の立地と歴史的環境……11
　1　地理的環境……13
　2　歴史的環境……14

Ⅲ　調査成果……23
　1　基本層序……25
　2　遺構と遺物……27
　　(1)　第１遺構面……27
　　①第１遺構面の微地形……27
　　②掘立柱建物（SA）……27
　　③竪穴住居（SB）……68
　　④溝（SD）……77
　　⑤土坑（SK）……92
　　⑥小穴（SP）……122
　　⑦性格不明遺構（SX）……175
　　⑧包含層出土遺物……194
　　(2)　第２遺構面……196
　　①第２遺構面の微地形……196
　　②竪穴住居（SB）……196
　　③溝（SD）……208
　　④土坑（SK）……233
　　⑤小穴（SP）……274
　　⑥性格不明遺構（SX）……284
　　⑦包含層出土遺物……297
　　(3)　第３遺構面……300
　　①第３遺構面の微地形……300

②溝（SD）……300
③土坑（SK）……311
④性格不明遺構（SX）……316
(4)　第 4 遺構面……318
①第 4 遺構面の地形と概要……318
②出土遺物……318
(5)　第 5 遺構面……320
①第 5 遺構面の地形と概要……320
② 1 トレンチ出土遺物……322
③ 2 トレンチ 5a 遺構面……322
④ 2 トレンチ 5b 遺構面……322
⑤ 3 トレンチ 5b 遺構面……333

Ⅳ　自然科学分析……335
1　清成遺跡における放射性炭素年代 (その 1) ……337
2　清成遺跡における放射性炭素年代 (その 2) ……343
3　清成遺跡出土土器の胎土分析……347

Ⅴ　まとめ……353
1　各遺構面における遺構構築の変遷……355
(1)　第 1 遺構面……355
(2)　第 2 遺構面 [弥生時代後期～庄内・布留期] ……361
(3)　第 3 遺構面 [弥生時代中期] ……364
(4)　第 5 遺構面 [縄文時代後期] ……366
2　吉野川下流域の古代～中世前半期の土器編年について……368
(1)　7 世紀代の遺跡……368
(2)　8 世紀代の遺跡と土器の様相……369
(3)　9 世紀代の遺跡と土器の様相……369
(4)　10 世紀代の遺跡と土器の様相……373
(5)　11 世紀代の遺跡と土器の様相……373
(6)　12 世紀代の遺跡と土器の様相……379
(7)　13 世紀代の遺跡と土器の様相……379

《第 2 分冊》

遺構観察表……383
遺物観察表……435
写真図版……537

挿図目次

《第１分冊》

第 1 図　清成遺跡の位置①（1/2,500,000）……3
第 2 図　清成遺跡の位置②（1/50,000）……4
第 3 図　清成遺跡調査区の位置（1/2,500）……4
第 4 図　グリッドの配置方法……5
第 5 図　清成遺跡周辺の遺跡分布図（1/25,000）…15
第 6 図　清成遺跡標準土層図……25
第 7 図　第１遺構面平面図（1/400）……26
第 8 図　第１遺構面地形断面図①……28
第 9 図　第１遺構面地形断面図②……29
第 10 図　第１遺構面地形断面図③……30
第 11 図　第１遺構面地形断面図④……31
第 12 図　第１遺構面地形断面図⑤……32
第 13 図　SA1001 平断面図（1/50）……33
第 14 図　SA1002 平断面図①（1/50）……34
第 15 図　SA1002 平断面図②……35
第 16 図　SA1003 平断面図①（1/50）……36
第 17 図　SA1003 平断面図②（1/50）……37
第 18 図　SA1004 平断面図（1/50）……38
第 19 図　SA1005 平断面図（1/50）……39
第 20 図　SA1006 平断面図（1/50）……40
第 21 図　SA1007 平断面図（1/50）……41
第 22 図　SA1008 平断面図①（1/50）……42
第 23 図　SA1008 平断面図②（1/50）……43
第 24 図　SA1009 平断面図（1/50）……44
第 25 図　SA1010 平断面図（1/50）……45
第 26 図　SA1011 平断面図（1/50）……46
第 27 図　SA1012 平断面図（1/50）……47
第 28 図　SA1013 平断面図（1/50）……48
第 29 図　SA1014 平断面図（1/50）……49
第 30 図　SA1015 平断面図①（1/50）……50
第 31 図　SA1015 平断面図②……51
第 32 図　SA1016 平断面図①（1/50）……52
第 33 図　SA1016 平断面図②……53
第 34 図　SA1017 平断面図（1/50）……54
第 35 図　SA1018 平断面図（1/50）……55
第 36 図　SA1019 平断面図①（1/50）……56
第 37 図　SA1019 平断面図②……57
第 38 図　SA1020 平断面図①（1/50）……58
第 39 図　SA1020 平断面図②……59
第 40 図　SA1021 平断面図（1/50）……60
第 41 図　SA1022 平断面図①（1/50）……61
第 42 図　SA1022 平断面図②……62
第 43 図　SA1023 平断面図（1/50）……63
第 44 図　SA1024 平断面図（1/50）……64
第 45 図　SB1001 平断面図（1/50）……65
第 46 図　SB1001 竈（EH1）平断面図（1/30）……66
第 47 図　SB1001 出土遺物……66
第 48 図　SB1002 平断面図（1/50）……67
第 49 図　SB1002 竈（EH1）平断面図（1/30）……68
第 50 図　SB1002 出土遺物……68
第 51 図　SB1003 平断面図・遺物出土状況図（1/50）……69
第 52 図　SB1003 竈（EH1）平断面図（1/30）……70
第 53 図　SB1003 出土遺物……70
第 54 図　SB1004 平断面図①（1/50）……71
第 55 図　SB1004 平断面図②……72
第 56 図　SB1004 竈（EH1）平断面図（1/30）……73
第 57 図　SB1004 出土遺物……74
第 58 図　SD1001 平断面図（1/40）……75
第 59 図　SD1001 出土遺物……75
第 60 図　SD1002 平面図（1/60）……76
第 61 図　SD1002 断面図（1/40）……76
第 62 図　SD1002 出土遺物……76
第 63 図　SD1003 平断面図（1/40）……77
第 64 図　SD1003 出土遺物……77
第 65 図　SD1004 平面図（1/60）……78
第 66 図　SD1004 断面図（1/60）……78
第 67 図　SD1004 出土遺物……78
第 68 図　SD1005 平断面図（1/40）……79
第 69 図　SD1005 出土遺物……79
第 70 図　SD1011 平断面図（1/40）……80
第 71 図　SD1011 出土遺物……80
第 72 図　SD1015 平断面図（1/40）……81
第 73 図　SD1015 出土遺物……81

第 74 図　SD1016 平断面図①（1/40）……82
第 75 図　SD1016 平断面図②（1/40）……83
第 76 図　SD1016 出土遺物 ……83
第 77 図　SD1023 平断面図①（1/40）……85
第 78 図　SD1023 平断面図②（1/40）……86
第 79 図　SD1023 出土遺物①……87
第 80 図　SD1023 出土遺物②……88
第 81 図　SD1023 出土遺物③……89
第 82 図　SD1024 平断面図（1/40）……90
第 83 図　SD1024 出土遺物 ……90
第 84 図　SD1025 平断面図（1/40）……91
第 85 図　SD1025 出土遺物 ……92
第 86 図　SD1032 平断面図（1/40）……93
第 87 図　SD1034 平断面図（1/40）……94
第 88 図　SD1034 出土遺物 ……94
第 89 図　SD1035 平断面図（1/40）……95
第 90 図　SD1035 出土遺物 ……95
第 91 図　SK1001 平断面図（1/40）……96
第 92 図　SK1001 出土遺物……96
第 93 図　SK1009 平断面図（1/40）……96
第 94 図　SK1009 出土遺物……96
第 95 図　SK1011 平断面図（1/40）……97
第 96 図　SK1011 出土遺物……97
第 97 図　SK1023 平断面図（1/40）……97
第 98 図　SK1023 出土遺物……97
第 99 図　SK1036 平断面図（1/40）……98
第 100 図　SK1036 出土遺物……98
第 101 図　SK1037 平断面図（1/40）……98
第 102 図　SK1037 出土遺物……98
第 103 図　SK1044 平断面図（1/40）……99
第 104 図　SK1044 出土遺物……99
第 105 図　SK1045 平断面図（1/40）……99
第 106 図　SK1045 出土遺物……99
第 107 図　SK1064 平断面図（1/40）……100
第 108 図　SK1064 出土遺物……100
第 109 図　SK1089 平断面図（1/40）……100
第 110 図　SK1089 出土遺物……100
第 111 図　SK1091 平断面図（1/40）……101
第 112 図　SK1092 平断面図（1/40）……101
第 113 図　SK1092 出土遺物……101
第 114 図　SK1094 平断面図（1/40）……102
第 115 図　SK1094 出土遺物……102
第 116 図　SK1096・SK1097 平断面図（1/40）……103
第 117 図　SK1096 出土遺物……103
第 118 図　SK1097 出土遺物……103
第 119 図　SK1103 平断面図（1/40）……104
第 120 図　SK1103 出土遺物……104
第 121 図　SK1117 平断面図（1/40）……105
第 122 図　SK1117 出土遺物……105
第 123 図　SK1120 平断面図（1/40）……105
第 124 図　SK1120 出土遺物……105
第 125 図　SK1124 平断面図（1/40）……106
第 126 図　SK1124 出土遺物……106
第 127 図　SK1130 平断面図（1/40）……106
第 128 図　SK1130 出土遺物……106
第 129 図　SK1131 平断面図（1/40）……107
第 130 図　SK1131 出土遺物……107
第 131 図　SK1132 平断面図（1/40）……108
第 132 図　SK1132 出土遺物……108
第 133 図　SK1135 平断面図（1/40）……109
第 134 図　SK1135 出土遺物……109
第 135 図　SK1140 平断面図（1/40）……109
第 136 図　SK1140 出土遺物……109
第 137 図　SK1142 平断面図（1/40）……110
第 138 図　SK1142 出土遺物……110
第 139 図　SK1157 平断面図（1/40）……111
第 140 図　SK1157 出土遺物……111
第 141 図　SK1159 平断面図（1/40）……111
第 142 図　SK1159 出土遺物……111
第 143 図　SK1162 平断面図（1/40）……112
第 144 図　SK1162 出土遺物……112
第 145 図　SK1166 平断面図（1/40）……113
第 146 図　SK1166 出土遺物……113
第 147 図　SK1167 平断面図（1/40）……113
第 148 図　SK1167 出土遺物……113
第 149 図　SK1169 平断面図（1/40）……114
第 150 図　SK1169 出土遺物……114
第 151 図　SK1170 平断面図（1/40）……115
第 152 図　SK1170 出土遺物……115
第 153 図　SK1172 平断面図（1/40）……116
第 154 図　SK1172 出土遺物……116
第 155 図　SK1178 平断面図（1/40）……117

第156図　SK1178 出土遺物……117
第157図　SK1185 平断面図（1/40）……117
第158図　SK1185 出土遺物……117
第159図　SK1191 平断面図（1/40）……118
第160図　SK1191 出土遺物……118
第161図　SK1197 平断面図（1/40）……118
第162図　SK1197 出土遺物……118
第163図　SK1205 平断面図（1/40）……119
第164図　SK1212 平断面図（1/40）……119
第165図　SK1212 出土遺物……119
第166図　SK1216 平断面図（1/40）……120
第167図　SK1216 出土遺物……120
第168図　SK1219 平断面図（1/40）……120
第169図　SK1219 出土遺物……120
第170図　SK1232 平断面図（1/40）……121
第171図　SK1232 出土遺物……121
第172図　SK1234 平断面図（1/40）……121
第173図　SK1234 出土遺物……121
第174図　SK1240 平断面図（1/40）……122
第175図　SK1240 出土遺物……122
第176図　SP1008 平断面図（1/20）……123
第177図　SP1008 出土遺物……123
第178図　SP1031 平断面図（1/20）……123
第179図　SP1031 出土遺物……123
第180図　SP1038 平断面図（1/20）……124
第181図　SP1051 平断面図（1/20）……124
第182図　SP1051 出土遺物……124
第183図　SP1093 平断面図（1/20）……125
第184図　SP1093 出土遺物……125
第185図　SP1117 平断面図（1/20）……125
第186図　SP1117 出土遺物……125
第187図　SP1138 平断面図（1/20）……126
第188図　SP1138 出土遺物……126
第189図　SP1179 平断面図（1/20）……126
第190図　SP1179 出土遺物……126
第191図　SP1222 平断面図（1/20）……127
第192図　SP1222 出土遺物……127
第193図　SP1223 平断面図（1/20）……127
第194図　SP1223 出土遺物……127
第195図　SP1238 平断面図（1/20）……128
第196図　SP1238 出土遺物……128
第197図　SP1270 平断面図（1/20）……128
第198図　SP1270 出土遺物……128
第199図　SP1282 平断面図（1/20）……129
第200図　SP1282 出土遺物……129
第201図　SP1301 平断面図（1/20）……130
第202図　SP1301 出土遺物……130
第203図　SP1303 平断面図（1/20）……130
第204図　SP1303 出土遺物……130
第205図　SP1315 平断面図（1/20）……131
第206図　SP1315 出土遺物……131
第207図　SP1319 平断面図（1/20）……132
第208図　SP1319 出土遺物……132
第209図　SP1320 平断面図（1/20）……132
第210図　SP1320 出土遺物……132
第211図　SP1348 平断面図（1/20）……133
第212図　SP1348 出土遺物……133
第213図　SP1351 平断面図（1/20）……133
第214図　SP1351 出土遺物……133
第215図　SP1378 平断面図（1/20）……134
第216図　SP1378 出土遺物……134
第217図　SP1390 平断面図（1/20）……134
第218図　SP1390 出土遺物……134
第219図　SP1403 平断面図（1/20）……135
第220図　SP1424 平断面図（1/20）……136
第221図　SP1424 出土遺物……136
第222図　SP1437 平断面図（1/20）……137
第223図　SP1447 平断面図（1/20）……137
第224図　SP1447 出土遺物……137
第225図　SP1448 平断面図（1/20）……138
第226図　SP1448 出土遺物……138
第227図　SP1451 平断面図（1/20）……138
第228図　SP1451 出土遺物……138
第229図　SP1454 平断面図（1/20）……139
第230図　SP1454 出土遺物……139
第231図　SP1460 平断面図（1/20）……140
第232図　SP1460 出土遺物……140
第233図　SP1462 平断面図（1/20）……140
第234図　SP1462 出土遺物……140
第235図　SP1473 平断面図（1/20）……141
第236図　SP1473 出土遺物……141
第237図　SP1476 平断面図（1/20）……141

第238図　SP1476 出土遺物……141
第239図　SP1482 平断面図（1/20）……142
第240図　SP1482 出土遺物……142
第241図　SP1494 平断面図（1/20）……142
第242図　SP1494 出土遺物……142
第243図　SP1497 平断面図（1/20）……143
第244図　SP1497 出土遺物……143
第245図　SP1526 平断面図（1/20）……143
第246図　SP1526 出土遺物……143
第247図　SP1530 平断面図（1/20）……144
第248図　SP1530 出土遺物……144
第249図　SP1534 平断面図（1/20）……144
第250図　SP1534 出土遺物……144
第251図　SP1536 平断面図（1/20）……145
第252図　SP1536 出土遺物……145
第253図　SP1539 平断面図（1/20）……145
第254図　SP1539 出土遺物……145
第255図　SP1555 平断面図（1/20）……146
第256図　SP1555 出土遺物……146
第257図　SP1559・SP1561 平断面図（1/20）……146
第258図　SP1561 出土遺物……146
第259図　SP1617 平断面図（1/20）……147
第260図　SP1617 出土遺物……147
第261図　SP1644 平断面図（1/20）……147
第262図　SP1644 出土遺物……147
第263図　SP1690 平断面図（1/20）……148
第264図　SP1690 出土遺物……148
第265図　SP1700 平断面図（1/20）……148
第266図　SP1700 出土遺物……148
第267図　SP1728 平断面図（1/20）……149
第268図　SP1728 出土遺物……149
第269図　SP1763 平断面図（1/20）……150
第270図　SP1763 出土遺物……150
第271図　SP1776 平断面図（1/20）……150
第272図　SP1776 出土遺物……150
第273図　SP1798 平断面図（1/20）……151
第274図　SP1798 出土遺物……151
第275図　SP1819 平断面図（1/20）……151
第276図　SP1819 出土遺物……151
第277図　SP1844 平断面図（1/20）……152
第278図　SP1866 平断面図（1/20）……152
第279図　SP1866 出土遺物……152
第280図　SP1875 平断面図（1/20）……152
第281図　SP1875 出土遺物……152
第282図　SP1878 平断面図（1/20）……153
第283図　SP1878 出土遺物……153
第284図　SP1881 平断面図（1/20）……154
第285図　SP1881 出土遺物……154
第286図　SP1882 平断面図（1/20）……155
第287図　SP1882 出土遺物……155
第288図　SP1937 平断面図（1/20）……156
第289図　SP1937 出土遺物……156
第290図　SP1938 平断面図（1/20）……156
第291図　SP1938 出土遺物……156
第292図　SP1939 平断面図（1/20）……157
第293図　SP1939 出土遺物……157
第294図　SP1960 平断面図（1/20）……157
第295図　SP1960 出土遺物……157
第296図　SX1001 平断面図①（1/60）……158
第297図　SX1001 平断面図②……159
第298図　SX1001 遺物出土状況図①（1/60）……160
第299図　SX1001 遺物出土状況図②（1/60）……161
第300図　SX1001 遺物出土状況図③（1/60）……161
第301図　SX1001 遺物出土状況図④（1/60）……162
第302図　SX1001 出土遺物①……163
第303図　SX1001 出土遺物②……164
第304図　SX1001 出土遺物③……165
第305図　SX1001 出土遺物④……166
第306図　SX1001 出土遺物⑤……167
第307図　SX1001 出土遺物⑥……168
第308図　SX1001 出土遺物⑦……169
第309図　SX1001 出土遺物⑧……170
第310図　SX1001 出土遺物⑨……171
第311図　SX1001 出土遺物⑩……172
第312図　SX1001 出土遺物⑪……173
第313図　SX1001 出土遺物⑫……174
第314図　SX1002 平断面図（1/40）……175
第315図　SX1002 出土遺物……176
第316図　SX1003 平断面図（1/40）……177
第317図　SX1003 出土遺物……177
第318図　SX1004 平断面図（1/40）……178
第319図　SX1004 出土遺物①……179

第 320 図　SX1004 出土遺物②……180
第 321 図　SX1005 平断面図（1/40）……181
第 322 図　SX1005 出土遺物……181
第 323 図　SX1007 平断面図（1/40）……182
第 324 図　SX1007 出土遺物……182
第 325 図　SX1008 平断面図（1/40）……183
第 326 図　SX1008 出土遺物……183
第 327 図　SX1009 平断面図（1/40）……184
第 328 図　SX1009 出土遺物……184
第 329 図　SX1010 平断面図（1/40）……185
第 330 図　SX1010 出土遺物……185
第 331 図　SX1011 平断面図（1/40）……186
第 332 図　SX1011 出土遺物……187
第 333 図　SX1012 平断面図（1/40）……188
第 334 図　SX1012 出土遺物……188
第 335 図　包含層出土土器①（弥生時代）……189
第 336 図　包含層出土土器②（古墳時代）……189
第 337 図　包含層出土土器③（古代）……190
第 338 図　包含層出土土器④（中世）……191
第 339 図　包含層出土土器⑤（中世）……192
第 340 図　包含層出土瓦……192
第 341 図　包含層出土土錘……192
第 342 図　包含層出土石器……193
第 343 図　包含層出土金属類①……194
第 344 図　包含層出土金属類②……195
第 345 図　第 2 遺構面平面図（1/400）……197
第 346 図　第 2 遺構面地形断面図①……198
第 347 図　第 2 遺構面地形断面図②……199
第 348 図　第 2 遺構面地形断面図③……200
第 349 図　第 2 遺構面地形断面図④……201
第 350 図　第 2 遺構面地形断面図⑤……202
第 351 図　SB2001 平断面図（1/50）……203
第 352 図　SB2001 遺物出土状況図（1/50）……204
第 353 図　SB2001 出土遺物①……205
第 354 図　SB2001 出土遺物②……206
第 355 図　SB2002・SB2003 平断面図（1/50）……207
第 356 図　SB2002 出土遺物……208
第 357 図　SB2004 平断面図①（1/50）……209
第 358 図　SB2004 平断面図②……210
第 359 図　SB2004 遺物出土状況図（1/50）……210
第 360 図　SB2004 出土遺物……211
第 361 図　SB2005 平断面図①（1/50）……212
第 362 図　SB2005 平断面図②……213
第 363 図　SB2005 遺物出土状況図（1/50）……213
第 364 図　SB2005 出土遺物①……214
第 365 図　SB2005 出土遺物②……215
第 366 図　SD2002 平面図（1/100）……216
第 367 図　SD2002 断面図（1/40）……216
第 368 図　SD2002 出土遺物……216
第 369 図　SD2003 平面図（1/150）……217
第 370 図　SD2003 断面図（1/40）……217
第 371 図　SD2003 遺物出土状況図①（1/50）……218
第 372 図　SD2003 遺物出土状況図②（1/50）……219
第 373 図　SD2003 遺物出土状況図③（1/50）……220
第 374 図　SD2003 出土遺物①……220
第 375 図　SD2003 出土遺物②……221
第 376 図　SD2004 平面図（1/60）……222
第 377 図　SD2004 断面図（1/40）……222
第 378 図　SD2004 遺物出土状況図（1/40）……223
第 379 図　SD2004 出土遺物……224
第 380 図　SD2005 平面図（1/150）……225
第 381 図　SD2005 断面図（1/40）……225
第 382 図　SD2005 遺物出土状況図（1/40）……226
第 383 図　SD2005 出土遺物①……227
第 384 図　SD2005 出土遺物②……228
第 385 図　SD2007 平面図（1/150）……229
第 386 図　SD2007 断面図（1/40）……229
第 387 図　SD2007 出土遺物……229
第 388 図　SD2008 平面図（1/250）……230
第 389 図　SD2008 断面図（1/40）……231
第 390 図　SD2008 遺物出土状況図①（1/40）……232
第 391 図　SD2008 遺物出土状況図②（1/40）……233
第 392 図　SD2008 遺物出土状況図③（1/40）……234
第 393 図　SD2008 遺物出土状況図④（1/40）……235
第 394 図　SD2008 遺物出土状況図⑤（1/40）……235
第 395 図　SD2008 出土遺物①……235
第 396 図　SD2008 出土遺物②……236
第 397 図　SD2008 出土遺物③……237
第 398 図　SD2008 出土遺物④……238
第 399 図　SD2008 出土遺物⑤……239
第 400 図　SD2008 出土遺物⑥……240
第 401 図　SD2008 横土器溜まり遺物出土状況図

(1/40) …… 241
第402図 SD2008 横土器溜まり出土遺物① …… 242
第403図 SD2008 横土器溜まり出土遺物② …… 243
第404図 SD2009 平断面図（1/40）…… 244
第405図 SD2009 出土遺物 …… 244
第406図 SD2011 平面図（1/100）…… 244
第407図 SD2011 断面図（1/40）…… 244
第408図 SD2011 出土遺物 …… 245
第409図 SD2013 平面図（1/100）…… 246
第410図 SD2013 断面図（1/40）…… 246
第411図 SD2013 出土遺物 …… 246
第412図 SK2001 平断面図（1/40）…… 247
第413図 SK2001 出土遺物 …… 247
第414図 SK2002 平断面図（1/40）…… 247
第415図 SK2002 出土遺物 …… 247
第416図 SK2003 平断面図（1/40）…… 248
第417図 SK2003 出土遺物 …… 248
第418図 SK2004 平断面図（1/40）…… 248
第419図 SK2004 出土遺物 …… 248
第420図 SU2001（SK2005）平断面図（1/20）…… 249
第421図 SU2001（SK2005）遺物出土状況図①
(1/20) …… 250
第422図 SU2001（SK2005）遺物出土状況図②
(1/20) …… 251
第423図 SU2001（SK2005）遺物出土状況図③
(1/20) …… 252
第424図 SU2001（SK2005）遺物出土状況図④
(1/20) …… 253
第425図 SU2001（SK2005）遺物出土状況図⑤
(1/20) …… 254
第426図 SU2001（SK2005）出土遺物① …… 255
第427図 SU2001（SK2005）出土遺物② …… 256
第428図 SU2001（SK2005）出土遺物③ …… 257
第429図 SU2001（SK2005）出土遺物④ …… 258
第430図 SU2001（SK2005）出土遺物⑤ …… 259
第431図 SU2001（SK2005）出土遺物⑥ …… 260
第432図 SU2001（SK2005）出土遺物⑦ …… 261
第433図 SU2001（SK2005）出土遺物⑧ …… 262
第434図 SU2001（SK2005）出土遺物⑨ …… 263
第435図 SU2001（SK2005）出土遺物⑩ …… 264
第436図 SU2001（SK2005）出土遺物⑪ …… 265
第437図 SK2007 平断面図（1/40）…… 266
第438図 SK2007 出土遺物 …… 266
第439図 SK2009 平断面図（1/40）…… 266
第440図 SK2010 平断面図（1/40）…… 267
第441図 SK2010 出土遺物 …… 267
第442図 SK2012 平断面図（1/40）…… 267
第443図 SK2012 出土遺物 …… 267
第444図 SK2015 平断面図（1/40）…… 267
第445図 SK2015 出土遺物 …… 267
第446図 SK2019 平断面図（1/40）…… 268
第447図 SK2019 出土遺物 …… 268
第448図 SK2025 平断面図（1/40）…… 268
第449図 SK2025 出土遺物 …… 268
第450図 SK2035 平断面図（1/40）…… 269
第451図 SK2035 出土遺物 …… 269
第452図 SK2036 平断面図（1/40）…… 270
第453図 SK2036 出土遺物 …… 270
第454図 SK2038 平断面図（1/40）…… 271
第455図 SK2038 出土遺物 …… 271
第456図 SK2039 平断面図（1/40）…… 271
第457図 SK2039 出土遺物 …… 271
第458図 SK2049 平断面図（1/40）…… 272
第459図 SK2049 出土遺物 …… 272
第460図 SK2051 平断面図（1/40）…… 273
第461図 SK2051 出土遺物 …… 273
第462図 SK2053 平断面図（1/40）…… 274
第463図 SK2053 出土遺物 …… 274
第464図 SP2011 平断面図（1/20）…… 275
第465図 SP2011 出土遺物 …… 275
第466図 SP2100 平断面図（1/20）…… 275
第467図 SP2100 出土遺物 …… 275
第468図 SP2103 平断面図（1/20）…… 276
第469図 SP2103 出土遺物 …… 276
第470図 SP2112 平断面図（1/20）…… 276
第471図 SP2112 出土遺物 …… 276
第472図 SP2120 平断面図（1/20）…… 277
第473図 SP2120 出土遺物 …… 277
第474図 SP2125 平断面図（1/20）…… 277
第475図 SP2125 出土遺物 …… 277
第476図 SP2184 平断面図（1/20）…… 278
第477図 SP2184 出土遺物 …… 278

第478図　SP2191 平断面図（1/20）……278
第479図　SP2193 平断面図（1/20）……279
第480図　SP2193 出土遺物……279
第481図　SP2198 平断面図（1/20）……279
第482図　SP2198 出土遺物……279
第483図　SP2205 平断面図（1/20）……280
第484図　SP2205 出土遺物……280
第485図　SP2256 平断面図（1/20）……280
第486図　SP2256 出土遺物……280
第487図　SP2258 平断面図（1/20）……281
第488図　SP2258 出土遺物……281
第489図　SP2289 平断面図（1/20）……281
第490図　SP2289 出土遺物……281
第491図　SP2308 平断面図（1/20）……282
第492図　SP2308 出土遺物……282
第493図　SX2001 平断面図（1/40）……283
第494図　SX2001 出土遺物……283
第495図　SX2002 平断面図（1/50）……284
第496図　SX2002 出土遺物……284
第497図　SX2003 平断面図（1/50）……285
第498図　SX2003 遺物出土状況図（1/50）……285
第499図　SX2003 出土遺物①……286
第500図　SX2003 出土遺物②……287
第501図　SX2004 平断面図（1/50）……288
第502図　SX2004 遺物出土状況図（1/50）……289
第503図　SX2004 出土遺物……289
第504図　SX2005 平断面図（1/50）……290
第505図　SX2005 出土遺物……290
第506図　SX2007 平断面図（1/40）……291
第507図　SX2007 出土遺物……291
第508図　SX2008 平断面図（1/50）……292
第509図　SX2008 出土遺物……293
第510図　SX2009 平断面図（1/40）……294
第511図　SX2009 出土遺物……294
第512図　SX2010 平断面図（1/40）……295
第513図　SX2010 出土遺物……295
第514図　SX2011 平断面図（1/40）……296
第515図　SX2011 出土遺物……296
第516図　第２包含層出土遺物①……297
第517図　第２包含層出土遺物②……298
第518図　第２包含層出土遺物③……299
第519図　第３遺構面平面図（1/400）……301
第520図　第３遺構面地形断面図①……302
第521図　第３遺構面地形断面図②……303
第522図　第３遺構面地形断面図③……304
第523図　第３遺構面地形断面図④……305
第524図　SD3001 平面図（1/150）……306
第525図　SD3001 断面図（1/40）……306
第526図　SD3001 出土遺物……306
第527図　SD3012 平断面図（1/80）……307
第528図　SD3012 出土遺物……307
第529図　SD3014・SD3015 平面図（1/40）……308
第530図　SD3014 断面図（1/40）……308
第531図　SD3015 断面図（1/40）……308
第532図　SD3014 出土遺物……308
第533図　SD3020 平断面図（1/40）……309
第534図　SD3020 出土遺物……309
第535図　SD3022 平面図（1/150）……310
第536図　SD3022 断面図（1/40）……310
第537図　SD3022 炭化物分布図（1/40）……310
第538図　SK3001 平断面図（1/40）……311
第539図　SK3008 平断面図（1/40）……311
第540図　SK3013 平断面図（1/40）……312
第541図　SK3017 平断面図（1/40）……312
第542図　SK3018 平断面図（1/40）……312
第543図　SX3001 平断面図（1/80）……313
第544図　SX3001 出土遺物……313
第545図　SX3002 平断面図（1/40）……314
第546図　SX3002 出土遺物……314
第547図　SX3010 平断面図（1/40）……315
第548図　SX3010 出土遺物……316
第549図　SX3011 平断面図（1/40）……317
第550図　SX3011 出土遺物……317
第551図　第４遺構面平面図（1/150）……319
第552図　第４遺構面出土遺物……320
第553図　第５遺構面トレンチ配置図（1/400）……321
第554図　第５遺構面１トレンチ出土遺物……322
第555図　第５遺構面２トレンチ平面図（5a 面・1/80）……323
第556図　２トレンチ 5a 面出土遺物……323
第557図　第５遺構面２トレンチ平断面図（5b 面・1/80）……325

第558図　2トレンチ5b面出土遺物……326
第559図　SB5001平断面図（1/40）……327
第560図　SB5001出土遺物……328
第561図　SP5013平断面図（1/20）……329
第562図　SP5014平断面図（1/20）……329
第563図　SP5014出土遺物……329
第564図　SP5016平断面図（1/20）……330
第565図　SX5001平断面図（1/40）……330
第566図　SX5002平断面図（1/40）……330
第567図　SX5002出土遺物……330
第568図　SX5003平断面図（1/40）……331
第569図　SX5003出土遺物……331
第570図　SX5004・SX5005平断面図（1/40）……331
第571図　SX5004出土遺物……331
第572図　SX5006平断面図（1/40）……332
第573図　SX5006出土遺物……332
第574図　第5遺構面3トレンチ平面図（5b面・1/80）……333
第575図　3トレンチ5b面出土遺物……333

Ⅳ自然科学分析

1 清成遺跡における放射性炭素年代（その1）

第1図　暦年較正年代グラフ（calBP、参考）……341
第2図　暦年較正年代グラフ（calBC/AD、参考）342

2 清成遺跡における放射性炭素年代（その2）

第1図　暦年較正年代グラフ（calBP、参考）……345
第2図　暦年較正年代グラフ（calBC/AD、参考）345

3 清成遺跡出土土器の胎土分析

第1図　胎土分析した各遺跡の位置図……347
第2図　各遺跡の胎土比較……348
第3図　各遺跡の胎土比較……348
第4図　実体顕微鏡観察写真……349
第5図　X線回折図……350

Ⅴまとめ

第1図　第1遺構面の遺構変遷図①（1/700）……356
第2図　敷地遺跡の掘立柱建物[SA3040]と廃棄土坑[SK3068]（1/100・氏家2007a）……357
第3図　第1遺構面の遺構変遷図②（1/700）……358
第4図　第1遺構面の遺構変遷図③（1/700）……359
第5図　第1遺構面の遺構変遷図④（1/700）……360
第6図　主要な遺構から出土した土器……362
第7図　第2遺構面の遺構変遷図（1/500）……363
第8図　清成遺跡と石井城ノ内遺跡の調査地点…365
第9図　石錘の分類図（藤川編2003から転載）-367
第10図　吉野川下流域の土師器①（8世紀前半）-370
第11図　吉野川下流域の土師器②（8世紀後半）-371
第12図　清成遺跡出土の7～8世紀の土師器……372
第13図　吉野川下流域の土師器③（9世紀前半）-374
第14図　吉野川下流域の土師器④（9世紀後半）-375
第15図　吉野川下流域の土師器⑤（10世紀前半）376
第16図　吉野川下流域の土師器⑥（10世紀後半）377
第17図　吉野川下流域の土師器⑦（11～12世紀）……378
第18図　吉野川下流域の土師器⑧（13世紀）……380
第19図　清成遺跡出土の平安末～鎌倉時代の土師器……381

表目次

《第1分冊》

Ⅳ自然科学分析

1 清成遺跡における放射性炭素年代（その1）

表1　放射性炭素年代測定結果（δ 13C補正値）……339
表2　放射性炭素年代測定結果（δ 13C未補正値、暦年較正用14C年代、較正年代cal BP）……339
表3　放射性炭素年代測定結果（暦年較正用14C年代、較正年代cal BC/AD）……340

2 清成遺跡における放射性炭素年代（その2）
表1　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）……345
表2　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BP）……345
表3　放射性炭素年代測定結果（暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BC/AD）……345
3 清成遺跡出土土器の胎土分析
表1　清成遺跡ほか出土土器の胎土分析試料一覧表（%）……351

Ⅴまとめ

表1　吉野川流域の縄文時代遺跡出土石錘の形態組成……368

《第2分冊》

遺構観察表

表　1　第1遺構面遺構観察表［SA］……385
表　2　第1遺構面遺構観察表［SB］……386
表　3　第1遺構面遺構観察表［SD］(1)……387
表　4　第1遺構面遺構観察表［SD］(2)……388
表　5　第1遺構面遺構観察表［SK］(1)……388
表　6　第1遺構面遺構観察表［SK］(2)……389
表　7　第1遺構面遺構観察表［SK］(3)……390
表　8　第1遺構面遺構観察表［SK］(4)……391
表　9　第1遺構面遺構観察表［SK］(5)……392
表10　第1遺構面遺構観察表［SK］(6)……393
表11　第1遺構面遺構観察表［SP］(1)……394
表12　第1遺構面遺構観察表［SP］(2)……395
表13　第1遺構面遺構観察表［SP］(3)……396
表14　第1遺構面遺構観察表［SP］(4)……397
表15　第1遺構面遺構観察表［SP］(5)……398
表16　第1遺構面遺構観察表［SP］(6)……399
表17　第1遺構面遺構観察表［SP］(7)……400
表18　第1遺構面遺構観察表［SP］(8)……401
表19　第1遺構面遺構観察表［SP］(9)……402
表20　第1遺構面遺構観察表［SP］(10)……403
表21　第1遺構面遺構観察表［SP］(11)……404
表22　第1遺構面遺構観察表［SP］(12)……405
表23　第1遺構面遺構観察表［SP］(13)……406
表24　第1遺構面遺構観察表［SP］(14)……407
表25　第1遺構面遺構観察表［SP］(15)……408
表26　第1遺構面遺構観察表［SP］(16)……409
表27　第1遺構面遺構観察表［SP］(17)……410
表28　第1遺構面遺構観察表［SP］(18)……411
表29　第1遺構面遺構観察表［SP］(19)……412
表30　第1遺構面遺構観察表［SP］(20)……413
表31　第1遺構面遺構観察表［SP］(21)……414
表32　第1遺構面遺構観察表［SP］(22)……415
表33　第1遺構面遺構観察表［SX］……416
表34　第2遺構面遺構観察表［SB］……417
表35　第2遺構面遺構観察表［SD］……418
表36　第2遺構面遺構観察表［SK］(1)……418
表37　第2遺構面遺構観察表［SK］(2)……419
表38　第2遺構面遺構観察表［SP］(1)……420
表39　第2遺構面遺構観察表［SP］(2)……421
表40　第2遺構面遺構観察表［SP］(3)……422
表41　第2遺構面遺構観察表［SP］(4)……423
表42　第2遺構面遺構観察表［SP］(5)……424
表43　第2遺構面遺構観察表［SP］(6)……425
表44　第2遺構面遺構観察表［SP］(7)……426
表45　第2遺構面遺構観察表［SX］……427
表46　第3遺構面遺構観察表［SD］……428
表47　第3遺構面遺構観察表［SK］……429
表48　第3遺構面遺構観察表［SP］(1)……430
表49　第3遺構面遺構観察表［SP］(2)……431
表50　第3遺構面遺構観察表［SP］(3)……432
表51　第3遺構面遺構観察表［SR］……432
表52　第3遺構面遺構観察表［SX］……432
表53　第4遺構面遺構観察表［SD］……433
表54　第4遺構面遺構観察表［SP］……433
表55　第4遺構面遺構観察表［SX］……433
表56　第5遺構面遺構観察表［SB］……434
表57　第5遺構面遺構観察表［SH］……434
表58　第5遺構面遺構観察表［SP］……434
表59　第5遺構面遺構観察表［SX］……434

遺物観察表

表 6 0 土器・土製品観察表 (1a)……436
表 6 1 土器・土製品観察表 (1b)……437
表 6 2 土器・土製品観察表 (2a)……438
表 6 3 土器・土製品観察表 (2b)……439
表 6 4 土器・土製品観察表 (3a)……440
表 6 5 土器・土製品観察表 (3b)……441
表 6 6 土器・土製品観察表 (4a)……442
表 6 7 土器・土製品観察表 (4b)……443
表 6 8 土器・土製品観察表 (5a)……444
表 6 9 土器・土製品観察表 (5b)……445
表 7 0 土器・土製品観察表 (6a)……446
表 7 1 土器・土製品観察表 (6b)……447
表 7 2 土器・土製品観察表 (7a)……448
表 7 3 土器・土製品観察表 (7b)……449
表 7 4 土器・土製品観察表 (8a)……450
表 7 5 土器・土製品観察表 (8b)……451
表 7 6 土器・土製品観察表 (9a)……452
表 7 7 土器・土製品観察表 (9b)……453
表 7 8 土器・土製品観察表 (10a)……454
表 7 9 土器・土製品観察表 (10b)……455
表 8 0 土器・土製品観察表 (11a)……456
表 8 1 土器・土製品観察表 (11b)……457
表 8 2 土器・土製品観察表 (12a)……458
表 8 3 土器・土製品観察表 (12b)……459
表 8 4 土器・土製品観察表 (13a)……460
表 8 5 土器・土製品観察表 (13b)……461
表 8 6 土器・土製品観察表 (14a)……462
表 8 7 土器・土製品観察表 (14b)……463
表 8 8 土器・土製品観察表 (15a)……464
表 8 9 土器・土製品観察表 (15b)……465
表 9 0 土器・土製品観察表 (16a)……466
表 9 1 土器・土製品観察表 (16b)……467
表 9 2 土器・土製品観察表 (17a)……468
表 9 3 土器・土製品観察表 (17b)……469
表 9 4 土器・土製品観察表 (18a)……470
表 9 5 土器・土製品観察表 (18b)……471
表 9 6 土器・土製品観察表 (19a)……472
表 9 7 土器・土製品観察表 (19b)……473
表 9 8 土器・土製品観察表 (20a)……474
表 9 9 土器・土製品観察表 (20b)……475
表 1 0 0 土器・土製品観察表 (21a)……476
表 1 0 1 土器・土製品観察表 (21b)……477
表 1 0 2 土器・土製品観察表 (22a)……478
表 1 0 3 土器・土製品観察表 (22b)……479
表 1 0 4 土器・土製品観察表 (23a)……480
表 1 0 5 土器・土製品観察表 (23b)……481
表 1 0 6 土器・土製品観察表 (24a)……482
表 1 0 7 土器・土製品観察表 (24b)……483
表 1 0 8 土器・土製品観察表 (25a)……484
表 1 0 9 土器・土製品観察表 (25b)……485
表 1 1 0 土器・土製品観察表 (26a)……486
表 1 1 1 土器・土製品観察表 (26b)……487
表 1 1 2 土器・土製品観察表 (27a)……488
表 1 1 3 土器・土製品観察表 (27b)……489
表 1 1 4 土器・土製品観察表 (28a)……490
表 1 1 5 土器・土製品観察表 (28b)……491
表 1 1 6 土器・土製品観察表 (29a)……492
表 1 1 7 土器・土製品観察表 (29b)……493
表 1 1 8 土器・土製品観察表 (30a)……494
表 1 1 9 土器・土製品観察表 (30b)……495
表 1 2 0 土器・土製品観察表 (31a)……496
表 1 2 1 土器・土製品観察表 (31b)……497
表 1 2 2 土器・土製品観察表 (32a)……498
表 1 2 3 土器・土製品観察表 (32b)……499
表 1 2 4 土器・土製品観察表 (33a)……500
表 1 2 5 土器・土製品観察表 (33b)……501
表 1 2 6 土器・土製品観察表 (34a)……502
表 1 2 7 土器・土製品観察表 (34b)……503
表 1 2 8 土器・土製品観察表 (35a)……504
表 1 2 9 土器・土製品観察表 (35b)……505
表 1 3 0 土器・土製品観察表 (36a)……506
表 1 3 1 土器・土製品観察表 (36b)……507
表 1 3 2 土器・土製品観察表 (37a)……508
表 1 3 3 土器・土製品観察表 (37b)……509
表 1 3 4 土器・土製品観察表 (38a)……510
表 1 3 5 土器・土製品観察表 (38b)……511
表 1 3 6 土器・土製品観察表 (39a)……512
表 1 3 7 土器・土製品観察表 (39b)……513

表１３８　土器・土製品観察表(40a)……514
表１３９　土器・土製品観察表(40b)……515
表１４０　土器・土製品観察表(41a)……516
表１４１　土器・土製品観察表(41b)……517
表１４２　土器・土製品観察表(42a)……518
表１４３　土器・土製品観察表(42b)……519
表１４４　土器・土製品観察表(43a)……520
表１４５　土器・土製品観察表(43b)……521
表１４６　土器・土製品観察表(44a)……522
表１４７　土器・土製品観察表(44b)……523
表１４８　土器・土製品観察表(45a)……524
表１４９　土器・土製品観察表(45b)……525
表１５０　土器・土製品観察表(46a)……526
表１５１　土器・土製品観察表(46b)……527
表１５２　土器・土製品観察表(47a)……528
表１５３　土器・土製品観察表(47b)……529
表１５４　土器・土製品観察表(48a)……530
表１５５　土器・土製品観察表(48b)……531
表１５６　金属製品観察表……532
表１５７　石器観察表(1)……533
表１５８　石器観察表(2)……534
表１５９　石器観察表(3)……535

写真目次

《第１分冊》

巻頭カラー１　清成遺跡から気延山を望む
巻頭カラー２　掘立柱建物（SA1001）と土器を廃棄した溝（SX1001）[奈良時代]
竪穴住居（SB2005）白色粘土出土状況[弥生時代終末期～古墳時代初頭]
巻頭カラー３　集石遺構（SU2001）[弥生時代中期]
竪穴住居（SB5001）遺物出土状況[縄文時代後期]

写真１　機械掘削作業……8
写真２　人力掘削作業……8
写真３　現地説明会①……9
写真４　現地説明会②……9
写真５　現地説明会③……9

《第２分冊》

写真図版１　調査前風景……539
土層堆積状況……539
写真図版２　SA1001（北から）……540
SB1001・SB1002（南から）……540
写真図版３　SB1001竈……541
SB1002竈断面……541
SB1003（西から）……541
写真図版４　SB1003遺物出土状況……542
SB1004（南から）……542
SB1004竈断面……542
写真図版５　SD1023土層断面（南壁）……543
SD1023完掘状況（南から）……543
SD1025遺物出土状況……543
写真図版６　SK1011遺物出土状況（南から）……544
SK1036遺物出土状況（西から）……544
SK1089土層断面（北から）……544
写真図版７　SK1170遺物出土状況……545
SP1319遺物出土状況……545
SP1320遺物出土状況……545
写真図版８　SP1447土層断面……546
SP1447炭化材出土状況……546
SP1460遺物出土状況……546

写真図版９　SP1482遺物出土状況（南から）……547
SP1530 遺物出土状況（南から）……547
SP1561 検出状況（西から）……547
写真図版10　SP1700遺物出土状況（東から）……548
SP1878 検出状況（南から）……548
SP1937 土層断面……548
写真図版11　SX1001全景①（北から）……549
SX1001 全景②（東から）……549
写真図版12　SX1001遺物出土状況①……550
SX1001 遺物出土状況②……550
SX1001 土層断面①……550
写真図版13　SX1001土層断面②……551
SX1001 遺物出土状況③（東から）……551
写真図版14　SX1001遺物出土状況④……552
SX1001 遺物出土状況⑤……552
SX1001 遺物出土状況⑥……552
写真図版15　SX1002遺物出土状況……553
SX1004 遺物出土状況……553
SX1011 遺物出土状況……553
写真図版16　第1遺構面東側完掘状況（西から）……554
第１遺構面西側完掘状況（西から）……554
写真図版17　SB2001（南から）……555
SB2002（東から）……555
写真図版18　SB2004遺物出土状況（南から）……556
SB2004EH1土層断面……556
SB2004（南から）……556
写真図版19　SB2005遺物出土状況①……557
SB2005遺物出土状況②……557
SB2005遺物出土状況③……557
写真図版20　SB2005白色粘土たち割り断面……558
SB2005EH1土層断面……558
SB2005（西から）……558
写真図版21　SD2002遺物出土状況……559
SD2003遺物出土状況①……559
SD2003遺物出土状況②……559
写真図版22　SD2004遺物出土状況……560
SD2005遺物出土状況……560
写真図版23　SD2008遺物出土状況①……561
SD2008遺物出土状況②……561
SD2008遺物出土状況③……561
写真図版24　SD2008土層断面①……562
SD2008土層断面②……562
SD2008横土器溜まり……562
写真図版25　SD2011遺物出土状況……563
SK2004遺物出土状況……563
SU2001北側検出状況……563
写真図版26　SU2001遺物出土状況①……564
SU2001遺物出土状況②……564
SU2001遺物出土状況③……564
写真図版27　SK2025遺物出土状況……565
SK2036遺物出土状況……565
SP2184遺物出土状況……565
写真図版28　SX2001遺物出土状況……566
SX2003遺物出土状況……566
SX2004炭化物出土状況……566
写真図版29　SX2005遺物出土状況……567
SX2008遺物出土状況……567
SX2009遺物出土状況……567
写真図版30　第2遺構面完掘状況①（西から）……568
第2遺構面完掘状況②（南から）……568
写真図版31　SK3001（南から）……569
SK3008（東から）……569
SX3010遺物出土状況（西から）……569
写真図版32　第3遺構面完掘状況（西から）……570
第5遺構面1トレンチ土層断面……570
写真図版33　第5遺構面2トレンチ5a面完掘状況……571
第5遺構面2トレンチ5b面遺物出土状況571
写真図版34　第5遺構面2トレンチ5b面完掘状況……572
SB5001遺物出土状況①……572
写真図版35　SB5001EH1……573
第5遺構面3トレンチ遺物出土状況……573
SH5001……573
写真図版36　出土遺物(1)……574
写真図版37　出土遺物(2)……575
写真図版38　出土遺物(3)……576
写真図版39　出土遺物(4)……577
写真図版40　出土遺物(5)……578
写真図版41　出土遺物(6)……579
写真図版42　出土遺物(7)……580
写真図版43　出土遺物(8)……581

写真図版44　出土遺物(9)……582
写真図版45　出土遺物(10)……583
写真図版46　出土遺物(11)……584
写真図版47　出土遺物(12)……585
写真図版48　出土遺物(13)……586
写真図版49　出土遺物(14)……587
写真図版50　出土遺物(15)……588
写真図版51　出土遺物(16)……589
写真図版52　出土遺物(17)……590
写真図版53　出土遺物(18)……591
写真図版54　出土遺物(19)……592
写真図版55　出土遺物(20)……593
写真図版56　出土遺物(21)……594
写真図版57　出土遺物(22)……595
写真図版58　出土遺物(23)……596
写真図版59　出土遺物(24)……597
写真図版60　出土遺物(25)……598
写真図版61　出土遺物(26)……599
写真図版62　出土遺物(27)……600
写真図版63　出土遺物(28)……601
写真図版64　出土遺物(29)……602
写真図版65　出土遺物(30)……603
写真図版66　出土遺物(31)……604
写真図版67　出土遺物(32)……605
写真図版68　出土遺物(33)……606
写真図版69　出土遺物(34)……607
写真図版70　出土遺物(35)……608
写真図版71　出土遺物(36)……609
写真図版72　出土遺物(37)……610
写真図版73　出土遺物(38)……611
写真図版74　出土遺物(39)……612
写真図版75　出土遺物(40)……613
写真図版76　出土遺物(41)……614

付図目次

付図1　第1遺構面・第4遺構面平面図（1/100）
付図2　第2遺構面平面図（1/100）
付図3　第3遺構面平面図（1/100）
付図4　第5遺構面平面図（1/100）
付図5　吉野川下流域を中心とした甕形土器のプロポーション変遷図（縮尺不同）

清成遺跡から気延山を望む

掘立柱建物（SA1001）と土器を廃棄した溝（SX1001）[奈良時代]

竪穴住居（SB2005）白色粘土出土状況 [弥生時代終末期～古墳時代初頭]

集石遺構（SU2001）[弥生時代中期]

竪穴住居（SB5001）遺物出土状況 [縄文時代後期]

序　文

この度、徳島県立農林水産総合支援センター整備事業に伴う清成遺跡発掘調査の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。

清成遺跡は、昭和44年に、当時の徳島県立農業試験場の施設建設工事に伴って発見された遺跡です。この時の発掘調査によって当遺跡は、気延山北麓の渡内川南岸に広がる弥生時代終末期の大規模な集落遺跡であることが指摘されるとともに、出土した土器が当該期の良好な資料として重視されるなど、学史上注目される遺跡として良く知られることになりました。

しかし、当時の発掘調査面積が狭小であった上に、その後はまとまった発掘調査が実施されなかったこともあり、当遺跡は著名な割には実態の解明がほとんど進められませんでした。そうした中、徳島県立農林水産総合技術センターが旧農業試験場内に整備されることになり、平成23年度に県から事前発掘調査が当センターに委託され、40余年ぶりに清成遺跡の発掘調査が実施されることになりました。

今回の発掘調査においては、縄文時代後期、弥生時代中期、同後期～終末期、飛鳥時代、奈良時代、平安～鎌倉時代など各時代にわたる多数の遺構・遺物を検出し、改めて当遺跡の重要性を再確認することができました。

今後、本書が当該地域及び本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾でありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係諸機関ならびに地元の皆様の多大な御理解、御協力のお陰であり、心から感謝申し上げる次第です。また、発掘調査及び報告書作成等に当たっては、徳島県教育委員会をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も、当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
理事長　福　家　　清　司

例　言

1　本書は徳島県立農林水産総合技術支援センター整備運営事業に伴い、平成 23（2011）年度に実施した清成遺跡（名西郡石井町　所在）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、徳島県からの委託により公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査及び報告書作成期間は次の通りである。

・発掘調査期間

平成 23 年度：平成 23 年　4 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日

・整理作業・報告書作成期間

平成 26 年度：平成 26 年　4 月 1 日～平成 27 年　3 月 31 日
平成 27 年度：平成 27 年　4 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日
平成 28 年度：平成 28 年　4 月 1 日～平成 29 年　3 月 31 日

4　遺構番号は調査時のものを基本的に踏襲している。遺物番号は通し番号とし、土器・土製品には 1、2、3・・・・、金属製品には T1、T2、T3・・・・、石器には S1、S2、S3・・・・、というように材質によってそれぞれ番号を付与しており、本文・挿図・観察表・図版と一致する。

5　第 2 図は、国土地理院発行の 1：50,000 の地形図「川島」を改変したものである。第 5 図は国土地理院発行の 1:25,000 の地形図「石井」を転載・改変した徳島県教育委員会発行の『徳島県遺跡地図』を改変したものである。

6　本書の執筆はⅠ-1 を県教育委員会、Ⅰ-2 ～ 6 とⅡについては岡田圭司が行い、それ以外の執筆と編集は氏家敏之が行った。遺構写真は調査担当者が、遺物写真は岡田圭司と氏家敏之が担当した。

7　本書に収録した遺物及び写真・図版などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターに保管している。

凡　例

1　遺構の表示は徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による記号を用いた。

SA：掘立柱建物　SB：竪穴住居　SD：溝　SK：土坑

SP：柱穴　SR：自然流路　SX：性格不明不定形遺構

遺構番号は、基本的に 4 桁で表示している。4 桁目の番号は遺構面数を表し、以下の 3 桁が遺構の通し番号を表す。

遺構の掲載サイズは、SK は 1/40、SP は 1/20、大形遺構は 1/50 ～ 1/150 で掲載し、各スケールに縮尺を表示している。

2　方位、座標は世界測地系に、高さは東京湾標準潮位（T.P.）に準拠する。

3　本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』2011 年度版、および細野高志編『標準色彩図表 A』に準拠する。遺構平断面図中の竈の袖部、焼土、炭化物の範囲は以下のスクリーントーンで表現している。

竈の袖部　　炭化物・焼土の拡がり

また遺構断面図中の土器、石、金属製品については、以下のドットを用いて表示している。

土器・土製品 ●　　石・石製品 ■　　銭貨・金属製品 ▲

4　遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。

土器・土製品：1/4（一部 1/2・1/4）　石器：1/2 ～ 1/6　鉄器：2/3

5　図版及び表は基本的に通し番号であるが、Ⅵ自然科学分析とⅦまとめに関しては独自の番号を付与している。

6　観察表中の弥生土器、古代、中世土器に関しては以下の文献を参考にして記載している。

古代の土器研究会編 1992『古代の土器 1　都城の土器集成』真陽社

古代の土器研究会編 1993『古代の土器 2　都城の土器集成Ⅱ』真陽社

古代の土器研究会編 1994『古代の土器 3　都城の土器集成Ⅲ』真陽社

中世土器研究会編 1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

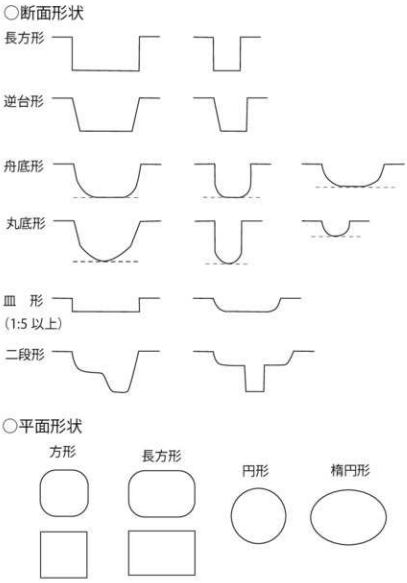
『南蔵本遺跡－県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』2014（公財）徳島県埋蔵文化財センター

近藤　玲「阿波東部地域における古墳時代前期の土器編年」2014『古式土師器の編年的研究』四国考古学研究会

田川　憲「阿波・吉野川上・中流域の古式土師器」2014『古式土師器の編年的研究』四国考古学研究会

7　土器観察表中の胎土（含有物）の略号は石（石英）、結（結晶片岩）、長（長石）、雲（雲母）、赤（赤色粒）を表している。

8　遺構の平断面の形状の記載は以下のようにしている。



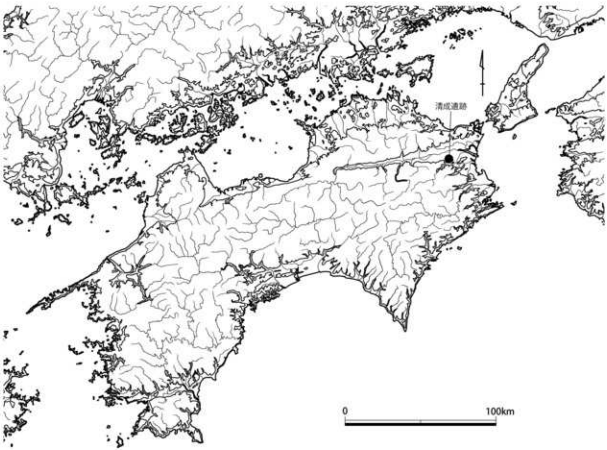
※断面形状・平面形状ともにその他については「不整形」とする

Ⅰ 調査及び整理の経緯

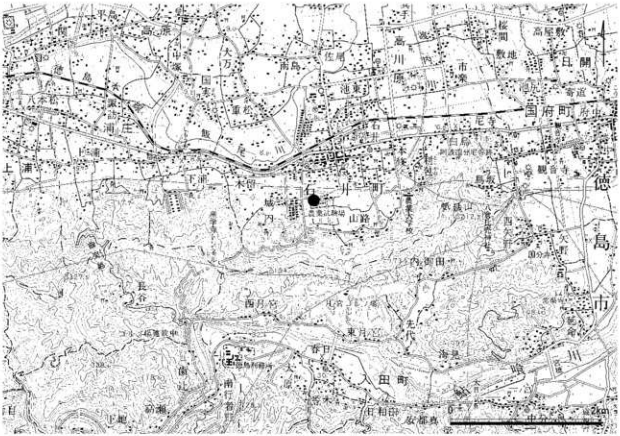
1 調査に至る経緯

徳島県における近代農業技術の開発拠点は、明治 26 年に設立された農商務省農事試験場四国支場に始まり、徳島県農事試験場を経て、昭和 32 年には徳島県農業試験場となった。農業技術者育成施設としては、昭和 2 年の徳島県農業技術員養成所を嚆矢として、戦後に徳島県農業講習所となり、昭和 41 年には徳島県農業大学校が設置され、現在に至る。林業技術指導施設は、昭和 29 年に徳島県林業指導所が開所し、昭和 5 年には徳島県林業総合技術センターとなった。水産研究施設としては、明治 34 年に徳島県水産試験場が設立された。平成 13 年には農業・林業・水産の各研究組織を統合した徳島県立農林水産総合技術センターが発足し、農業・森林林業・水産の研究所が組織された。平成 17 年には、農業大学校等が加わり、徳島県立農林水産総合技術支援センターとなった。しかし同センターを構成する諸施設は県下に散在することから、これら諸施設を一箇所に統合して一体的に運用するための施設の整備が望まれた。これにより名西郡石井町に所在する農業試験場の本館北側に新施設の建設が計画され、平成 17 年度に PFI 事業として着手された。

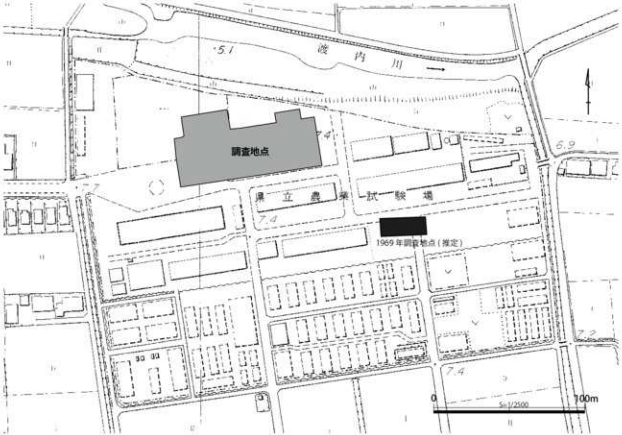
起業地である農業試験場では、昭和 44（1969）年に施設建設工事に伴って発掘調査が実施され、弥生時代終末期の竪穴住居や方形周溝墓等が確認され、古墳時代初頭にかけての遺物が出土したことから、清成遺跡と名付けられた。本遺跡はその後の試掘調査や工事立会によって、東西に延びる微高地上に展



第 1 図　清成遺跡の位置①（1/2,500,000）



第２図　清成遺跡の位置②（1/50,000）



第３図　清成遺跡調査区の位置（1/2,500）

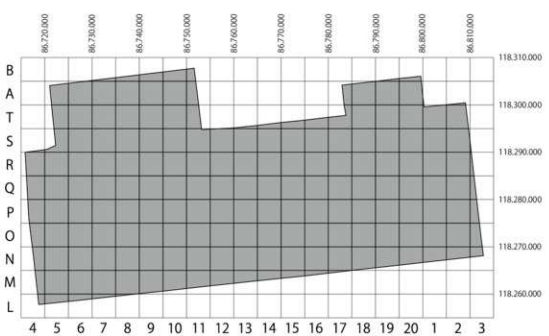
開することが判明し、今回の建設地も清成遺跡の範囲にかかる可能性は認識されていた。

このため、徳島県教育委員会文化財課（以下「文化財課」という）は、平成 17 年 10 月に農林水産総合技術支援センター（以下「農林センター」という）と協議の上、埋蔵文化財の状況を確認するために事前に試掘調査を行い、埋蔵文化財が発見された場合は、その取り扱いについて、改めて協議を持つこと等の方針を示した。これを受けて農林センターより試掘調査の依頼（h17.10.17 農技セ第 473 号）がなされ、文化財課はこれを承諾（h17.10.18 教文課第 298 号）し、試掘対象面積約 25,000㎡について試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から奈良時代にかけての遺構面が敷地のほぼ全域に拡がることが判明し、北側では遺構面は 1 面で密度が比較的低かったものの、南側では 2 面が想定され、遺構密度も高い状況が判明した。また一部では縄文時代の遺物包含層も確認された。この試掘結果を踏まえ、再度文化財課と農林センターによる協議がなされた結果、工事着手前に発掘調査を実施して遺跡の記録保存を図ることなどで合意した。発掘調査は、県が 3,650㎡の発掘調査を公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターに委託し、平成 23 年 4 月から実施し、翌 24 年 1 月末に完了した。

2 発掘調査の方法

当該調査範囲は、県立農林水産総合技術支援センター整備運営事業に関連して建設される建物の平面規模を調査区として設定した（第 1 ～ 3 図）。

調査によって検出した遺構・遺物などの測量・図化に関しては世界測地系を基準に用いた。調査地点の南西側にあたる前山公園の北に位置する X=1175000.000、Y=8650.000 を基点として大グリッド Loc.A1（一辺 500m）－中グリッドαⅠ（一辺 100m）の原点として設定した。そして中グリッドの内に、一辺 5 m の小グリッドを当該調査対象範囲に設定した（第 4 図）。



第 4 図　グリッドの配置方法

北方向へA・B・C…、東方向へ1・2・3…と辺を順に名付け、アルファベットと数字の組み合わせにより小グリッド一つずつをA1、B2のように表記した。

また、実際の測量起点の設置にあたっては、平成10年度、平成12年度に実施された石井城ノ内遺跡曽我団地地点の発掘調査の際に使用した基準点および測量データが存在することから、これを採用した。清成遺跡の発掘調査を始めるに当たり現地にて測量基準点を再測量し誤差がないことを確認した上でデータを旧日本測地系座標(第Ⅳ系)から世界測地系座標へ変換し、調査区付近へ測量基点を移動した。

3 発掘調査の経過

当該発掘調査は平成23年4月1日から平成24年1月31日まで2班体制で延べ20ヶ月分で行った。発掘調査は調査区を東西に分け、東側から順に着手した。調査を行うにあたり、調査区の土層堆積状況をより詳細に確認するため、試掘トレンチ調査を行った。その結果、調査区の東側で遺構面が3面存在することが確認できた。また調査区全体で土層堆積状況の基本構成が共通していたことから、3面の遺構面が調査区全体に拡がるだろうと判断できた。ただし、今回の発掘調査区の北西部と、北東部から東部にかけては、近現代の撹乱を受けており、遺構が認められなかった。

そして調査区北東側において第3遺構面下約1mの地点には、やや粘性が強い黒色土層を確認した。この黒色土層の下位で縄文時代後期の縄文土器が出土した。

第3遺構面の調査終了後に、下層の堆積状況を確認するためトレンチを設定した。確認トレンチでは、黒色土層の直下で、にぶい黄色粘質土層の堆積が認められ、この層に縄文時代後期の遺構・遺物の存在が認められた。これを第5遺構面とし、発掘調査をおこなった。その結果、調査北東側で第5遺構面上層の黒色土層にまで、近現代の土地改変による撹乱・削平が及んでいる状況であった。また、小グリッドR－18・19、S－18・19、T－18で遺構・遺物を確認することができた。

4 整理作業の経過

整理作業は平成26年4月1日から平成27年3月31日までの210箱分、平成27年4月1日から同年12月31日までの140箱分、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの210箱分を3箇年で行った。

作業内容は出土遺物の洗浄・註記・接合・実測・図面トレース・観察表の作成、遺構については写真・トレース、写真撮影、図版のレイアウト、観察表の作成をそれぞれ行い、原稿の執筆と合わせて報告書全体のレイアウトを行った。平成26年度には遺物洗浄、遺物註記・接合、遺物実測550点、第1遺構面の平面図、遺構観察表1,290点（第1遺構面終了）が終了した。

平成27年度は遺物復元、遺物実測850点、遺物トレース1,350点、第1遺構面の断面図・遺物出土状況図、第2遺構面の平面図・遺物出土状況図、遺構観察表、遺物観察表1,400点が終了した。平成28年度は、遺物実測180点、遺物トレース180点、第2遺構面の断面図・遺物出土状況図、第3～5遺構面の平面図・断面図・遺物出土状況図、遺物観察表180点、遺物の写真撮影、レイアウト編集、原稿の執筆を終えた。

5 発掘調査・整理作業の体制

調査組織および発掘体制、整理体制は以下の通りである。

平成 23 年度 (2011 年度)

・事務局

所長　平尾恭二　　事務局長　菅原康夫

(総務課)

課長　漆川明彦　　庶務係主任　大橋育順　　圓藤早知子

(事業課)

課長　藤川智之

・発掘調査業務担当

専門研究員　氏家敏之　　田川　憲

主任研究員　島田豊彰

研究補助員　山下智美

平成 26 年度（2014 年度）

・事務局

所長　福家清司　　事務局長　菅原康夫

(総務課)

課長　漆川明彦　　庶務係長　大橋育順

主任主事　妹尾　悟

(事業課)

課長　藤川智之

・整理業務担当

専門研究員　田川　憲

研究補助員　市村　恵

平成 27 年度（2015 年度）

・事務局

所長　福家清司　　事務局長　菅原康夫

(総務課)

課長　漆川明彦（～平成 27 年 4 月 30 日）

　　藤田吉則（平成 27 年 5 月 1 日～）

庶務係長　大橋育順

主任主事　妹尾　悟

(事業課)

課長　藤川智之

・整理業務担当
専門研究員　原　芳伸　　近藤　玲　　田川　憲　　大北和美

平成 28 年度（2016 年度）
・事務局
所長　福家清司　　事務局長　丸居昭彦
（総務課）
課長　藤田吉則　　主任主事　上松健一郎
（事業課）
課長　藤川智之
・整理業務担当
課長補佐　氏家敏之　　主任研究員　岡田圭司

写真 1　機械掘削作業

写真 2　人力掘削作業

6 発掘調査日誌抄

平成 23 年 (2011 年)

4 月 1 日	発掘調査開始
4 月 2 日	現地確認
4 月 15 日	リース機材入札
4 月 19 日	機械掘削開始
4 月 27 日	第 1 包含層人力掘削開始
5 月 27 日	台風接近に伴う養生作業
5 月 31 日	調査区東側機械掘削終了
6 月 2 日	第 2 遺構面以下確認作業
6 月 6 日	調査区東側第 1 遺構面遺構検出開始
6 月 7 日	徳島県教育委員会教育文化政策課現地確認・協議
6 月 10 日	調査区東側第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影
6 月 21 日	調査区東側第 1 遺構面遺構掘削開始
7 月 5 日	石井小学校生徒現地見学・徳島県教育委員会教育文化政策課現地協議
7 月 6 日	徳島県教育委員会教育文化政策課現地協議
7 月 13 日	調査区東側第 1 遺構面完掘状況写真撮影
7 月 15 日	台風接近に伴う養生作業
7 月 25 日	調査区東側第 2 包含層人力掘削開始
7 月 26 日	「発掘とくしま」遺跡発掘体験見学会（～ 29 日まで）
8 月 9 日	石綿管撤去工事のため作業中止（～ 11 日まで）
8 月 16 日	調査区東側第 2 遺構面遺構検出開始
8 月 18 日	調査区東側第 2 遺構面遺構検出状況写真撮影
8 月 19 日	第 2 遺構面遺構掘削開始

9月1日	台風接近に伴う養生作業
9月6日	調査区西側機械掘削開始
9月7日	徳島県企画研究課現地確認
9月13日	調査区西側第1包含層人力掘削開始
9月20日	台風接近に伴う養生作業
10月3日	調査区西側第1遺構面遺構検出開始
10月20日	調査区西側第1遺構面遺構検出状況写真撮影
10月21日	調査区西側第1遺構面遺構掘削開始
11月4日	調査区西側第1遺構面完掘状況写真撮影
11月7日	調査区西側第2包含層人力掘削開始
11月21日	調査区西側第2遺構面遺構検出開始
11月24日	調査区西側第2遺構面遺構検出状況写真撮影、第2遺構面遺構掘削開始
12月10日	現地説明会開催
12月13日	第2遺構面完掘状況写真撮影、第3包含層機械掘削開始、確認トレンチ掘削
12月16日	第3遺構面遺構検出開始
12月27日	年末年始に伴う現場養生
12月28日	仕事納め

平成24年（2012年）

1月4日	仕事始め
1月5日	第3遺構面遺構掘削開始
1月13日	第3遺構面完掘状況写真撮影
1月16日	確認トレンチ掘削
1月23日	確認トレンチ完掘状況写真撮影
1月24日	現場撤収作業
1月31日	発掘調査終了

写真3　現地説明会①

写真4　現地説明会②

写真5　現地説明会③

II 遺跡の立地と歴史的環境

1 地理的環境

四国東部には、吉野川北岸の讃岐山脈南麓を東西に横断する中央構造線が存在する。この中央構造線は、境界断層であり、地質構造の違いからこれより北側を西南日本内帯、南側を西南日本外帯と呼んでいる。西南日本内帯のうち、四国には領家帯が存在し、中央構造線に接している。領家帯は、和歌山沖の南海トラフで沈み込むフィリピン海プレートの影響によって、マグマ上昇に伴い発生した高温低圧の変成岩や花崗岩で形成される。また、西南日本内帯の南縁部には、和泉層群が領家帯の上に帯状に堆積している。それは松山平野の南西から徳島県と香川県境にある讃岐山脈南麓、淡路島南部の諭鶴羽山地を通り大阪府と和歌山県の境にある和泉山脈に至るまで、東西３００km、南北幅最大１５kmにわたっている。この和泉層群は、主に海底で堆積した砂岩・礫岩・泥岩からなり、中央構造線の左横ずれ断層運動による沈降で形成された海盆への堆積層である。

西南日本外帯のうち、四国には北から順に三波川帯・御荷鉾帯・秩父帯・四万十帯が形成されている。御荷鉾帯は、三波川帯と秩父帯との境界に断続的に弱く帯状に分布する地層である。それらの間には、西南日本内帯との境界をなす中央構造線、三波川帯と秩父帯の境界をなす御荷鉾構造線、秩父帯と四万十帯の境界をなす仏像構造線が東西方向に延びている。三波川帯はフィリピン海プレートの沈み込みを受け低温高圧型の変成を受け、緑色結晶片岩、緑色片岩と泥質片岩が重なり合う層から成る。吉野川にこれらの岩石が認められるのはこのためである。

西南日本内帯の讃岐山脈は、中生代白亜紀の砂岩と泥岩質の頁岩とが重なる層からなり、浸食が進んだなだらかな地形である。讃岐山脈には、鳴門板野古墳群など多くの古墳群が形成されており、一般には高度が低く、山麓には扇状地が発達している。一方で、西南日本外帯は壮年期の険しい地形で平地が極めて少なく、急峻な四国山地がそびえている。そのため、徳島県は、面積 4,144.23㎢のうち、約８割を山地で占め、平野は約２割である。

徳島県の河川は、四国山地北側の吉野川水系と南部の那賀川水系、勝浦川など四国山地から東流して紀伊水道に注ぐ河川が代表的である。これら河川は境界断層による構造線の影響を受けており、吉野川は中央構造線、勝浦川は御荷鉾構造線、那賀川は仏像構造線に沿うように流れている。

各河川の流域には沖積平野が形成されているが、吉野川は別名四国三郎と呼ばれる四国最大の集水域をもち、その下流域に細長い末広がりの肥沃な沖積平野である徳島平野を形成している。清成遺跡は、この徳島平野の吉野川南岸下流域に位置し、徳島県名西郡石井町石井字石井に所在する。吉野川下流域はかつて旧河道が網目状に広がり氾濫や洪水を繰り返してきた地域であり、当該調査地周辺は吉野川の支流である飯尾川や洪水河道となった渡内川によって後背湿地や自然堤防が形成されている。飯尾川は東流し三角州性扇状地に遮られ北上し吉野川と合流する。渡内川についても、東流するも気延山山塊に遮られて北上している。当該遺跡は渡内川の南岸にあって、自然堤防上の微高地に位置している。吉野川の繰り返す河道の変動にともない、当該地周辺は東西方向に延びる数mの比高をもつ幅広い自然堤防が数条にわたって発達しており、砂質土壌で水はけのよい土壌が形成されている。当該遺跡は、この自然堤防上の微高地に立地し、縄文時代から室町時代まで集落が形成された。

2 歴史的環境（第５図）

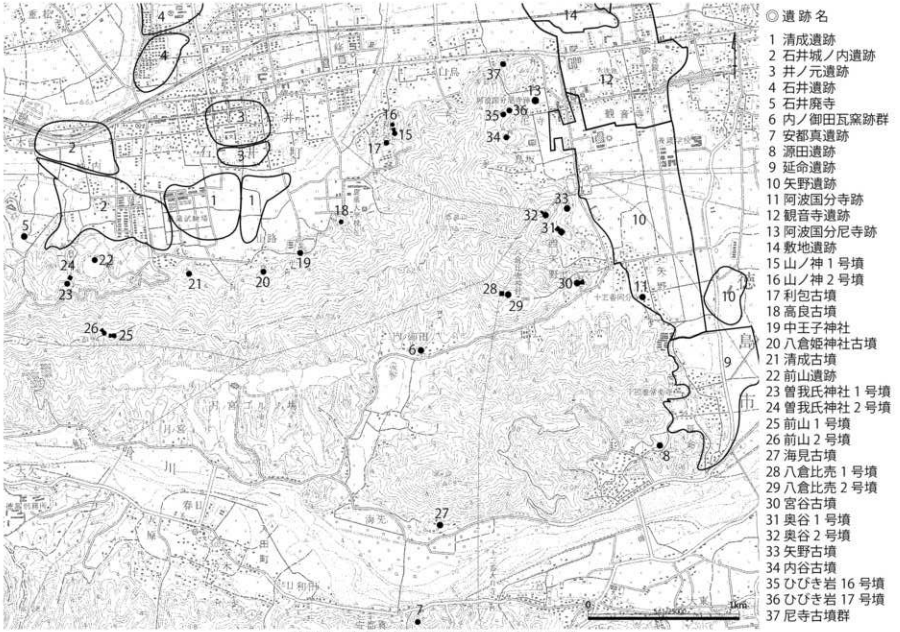
当該地周辺である吉野川下流域南岸の鮎喰川流域ならびに気延山山麓周辺には、これまで多くの遺跡が認められ、発掘調査などにより遺跡の性格が判明しつつある。ここでは、当該遺跡のこれまでの発掘調査ならびに、周辺の遺跡の概要を中心に述べる。

石井町所在の清成遺跡については、昭和４４年に、建設中の農業試験場予定地から広範囲にわたって土器が散布していることでその存在が確認された。当時、土器の散布状況から、当該遺跡は農業試験場の北半分を占めると考えられ、発掘調査が、部分的に行われた。調査の結果、弥生時代終末期の竪穴住居２軒、溝１条、土坑１基が確認されたことから、当該地は、開発工事から盛り土によって遺跡の保護を図り、現地保存されている。その成果は概要報告されている（1）。

そのほか石井町内の集落遺跡は、高川原遺跡、石井城ノ内遺跡、石井遺跡がある。高川原遺跡は、当該遺跡の北東約 2.5㎞先の飯尾川と渡内川の間の微高地上に位置し、弥生時代前期から平安時代にかけての竪穴住居跡などの遺構が検出されている。出土品では銅鐸形土製品が特筆される。竪穴住居跡かもしくは切り合い関係にある溝から出土したもので、その形状は扁平鈕式の袈裟襷文銅鐸を写しており、鈕、鈕孔、鰭、型持孔などを忠実に表現している（2）。石井城ノ内遺跡は、当該遺跡の西約１㎞先の主要地方道石井・神山線道路改良事業によって発掘調査が行われ、弥生時代終末期から古墳時代初頭の掘立柱建物２棟、柱穴・溝・土坑・土器溜まりが検出された。また、古墳時代初頭の遺構から水銀朱付着の土器・石器・石臼が出土している（3）。同じく石井曽我団地地区では、縄文時代から江戸時代にかけての遺構を検出し、多くの遺物が出土している。弥生時代前期・中期の遺構は掘立柱建物、竪穴住居、土壙、井戸、溝などである。出土遺物は、弥生時代前期の頸部と胴部に各１条の貼り付け突帯を施す壺や、竪穴住居から前期の無頸の壺、胴部上半に４条の沈線を施す甕や鉢が出土している。弥生時代後期から古墳時代初頭には、遺構の分布が、北半に竪穴住居や掘立柱建物、中央部に水田遺構、南半部に土坑が密集する様子から集落構成の一端が窺える。また検出した弥生時代終末期の袋状土坑と山陰系土器のセット関係が注目される（4）。

気延山東麓周辺および鮎喰川流域の沖積地に遺跡が認められる。矢野遺跡は、気延山東麓に位置し、東西１㎞、南北２㎞の規模を有する縄文時代から中世までの複合遺跡である。縄文時代には継続的に営まれた集落跡が認められる。そこから土製仮面や石棒の出土や、水銀朱の精製が認められており、儀礼行為が窺える。また、弥生時代の本県を代表する集落遺跡であり、弥生時代中期から後期の住居跡からは、朱の付着した土器及び精製に使用した石杵、石臼に加え、中期末から後期初頭には、砂鉄を入れた長頸壺や多量の鉄滓、砥石が出土した鍛冶工房と考えられる竪穴住居を確認している。また後期後半には銅鐸埋納坑から木製容器に納められた状態で突線鈕式袈裟襷紋銅鐸が出土している（5）。銅鐸は周辺の名東遺跡（6）、安都真遺跡（7）（三木 1965）、源田遺跡（8）（三木 1950）からも出土しており、狭い範囲に集中している。後期には中期の集落域をさらに広げ、合計約 100 棟の竪穴住居跡が検出されている。布留式並行期には集落の中心を徐々に南と山裾に移している状況であった。矢野遺跡の南に位置する延命遺跡では、弥生時代後期の水田跡、墳丘墓が確認されている（9）。また観音寺遺跡の北半では弥生時代後期や布留式並行期にかけての遺構が認められている（10）。

古墳時代では、気延山の東から北斜面では約 100 基の古墳が把握されており、徳島最大の密集地帯



第 5 図　清成遺跡周辺の遺跡分布図（1/25,000）

でしかも本県では数少ない前方後円墳の集中する地域である。

前期には奥谷１号墳・２号墳、宮谷古墳、山ノ神古墳群、清成古墳、前山古墳などがある。八倉比売１・２号墳は、現況墳丘測量が行われている。測量の結果、八倉比売１号墳は径３５m、墳丘高３mを測る円墳であり、八倉比売２号墳は１辺２０m、墳丘高２.５mを測る方墳である。八倉比売１号墳は、墳丘基底部となる緑色結晶片岩の割石ならびに石英の白色円礫が認められるなどにより前期古墳の可能性が推定されている。八倉比売２号墳についても、立地条件から八倉比売１号墳と同時期の築造が考えられる (11)（三宅 1993）。

奥谷１号墳は、内部主体は不明であるが、墳丘裾を巡る円筒埴輪は方形の透孔を有しＡ種ヨコハケを施すことから、４世紀後半の年代が位置づけられ、盛土による前方後方墳である（三宅 2000）。古墳の前方部は２段築成であり北側１段目斜面に葺石が施され、後方部は１段築成の可能性があり北側斜面に葺石が施される。また後方部斜面下を中心に多量の白色円礫が出土しており、本来は埋葬施設主体部上面に被覆されていたものといえる (12)（三宅 2002）。奥谷２号墳は宮谷古墳よりも先行すると思われ、短い突出部を設ける積石塚古墳である。

宮谷古墳は、尾根上に築かれた３世紀後半から４世紀初頭の前方後円墳である。築造にあたっては、前方部１段築成、後円部は２段築成に、また前方部の周囲には幅３～１０mの平坦面になるよう地山を削り出す。前方部は基底部に石積みを施し、後円部は盛土と葺石によって築成されている。古墳規模は後円部径 25 m、前方部長約 12.5 mである。内部主体は結晶片岩の竪穴式石室であり、副葬品は、棺内から小型の仿製重圏文鏡１面、鉄鏃１点・鉄斧１点・ヤリガンナ８点、碧玉製管玉１点・ガラス小玉 11 点が出土し、棺外から鉄剣１口以上が出土している。また、石室内に本来埋納されていた可能性が大きい三角縁銘帯六神四獣鏡も出土している。(13)（一山・三宅 1992・三宅 2002）。

また気延山から西へ続く尾根の北麓にあり、当該遺跡の南に位置する清成古墳は、緑色結晶片岩の竪穴式石室を埋葬施設とする４世紀末から５世紀初頭の円墳である。そこから鉄矛１点、鉄鏃１点が出土している。また壺形埴輪が葺石状遺構から検出されている。この竪穴式石室の南に石室の主軸と直交して、箱式石棺があり、そこから内行花文鏡、鉄製品などが出土している (14)（石井町 1969）。

前山古墳群は、気延山から西へ続く尾根上、標高 160 mに立地する。測量調査によって、前方後円墳２基が確認されている。前山１号墳は全長 17.7 mを測り、前方部を西側に向ける。葺石は緑色片岩をつかい、前方部端部にほぼ垂直に葺かれていた。後円部は上面全体に緑色片岩の割石が積まれ、埋葬施設は赤みの強い粘土を敷き、その上に刳抜き式木棺を据え、竪穴式石室を設けていた。石室内で遺物は認められなかったが、墳丘上で後円部、くびれ部、前方部で二重口縁壺破片が出土した。４世紀前半ころの築造時期が考えられる。

前山２号墳は１号墳の西で尾根が枝分かれする取り付き部分に位置し、前方部を北側に向けていた。全長は 18 mを測り、後円部に主軸と平行する２基の埋葬主体があったようである。その内１基では竪穴式石室の側壁や箱式石棺の側板が露出していた (15)（高島 2000）。なお、前山古墳群から北に向かった尾根裾にある曽我氏神社古墳群までの尾根筋にも数基の古墳があるもよう。

気延山北西麓の標高約 45 mに山ノ神古墳群が立地する。１号墳は全長約 60 mの前方後円墳である。１号墳の特徴は、前方部の形状に不鮮明さがあることから、後円部基底部と前方部基底部等の等高線が一致せず段差をもっている。これは鳴門市天河別神社３号墳・４号墳、宝幢寺１号墳などにも認められ、徳島県の前期・中期古墳に共通する構築法の一つとする見解がある (16)（天羽・岡山 1986）。また、１

号墳は、その形状・規模などを明らかにするため６カ所のトレンチを設定して発掘調査が行われており、その結果、埴輪・葺石は検出されなかったものの、墳丘裾と考える地山の傾斜変換点を後円部と後方部のトレンチで確認している（17）（石井町教委 2013）。そのほか、２号墳は、１号墳の前方部西側に接する直径 11 mの円墳であり、後円部裾の西側には、３号墳の箱式石棺または横穴式石室がわずかに遺存する古墳がある。

また気延山から西に連なる尾根の北麓には八倉姫神社が所在し、境内地から、昭和初期に箱式石棺である八倉姫神社石棺が３基掘り出されている（18）（菅原 1988）。当該遺跡の西約１kmの丘陵上に曽我氏神社１号墳・２号墳が隣接して築造されている。２号墳の北側の丘陵先端部には、石材の散乱がみられたようで、かつては古墳が存在していた可能性がある。１号墳は直径１１mの円墳の西側に幅３m、長さ２．５mの突出部をつくりだし、２号墳は一辺 10 ～ 12 mの方墳である。１号墳と２号墳は、近接しており、丘陵部を東西方向に断ち割るように深さ１mの掘り込みで区画されていた。八倉姫神社１号墳・２号墳と同様に円墳と方墳が隣接している状況である。１号墳は東西方向に主軸をもち、墳丘基底部に貼石を施して盛土をした後に裾部に葺石を積み上げている。突出部をつくりだす点で奥谷２号墳と類似する。墳丘主軸に平行して２基の竪穴式石室を設けている。北側は、割竹形木棺を設置しており、棺外から小型仿製四獣鏡、鉄剣、鉄鏃、刀子などが出土している。南側は組合せ式箱形木棺を置き、粘土で目張りしている。棺内から珠文鏡、凝灰岩製石釧、硬玉製勾玉、管玉、ガラス小玉が出土している。２号墳にも墳丘基底部に貼石、裾部に葺石を施している。両墳ともに４世紀後半の年代が与えられる（19）。

前山遺跡は、曽我氏神社古墳群の東の丘陵上に立地しており、前山総合公園計画事業の事前に発掘調査が行われた。調査はＢ区で古墳の痕跡、Ｃ区で横穴式石室の石材の一部が確認され、そこから提瓶、須恵器細片が出土している（20）。

長谷古墳は、曽我氏神社古墳群の西 1.5kmの神山町境にあたる標高 181.5 mの山頂部に、単独で立地する円墳である。その規模は直径１３m、現存墳丘高２mを測り、墳丘には結晶片岩を小口積みした葺石が二段築成される。その埋葬施設は粘土床に木棺を据えた竪穴式石室であり、棺内から硬玉製勾玉・鉄剣、棺外から仿製の内行花文鏡・鉄斧・鉄鏃・刀子・直刀・鉄矛・鉄剣・鉄鏃などの多くの副葬品が出土している。築造時期は４世紀後半である（21）。

後期古墳では、内谷古墳（日枝田神社古墳群１号墳）、前山古墳群、尼寺古墳群、矢野古墳、ひびき岩古墳群、利包古墳、高良古墳など重要な古墳が並ぶ。日枝田神社古墳群は気延山東麓に５基が確認されている。そのうち、１号墳は内谷古墳と呼ばれ、箱式石棺を埋葬施設にしていた。この箱式石棺は底石がなく長側石を二枚継ぎ足している。棺内には頭骨が遺存しており、凝灰岩製の石釧が副葬されていた（22）。尼寺古墳群は気延山北東端に位置し、６基の古墳から構成されている。１号墳は、径約９mの円墳で、埋葬施設は箱式石棺である。棺内からは硬玉製管玉４点、ガラス製小玉 17 点、棺外から須恵器の有蓋短頸壺・杯などが出土している。築造時期は６世紀前半である。次に２号墳は片袖式の横穴式石室であり、石室内から須恵器の高杯片が出土するのみである。築造時期は６世紀末と考えられる（23）。

ひびき岩古墳群は 17 基のほとんどが小円墳で箱式石棺を内部主体とするものが多いなかで、16 号墳は、17 号墳の発掘調査中の踏査によって認められ、横穴式石室を内部主体とする前方後円墳であることが判明した。遺物は６世紀後半の高杯・台付壺・提瓶などや鉄製品、玉類などが出土している。ま

た鉄地金銅張製の雲珠・辻金具、鋲止め飾金具の馬具が出土している。平安時代後期から末に火葬墓として石室が再利用されたことなどにより、遺物の遺存状態はよくない(24)。17号墳は丘陵が西から東へなだらかに傾斜する地点にあり、墳丘の形状はわずかに残る。墳丘規模は、現地形の等高線や石室の位置などから墳径約10m、高さ約3mを測る。石室は石材の多くが抜き取られて消失していたが、結晶片岩を使った石材の組み合わせから片袖式横穴式石室と判明している。その玄室平面形態は一辺1.75mの方形状であった。石室は三波川帯の気延山山系の地山である緑色結晶片岩のやわらかい岩盤を、石室が構築できる規模まで広く平らに削っていた。床面には粘土質の赤土を厚さ約10cmで敷き固め、その上に小円礫を敷いている。また床面には太門から奥壁に向かって1.1mのところで高さ15cmの結晶片岩の割石で間仕切りし、奥壁に沿って被葬者を安置する空間を設けていた。また追葬も行われており、この間仕切りに沿って幅50cmにわたって片岩の割石で1次面の小円礫を覆い、被葬者の安置場所を設けていた。副葬品は蓋杯・高杯・短頸壺・提瓶の須恵器、碧玉製の管玉・水晶製の切小玉・算盤玉などの玉類、金環・銀環、轡・鉄鏃・刀子などの鉄製品があり、6世紀後半の年代が考えられる。そのほか18号墳・19号墳についても後期に属する小円墳といわれている(25)。

利包古墳は中世に築かれた鳥坂城跡の西、気延山北部西尾根に構築された箱式石棺をもつ円墳と推定される。箱式石棺は底部がなく、長側石の内側に短側石を組み合わせ、天井は蓋石で覆われていた。周辺から滑石製臼玉2点が出土している(26)。

高良古墳は気延山南西部にあたる尾根の北麓に位置し、粘土槨を内部主体としているとのことであるが詳細は不明である(27)。

矢野古墳は気延山東麓の尾根先端に所在する。第1次発掘調査によって、墳丘および石室の測量調査が行われ(28)(徳島県博物館1973)、第2次調査では、墳丘規模などの基礎資料を得る目的でトレンチ調査が行われ、その結果、直径17.5mの円墳であることが判明した。また周溝幅は第3調査区で2m、第5調査区で1mを測り、葺石は認められなかった(29)。そして第3次調査では、石室内の発掘調査が行われた。この古墳は、埋葬施設が両袖式の横穴式石室で前室および羨道部がある複室構造であることが判明した。また、石室全長11.5mを測り、玄室及び前室の前門付近までは、天井石や側壁が比較的良く遺存し、玄門部および前門部には立柱石が構築されていたことが判明した。玄室は持ち送り技法によって構築され、側壁石の横目地は6段が認められ、玄室の床面は主に川原石を敷くが、玄門付近と前室では板石を敷きつめていた。遺物は、須恵器蓋・杯身・壺・甕・高杯・甑・平瓶・器台が主に板石上から出土したほか、玄室では鉄釘・金環・ガラス小玉が出土している。これらの遺物から築造年代は6世紀後半から7世紀前半と考えられる(30)。

古墳時代の集落は、清成遺跡、矢野遺跡、石井城ノ内遺跡・同遺跡曽我団地地区、敷地遺跡、観音寺遺跡などがある。清成遺跡では、平成4年・5年度に発掘調査が行われ、古墳時代後期の竪穴住居が検出されている(31)。矢野遺跡は弥生時代につづき、古墳時代でも集落が形成されている。矢野遺跡北に続く敷地遺跡は、5世紀末の竪穴住居及び6世紀末から7世紀前半の竪穴住居と掘立柱建物が合わせて100軒以上検出され、本時期では初めて集落の存在が明らかにされた(32)。

生産遺構は、内ノ御田瓦窯跡群の入田瓦窯跡がある。この窯は地下式有階無段式で、均整唐草文軒平瓦などを焼成していた平安時代初頭に主に操業していた。同類の瓦は国分寺・国分尼寺・石井廃寺・下浦廃寺などにみられる。その形成期には6世紀末から7世紀前半の須恵器生産が確認されており、須恵器の蓋杯・短頸壺・甕・高杯・提瓶、灰原から杯蓋・甕・甑などが出土している。また隣接して須恵器

製作工人との関連が想定される横穴式石室の円墳が所在し、周辺には同時期の海見古墳があり、この石室の残欠が遺存している。徳島県内の古墳時代の須恵器窯は確認されているものが少なく、資料的価値が高い (33)。

飛鳥時代から平安時代の遺跡も、当該地周辺では重要遺跡が認められる。観音寺遺跡ならびに敷地遺跡からは、主に２条の流路跡から飛鳥時代から平安時代までの律令制度成立前から終焉までの各種の遺物が多く出土している。「論語木簡」「勘籍木簡」「板野国守木簡」などの木簡や墨書土器・腰帯具・硯など官庁における政務を表すものに加えて、木製の齋串や人形、鳥形・舟形・刀形などの祭祀具、農具、工具、紡織具は官庁における生産や祭祀、生活を表すものが良好な状態で出土している。これらは阿波国府の具体的な経営実態を示すなど重要な歴史資料となっている (34)。

また、気延山から西に延びる尾根裾に中王子神社が鎮座する。この神社の神宝である墓碑は本殿北側から出土したと伝わる重要な資料である。それは、高さ 28.7㎝を測る瓦質の磚造りの墓碑である。上下に矩形の出枘がつくりだされており、上部に屋根、下部に台座が組み合わされていたものとみられる。正面には「阿波国造 / 名方郡大領正□□下 / 粟凡直弟臣墓」と、側面には、「養老七年歳次癸亥年立」とヘラ描きされている。養老喪葬令には「凡そ墓には皆な碑を立てよ。つぶさに官姓名の墓と記せ」とあり、条文のとおり墓碑に刻まれている。粟凡直氏は古代吉野川下流域における最大の豪族で、弟臣は名方郡の大領（長官）になっていることがわかる。このことから気延山の西北麓から鮎喰川下流域に至る一帯が粟国造家（粟凡直氏）の本拠地となっていたと考えられ、阿波国府と近接することなどその関係性が注目される。

石井廃寺跡は、塔跡、５間×４間の金堂跡、西回廊跡が確認されており、奈良時代前期（白鳳期）の法起寺式伽藍配置である (35)。また阿波国分尼寺跡は方一町半の寺域を有し、金堂跡、北門跡、北東西の外濠、雨落ち溝が検出されており、史跡整備作業を進めている。出土した瓦には八葉複弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、重弧文軒平瓦がある (36)。阿波国分寺跡は現在の十五番札所国分寺境内に結晶片岩の礎石があることより、周辺一帯がその候補地と考えられる。伽藍配置を確証づける遺構は認められておらず、出土した瓦は、阿波国分尼寺跡、石井廃寺跡などと同型・同笵のものがある (37)。石井遺跡は学校新築工事に伴って発掘調査が行われ、中世の柱穴・溝・土坑・水田が確認された (38)。

【参考文献】

平井松午 1998「河川の自然環境と開発史」『川と人間－吉野川流域史』徳島大学　渓水社

菅原康夫 1988『日本の古代遺跡 37　徳島』保育社

(1) 徳島県教育委員会 1969『埋蔵文化財調査概報（名西郡石井町県農業試験場敷地内）』

(2) 石井町教育委員会・高川原遺跡発掘調査委員会 1980『高川原遺跡発掘調査報告書』

(3) 徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会 1999『石井城ノ内遺跡　石井・神山線地区―主要地方道石井・神山線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』

(4) 徳島県埋蔵文化財センター 2003『石井城ノ内遺跡石井曽我団地地区県営住宅（石井曽我団地）建設工事関連埋蔵文化財発掘調査報告』

(5) 徳島県埋蔵文化財センター 2001『矢野遺跡Ⅰ』

徳島県埋蔵文化財センター 2003『矢野遺跡Ⅱ』

徳島県埋蔵文化財センター 2006『矢野遺跡Ⅲ（弥生・古代篇）

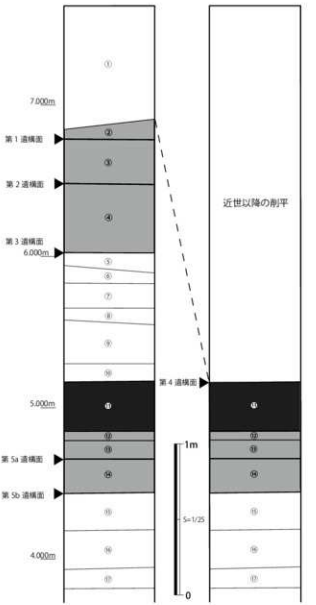
(6) 勝浦康守 1990『名東遺跡発掘調査概要―名東町２丁目・宗教法人天理教国名大教会神殿建設工事に伴う発掘調査―』
名東遺跡発掘調査委員会
(7) 三木文雄 1965「阿波国安都真出土の銅鐸とその遺跡」『考古学雑誌』第５０巻第４号
(8) 三木文雄 1950「阿波国名西郡源田出土の銅鐸とその遺跡」『考古学雑誌』第３６巻第２号
(9) 徳島県埋蔵文化財センター 2010『延命遺跡（1）』
(10) 徳島県埋蔵文化財センター 2002『観音寺遺跡１』
徳島県埋蔵文化財センター 2006『観音寺遺跡Ⅱ』
徳島県埋蔵文化財センター 2010『観音寺遺跡Ⅲ』
徳島県埋蔵文化財センター 2007『観音寺遺跡Ⅳ』
徳島県埋蔵文化財センター 2008『観音寺遺跡Ⅴ』
(11) 三宅良明 1993「八倉比売神社古墳群測量調査概要」『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要３』徳島市教育委員会
(12) 三宅良明 2000「奥谷１号墳」『古代学協会四国支部第１４回大会前方後円墳』
三宅良明 2002「宮谷古墳・奥谷１号墳の墳丘構造について」『論集 徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会
(13) 一山 典・三宅良明 1992「徳島県徳島市宮谷古墳」『目本考古学年報 43（1990 年度版）』日本考古学協会
三宅良明 2002「宮谷古墳・奥谷１号墳の墳丘構造について」『論集 徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会
(14) 石井町教育委員会 1969『清成・尼寺古墳群発掘調査概報』石井町文化財調査報告書第四集
(15) 高島芳弘 2000「前山古墳群の発掘調査成果」『古代学協会四国支部第１４回大会前方後円墳を考える―研究発表要旨集―』
古代学協会四国支部・徳島県立博物館
(16) 天羽利夫・岡山真知子 1986「山ノ神古墳群調査報告」『徳島県博物館紀要』第 17 集
(17) 石井町教育委員会 2013『山ノ神古墳群１号墳第１次発掘調査現地説明会資料』
(18) 菅原康夫 1988『日本の古代遺跡 37　徳島』 保育社
(19) 天羽利夫・岡山真知子 1982「曽我氏神社古墳群調査報告」『徳島県博物館紀要』第 13 集
(20) 石井町教育委員会 1981『前山公園緊急発掘調査報告書』
(21) 天羽利夫・岡山真知子・宮本敬子・高橋正則 1984「長谷古墳調査報告」『徳島県博物館紀要』第 15 集
(22) 三木文雄 1962「利包及び内谷組合式石棺の研究」『石井』徳島県文化財調査報告書第５集
(23)（14）と同一
(24) 石井町教育委員会 1986『ひびき岩１６号墳発掘調査報告書』
(25) 徳島県教育委員会 1892『ひびき岩古墳群１７号墳発掘調査」『徳島県文化財調査概報昭和５４年度』
(26)（22）と同一
(27)（18）と同一
(28) 天羽利夫 1973「徳島県下における横穴式石室の一様相」『徳島県博物館紀要　第４集』
(29) 下田順一 2002「矢野の古墳」『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要１２』徳島市教育委員会
(30) 下田順一 2004『矢野の古墳発掘調査報告書』徳島市教育委員会・徳島市史跡調査整備委員会
(31) 奈賀哲人 1997「石井町内の遺跡について」『平成９年度第１回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会資料』
(32)（5）と同一
(33) 立花博・天羽利夫 1970『徳島市入田町内の御田瓦窯跡発掘調査概報』徳島県教育委員会
(34)（10）と同一
徳島県埋蔵文化財センター 2007『敷地遺跡（１）道路改築事業（徳島環状線国府工区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書』

徳島県埋蔵文化財センター『敷地遺跡（Ⅱ）発掘調査概報』
(35) 三木文雄 1962「石井廃寺調査報告」『石井』徳島県文化財調査報告書第５集
(36) 徳島県教育委員会・石井町教育委員会 1971『阿波国分尼寺跡発掘調査概報』
徳島県教育委員会 1972『阿波国分尼寺跡緊急発掘調査概報（第二次）』
(37) 天羽利夫・一山 典 1987「国分寺」『新修国分寺の研究　第５巻　南海道』吉川弘文館
(38) 徳島県埋蔵文化財センター 2000『石井遺跡―徳島県立名西高等学校施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』

III 調査成果

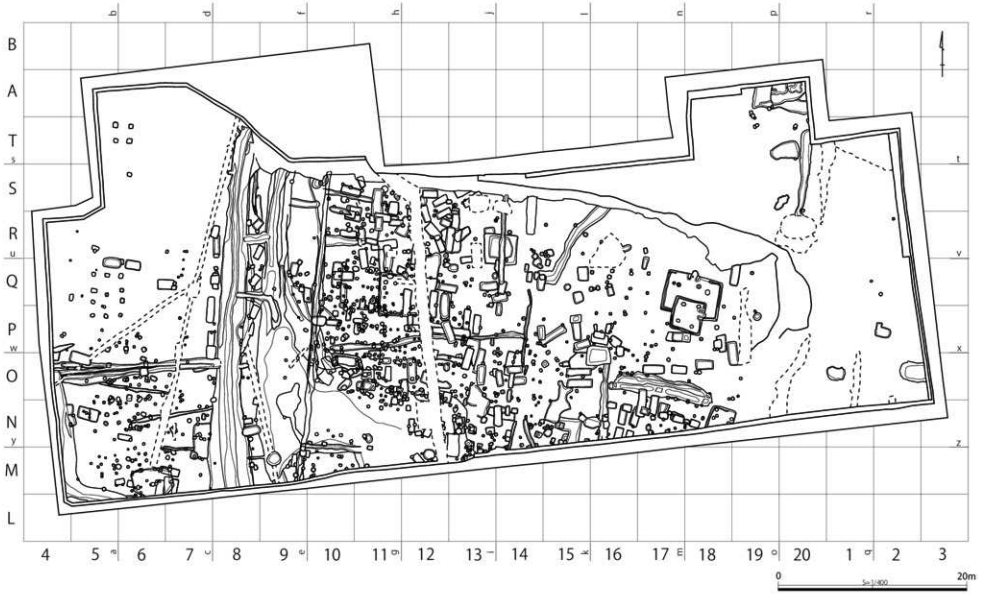
1 基本層序（第 6 図）

清成遺跡は吉野川の支流である渡内川南岸の標高約 7.5m 前後の自然堤防上に位置している。表面直下には約 1m 程度の盛り土（①層）がされており、その下から旧地表面や第 1 遺構面の包含層が確認されている。特に旧地表面層が残存していたのは調査区の南壁付近であり、調査区中央より北では確認されていない。第 1 包含層はおもに古墳時代～鎌倉時代にかけての遺物を含む黄灰色粘質土で、層厚は 20～30cm である（②層）。第 1 遺構面下は弥生時代後期～終末期の遺物を含む第 2 包含層である（③層）。にぶい黄色の粘質土で約 30cm 前後の層厚で堆積している。第 2 遺構面下には黄灰色系の粘質土が約 50cm ほど堆積している（④層）。含まれる遺物の量は第 1、第 2 包含層に比べると極まばらであるが、炭化物の小片や粒と伴に弥生土器の小片を散漫な状態で含んでいる。第 3 遺構面から下は約 1m 程度は無遺物層で灰オリーブ色、暗灰黄色系の粘質土などが堆積している（⑤～⑩層）。⑩層の下には黒褐色粘質土が 30cm 前後の層厚で堆積しており（⑪層）、調査区北側の弥生時代遺構面などが削平を受けた部分においては近世の遺構が上面において検出されている（第 4 遺構面）。また⑪層中には縄文土器の小片が含まれており、以下の褐灰色粘質土（⑫層）、にぶい黄褐色粘質土（⑬層）、黄灰色粘質土（⑭層）までが縄文時代の遺物包含層として捉えられている。第 5 遺構面は⑭層の上面とその下の褐灰色粘質土（⑮層）の上面の異なる高さにおいて遺構が検出されたため、第 5a 遺構面・5b 遺構面としてそれぞれ捉えている。第 5 遺構面より下は標高約 3m まで掘り下げて遺構や遺物の確認を行ったが、おもに暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が互層に堆積しており、遺構や遺物は確認できなかった。



① 黄褐色　2.5Y 5/4 砂礫　盛土層
② 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや弱い。
③ にぶい黄色 2.5Y 6/4 粘質土しまりやや強い、粘性やや弱い。黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。
④ 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。浅黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)わずかに含む。
⑤ 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや弱い。黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。
⑥ にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。黄灰色粘質土ブロック(～Φ1cm)わずかに含む。
⑦ 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。
⑧ 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。浅黄色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。
⑨ 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。
⑩ 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。黒褐色粘質土ブロック(～Φ7cm)10%含む。
⑪ 黒褐色　10YR 3/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。黒褐色粘質土ブロック(～Φ7cm)10%含む。
⑫ 褐灰色　10YR 4/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや弱い。灰白色粘質土ブロック(～Φ1cm)わずかに含む。
⑬ にぶい黄色　5Y　6/3 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。灰白色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。
⑭ 黄灰色　2.5Y 6/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや弱い。黒褐色粘質土ブロック(～Φ2cm)わずかに含む。
⑮ 褐灰色　10YR 5/1 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。浅黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。
⑯ にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)わずかに含む。
⑰ 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土しまりやや強い、粘性やや強い。浅黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。

第 6 図　清成遺跡標準土層図



第７図　第１遺構面平面図（1/400）

2遺構と遺物

（1）第1遺構面（第7図）

第1遺構面からは掘立柱建物（SA）が24棟、竪穴住居（SB）が4軒、溝（SD）が36条、土坑（SK）が241基、小穴（SP）が961基、性格不明遺構（SX）が12基検出されている。

①第1遺構面の微地形（第8～12図）

調査区は東西方向に約100m、南北方向に約50m程の拡がりをもつ。第1遺構面は調査区の北東隅を除くほぼ全域において確認されており、最も標高が高いのは調査区南壁の14～17のグリッド付近から北壁13・14グリッド付近を結ぶラインで約6.8～7.0mほどである。この南北方向の馬の背状の高まりをピークとして東側と北側は近世以降の削平により階段状の傾斜が存在している。西側は緩やかに標高が下がっており、調査区西壁では6.2～6.4m程となっている。

②掘立柱建物（SA）

1号掘立柱建物（SA1001）（第13図）

検出地点　N－16～18グリッド。

形態・規模　梁間2間以上、桁行5間（9.25m）を測る。建物の主軸方向はN－77°－Wである。

土層　黄灰色、灰オリーブ色などの粘質土が2～4層堆積している。

遺物出土状況　SK1013、SK1016では中央部の底面付近から、SK1039では検出面の上面付近においてそれぞれ礫が出土している。SK1011からは土器が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　堀片の形状や出土した遺物などから奈良時代頃の年代が想定される。

2号掘立柱建物（SA1002）（第14・15図）

検出地点　M－13・14・N－13～15グリッド。

形態・規模　梁間2間以上、桁行3間（9.75m）を測る。建物の主軸方向はN－87°－Wである。

土層　黄灰色、灰オリーブ色などの粘質土が2～5層堆積している。

遺物出土状況　SK1080では検出面上面付近から礫が、SK1082、SK1120からは1層中より土器がそれぞれ出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　堀片の形状や出土した遺物などから奈良時代頃の年代が想定される。

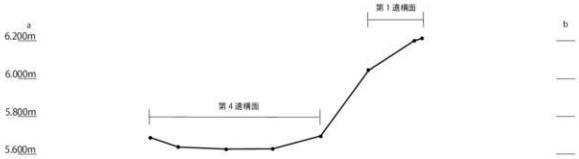
3号掘立柱建物（SA1003）（第16・17図）

検出地点　P－16・17・Q－16・17グリッド。

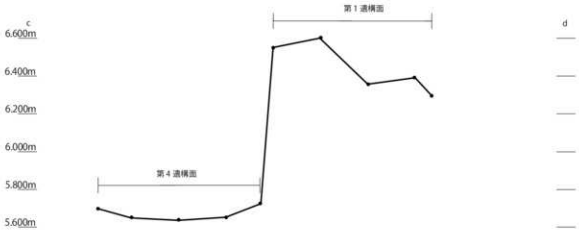
形態・規模　梁間2間（4.25m）×桁行3間（6.00m）、床面積が25.5㎡の側柱建物で、東側に庇が付いている。建物の主軸方向はN－87°－Wである。

土層　灰オリーブ色、黄灰色などの粘質土が1～4層堆積している。

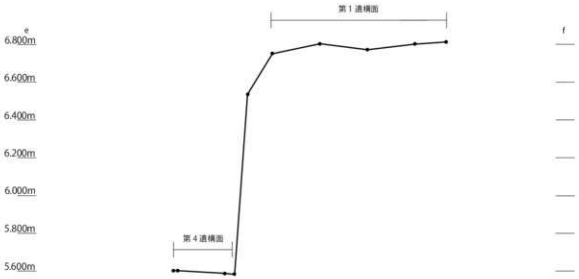
遺物出土状況　図化可能なものはない。



１－２グリッド間地形断面

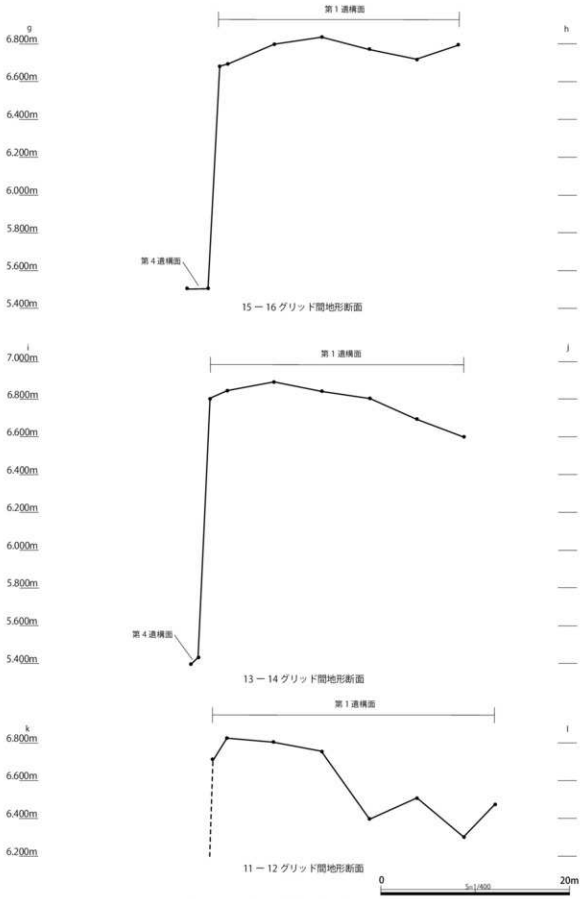


19－20グリッド間地形断面

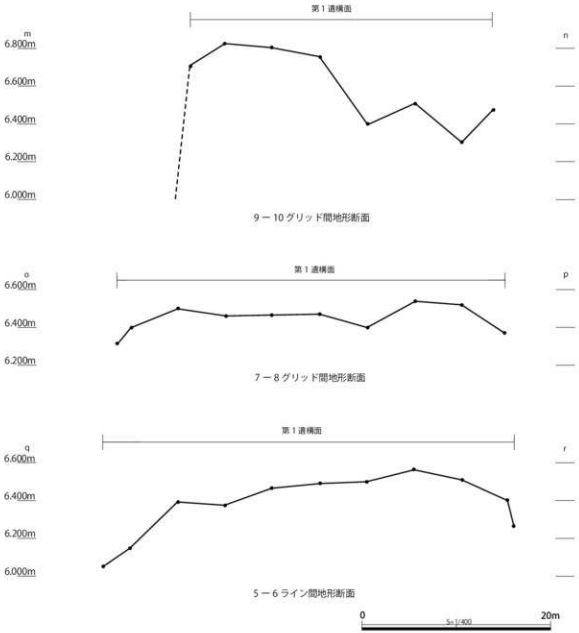


17－18グリッド間地形断面

第８図　第１遺構面地形断面図①



第９図　第１遺構面地形断面図②



第10図　第１遺構面地形断面図③

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。

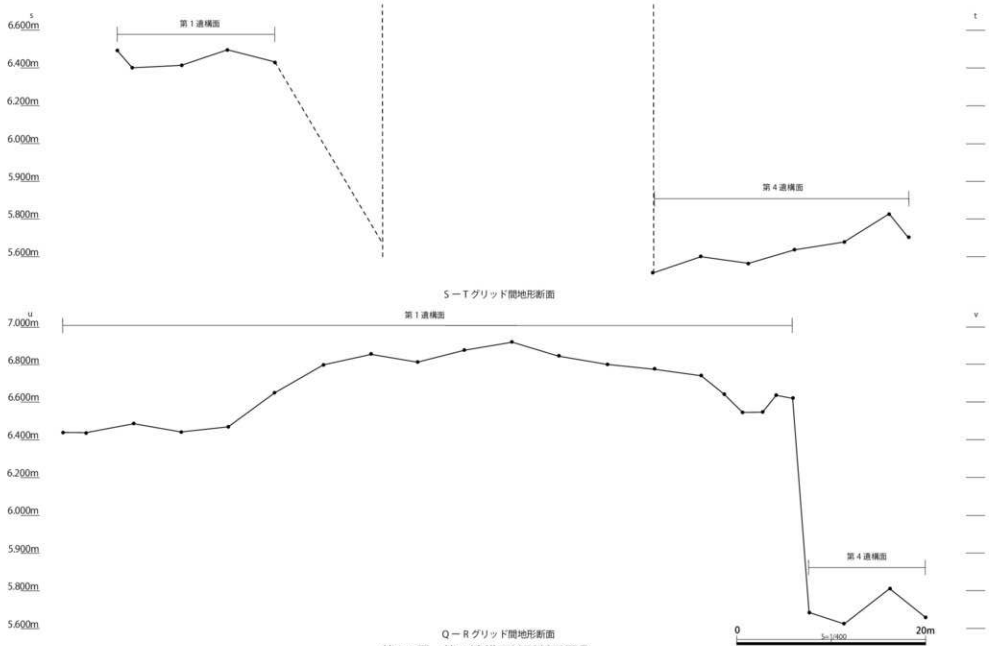
4号掘立柱建物（SA1004）（第18図）

検出地点　O－14・15・P－14・15グリッド。

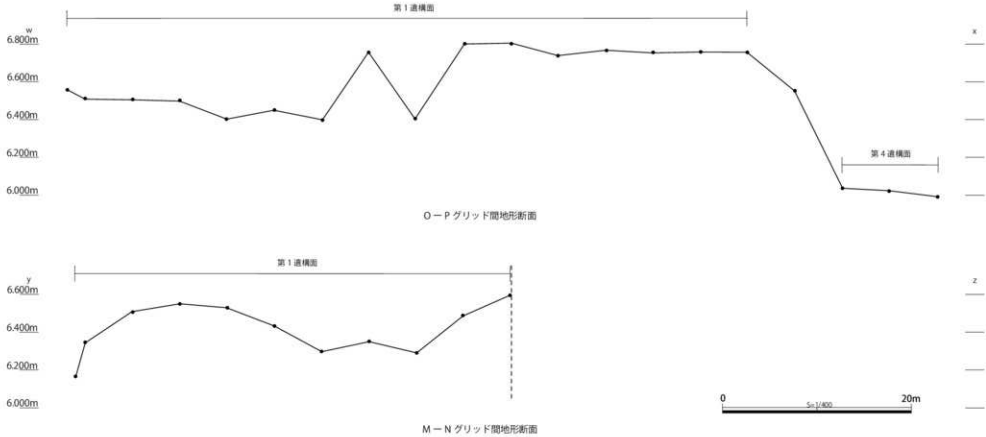
形態・規模　梁間１間（3.65m）×桁行２間（4.25m）、床面積が15.5㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN－80°－Wである。

土層　灰色、灰オリーブ色などの粘質土が１～２層堆積している。

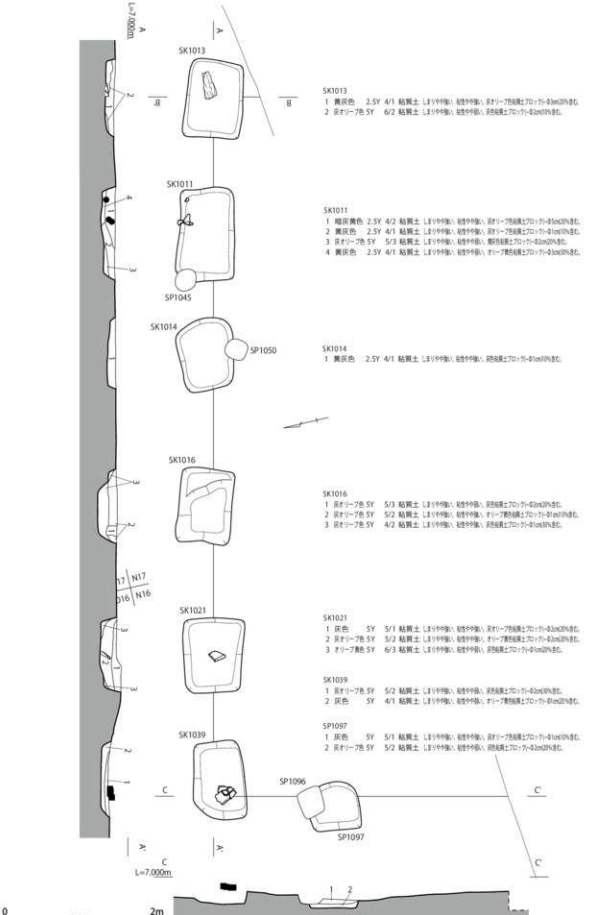
遺物出土状況　図化可能なものはない。



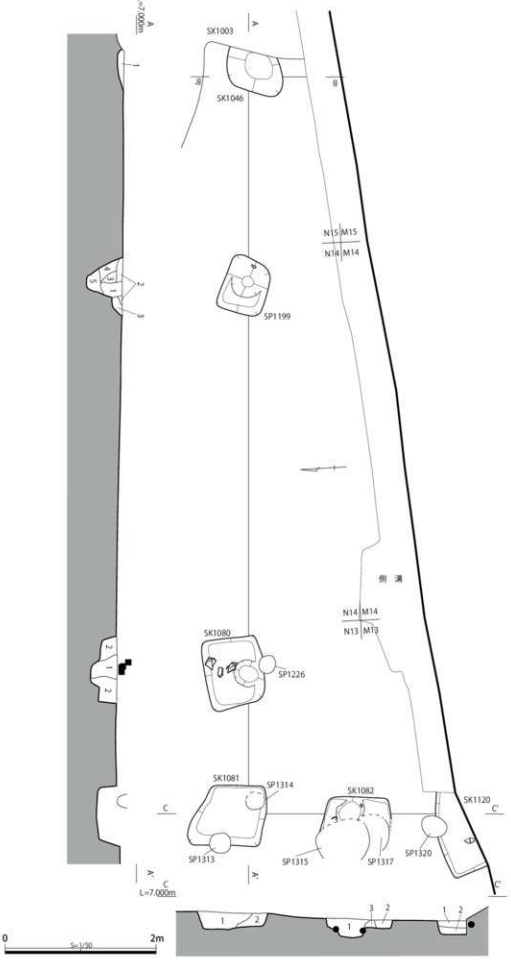
第 11 図　第１遺構面地形断面図④



第 12 図　第１遺構面地形断面図⑤



第 13 図　SA1001 平断面図（1/50）



第 14 図　SA1002 平断面図①（1/50）

SK1046
1　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック7～10cm40%含む。

SP1199
1　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック1～10cm20%含む。炭化物1～60.5cmわずかに含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック1～4cm20%含む。
3　灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック1～8cm30%含む。
4　灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～10cm40%含む。
5　オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～5cm30%含む。

SK1080
1　灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック1～8cm20%含む。炭土粒～40cmわずかに含む。炭化物1～60.5cmごくわずかに含む。
2　オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック1～5cm20%含む。

SK1081
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック1～40cm30%含む。
2　灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～4cm20%含む。

SK1082
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～8cm20%含む。
2　灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック1～4cm20%含む。
3　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗炭色粘質土ブロック1～8cm20%含む。

SK1120
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～8cm30%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗炭色粘質土ブロック1～8cm40%含む。

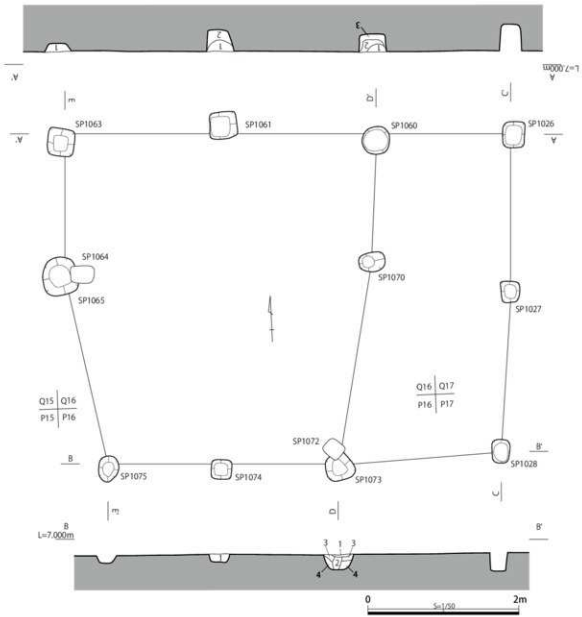
第 15 図　SA1002 平断面図②

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　古代～中世の年代が想定される。

5 号掘立柱建物（SA1005）（第 19 図）
検出地点　O － 14・15・P － 14・15 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（2.80m）×桁行 3 間（3.85m）、床面積が 10.8㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 52°－ W である。
土層　灰色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　古代～中世の年代が想定される。

6 号掘立柱建物（SA1006）（第 20 図）
検出地点　Q － 12・13 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（3.25m）×桁行 2 間（3.40m）、床面積が 11.1㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 82°－ W である。
土層　黄灰色、灰オリーブ色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。

7 号掘立柱建物（SA1007）（第 21 図）
検出地点　P － 12・13・Q － 12・13 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（4.00m）×桁行 2 間（4.85m）、床面積が 19.4㎡の側柱建物である。建物の主



第 16 図　SA1003 平断面図①（1/50）

軸方向は N － 85°－ W である。

土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　SP1270 の 1 層上部付近から土器が出土している。

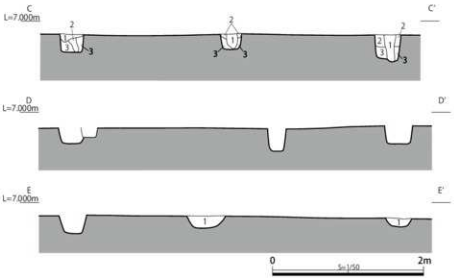
出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　建物の主軸方向や出土した遺物などから古代以降の年代が想定される。

8 号掘立柱建物（SA1008）（第 22・23 図）

検出地点　P － 10・11・Q － 10・11 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（4.00m）×桁行 3 間（6.85m）、床面積が 27.4㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N － 83°－ W である。



SP1026
1 灰色 7.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、明黄灰色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、明黄灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。
3 灰色 5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色～オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

SP1027
1 灰色 5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。炭化物片・焼土粒(～φ0.5cm)こくわずかに含む。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1028
1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。鉄分小斑状少量含む。
2 灰オリーブ色 5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。鉄分中斑状わずかに含む。
3 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ1cm)40%含む。鉄分中斑状わずかに含む。

SP1060
1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ5cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～φ1cm)40%含む。
3 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。

SP1061
1 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。
2 オリーブ黒色 5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1063
1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

SP1065
1 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

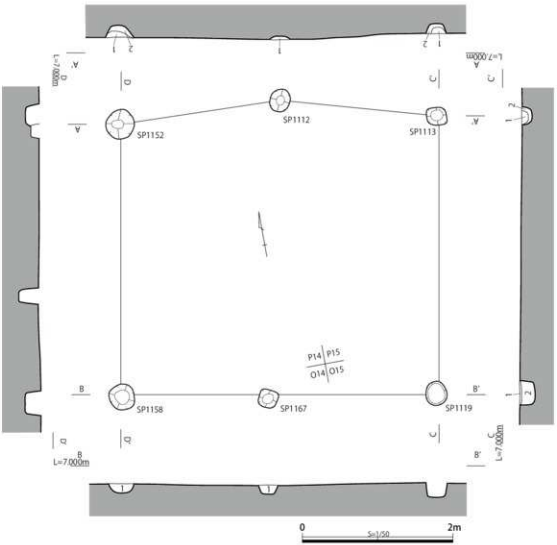
SP1070
1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰白色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1073
1 灰オリーブ色 5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色シルト質ブロック(～φ1cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色～黄灰色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。炭化物片(～φ0.5cm)こくわずかに含む。
3 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。
4 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。

SP1074
1 灰オリーブ色 5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

SP1075
1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

第 17 図　SA1003 平断面図②（1/50）



SP1112
1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む。

SP1113
1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性弱い、鉄分中斑状わずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰白色粘質土ブロック(~Φ2cm)20%含む。

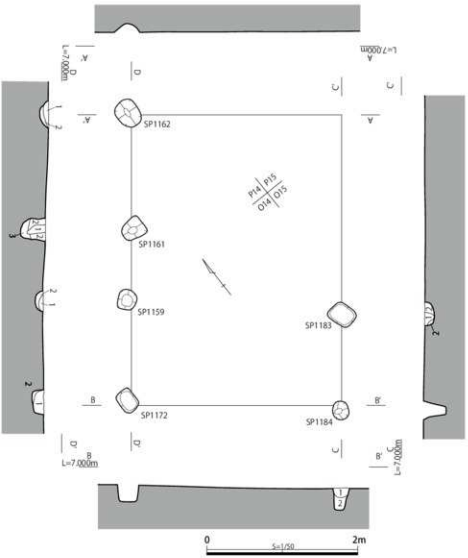
SP1119
1 灰白色　5Y　7/1 粘質土 しまりやや強い、粘性弱い。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む。

SP1152
1 灰オリーブ色 5Y　6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)10%含む。

SP1158
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ2cm)30%含む。

SP1167
1 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~Φ0.5cm)10%含む。

第 18 図　SA1004 平断面図（1/50）



SP1159
1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(~Φ2cm)20%含む、炭化物片(~Φ0.5cm)にくわずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む。

SP1161
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む、焼土粒(~Φ0.5cm)にくわずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)10%含む。

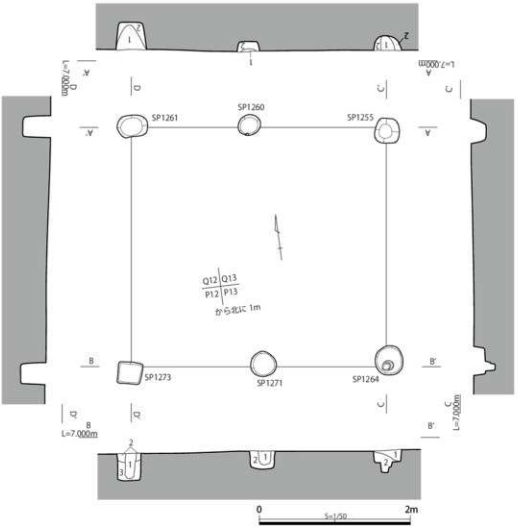
SP1162
1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(~Φ1cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)10%含む。

SP1172
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~Φ3cm)20%含む。

SP1183
1 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ2cm)20%含む。
2 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~Φ3cm)40%含む。

SP1184
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ3cm)30%含む、炭化物片(~Φ0.5cm)にくわずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰色粘質土ブロック(~Φ1cm)20%含む。

第 19 図　SA1005 平断面図（1/50）



SP1255
1　灰オリーブ色 5Y　5/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、茶色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。

SP1260
1　灰オリーブ色 5Y　5/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、茶色粘質土ブロック(～0.1cm)20%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄粘質土ブロック(～0.5cm)10%含む。鉄分が若干含む。

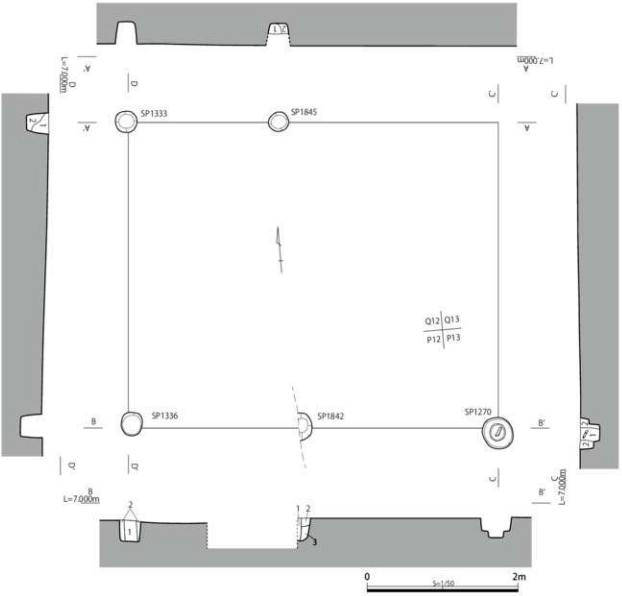
SP1261
1　灰オリーブ色 5Y　6/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、茶褐色粘質土ブロック(～0.3cm)30%含む。炭化物片(～0.1cm)にくわずかに含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、茶褐色粘質土ブロック(～0.2cm)10%含む。

SP1264
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.3cm)20%含む。炭化物片(～0.5cm)にくわずかに含む。マンガン粒状にくわずかに含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.3cm)20%含む。鉄分・マンガン細粒がわずかに含む。

SP1271
1　灰オリーブ色 5Y　5/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、茶色粘質土ブロック(～0.5cm)30%含む。炭化物片(～0.5cm)がごくに含む。マンガン小塊状がごくに含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、暗茶褐色粘質土ブロック(～0.2cm)10%含む。マンガン黒い小塊状がごくに含む。

SP1273
1　黄灰色　2.5Y 4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ褐色粘質土ブロック(～0.1cm)30%含む。
2　黄灰色　2.5Y 5/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ褐色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。炭化物片(～0.5cm)にくわずかに含む。
3　黄灰色　2.5Y 4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色～オリーブ褐色粘質土ブロック(～0.2cm)40%含む。

第 20 図　SA1006 平断面図（1/50）



SP1270
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む、炭化物片(～Φ2cm)少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色～灰オリーブ粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。

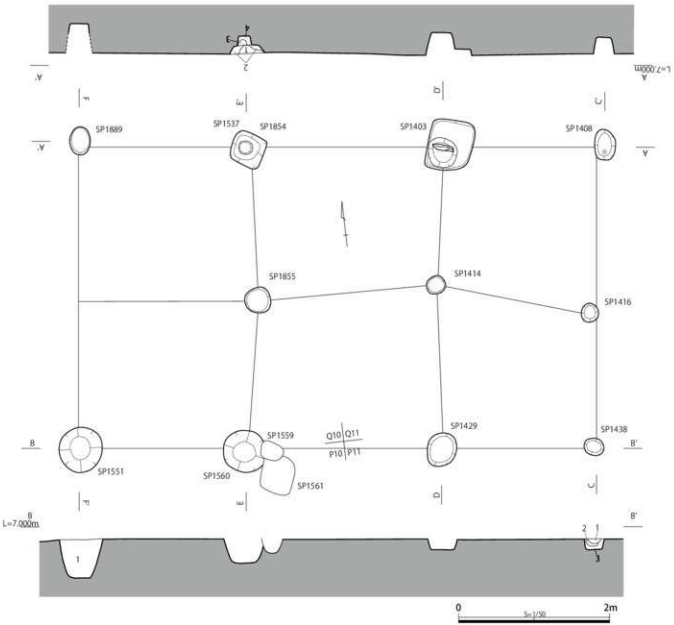
SP1333
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む、炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)やや多く含む。
2 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色～灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ1cm)40%含む。

SP1336
1 灰オリーブ色 5Y　6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む、炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)少量含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰白色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む、炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)わずかに含む。

SP1842
1 灰白色　2.5Y 7/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む。
3 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む

SP1845
1 灰色　5Y　6/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む、炭化物片(～Φ1cm)わずかに含む。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む、マンガン小粒状わずかに含む。

第 21 図　SA1007 平断面図（1/50）



第 22 図　SA1008 平断面図①（1/50）

土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 4 層堆積している。

遺物出土状況　SP1403 の 2 層中より板状の礫が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

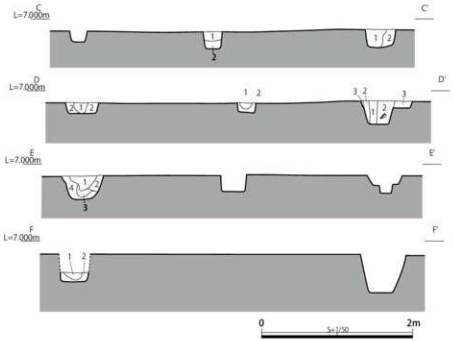
時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。

9 号掘立柱建物（SA1009）（第 24 図）

検出地点　P － 10・11・Q － 10・11 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（3.50m）×桁行 3 間（3.50m）、床面積が 12.3㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 37°－ E である。

土層　暗灰黄色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。



SP1403
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、周辺地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形・粒径粒～粒径～42cm中中多く含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形小～粒径～2cmごくわずかに含む。
3　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形小～粒径3cmごくわずかに含む。粒径粒～4cmごくわずかに含む。

SP1408
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、灰オリーブ粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形小～粒径小多量含む。粒土ブロック小～粒径小多量含む。粒径中粒以第土塊。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。

SP1414
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。
2　黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。マンガン粒炭少量含む。

SP1416
1　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径炭地盤土ブロック小～粒径20mm含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。

SP1429
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形・粒径粒～粒径～60.5cm含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。

SP1438
1　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、オリーブ粒地盤土ブロック小～粒径1cm含む。断面形・粒径粒～粒径小多量含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、断面形・粒径粒小含む。
3　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径10mm含む。断面形小～粒径小含む。粒径粒～粒径小含む。

SP1537・SP1854
1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、にぶい黄色粒土ブロック小～粒径20mm含む。褐炭色粒土ブロック小～粒径中多く含む。断面形小～粒径小含む。粒径粒～粒径少量含む。
2　黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。褐炭色粒土ブロック小～粒径20mm含む。粒径粒～粒径多中中多く含む。
3　にぶい黄褐色 10YR 4/3 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。粒径粒小～粒径小含む。粒径粒～粒径小多量含む。
4　オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、灰オリーブ粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形・粒径粒小～粒径小多量含む。

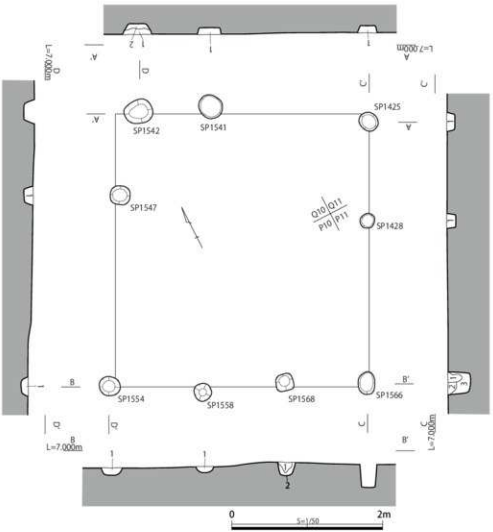
SP1551
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形小～粒径小ごくわずかに含む。

SP1560
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形・粒径粒小～粒径中中多く含む。
2　オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径小～粒径粒炭粒土ブロック小～粒径20mm含む。粒径中～中粒炭小ごくわずかに含む。
3　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。粒径粒～粒径3cmごくわずかに含む。
4　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、粒径粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。断面形小～粒径小ごくわずかに含む。

SP1855
1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径20mm含む。

SP1889
1　黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、炭粒地盤土ブロック小～粒径10mm含む。断面形小～粒径小少量含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ｼﾙﾄ中多量）、硬性中多量）、にぶい黄色粒土ブロック小～粒径20mm含む。

第 23 図　SA1008 平断面図②（1/50）



SP1425
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む。

SP1428
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む、炭化物片・焼土粒(～Φ0.5cm)わずかに含む。

SP1541
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1542
1 黒褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む、炭化物片(～Φ0.5cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。

SP1547
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。

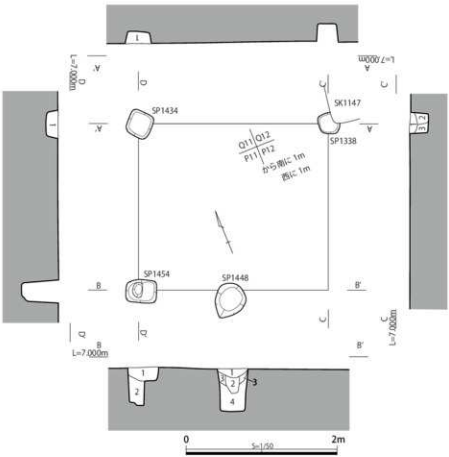
SP1554
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。

SP1558
1 黒灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む。

SP1566
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。
3 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1568
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む、炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ1cm)30%含む、炭化物片(～Φ1cm)やや多く含む。

第 24 図　SA1009 平断面図（1/50）



SP1338
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、炭黒色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。微砂細混ぜわずかに含む。
2 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、炭白色～炭黒色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄炭色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1434
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、炭黒色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。

SP1448
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。炭化物片(～φ2cm)少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。炭化物片(～φ1cm)少量含む。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、炭化物片(～φ1cm)少量含む。
4 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粗性強い、暗炭黒粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。

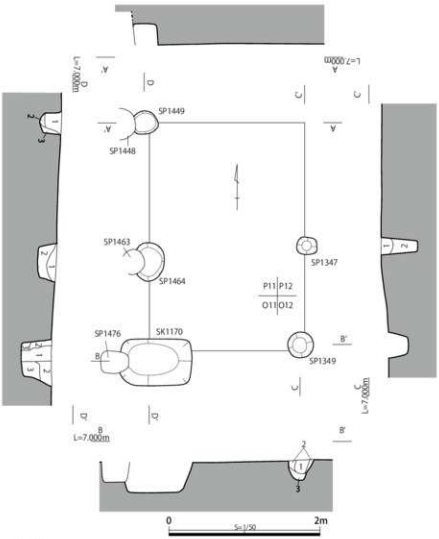
SP1454
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや弱い、粗性やや強い、炭黒色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。
2 黒褐色　2.5Y 3/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、暗炭黒色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

第 25 図　SA1010 平断面図（1/50）

遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　古代～中世の年代が想定される。

10 号掘立柱建物（SA1010）（第 25 図）

検出地点　P－11・Q－11 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（2.25m）×桁行 2 間（2.50m）、床面積が 5.6㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N－33°－W である。
土層　暗灰黄色、黒褐色などの粘質土が 1 ～ 4 層堆積している。



SP1347
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ10cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。

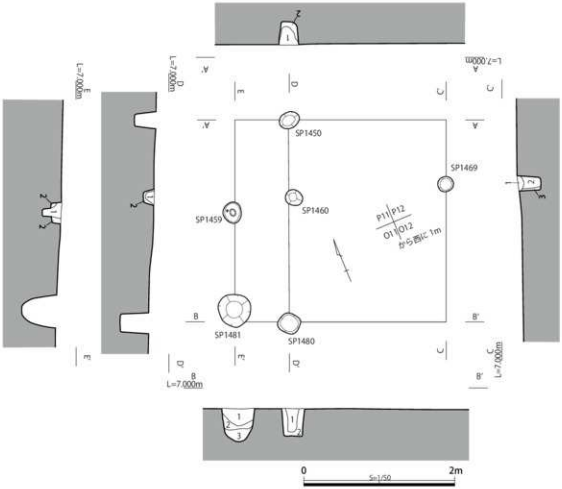
SP1349
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。鉄分薄い中程状わずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。鉄分薄い小塊状わずかに含む。
3 暗オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。鉄分中程状わずかに含む。

SP1449
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む、炭化物片(～Φ1cm)こくわずかに含む。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。
3 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1464
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。
2 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。

SK1170
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)少量含む。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。マンガン薄い中程状少量含む。

第 26 図　SA1011 平断面図（1/50）



SP1450

1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。炭化物片(～Φ0.5cm)こくわずかに含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1459

1　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。
2　黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。

SP1460

1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。炭化物片・焼土粒(～Φ1cm)やや多く含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。炭化物・植物質が少量含む。

SP1469

1　オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ色粘質土ブロック(～Φ1cm)40%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
3　オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む。

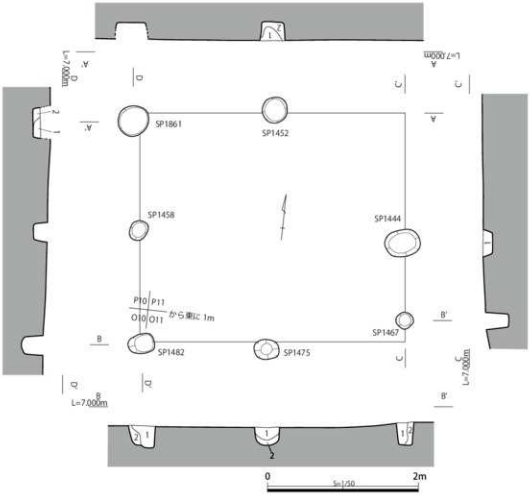
SP1480

1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。炭化物片(～Φ1cm)少量含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む。炭化物片(～Φ0.5cm)こくわずかに含む。

SP1481

1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。炭化物片(～Φ0.5cm)わずかに含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。炭化物片(～Φ1cm)やや多く含む。
3　黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)50%含む。

第 27 図　SA1012 平断面図（1/50）



SP1444
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(~05cm)40%含む。

SP1452
1 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(~02cm)30%含む。炭化物片(~01cm)ごくわずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(~02cm)20%含む。鉄分斑状少量含む。

SP1458
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック(~05cm)30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(~02cm)20%含む。

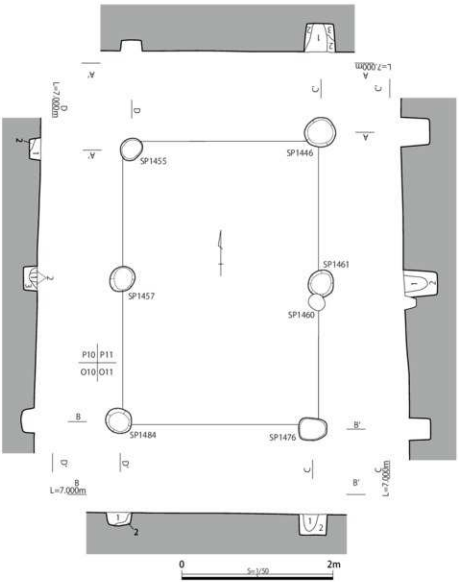
SP1467
1 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~05cm)50%含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(~02cm)20%含む。

SP1475
1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック(~07cm)50%含む。
2 オリーブ黒色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(~02cm)20%含む。鉄分薄い斑状少量含む。

SP1482
1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(~05cm)30%含む。炭化物片(~00.5cm)わずかに含む。鉄分・マンガン細斑わずかに含む。
2 オリーブ黒色 5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒炭色粘質土ブロック(~010cm)40%含む。

SP1861
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック(~03cm)20%含む。鉄分薄い斑状わずかに含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、鉄分薄い斑状少量含む。

第 28 図　SA1013 平断面図（1/50）



SP1446
1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。
2 暗オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭白色～炭色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色～にぶい黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。

SP1455
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭白色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む、炭化物片(～φ0.5cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

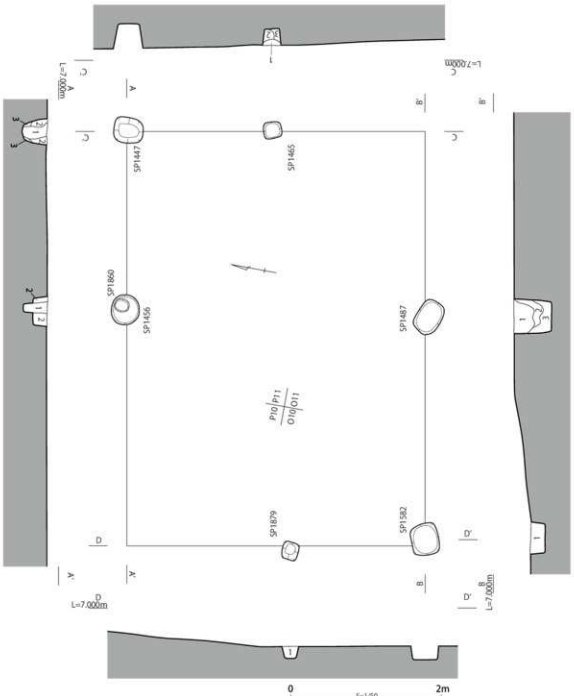
SP1457
1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、鉄分・マンガン薄い縞～小斑状やや多く含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む、マンガン薄い小斑状わずかに含む。
3 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む、マンガン薄い小斑状少量含む。

SP1461
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。

SP1476
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む、炭化物片(～φ2cm)少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む、炭化物片(～φ2cm)わずかに含む。

SP1484
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
2 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。

第 29 図　SA1014 平断面図（1/50）



第 30 図　SA1015 平断面図①（1/50）

SP1447
1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック1～0.2cm20%含む、炭化物片・炭土粒～0.1cm少量含む。
2　黄灰色　2.5Y　4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～0.1cm10%含む、炭化物片～0.1cm多く含む。
3　黄灰色　2.5Y　4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック～0.2cm20%含む。

SP1456・SP1860
1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック～0.5cm10%含む。
2　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック～0.5cm30%含む、炭化小粒状わずかに含む。

SP1465
1　灰オリーブ色 5Y　5/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック～0.1cm10%含む。
2　灰色　5Y　5/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～0.1cm10%含む。
3　灰オリーブ色 5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～0.1cm60%ずつに含む。

SP1487
1　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック～0.5cm10%含む、炭化物片～0.1cmわずかに含む、マンガン黒い小粒状わずかに含む。
2　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック～0.2cm20%含む、炭化小粒状わずかに含む。
3　黄灰色　2.5Y　4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック～0.3cm30%含む、炭化小粒状わずかに含む。

SP1582
1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック～0.10cm40%含む。

SP1879
1　にぶい黄色 2.5Y　6/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック～0.2cm10%含む。

第 31 図　SA1015 平断面図②

遺物出土状況　SP1448、SP1454 などから土器や金属製品が出土している。
出土遺物　個別遺構にて記述。
時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

11 号掘立柱建物（SA1011）（第 26 図）

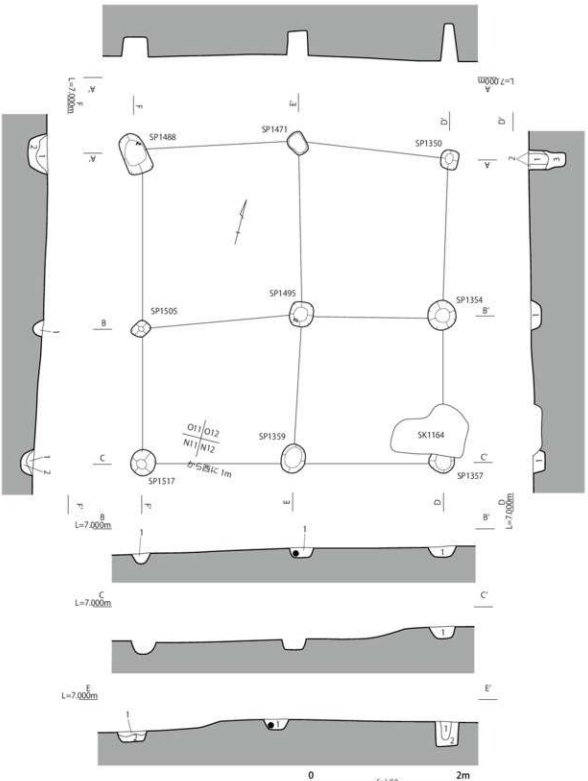
検出地点　O－11・12・P－11・12 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（2.05m）×桁行 2 間（3.00m）、床面積が 6.2㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はほぼ真北（N－0°－W）である。
土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　SK1170 の上面及び 1 層下部より土器が出土している。
出土遺物　個別遺構にて記述。
時期　出土した遺物から平安時代頃の年代が想定される。

12 号掘立柱建物（SA1012）（第 27 図）

検出地点　O－11・P－11・12 グリッド。
形態・規模　梁間 2 間（2.80m）×桁行 2 間（2.70m）、床面積が 7.6㎡の側柱建物で、西側に庇が付いている。建物の主軸方向は N－33°－E である。
土層　暗灰黄色、黄灰色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　SP1460 の底部付近から土器と金属製品が出土している。
出土遺物　個別遺構にて記述。
時期　出土した遺物から平安時代頃の年代が想定される。

13 号掘立柱建物（SA1013）（第 28 図）

検出地点　O－11・P－11 グリッド。
形態・規模　梁間 2 間（3.10m）×桁行 2 間（3.50m）、床面積が 10.9㎡の側柱建物である。建物の主



第 32 図　SA1016 平断面図①（1/50）

SP1350
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、青磁色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、青磁色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。
3 灰色　　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

SP1354
1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

SP1357
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1359
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。鉄分薄い中斑状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。鉄分薄い中斑状わずかに含む。

SP1471
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～φ5cm)40%含む。

SP1488
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～φ7cm)30%含む。鉄分・マンガン薄いが～中斑状やや多く含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む。鉄分薄いが斑状やや多く含む。

SP1505
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。

SP1517
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。鉄分小斑状少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。鉄分薄～小斑状わずかに含む。

第 33 図　SA1016 平断面図②

軸方向は N － 84°－ E である。

土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 2 層堆積している。

遺物出土状況　SP1482 の底部付近から土器が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　出土した遺物から平安時代頃の年代が想定される。

14 号掘立柱建物（SA1014）（第 29 図）

検出地点　O － 11・P － 11 グリッド。

形態・規模　梁間 1 間（2.65m）×桁行 2 間（3.75m）、床面積が 9.9㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はほぼ真北（N － 0°－ W）である。

土層　灰オリーブ色、暗灰黄色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　SP1476 から土器や金属製品が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

15 号掘立柱建物（SA1015）（第 30・31 図）

検出地点　O － 10・11・P － 10・11 グリッド。

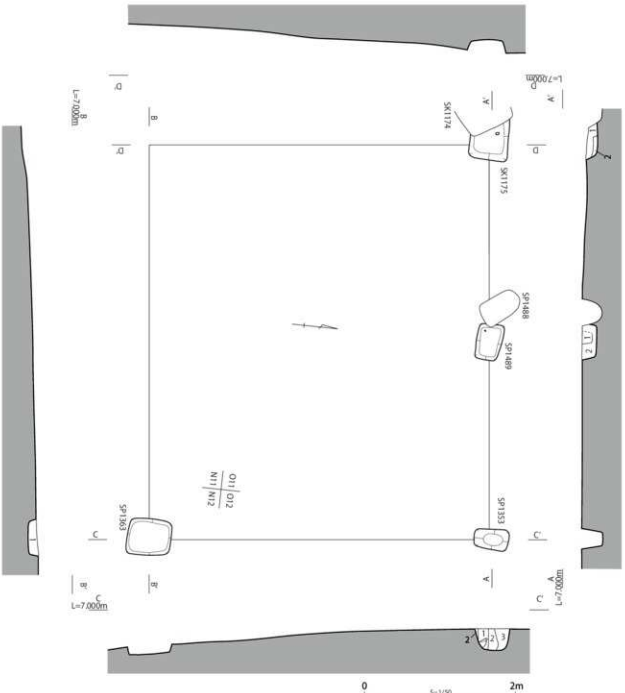
形態・規模　梁間 2 間（4.00m）×桁行 2 間（5.50m）、床面積が 22.0㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 80°－ E である。

土層　暗灰黄色、黄灰色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　SP1447 から柱材とみられる炭化材が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。



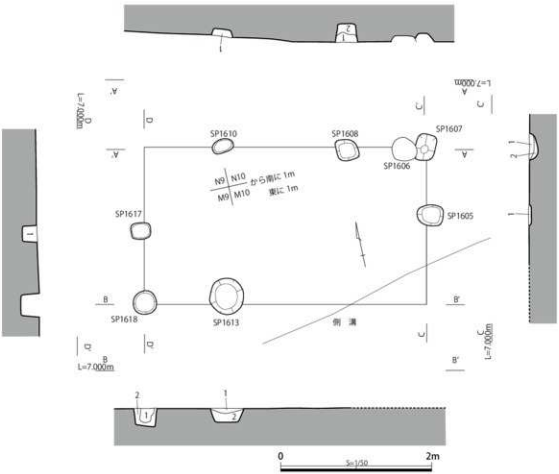
SP1353
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)10%含む、炭化粒が(～Φ1cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。
3 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。

SP1363
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む、マンガン薄い小斑状やや多く含む。

SP1489
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ5cm)20%含む。上面に砂礫層。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ5cm)40%含む。鉄分薄い縞状沙量含む。

SK1175
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

第 34 図　SA1017 平断面図（1/50）



SP1605
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。マンガン細～小現状少量含む。

SP1607
1 黄灰色 2.5Y 6/1 粘質土 しまりやや弱い、粘性やや強い、暗炭黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。マンガン小塊状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。マンガン細現状やや多く含む。

SP1608
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗炭黄色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。

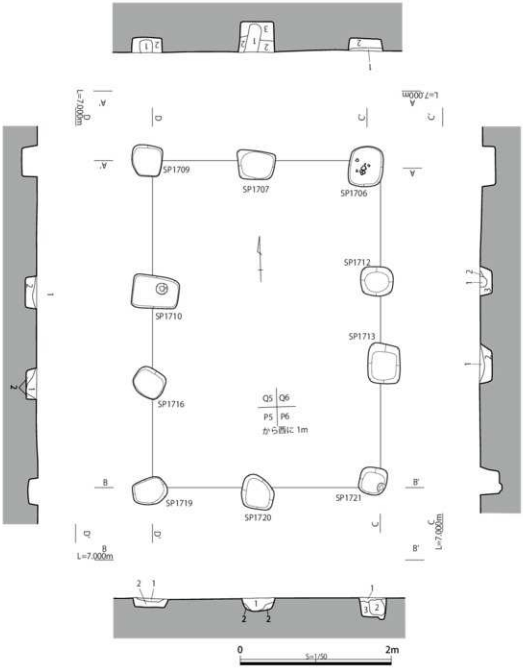
SP1610
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄炭色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。鉄分薄い小現状わずかに含む。

SP1613
1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄炭色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。

SP1617
1 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗炭黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む。

SP1618
1 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄炭色粘質土ブロック(～Φ5cm)40%含む。マンガン小現状こくわずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。

第 35 図　SA1018 平断面図（1/50）



第 36 図　SA1019 平断面図①（1/50）

SP1706
1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。

SP1707
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む。

SP1709
1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む、炭化物片(～φ1cm)わずかに含む。

SP1710
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、マンガン小礫状少量含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む、マンガン小礫状少量含む。

SP1712
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。

SP1713
1 灰オリーブ色 5Y　6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。

SP1716
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
2 オリーブ黄色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。

SP1719
1 灰オリーブ色 7.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～φ2cm)40%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。

SP1720
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。

SP1721
1 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、炭化物片(～φ0.3cm)わずかに含む。
2 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。

第 37 図　SA1019 平断面図②

16 号掘立柱建物（SA1016）（第 32・33 図）

検出地点　N － 11・O － 11・12 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（4.15m）×桁行 2 間（4.25m）、床面積が 17.6㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N － 15°－ W である。

土層　灰オリーブ色、暗灰黄色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　SP1495 から土器の小片が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　古代～中世の年代が想定される。

17 号掘立柱建物（SA1017）（第 34 図）

検出地点　N － 11・12・O － 11・12 グリッド。

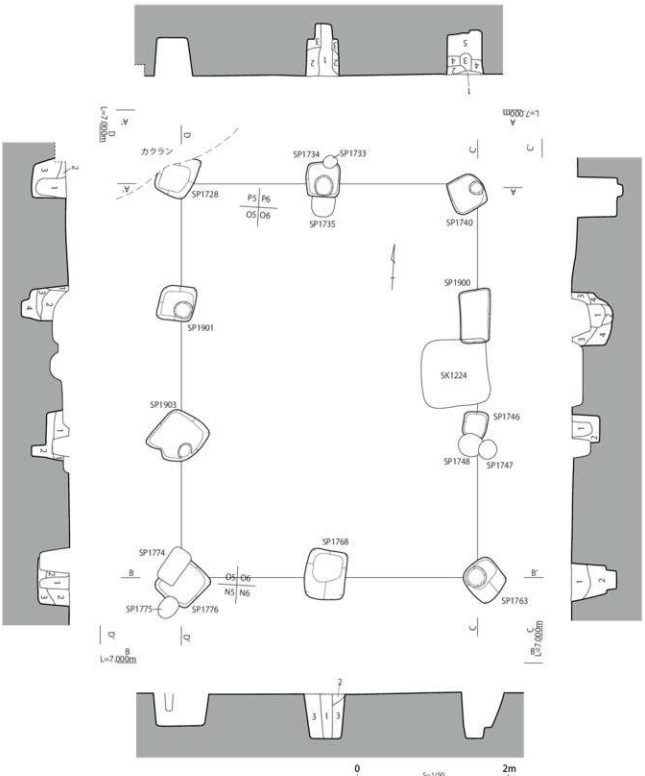
形態・規模　梁間 1 間（4.50m）×桁行 2 間（5.25m）、床面積が 23.6㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 84°－ E である。

土層　暗灰黄色、黄灰色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　古代～中世の年代が想定される。



第 38 図　SA1020 平断面図①（1/50）

SP1728
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む、炭化物片(～φ0.5cm)こくわずかに含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。

SP1734
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ5cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
3 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。

SP1740
1 暗オリーブ色 2.5GY 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、明オリーブ灰色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。
2 オリーブ色 2.5GY 6/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、明オリーブ灰色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
3 暗オリーブ色 2.5GY 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。
4 灰オリーブ色 7.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む、炭化物片(～φ1cm)こくわずかに含む。
5 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。

SP1746
1 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。

SP1763
1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む、炭化物片・焼土粒(～φ0.5cm)わずかに含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/1 粘質土 しまり強い、粘性強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。

SP1768
1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。

SP1776
1 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む、炭化物片・焼土粒(～φ0.5cm)わずかに含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

SP1901
1 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。
4 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色～灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。

SP1903
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む、鉄分薄い小斑状少量含む。
2 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ5cm)40%含む。

第 39 図　SA1020 平断面図②

18 号掘立柱建物（SA1018）（第 35 図）

検出地点　M － 10・N － 10 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（2.10m）×桁行 3 間（3.75m）、床面積が 7.9㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 78° － W である。

土層　暗灰黄色、黄灰色などの粘質土が 1 ～ 2 層堆積している。

遺物出土状況　SP1617 から土器が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　建物の主軸方向や出土した遺物などから古代以降の年代が想定される。

19 号掘立柱建物（SA1019）（第 36・37 図）

検出地点　P － 5・6・Q － 5・6 グリッド。

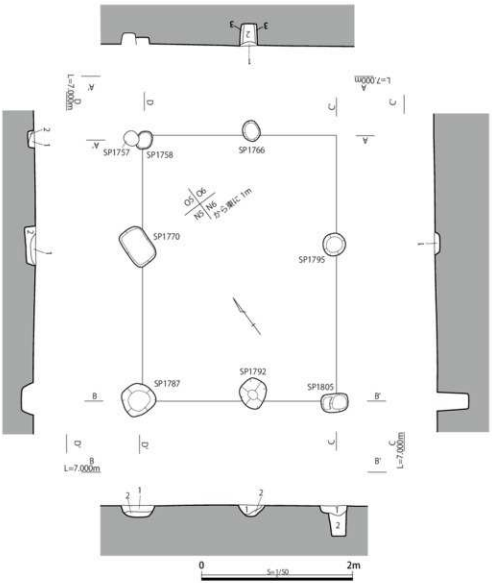
形態・規模　梁間 2 間（3.05m）×桁行 3 間（4.35m）、床面積が 13.3㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 2° － W とほぼ北を指向している。

土層　灰オリーブ色、暗灰黄色などの粘質土が 2 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。



SP1758
1　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、暗灰黄色砂質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色砂質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1766
1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色砂質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色砂質土ブロック(～Φ2cm)40%含む。
3　灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色砂質土ブロック(～Φ3cm)40%含む。

SP1770
1　黒褐色　2.5Y 3/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色砂質土ブロック(～Φ4cm)30%含む。
2　黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色砂質土ブロック(～Φ2cm)40%含む。

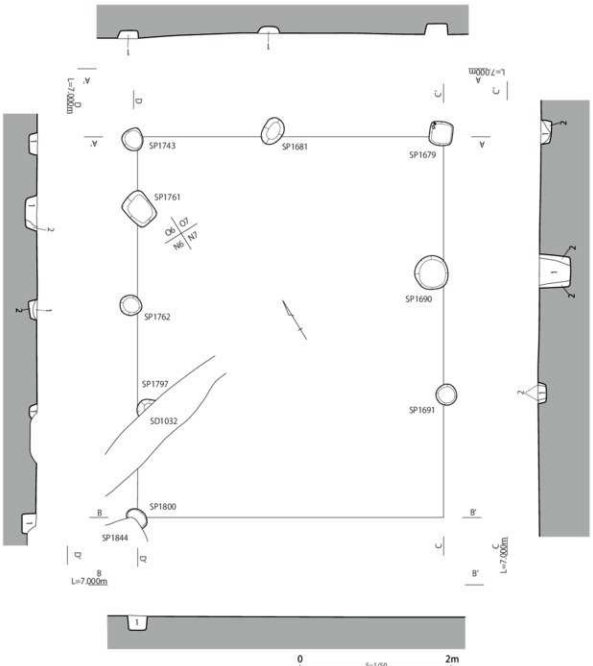
SP1787
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色砂質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。炭化物片(～Φ1cm)にくわずかに含む。
2　オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色砂質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1792
1　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色砂質土ブロック(～Φ2cm)10%含む。鉄分薄い小斑状わずかに含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色砂質土ブロック(～Φ1cm)20%含む。

SP1795
1　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、マンガン斑状少量含む。

SP1805
1　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色砂質土ブロック(～Φ3cm)10%含む。
2　黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色砂質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。炭化物片(～Φ0.5cm)にくわずかに含む。

第40図　SA1021 平断面図（1/50）



第 41 図　SA1022 平断面図①（1/50）

SP1679
1 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色～オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。
2 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

SP1681
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。

SP1690
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。炭化物(～φ0.5cm)こくわずかに含む。マンガン小粒状わずかに含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)10%含む。マンガン小粒状少量含む。

SP1691
1 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

SP1743
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む。炭化物(～φ1cm)わずかに含む。焼土粒(～φ0.5cm)こくわずかに含む。

SP1761
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。炭分小粒状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ5cm)20%含む。炭分小粒状わずかに含む。

SP1762
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
2 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。

SP1797
1 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。焼土粒(～φ1cm)わずかに含む。

SP1800
1 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、マンガン黒い小粒状わずかに含む。

第 42 図　SA1022 平断面図②

20 号掘立柱建物（SA1020）（第 38・39 図）

検出地点　N－5・6・O－5・6・P－5・6 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（4.00m）×桁行 3 間（5.25m）、床面積が 21.0㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N－4°－W とほぼ北を指向している。

土層　暗灰黄色、黒褐色などの粘質土が 2 ～ 5 層堆積している。

遺物出土状況　SP1728、SP1763、SP1776 から土器が出土している。

出土遺物　個別遺構にて記述。

時期　建物の主軸方向や出土した遺物などから平安時代頃の年代が想定される。

21 号掘立柱建物（SA1021）（第 40 図）

検出地点　N－5・6・O－6 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（2.55m）×桁行 2 間（3.50m）、床面積が 8.9㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N－47°－E である。

土層　暗灰黄色、黒褐色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

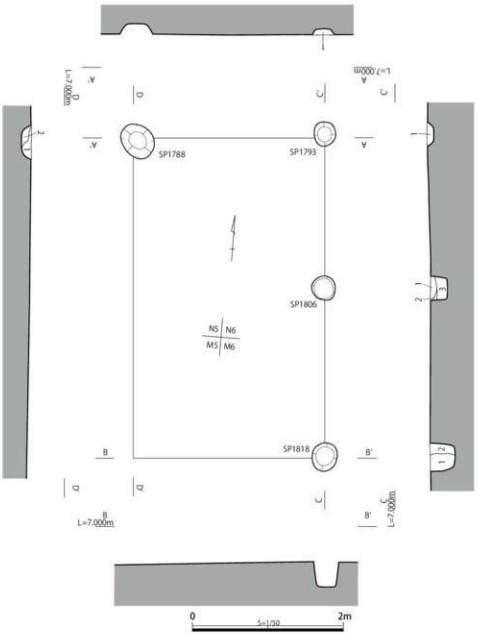
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　古代～中世の年代が想定される。

22 号掘立柱建物（SA1022）（第 41・42 図）

検出地点　N－6・7・O－6・7 グリッド。

形態・規模　梁間 2 間（4.00m）×桁行 4 間（5.00m）、床面積が 20.0㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N－40°－E である。



SP1788

1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む、鉄分薄い中斑状こくわずかに含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、鉄分薄い中斑状こくわずかに含む。

SP1793

1　黒褐色　2.5Y　3/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む、マンガン細斑状わずかに含む。

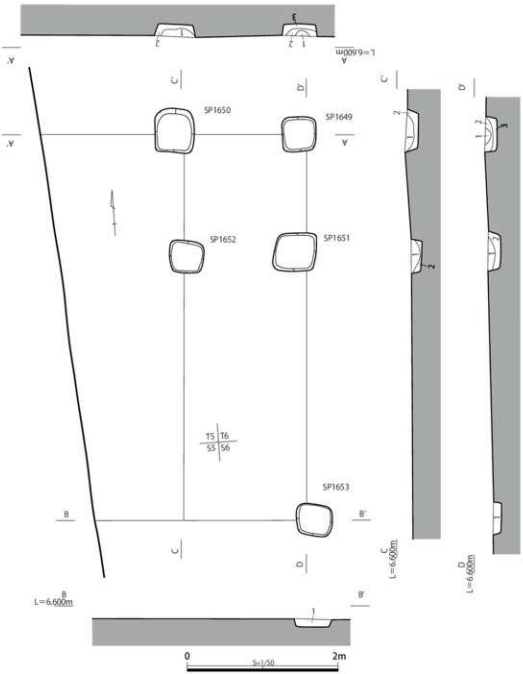
SP1806

1　灰オリーブ色 5Y　5/3　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ3cm)40%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む。
3　暗灰黄色 2.5Y　5/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ5cm)40%含む。

SP1818

1　オリーブ黒色 5Y　3/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
2　灰色　5Y　4/1　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

第 43 図　SA1023 平断面図（1/50）



SP1649
1 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～Φ5cm)40%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ5cm)30%含む。

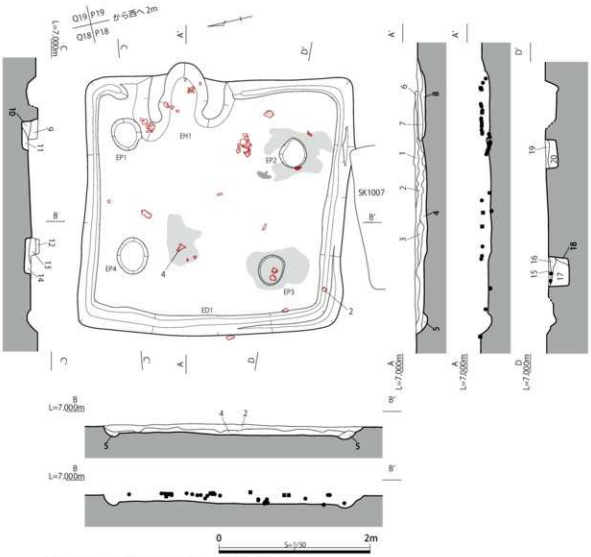
SP1650
1 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む。

SP1651
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)10%含む。

SP1652
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ5cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。

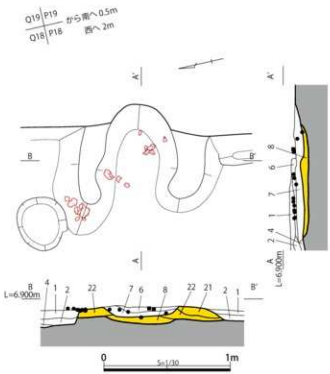
SP1653
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ2cm)20%含む。

第 44 図　SA1024 平断面図（1/50）

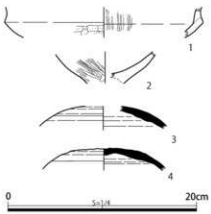


1 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
2 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、オリーブ黒色粘質土ブロック小・0.2m以下30%含む。
3 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、炭オリーブ色粘質土ブロック小・0.1m以下5%含む。炭化物片小・0.1mが少量含む。焼土ブロック小・0.5mにやや多く含む。
4 灰色 5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下5%含む。
5 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
6 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物や微い、焼土ブロック小・0.1m以下20%含む。炭化物小・0.1m以下少量含む。
7 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物微い、焼土ブロック小・0.1m以下20%含む。炭化物小・0.1m以下少量含む。
8 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。炭化物片・焼土粒小・0.1m以下がごく少量含む。
9 炭オリーブ色 5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.5m以下40%含む。
10 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、オリーブ黒色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
11 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.5cm以下5%含む。
12 炭オリーブ色 5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、植物微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
13 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下10%含む。
14 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
15 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。焼土粒小・0.1m以下20%含む。
16 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、焼土粒小・0.1m以下がごく少量含む。炭色粘質土ブロック小・0.1m以下30%含む。
17 オリーブ黒色 5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。
18 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.5cm以下10%含む。
19 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物微い、焼土粒小・0.5cm以下40%含む。炭化物片小・0.5cmが少量含む。
20 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下5%含む。焼土粒小・0.1mにごくわずかに含む。
21 炭オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、植物微粒炭粘質土ブロック小・0.2m以下30%含む。焼土ブロック小・0.5mにごくわずかに含む。
22 炭オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、植物やや微い、炭色粘質土ブロック小・0.1m以下20%含む。炭化物小・0.5mにごくわずかに含む。

第 45 図　SB1001 平断面図（1/50）



第 46 図　SB1001 竈（EH1）平断面図（1/30）



第 47 図　SB1001 出土遺物

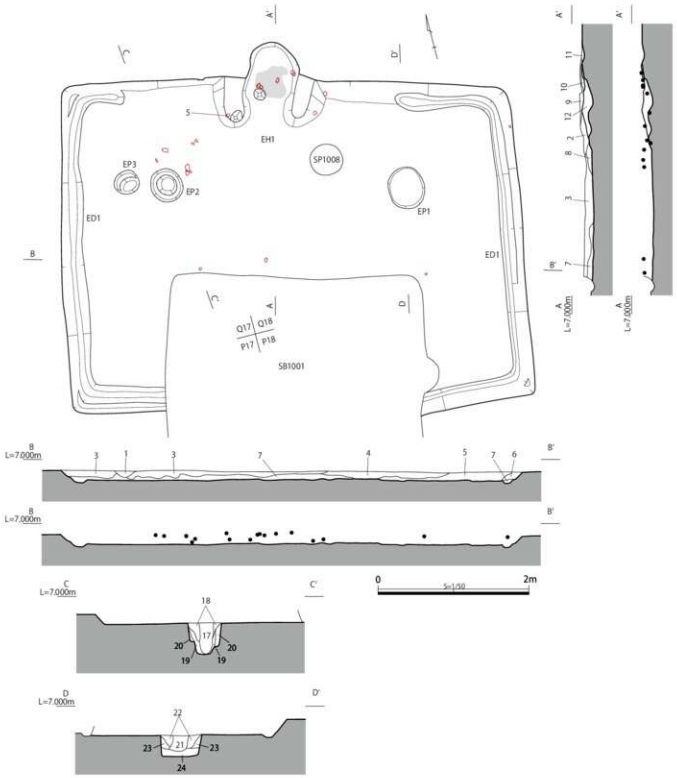
土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 2 層堆積している。
遺物出土状況　SP1690 から土器が出土している。
出土遺物　個別遺構にて記述。
時期　出土した遺物から古代以降の年代が想定される。

23 号掘立柱建物（SA1023）（第 43 図）

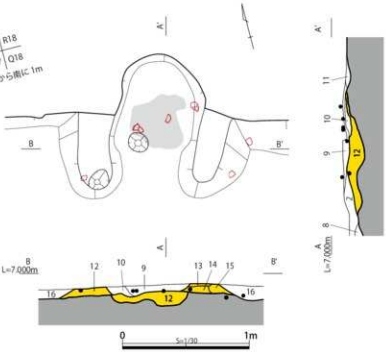
検出地点　M － 5・6・N － 5・6 グリッド。
形態・規模　梁間 1 間（2.55m）×桁行 2 間（4.25m）、床面積が 10.8㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N － 5°－ W である。
土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。

24 号掘立柱建物（SA1024）（第 44 図）

検出地点　S － 5・6・T － 5・6 グリッド。
形態・規模　梁間 2 間以上×桁行 3 間（5.15m）を測る。建物の主軸方向は N － 4°－ E でほぼ北を指向する。
土層　暗灰黄色、灰オリーブ色などの粘質土が 1 ～ 3 層堆積している。
遺物出土状況　図化可能なものはない。



第 48 図　SB1002 平断面図（1/50）



第 50 図　SB1002 出土遺物

1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。
2 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
3 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
4 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い～強い、炭化物少～多0.5cmにくわずかに含む、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
5 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭化物少～多1cmにくわずかに含む、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。
6 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。
7 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
8 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
9 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、焼土粒～2cm中多く含む、炭化物少～多0.5cmにくわずかに含む。
10 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、炭色微量土ブロック少～多0.5cm以内含む。
11 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。オリーブ黒色微量土ブロック少～多1cm以内含む。炭化物少～多0.5cmにくわずかに含む。
12 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
13 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多2cm以内含む。焼土ブロック少～多1cm以内含む。
14 灰色　5Y　6/1 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭オリーブ色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
15 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
16 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
17 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭オリーブ色微量土ブロック少～多2cm以内含む。
18 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、オリーブ黒色微量土ブロック少～多1cm以内含む。炭化物少～多0.5cmにくわずかに含む。
19 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、オリーブ黒色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
20 暗オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色～オリーブ黒色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
21 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。炭オリーブ色微量土ブロック少～多3cm以内含む。
22 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、炭色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
23 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、オリーブ黒色微量土ブロック少～多1cm以内含む。
24 暗オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性中や強い、オリーブ黒色微量土ブロック少～多2cm以内含む。

第 49 図　SB1002 竈（EH1）平断面図（1/30）

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　堀片の形状や建物の主軸方向などから古代以降の年代が想定される。

③竪穴住居（SB）

1 号竪穴住居（SB1001）（第 45 ～ 47 図）

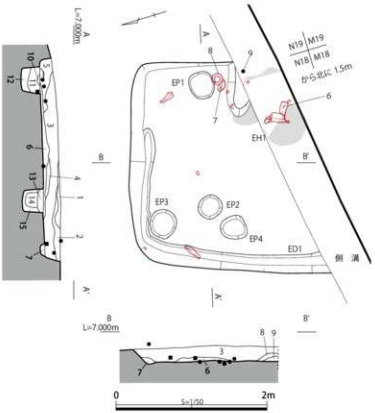
検出地点　P － 17・18・Q － 17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は一辺が約 3.40m の方形を呈し、深さは 0.20m を測る。断面の形状は皿形で、壁際に周壁溝（ED1）が 1 条巡らされている。柱穴（EP）は 4 基検出されている。

土層　土質はいずれも粘質土で、竈内を含めると 8 層に分層されており、1･2･5 ～ 8 層が灰オリーブ色、3 層が黄灰色、4 層が灰色となっている。

竈　東壁のやや北寄りに 1 基検出されている。袖部と燃焼部が検出されており、煙道部はわずかに壁から外に張り出している。焚口幅は 0.77m、燃焼部延長は 0.63m、煙道部長は 0.16m を測る。

遺物出土状況　EP2・EP3 周辺及び床面中央やや西寄りで焼土、炭化物が分布している。遺物は第 4 層



1 灰色　5Y　6/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック～φ1cm10%含む、炭化物片・焼土粒～φ0.5cmにくわずかに含む。
2 灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ1cm30%含む。
3 灰色　5Y　4/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ5cm40%含む。
4 灰色　10Y　6/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック～φ1cm10%含む。
5 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック～φ3cm40%含む。
6 オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ1cm30%含む、炭色粘質土ブロック～φ3cm30%含む。
7 灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック～φ1cm10%含む。
8 灰色　7.5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ3cm40%含む、炭化物片～φ0.5cmわずかに含む。
9 灰色　10Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ1cm20%含む、炭化物片～φ0.5cmにくわずかに含む。
10 灰白色　5Y　7/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、粘砂質～中礫まわずかに含む、炭色粘質土ブロック～φ1cm20%含む。
11 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性強い～砂質まわずかに含む、炭色粘質土ブロック～φ1cm10%含む。
12 炭オリーブ色 5Y　4/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック～φ1cm20%含む、砂分細粒まわずかに含む。
13 炭オリーブ色 5Y　6/2 粘質土　しまりやや強い、粘性強い～砂質まわずかに含む、炭色粘質土ブロック～φ1cm30%含む。
14 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック～φ1cm20%含む。
15 炭オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック～φ3cm20%含む。
16 灰色　7.5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性強い、炭化物片～φ2cm多く含む、焼土粒～φ1cm中やや多く含む。
17 灰色　7.5Y　6/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ2cm10%含む、炭化物片～φ0.5cmにくわずかに含む。
18 灰色　10Y　6/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック～φ1cm20%含む。
19 灰色　10Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ1cm10%含む。
20 オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ1cm20%含む。
21 オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック～φ2cm30%含む。
22 炭オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック～φ1cm10%含む。

第 51 図　SB1003 平断面図・遺物出土状況図（1/50）

上面から第 2 層下部を中心に出土している。

出土遺物　1・2 は土師器の高杯である。3・4 は須恵器の蓋である。

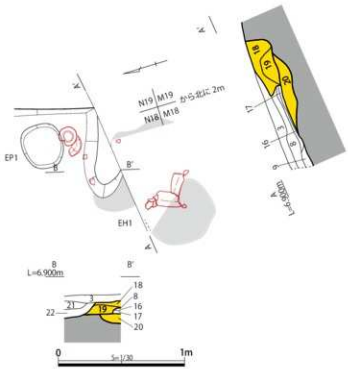
時期　出土した遺物から 7 世紀以降の年代が想定される。

2 号竪穴住居（SB1002）（第 48 ～ 50 図）

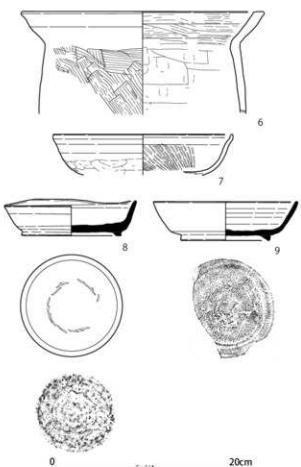
検出地点　P － 17・18・Q － 17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 6.10m、短軸が 4.43m、深さは 0.23m を測る。南半部を SB1001 に切られている。断面の形状は皿形で、壁際に周壁溝（ED1）が 1 条巡らされている。柱穴（EP）は 3 基検出されている。

土層　土質はいずれも粘質土で、竈内を含めると 12 層に分層されており、1・2・10 層が灰色、3 ～ 9・11・12 層が灰オリーブ色となっている。



第 52 図　SB1003 竈（EH1）平断面図（1/30）



第 53 図　SB1003 出土遺物

第 54 図　SB1004 平断面図①（1/50）

1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒粘質土ブロック・0.1cm以下含む。砂少量、植物炭わずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.5cm以下含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.5cm以下含む。黄褐色粘質土ブロック・0.5cm以下含む。マンガン小塊散わずかに含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまり強い、粘性やや強い、にぶい黄褐色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・0.5cm以下わずかに含む。焼土粒・0.1cmにくわずかに含む。
5 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。炭化物・0.5cm以下少し含む。
6 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。砂少量含む。
7 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
8 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。焼土粒・0.1cmにくわずかに含む。
9 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い・黒土粒・0.1cm多く含む。
10 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色・黒褐色粘質土ブロック・0.5cm以下含む。
11 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・焼土粒・0.1cmにわずかに含む。
12 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
13 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭白色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・0.1cmにわずかに含む。
14 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
15 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
16 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
17 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。マンガン薄い小塊わずかに含む。
18 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
19 灰黄色　2.5Y 7/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭白色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
20 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物大・焼土粒・0.5cm以下わずかに含む。土器片・0.5cm含む。
21 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・0.1cmやや多く含む。
22 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
23 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
24 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。砂少量・植物炭わずかに含む。
25 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・0.5cmこくわずかに含む。砂少量・植物炭やや多く含む。
26 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。砂少量・植物炭少量含む。
27 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。砂少量・植物炭わずかに含む。
28 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
29 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物・焼土粒・0.1cmわずかに含む。
30 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
31 にぶい褐色 7.5YR 5/4 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭白粘質土ブロック・0.5cm以下含む。
32 にぶい褐色 7.5YR 5/4 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ黒粘質土ブロック・0.1cm以下含む。
33 明赤褐色 5YR　5/6 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ黒粘質土ブロック・0.1cm以下含む。炭化物大・0.1cmわずかに含む。
34 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色粘質土ブロック・0.3cm以下含む。
35 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、明褐色粘質土粒・0.2cm以下含む。炭白粘質土ブロック・0.2cm多く含む。炭黒色粘質土・炭・0.1cm以下含む。
36 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
37 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.3cm以下含む。
38 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。砂少量・植物炭少量含む。
39 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、砂少量・植物炭わずかに含む。
40 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック・0.3cm以下含む。マンガン薄い小塊わずかに含む。
41 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色・オリーブ黒色粘質土ブロック・0.2cm以下含む。
42 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック・0.3cm以下含む。

第 55 図　SB1004 平断面図②

竈　北壁のほぼ中央付近に 1 基検出されている。袖部、燃焼部と煙道部が検出されており、焚口幅は 0.77m、燃焼部延長は 0.68m、煙道部長は 0.44m を測る。

遺物出土状況　竈周辺および EP2・EP3 付近において土器が出土している。

出土遺物　5 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から 7 世紀第 1 四半期頃（TK209 併行）の年代が想定される。

3 号竪穴住居（SB1003）（第 51 ～ 53 図）

検出地点　N － 17 ～ 19 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形とみられるが、南側は調査区外に延びている。検出されている部分の一辺は 2.72m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は皿形で、北壁および西壁沿いに周壁溝（ED1）が 1 条巡らされている。柱穴（EP）は 4 基検出されている。

土層　土質はいずれも粘質土で、9 層に分層されており、1 ～ 4・7 ～ 9 層が灰色、5・6 層が灰オリーブ色となっている。

竈　東壁のほぼ中央付近に 1 基検出されているが、南半部は調査区の側溝に切られており、北側の袖部と燃焼部が検出されている。

遺物出土状況　竈の周辺を中心として土器が出土している。

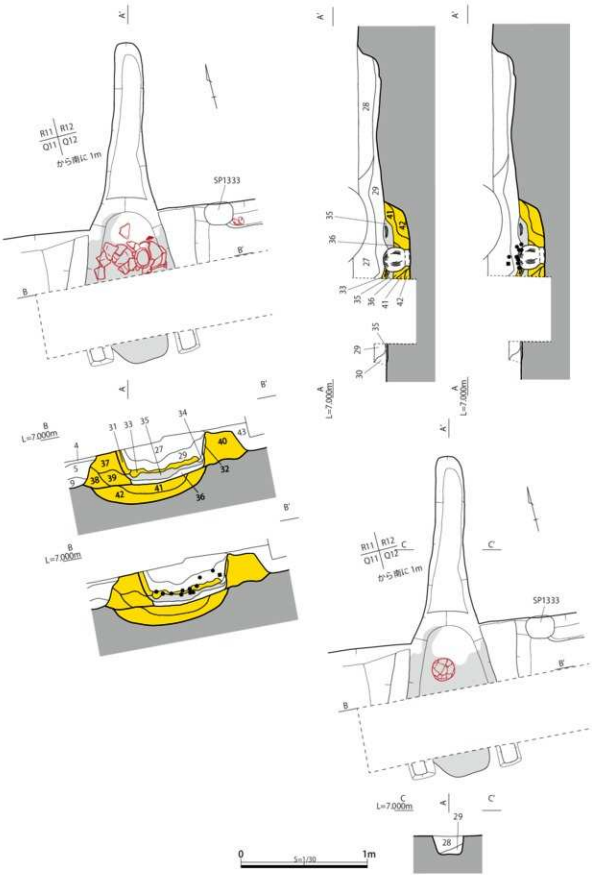
出土遺物　6 は土師器の甕である。7 は土師器の杯である。8・9 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から 8 世紀前半頃の年代が想定される。

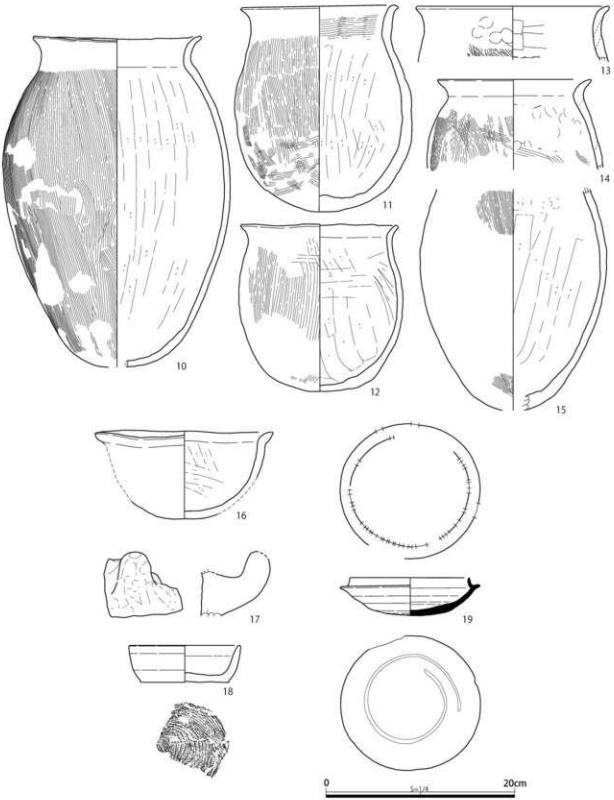
4 号竪穴住居（SB1004）（第 54 ～ 57 図）

検出地点　P － 11・12・Q － 11・12 グリッド。

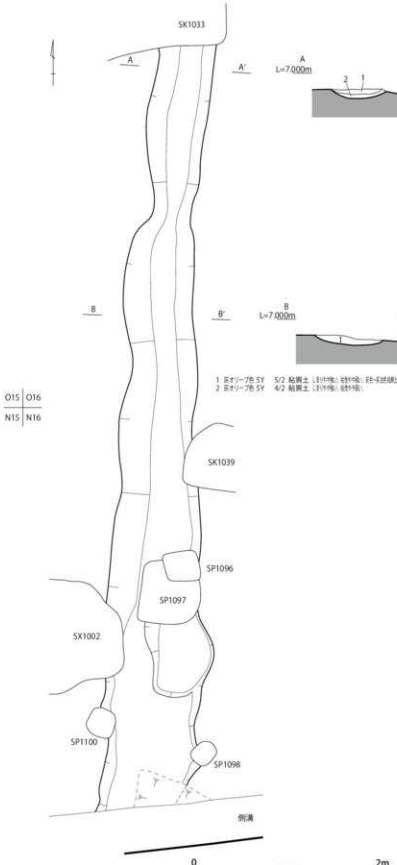
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸は 4.37m、短軸は 3.92m、深さは 0.40m を測る。断面の



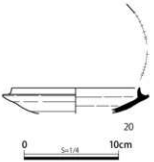
第 56 図　SB1004 竈（EH1）平断面図（1/30）



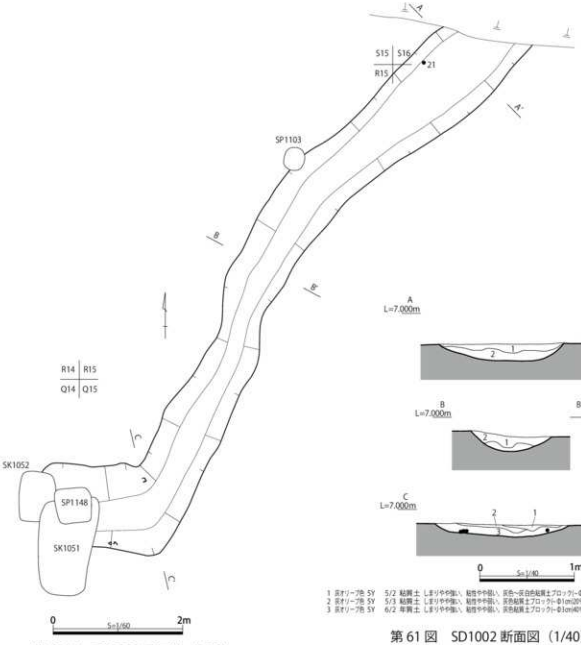
第 57 図　SB1004 出土遺物



第 58 図　SD1001 平断面図（1/40）

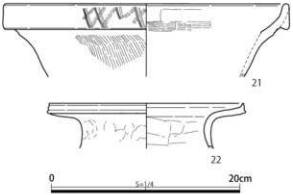


第 59 図　SD1001 出土遺物

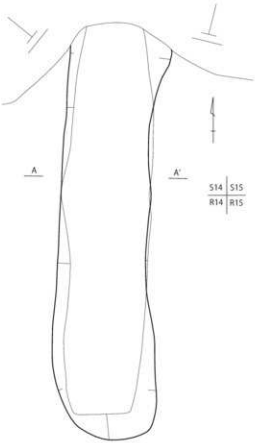


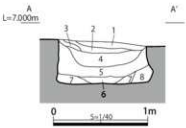
第 60 図　SD1002 平面図（1/60）

第 61 図　SD1002 断面図（1/40）



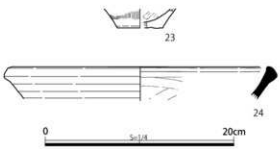
第 62 図　SD1002 出土遺物





1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、地色強い、炭微少シルト・ブロック少・φ1cm20%含む。
2 オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、炭色少シルト・ブロック少・φ1cm20%含む。
3 オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、炭色シルト・ブロック少・φ1cm40%含む。
4 にぶい黄色　2.5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、地色強い、黄褐色粘質土ブロック少・φ3cm20%含む。
5 黄褐色　2.5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック少・φ3cm40%含む。
6 黄灰色　2.5Y　6/1 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック少・φ1cm20%含む。
7 暗灰黄色　2.5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、灰黄色粘質土ブロック少・φ1cm20%含む。
8 黄褐色　2.5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、地色やや強い、灰黄色粘質土ブロック少・φ3cm20%含む。

第 63 図　SD1003 平断面図（1/40）



第 64 図　SD1003 出土遺物

形状は皿形で、北壁際と西壁、南壁沿いに周壁溝（ED1～3）が巡らされている。床面からは土坑（EK）1 基と柱穴（EP）7 基がそれぞれ検出されている。

土層　土質はいずれも粘質土で、10 層に分層されており、1･8 層が黄灰色、2 層が灰オリーブ色、3～7･9 層が暗灰黄色、10 層が黒褐色となっている。

竈　北壁の中央付近から 1 基検出されている。袖部、燃焼部と煙道部が検出されているが、袖部および焚き口に近い部分が一部攪乱により失われている。焚口幅は 0.52m、燃焼部延長は 0.71m、煙道部長は 1.41m を測る。

遺物出土状況　竈燃焼部内、EK1 内、EP5 内および床面北半部を中心に土器が出土している。

出土遺物　10～15 は土師器の甕である。16 は土師器の鉢である。17 は土師器の甑の把手である。18 は土師器の杯である。中世の遺物で切り合った小穴 SP からの混入とみられる。19 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から 7 世紀第 1 四半期頃（TK209 併行）の年代が想定される。

④溝（SD）

1 号溝（SD1001）（第 58・59 図）

検出地点　N－16・O－16 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 8.14m、最大幅は 1.05m、最大深度は 0.15m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で灰オリーブ色の 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

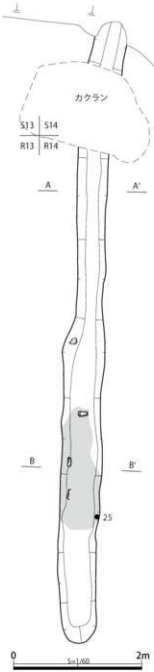
出土遺物　20 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から 7 世紀第 1 四半期（TK209 併行）以降の年代が想定される。

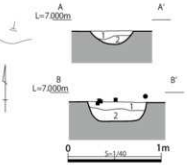
2 号溝（SD1002）（第 60～62 図）

検出地点　Q－14～16・R－14～16・S－14～16 グリッド。

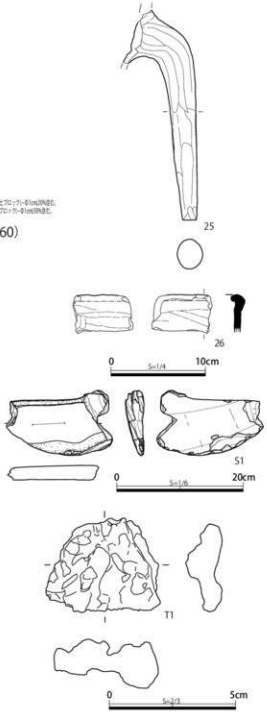
形態・規模　南西から北東方向に延びる溝で、延長距離は 11.17m、最大幅は 1.41m、最大深度は 0.21m



第 65 図　SD1004 平面図（1/60）

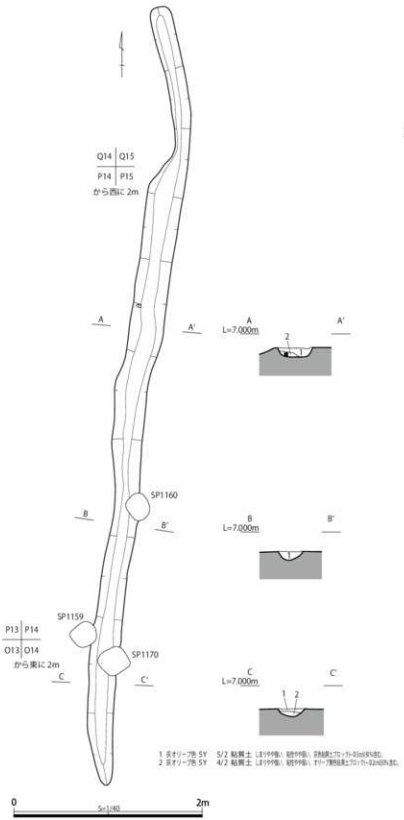


第 66 図　SD1004 断面図（1/60）

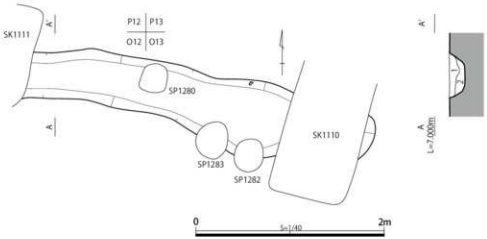


第 67 図　SD1004 出土遺物

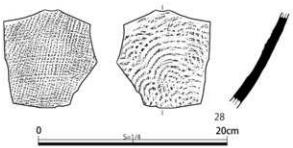
第 69 図　SD1005 出土遺物



第 68 図　SD1005 平断面図（1/40）



第 70 図　SD1011 平断面図（1/40）



第 71 図　SD1011 出土遺物

を測る。断面の形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で灰オリーブ色の 3 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　21、22 は弥生土器の壺である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

3 号溝（SD1003）（第 63・64 図）

検出地点　R － 14・S － 14 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 4.25m、最大幅は 1.08m、最大深度は 0.15m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 8 層に分層されており、1 層が灰色、2・3 層が灰オリーブ色、4 層がにぶい黄色、5・8 層が黄褐色、6 層が黄灰色、7 層が暗灰黄色となっている。

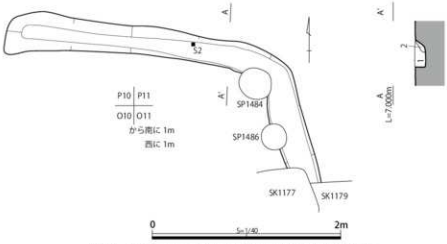
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　23 は弥生土器の甕の底部である。24 は東播系須恵器のこね鉢である。

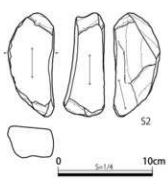
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

4 号溝（SD1004）（第 65 ～ 67 図）

検出地点　Q － 14・R － 14・S － 14 グリッド。



第 72 図　SD1015 平断面図（1/40）



第 73 図　SD1015 出土遺物

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 9.53m、最大幅は 0.65m、最大深度は 0.21m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　南半部を中心として焼土や炭化物が分布しており、その周辺から土器が出土している。

出土遺物　25 は土師器の羽釜の脚部である。26 は須恵器の製塩土器である。S1 は緑泥片岩の砥石である。T1 は鉄滓である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

5 号溝（SD1005）（第 68・69 図）

検出地点　O－14・P－14・Q－14 グリッド。

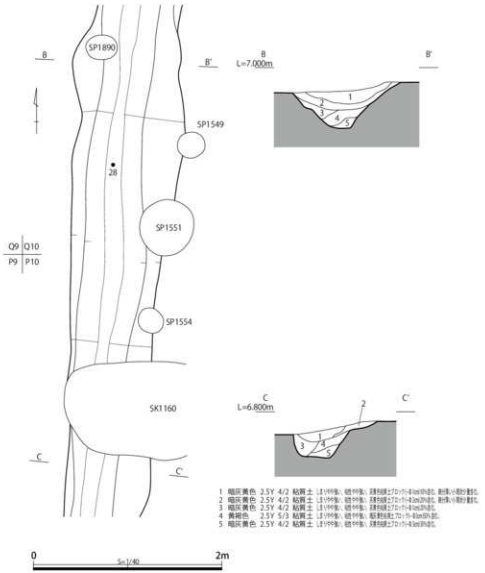
形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 8.42m、最大幅は 0.37m、最大深度は 0.10m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で灰オリーブ色の 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　27 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。



第 74 図　SD1016 平断面図①（1/40）

11 号溝（SD1011）（第 70・71 図）

検出地点　O－12・13 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 3.66m、最大幅は 0.83m、最大深度は 0.19m を測る。断面の形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で暗灰黄色の 2 層に分層される。

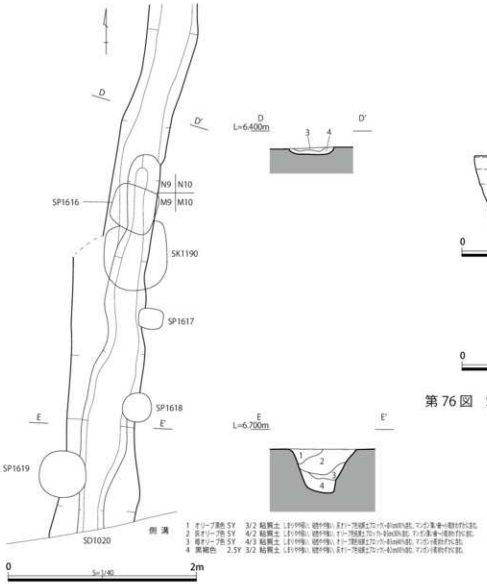
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　28 は須恵器の甕である。

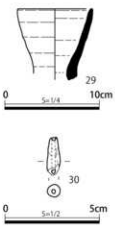
時期　出土した遺物から古墳時代以降の年代が想定される。

15 号溝（SD1015）（第 72・73 図）

検出地点　O－10・11 グリッド。



第 75 図　SD1016 平断面図②（1/40）



第 76 図　SD1016 出土遺物

形態・規模　逆 L 字状に延びる溝で、延長距離は 4.10m、最大幅は 0.43m、最大深度は 0.11m を測る。断面の形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　平面の屈曲部付近より石器が出土している。

出土遺物　S2 は凝灰岩の砥石である。

時期　年代は特定できない。

16 号溝（SD1016）（第 74 ～ 76 図）

検出地点　M － 9・10・N － 9・10・O － 9・10・P － 9・10・Q － 9・10・R － 9・10・S － 9・10 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 32.99m、最大幅は 1.28m、最大深度は 0.47m を測る。

断面の形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で5層に分層されており、1～3・5層が暗灰黄色、4層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　平面中央部付近から須恵器が出土している。

出土遺物　29は須恵器の横瓶である。30は管状の土錘である。

時期　出土した遺物から古代以降の年代が想定される。

23号溝（SD1023）（第77～81図）

検出地点　M－7・8・N－7・8・O－7・8・P－7・8・Q－7・8・R－7・8・S－7・8・T－7・8グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は38.82m、最大幅は4.75m、最大深度は0.91mを測る。断面の形状は二段形や不整形である。

土層　北側のS8グリッド付近ではいずれも粘質土で8層に分層され、1・3・5層が灰オリーブ色、2・4層がオリーブ灰色、6層が暗灰黄色、7・8層が黄灰色となっており、調査区南壁付近では16層に分層され、1・3・9・11層が灰色、2・6層が灰黄色、4・7層が灰オリーブ色、5層が明オリーブ灰色、8・10・15・16層が黄灰色、12～14層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　東肩部付近を中心として土器や石器が出土している。

出土遺物　31～34は土師器の杯である。33の底部は回転糸切り、その他は回転ヘラ切りである。35・36は土師器の皿である。37～39は土師器のすり鉢である。40・41は土師器の甕である。42～45は土師器の鍋である。46～52は土師器の羽釜である。53は黒色土器の椀である。54～58は須恵器のこね鉢である。59は須恵器の甕である。60・61は瓦質土器の羽釜である。62は瓦質土器のすり鉢である。S4は結晶片岩の砥石、S5は結晶片岩の敲石である。S3・S6・S7は結晶片岩の分割礫である。T2は鏃、T3は用途不明の鉄器、T4は釘である。

時期　古墳～鎌倉時代の遺物が出土しており、鎌倉時代以降の年代が想定される。

24号溝（SD1024）（第82・83図）

検出地点　Q－4・5・6・7・8グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は20.67m、最大幅は2.30m、最大深度は0.41mを測る。断面の形状は二段形や不整形である。

土層　いずれも粘質土6層に分層されており、1～3・6層が灰オリーブ色、4・5層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

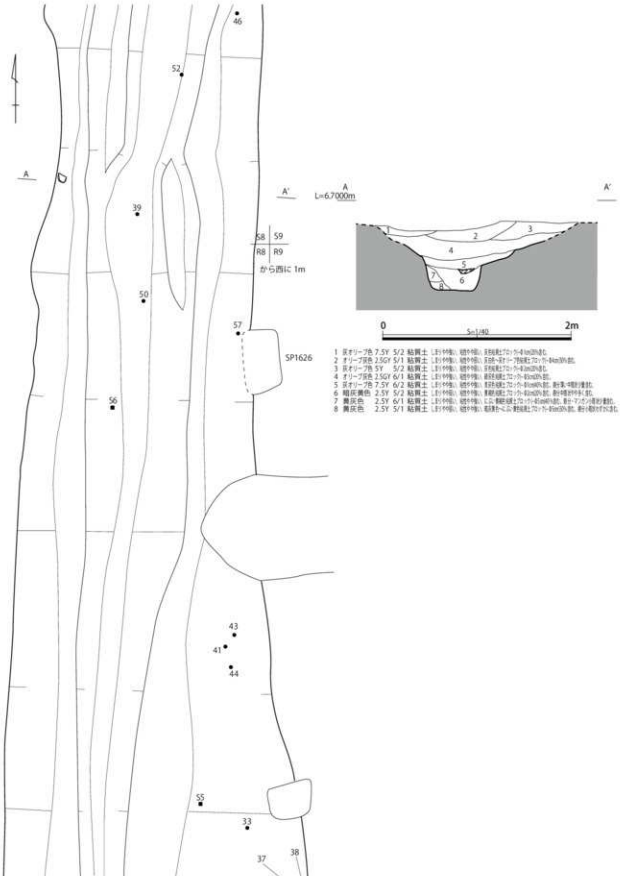
出土遺物　63は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。64は須恵器の杯である。65は管状の土錘である。T5は刀子、T6は釘である。

時期　古墳～鎌倉時代の遺物が出土しており、鎌倉時代以降の年代が想定される。

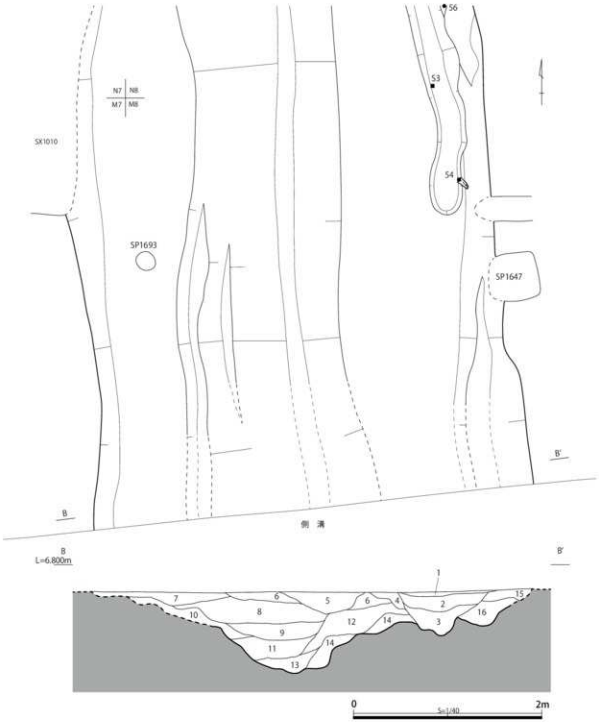
25号溝（SD1025）（第84・85図）

検出地点　R－8・9グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は2.83m、最大幅は1.14m、最大深度は0.43mを測る。

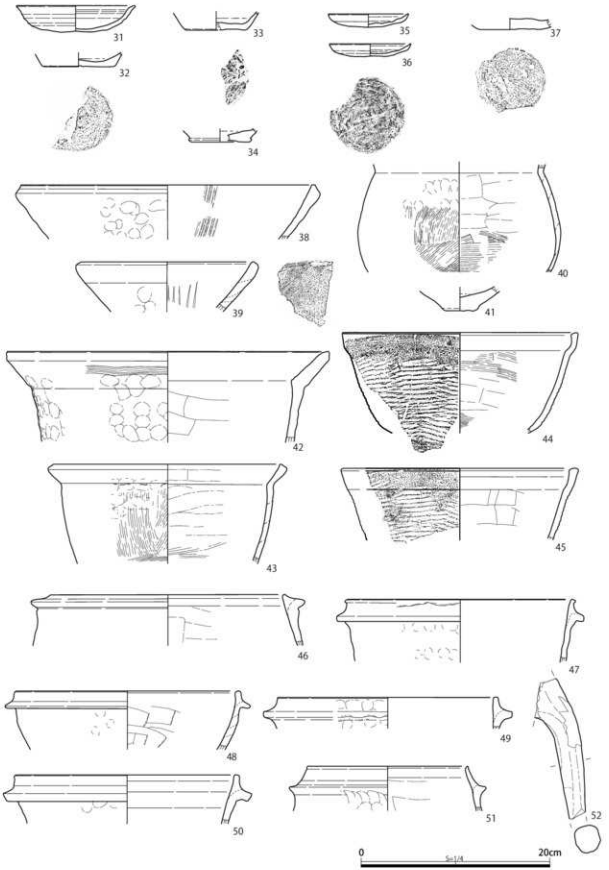


第 77 図　SD1023 平断面図①（1/40）

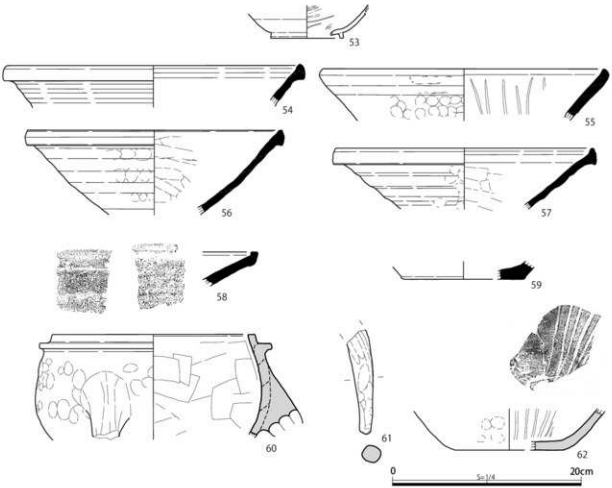


1 灰色　5Y　6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く集ー硬質付ガに製。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、高原熱鉄ブロック小・40cm以内含む、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く・マンガン小ー中粒状ガに製。
3 灰色　7.5Y 6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、マンガン小ー中粒状ガに製。
4 灰オリーブ色 5Y　6/2 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、マンガン集ー中粒状ごくガに製。
5 明オリーブ灰色 2.5GY 7/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック・40cm以内含む、多く集ー硬質。
6 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く集ー硬質付ガに製。
7 灰オリーブ色 5Y　6/2 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、多く集ー小ー中粒状ガに製。
8 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、鉄分小・60cmごくガにはる、多く集ー小ー中粒状層製。
9 灰色　5Y　6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、鉄分小・40cmごくガに製、多く集ー小ー中粒状ガに製。
10 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く・マンガン集ー小粒状ガに製。
11 灰色　7.5Y 6/1 粘質土（1Y/9明）、鉄明）、鉄明）、鉄明）鉄ブロック小・40cm以内含む、多く集ー小ー中粒状ガに製、鉄明）・鉄分60cmごくガに製。
12 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（1Y/9明）、鉄明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く小ー中粒状層製。
13 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（1Y/9明）、鉄明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く・マンガン集ー小ー中粒状層製。
14 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、多く・マンガン集ー小ー中粒状中ガに製。
15 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（1Y/9明）、鉄サ明）、五野頃鉄ブロック小・40cm以内含む、鉄分・60cmごくガにはる、多く・マンガン小粒状ガに製。
16 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（1Y/9明）、鉄明）、鉄明）鉄ブロック小・40cm以内含む、多く小粒状層製。

第 78 図　SD1023 平断面図②（1/40）



第 79 図　SD1023 出土遺物①



第 80 図　SD1023 出土遺物②

断面の形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 7 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 ～ 4 層が暗灰黄色、5・6 層が灰黄色、7 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　1・2 層付近を中心として土器が出土している。

出土遺物　66 は土師器の甕である。底部の切り離しは回転糸切りである。67 は土師質土器の羽釜の脚部である。68 は東播系須恵器のこね鉢である。69・70 は瓦質土器の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

32 号溝（SD1032）（第 86 図）

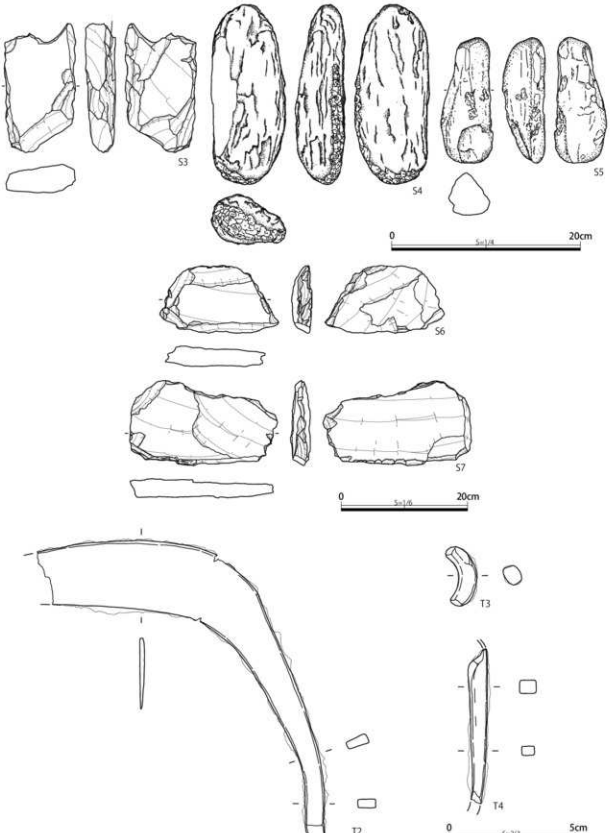
検出地点　N － 6・7・8 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 8.77m、最大幅は 0.49m、最大深度は 0.11m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で灰オリーブ色が 2 層に分層される。

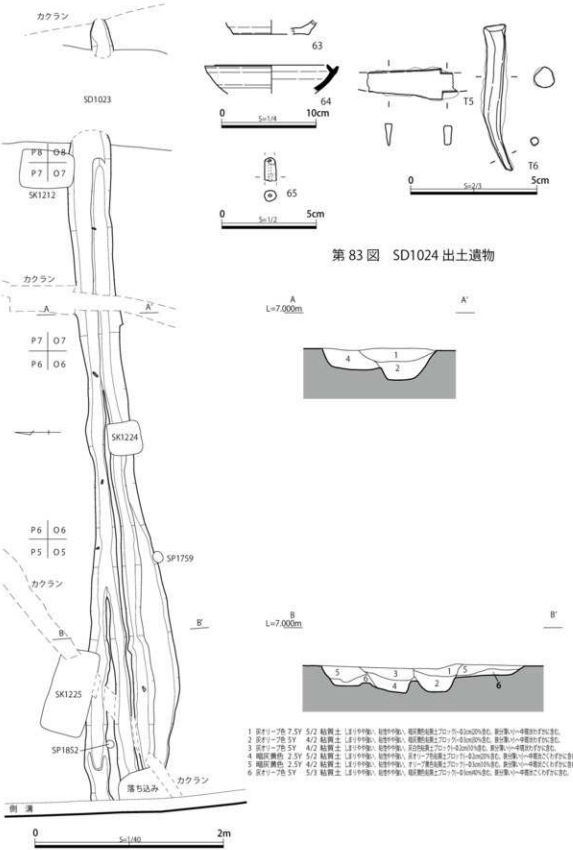
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

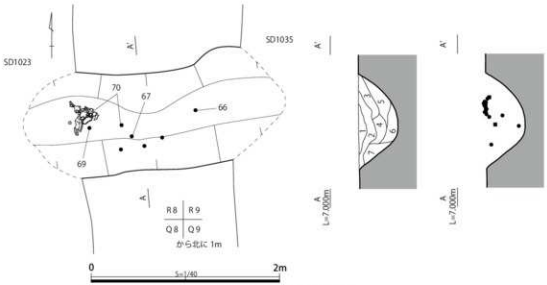


第 81 図　SD1023 出土遺物③

第 83 図　SD1024 出土遺物



第 82 図　SD1024 平断面図（1/40）



第 84 図　SD1025 平断面図（1/40）

時期　年代は特定できない。

34 号溝（SD1034）（第 87・88 図）

検出地点　P－8・9・Q－8・9 グリッド。

形態・規模　逆 L 字状に延びる溝で、延長距離は 6.74m、最大幅は 1.94m、最大深度は 0.48m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 7 層に分層されており、1・2・4・6 層が灰黄色、3 層が灰オリーブ色、5・7 層がにぶい黄色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面の上面から土器が出土している。

出土遺物　71 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。72 は東播系須恵器のこね鉢である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃（14 世紀前半）の年代が想定される。

35 号溝（SD1035）（第 89・90 図）

検出地点　Q－9・R－9・S－9 グリッド。

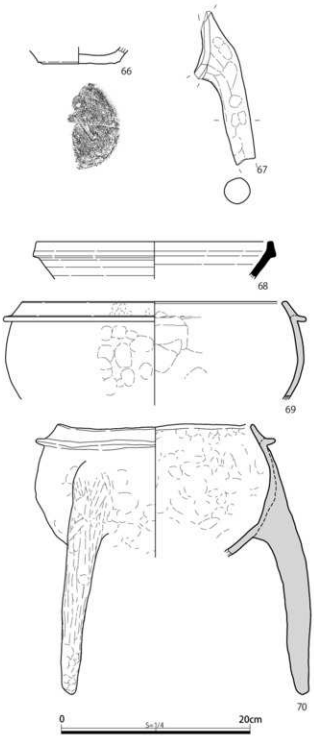
形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 13.21m、最大幅は 1.96m、最大深度は 0.46m を測る。断面の形状は不整形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層が灰黄色、2 ～ 4 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　73 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から中世以降の年代が想定される。



第 85 図　SD1025 出土遺物

⑤土坑（SK）

1 号土坑（SK1001）（第 91・92 図）

検出地点　Q － 18・19 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 2.25m、短軸が 0.90m。最大深度は 0.30m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 3 層に分層される。

遺物出土状況　北西隅、2 層中より土器が出土している。

出土遺物　74 は土師器の杯である。底部は手持ちヘラケズリが施されている。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

9 号土坑（SK1009）（第 93・94 図）

検出地点　O － 17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 1.60m、短軸が 0.81m、最大深度は 0.28m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が灰オリーブ色、3 層が灰色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　75 は黒色土器 B 類の椀の底部である。

時期　出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

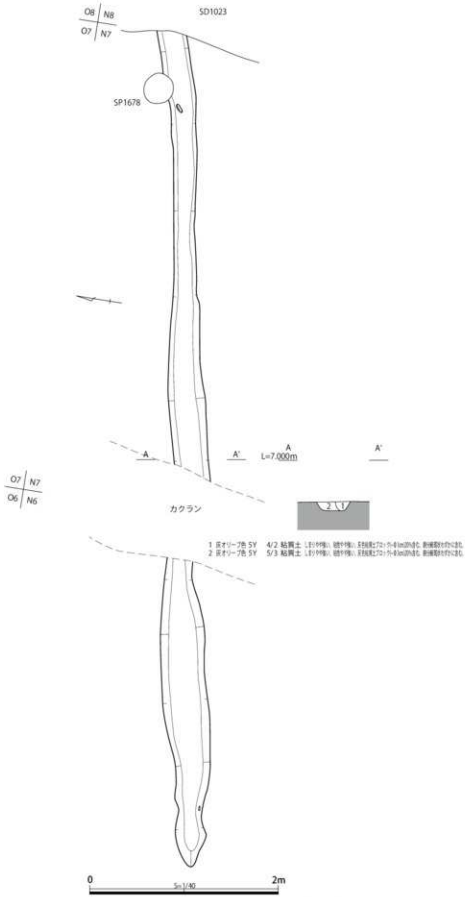
11 号土坑（SK1011）（第 95・96 図）

検出地点　N － 17 グリッド。

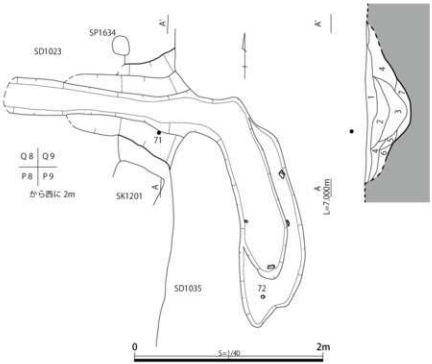
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 1.23m、短軸が 0.73m、最大深度は 0.21m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2・4 層が黄灰色、3 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　北西隅、1 層中より土器が出土

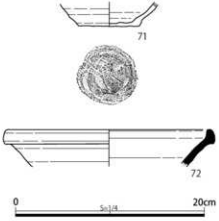


第 86 図　SD1032 平断面図（1/40）

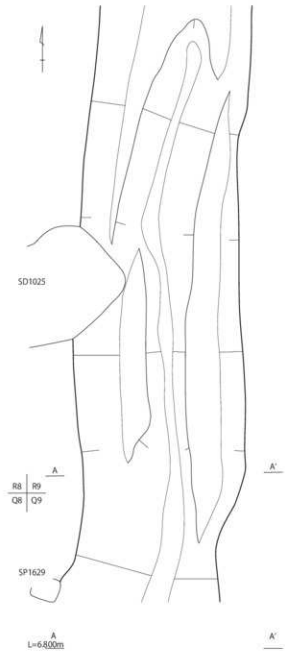


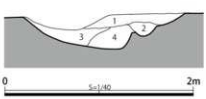
1 灰黄色　2.5Y 7/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細ブロック少・8.0mm10%含む、鉄サ・マンガン薄い帯状がうすにまれ。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、赤色粒細ブロック少・8.0mm20%含む、鉄サ・マンガン帯状が重なる。
3 黒オリーブ色 5Y　6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、赤褐色細ブロック少・8.0mm20%含む、鉄分少・中間が重なる。
4 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒オリーブ色粒細ブロック少・8.0mm40%含む、鉄サ・マンガンソート帯状が重なる。
5 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細ブロック少・8.0mm10%含む、鉄サ・マンガン中間がやや多く含む。
6 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒オリーブ色粒細ブロック少・8.0mm20%含む、鉄サ・マンガンソート帯状がくっきりまれ。
7 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細ブロック少・8.0mm10%含む、鉄分薄ソート帯状が重なる。

第 87 図　SD1034 平断面図（1/40）



第 88 図　SD1034 出土遺物





1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、粗深黒色粒土ブロック少・石10cm以下も含む、黄白・マンガン集い中固的ばらで入る。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粒土ブロック少・石10cm以下も含む、黄白・マンガン集い大固的に集まる。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粒土ブロック少・石20cm以下も含む、黄白・鉄分中多く含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粒土ブロック少・石20cm以下も含む、黄白集い固的にまばらに含む。

第 89 図　SD1035 平断面図（1/40）

第 90 図　SD1035 出土遺物

している。

出土遺物　76 は須恵器の横瓶の体部である。

時期　出土した遺物から古墳時代以降の年代が想定される。

23 号土坑（SK1023）（第 97・98 図）

検出地点　N − 16 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸が 1.16m、短軸が 0.81m、最大深度は 0.23m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層が灰色となっている。

遺物出土状況　底部付近から土器が出土している。

出土遺物　77・78 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から平安時代末〜鎌倉時代頃の年代が想定される。

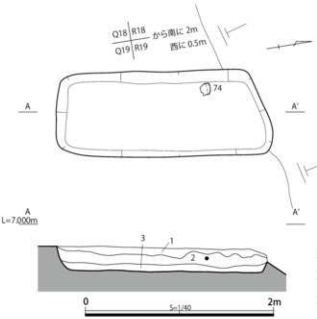
36 号土坑（SK1036）（第 99・100 図）

検出地点　O − 15・16 グリッド。

形態・規模　平面の形状は長方形を呈し、長軸が 2.59m、短軸が 0.74m、最大深度は 0.43m を測る。断面の形状は皿形である。

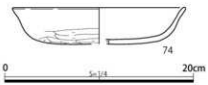
土層　いずれも粘質土で 8 層に分層されており、1 層が灰色、2・7 層がオリーブ黒色、3・4・6 層が灰オリーブ色、5・8 層が暗オリーブ色となっている。

遺物出土状況　東壁近くの遺構検出面の付近から

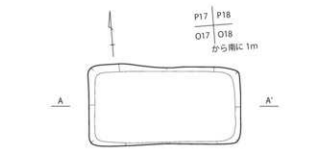


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～5%20%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浅黄色～オリーブ黄色粘質土ブロック～5%20%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック～5%20%含む。

第 91 図　SK1001 平断面図（1/40）

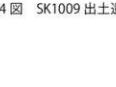


第 92 図　SK1001 出土遺物



1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～5%20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～5%50%含む。
3 灰色 5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色～オリーブ黄色粘質土ブロック～5%10%含む。

第 93 図　SK1009 平断面図（1/40）



第 94 図　SK1009 出土遺物

土器が出土している。

出土遺物　79 は須恵器の杯である。底部は手持ちヘラケズリが施されている。

時期　出土した遺物から奈良時代頃の年代が想定される。

37 号土坑（SK1037）（第 101・102 図）

検出地点　O－15・16 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整形で SK1033・SK1035・SK1036 に切られている。残存値で長軸が 2.90m、短軸が 1.63m、最大深度は 0.16m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　灰オリーブ粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　80 は土師器の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

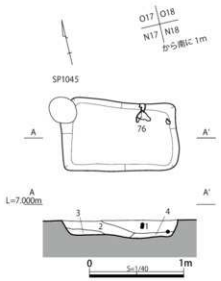
44 号土坑（SK1044）（第 103・104 図）

検出地点　P－15 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが、北側を SK1043 に切られている。残存値で長軸が 1.87m、短軸が 0.84m、最大深度は 0.32m を測る。断面の形状は皿形である。

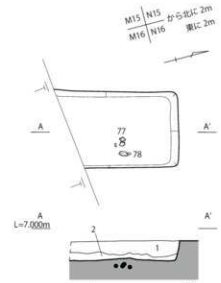
土層　いずれも粘質土で 6 層に分層されており、1・2・4 層が灰オリーブ色、3 層が暗灰黄色、5・6 層がオリーブ黒色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面上面および 4 層中よ



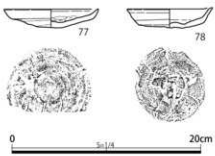
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1~5cm20%含む。
2 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1~5cm10%含む。
3 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、黄灰色粘質土ブロック1~8cm20%含む。
4 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、オリーブ黄色粘質土ブロック1~8cm30%含む。

第 95 図　SK1011 平断面図（1/40）

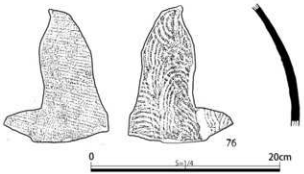


1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、灰色粘質土ブロック1~8cm30%含む。
2 灰色 5Y 4/1 粘質土 しまりや中強い、粘性や中強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1~8cm20%含む。

第 97 図　SK1023 平断面図（1/40）



第 98 図　SK1023 出土遺物



第 96 図　SK1011 出土遺物

り土器が出土している。

出土遺物　81・82 は弥生土器の高杯の脚部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

45 号土坑（SK1045）（第 105・106 図）

検出地点　N－15 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北西隅を SX1004 に切られている。長軸が 0.91m、短軸が 0.69m、最大深度は 0.50m を測る。断面の形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 6 層に分層されており、1 層が灰色、2・4 ～ 6 層が灰オリーブ色、3 層が暗オリーブ色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　83 は土師器の蓋である。

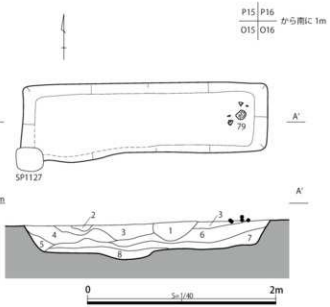
時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

64 号土坑（SK1064）（第 107・108 図）

検出地点　O－14 グリッド。

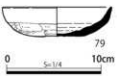
形態・規模　平面の形状は長方形を呈し、長軸が 1.60m、短軸が 0.79m、最大深度は 0.24m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層される。

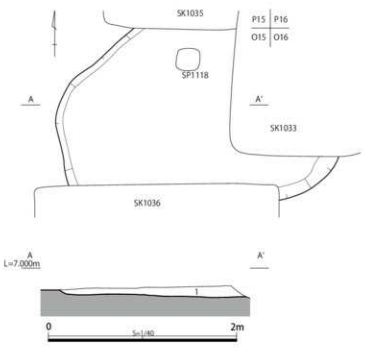


1 灰色　5Y　5/1 褐質土 しまりやや強い、粘性弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.3cm)40%含む。
2 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～0.5cm)30%含む、炭オリーブ色粘質土ブロック(～0.5mm)20%含む。
3 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.3cm)20%含む。
4 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色～オリーブ色粘質土ブロック(～0.5cm)30%含む、炭オリーブ色粘質土ブロック(～0.1cm)30%含む。
5 褐オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～0.1cm)20%含む。
6 炭オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.5cm)20%含む。
7 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(～0.1cm)20%含む。
8 褐オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。

第 99 図　SK1036 平断面図（1/40）



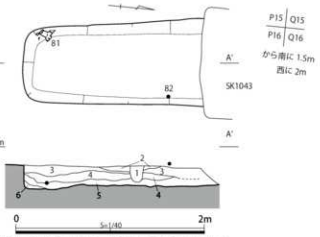
第 100 図　SK1036 出土遺物



1 炭オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(～4cm)30%含む、灰色粘質土ブロック(～8mm)10%含む、鉄化物(～8cm)2%ほど含む。

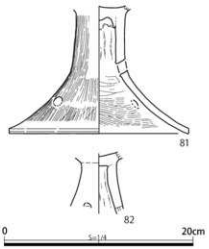
第 101 図　SK1037 平断面図（1/40）

第 102 図　SK1037 出土遺物

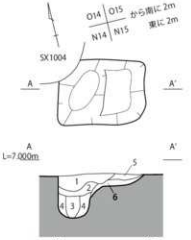


1 灰オリーブ色 7.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性弱い、明黄褐色粘質土ブロック(~8cm)20%含む。
2 灰オリーブ色 7.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、白黄色粘質土ブロック(~8cm)10%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色~オリーブ黄色粘質土ブロック(~6cm)30%含む、炭化物(~0.5cm)くしゃりかに含む。
4 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~6cm)20%含む、炭化物(~最大幅~8cm)くしゃりかに含む。
5 オリーブ黒色 5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~8cm)10%含む。
6 オリーブ黒色 5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(~8cm)30%含む。

第 103 図　SK1044 平断面図（1/40）

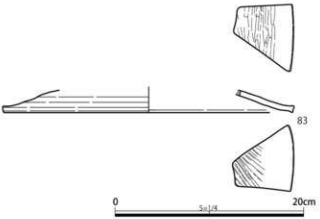


第 104 図　SK1044 出土遺物

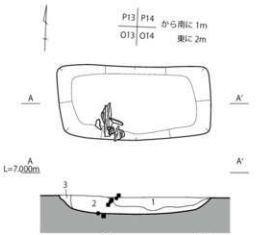


1 灰色 5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(~40cm)20%含む、炭化物(~80cm)くしゃりかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(~40cm)10%含む、炭化物(~40cm)やかに含む。
3 暗オリーブ色 5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(~40cm)10%含む、炭化物(~40cm)やかに含む。
4 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(~50cm)20%含む。
5 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄褐色土ブロック(~8cm)10%含む。
6 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄褐色土ブロック(~8cm)10%含む。

第 105 図　SK1045 平断面図（1/40）

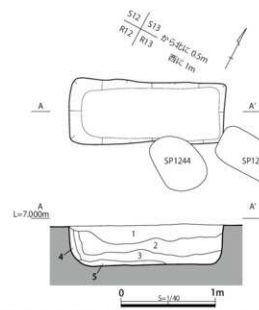


第 106 図　SK1045 出土遺物



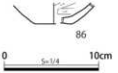
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性弱い、炭化物粒1、炭化粒土ブロック1～4cm20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粘質土ブロック1～62cm10%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック1～8cm30%含む。

第 107 図　SK1064 平断面図（1/40）

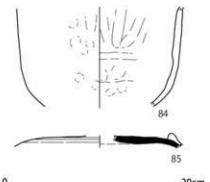


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック1～4cm30%含む。炭オリーブ褐色粘質土ブロック1～4cm30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ褐色粘質土ブロック1～8cm20%含む。炭化物粒1～2mm含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ褐色粘質土ブロック1～8cm30%含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭オリーブ褐色粘質土ブロック1～8cm20%含む。
5 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色粘質土ブロック1～4cm20%含む。

第 109 図　SK1089 平断面図（1/40）



第 110 図　SK1089 出土遺物



第 108 図　SK1064 出土遺物

遺物出土状況　南壁沿いを中心として礫や土器が出土している。

出土遺物　84 は土師器の製塩土器である。85 は須恵器の蓋である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

89 号土坑（SK1089）（第 109・110 図）

検出地点　R－12・13・S－12・13 グリッド。

形態・規模　平面の形状は長方形を呈し、南東部分を SP1243・SP1244 に切られている。長軸が 1.64m、短軸が 0.63m、最大深度は 0.47m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 5 層に分層されており、1～4 層が暗灰黄色、5 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

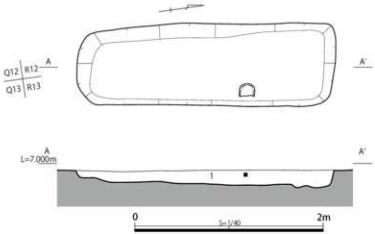
出土遺物　86 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

91 号土坑（SK1091）（第 111 図）

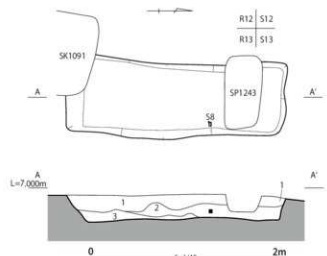
検出地点　R－12・13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 2.74m、短軸が 0.87m、最大深度は 0.30m を測る。断面の形状は皿形である。



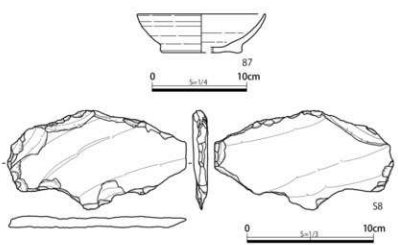
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、反黄色粘質土ブロック(1~3cm)10%含む。マンガン細粒がわずかに含む。

第 111 図　SK1091 平断面図（1/40）

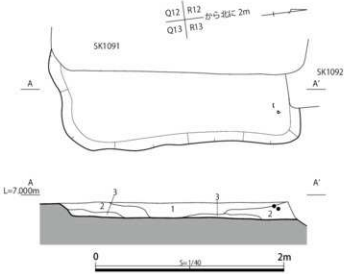


1 暗灰黄色　2.5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、反黄色粘質土ブロック(1~3cm)20%含む。
2 黄褐色　2.5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(1~3cm)30%含む。
3 黄褐色　2.5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗黒褐色粘質土ブロック(1~4cm)5%含む。反黄色粘質土ブロック(1~4cm)5%含む。

第 112 図　SK1092 平断面図（1/40）



第 113 図　SK1092 出土遺物



1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粒・焼土ブロック(1~5)mmが20%含む。炭化物片(~0.1cm)がくわずかに含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粒・焼土ブロック(1~2)cmが30%含む。鉄分小粒状沙量含む。
3 黒褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(~3)cmが20%含む。鉄分薄い中層状わずかに含む。

第 114 図　SK1094 平断面図（1/40）

第 115 図　SK1094 出土遺物

土層　灰オリーブ色粘質土が 1 層である。

遺物出土状況　東壁際から礫が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

92 号土坑（SK1092）（第 112・113 図）

検出地点　R－13・S－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、中央部北寄りを SP1243 に、南西隅を SK1091 にそれぞれ切られている。長軸が 2.33m、短軸が 0.80m、最大深度は 0.29m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2・3 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　2 層中より石器が出土している。

出土遺物　87 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。S8 は結晶片岩の剥片の周囲に加工痕がみられるもので、石庖丁の未製品の可能性が考えられる。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

94 号土坑（SK1094）（第 114・115 図）

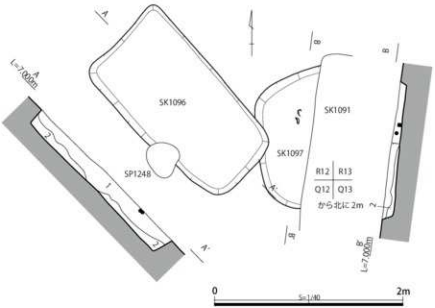
検出地点　R－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが、西側を SK1091、北側を SK1092 に切られている。残存値で長軸が 2.53m、短軸が 0.75m、最大深度は 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が灰黄色、2 層がにぶい黄色、3 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　北壁付近から土器が出土している。

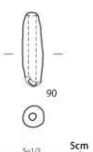
出土遺物　88 は土師器の杯である。89 は土師器の羽釜の脚部である。



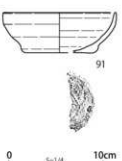
SK1096
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(~φ3cm)20%含む。鉄分薄い小斑状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(~φ3cm)40%含む。鉄分薄い小斑状少量含む。

SK1097
1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、暗灰黄色粘質土ブロック(~φ3cm)20%含む。鉄分小斑状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(~φ3cm)30%含む。鉄分薄い小斑状わずかに含む。

第 116 図　SK1096・SK1097 平断面図（1/40）



第 117 図　SK1096 出土遺物



第 118 図　SK1097 出土遺物

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

96 号土坑（SK1096）（第 116・117 図）

検出地点　R－12 グリッド。

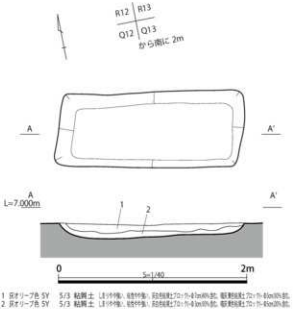
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、西側を SP1248 に切られている。長軸が 1.96m、短軸が 1.05m、最大深度は 0.23m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

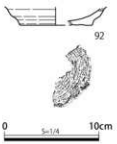
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　90 は管状の土錘である。

時期　隣接する遺構の年代から鎌倉時代以降と考えられる。



第 119 図　SK1103 平断面図（1/40）



第 120 図　SK1103 出土遺物

97 号土坑（SK1097）（第 116・118 図）

検出地点　R－12 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈するとみられるが、東側を SK1091 に、西側を SK1096 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 1.53m、短軸が 0.50m、最大深度は 0.12m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　中央やや北寄りから土器が出土している。

出土遺物　91 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

103 号土坑（SK1103）（第 119・120 図）

検出地点　Q－12・13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 1.95m、短軸が 0.80m、最大深度は 0.16m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも灰オリーブ粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

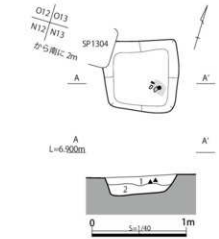
出土遺物　92 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

117 号土坑（SK1117）（第 121・122 図）

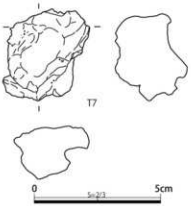
検出地点　N－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し、一辺が 0.77m を測る。最大深度は 0.22m である。断面の形状は



1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（土ミリ小含む）、砲弾小含む。暗茶色粘質土ブロック（φ10cm）10%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（土ミリ小含む）、砲弾小含む。黒色粘質土ブロック（φ30cm）30%含む。

第 121 図　SK1117 平断面図（1/40）



第 122 図　SK1117 出土遺物

皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　第 1 層中より焼土の拡がりとともに鉄器が出土している。

出土遺物　T7 は鉄滓である。

時期　年代は特定できない。

120 号土坑（SK1120）（第 123・124 図）

検出地点　M － 13 グリッド。

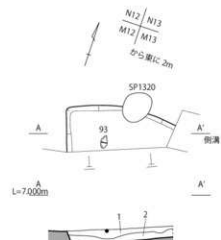
形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸が 1.05m、短軸が 0.45m、最大深度は 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　1 層中より土器が出土している。

出土遺物　93 は須恵器の蓋である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。



1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（土ミリ小含む）、砲弾小含む。灰オリーブ色粘質土ブロック（φ30cm）30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（土ミリ小含む）、砲弾小含む。黒色粘質土ブロック（φ30cm）40%含む。

第 123 図　SK1120 平断面図（1/40）

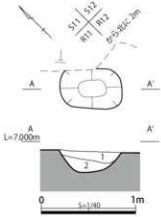
第 124 図　SK1120 出土遺物

124 号土坑（SK1124）（第 125・126 図）

検出地点　S － 11 グリッド。

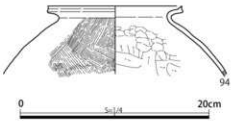
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.66m、短軸が 0.41m、最大深度は 0.24m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰黄色、2 層が暗灰黄色となっている。



1 灰黄色　2.5Y　6/2 粘質土　しまりやや強い。鉄分多く含む。
2 暗灰黄色　2.5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い。鉄分多く含む。

第 125 図　SK1124 平断面図（1/40）



第 126 図　SK1124 出土遺物

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　94 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

130 号土坑（SK1130）（第 127・128 図）

検出地点　R－11・12 グリッド。

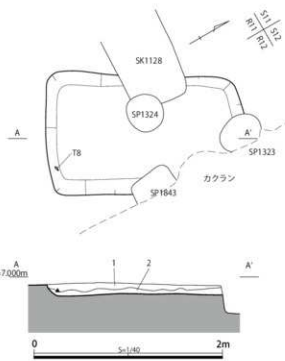
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北東部を撹乱および SP1323、SP1843 に、西側を SK1128、SP1324 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 2.09m、短軸が 1.28m、最大深度は 0.13m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　南東隅より鉄器が出土している。

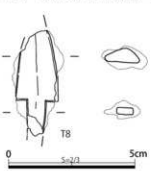
出土遺物　T8 は鉄鏃である。

時期　出土した遺物から古墳時代以降の年代が想定される。



1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い。粘性やや弱い。オリーブ褐色粘質土ブロック(1~0.5cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い。粘性やや弱い。灰色粘質土ブロック(1~0.5cm)40%含む。

第 127 図　SK1130 平断面図（1/40）



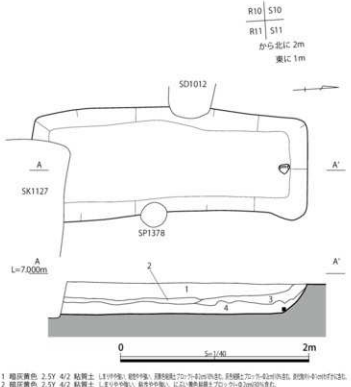
第 128 図　SK1130 出土遺物

131 号土坑（SK1131）（第 129・130 図）

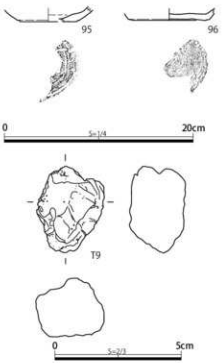
検出地点　R－11・S－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、南東隅を SK1127 に、西側を SD1012 に、東側を SP1378 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 2.95m、短軸が 1.11m、最大深度は 0.35m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1～3 層が暗灰黄色、4 層がオリーブ褐色となっている。



第 129 図　SK1131 平断面図（1/40）



第 130 図　SK1131 出土遺物

遺物出土状況　北壁付近の底部から礫が出土している。

出土遺物　95・96 は土師器の杯である。底部の切り離しは 95 が回転ヘラ切り、96 が回転糸切りである。T9 は鉄滓である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

132 号土坑（SK1132）（第 131・132 図）

検出地点　S－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し南西側を SK1131、SP1374 に切られている。径が 0.68m、最大深度は 0.21m を測る。断面の形状は長方形である。

土層　いずれもオリーブ褐色粘質土で 2 層に分層されている。

遺物出土状況　1 層から横位の状態で土器が出土している。

出土遺物　97 は弥生土器の壺である。

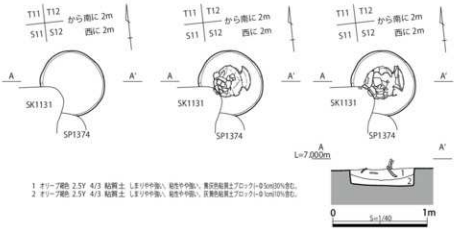
時期　出土した遺物から弥生時代終末期の年代が想定される。

135 号土坑（SK1135）（第 133・134 図）

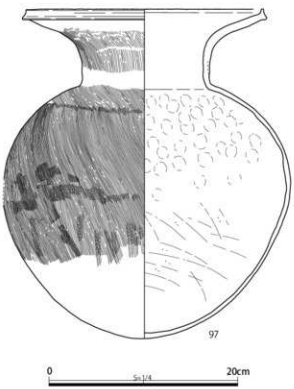
検出地点　S－10・11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北側を SP1524・SP1525 に切られている。長軸が 2.07m、短軸が 0.87m、最大深度は 0.28m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 3 層に分層されている。



第 131 図　SK1132 平断面図（1/40）



第 132 図　SK1132 出土遺物

遺物出土状況　図化可能なものはない。

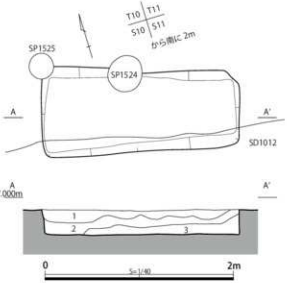
出土遺物　98 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

140 号土坑（SK1140）（第 135・136 図）

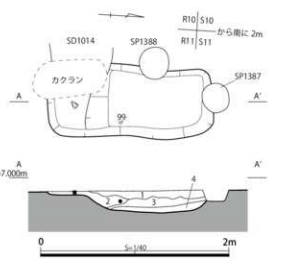
検出地点　R－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、南側を SD1014 に、西側を SP1388 に、北側を SP1387 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 1.74m、短軸が 0.75m、最大深度は 0.24m を測る。断面の形状は二段形である。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム5cmが入る。炭化物ポ・ポ1cmが少に含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、天然ラ・黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム1cmが入る。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、天然ラ・黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム5cmが入る。

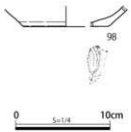
第 133 図　SK1135 平断面図（1/40）



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、ホ・ポ・ラ粘質土ブロック・ラ・ム5cmが入る。炭化物ポ・ポ1cmが少に含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム3cmが入る。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム20cmが入る。炭化物ポ・ポ1cmが少に含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まりや層）、砦や中砦）、黒褐色粘質土ブロック・ラ・ム5cmが入る。

第 135 図　SK1140 平断面図（1/40）

第 136 図　SK1140 出土遺物



第 134 図　SK1135 出土遺物

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1・2・4 層が暗灰黄色、3 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　2 層中より土器が出土している。

出土遺物　99 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

142 号土坑（SK1142）（第 137・138 図）

検出地点　R－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、南側を SX1008 に、北西隅を SK1141 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 2.75m、短軸が 0.87m、最大深度は 0.24m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が黄灰色、3 層が灰オリーブ色となっている。上面付近に炭化物片が混じる。

遺物出土状況　東寄りの 1 層中より石器が出土している。

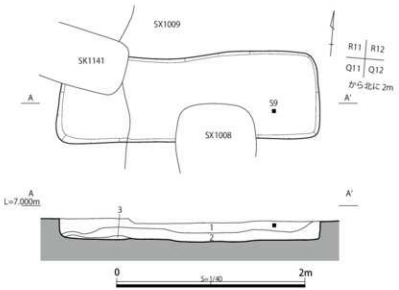
出土遺物　S9 は結晶片岩で稜線部分に敲打痕を残す礫である。

時期　年代は特定できない。

157 号土坑（SK1157）（第 139・140 図）

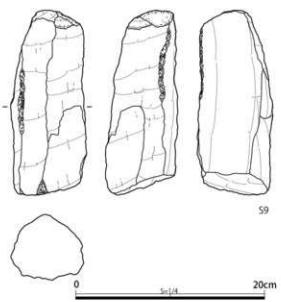
検出地点　P－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、西側を SK1155・SK1156 に切られている。長軸が 0.84m、



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強、ローム粒子φ1cm以下含む、マンガン粒φ1cm以下含む、炭化物・焼土φ1cm以下含む。
2 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック～φ3cm以下含む、炭化物φ1～3cm以下まで含む。
3 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック～φ3cm以下含む。

第 137 図　SK1142 平断面図（1/40）



第 138 図　SK1142 出土遺物

短軸が 0.66m、最大深度は 0.34m を測る。断面の形状は二段形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 3 層に分層されており、1 層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況　柱痕とみられる 1 層横から石器が出土している。

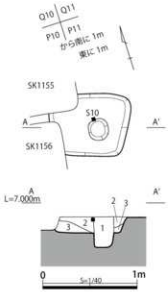
出土遺物　S10 は結晶片岩の礫石である。

時期　年代は特定できない。

159 号土坑（SK1159）（第 141・142 図）

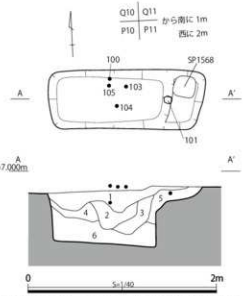
検出地点　P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.64m、短軸が 0.62m、最大深度は 0.64m を測る。断面



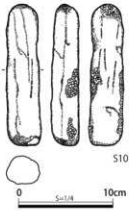
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性やや強い。粗粒砂混じり。ブロック5~40mm20%混じる。炭化物0~80.5mmごくまれに混じる。）
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性やや強い。粗粒砂混じり。ブロック5~40mm30%混じる。）
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性やや強い。粗粒砂混じり。ブロック5~40mm40%混じる。）

第 139 図　SK1157 平断面図（1/40）

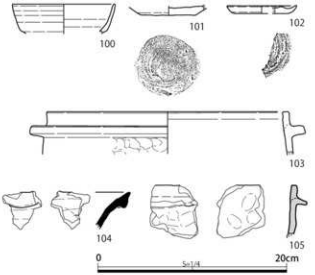


1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。炭ナノーブ粒径2~7.5mm20%混じる。炭化物0~4.5mmごくまれに混じる。）
2 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。炭ナノーブ粒径2~7.5mm30%混じる。炭化物0~80.5mmごくまれに混じる。）
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。炭ナノーブ粒径2~7.5mm20%混じる。炭化物0~4.5mmごくまれに混じる。）
4 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。炭ナノーブ粒径2~7.5mm40%混じる。）
5 黄褐色 2.5Y 3/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。ナノーブ粒径~炭ナノーブ粒径2~7.5mm40%混じる。粗粒砂粒径2.5~7.5mm10%混じる。）
6 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。硬質性強い。粗粒砂粒径2.5~7.5mm40%混じる。）

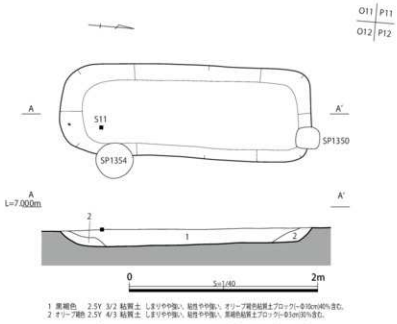
第 141 図　SK1159 平断面図（1/40）



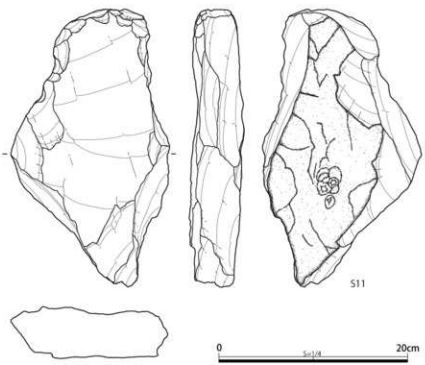
第 140 図　SK1157 出土遺物



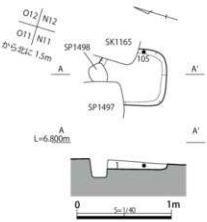
第 142 図　SK1159 出土遺物



第 143 図　SK1162 平断面図（1/40）



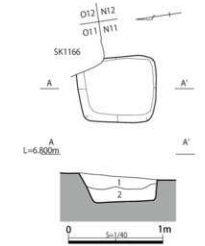
第 144 図　SK1162 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロックが1~0.2cm以下含む。

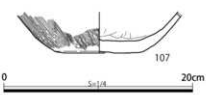
第 145 図　SK1166 平断面図（1/40）

第 146 図　SK1166 出土遺物



1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロックが1~0.5cm以下含む、鉄バーマンガン粒が微量含む。
2 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、褐色粘質土ブロックが1~0.5cm以下含む、鉄バーマンガン粒が微量含む。

第 147 図　SK1167 平断面図（1/40）



第 148 図　SK1167 出土遺物

の形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 6 層に分層されており、1・2 層が黄灰色、3・4・6 層が暗灰黄色、5 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　1 層中および遺構検出面上面において土器が出土している。

出土遺物　100・101 は土師器の杯である。102 は土師器の皿である。101・102 の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。103 は土師器の羽釜である。104 は東播系須恵器のこね鉢である。105 は瓦質土器の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

162 号土坑（SK1162）（第 143・144 図）

検出地点　O－12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 2.64m、短軸が 0.97m、最大深度は 0.22m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黒褐色、2 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　南寄りの遺構検出面上面において石器が出土している。

出土遺物　S11 は結晶片岩の台石である。

時期　年代は特定できない。

166 号土坑（SK1166）（第 145・146 図）

検出地点　N－11・12・O－11・12 グリッド。

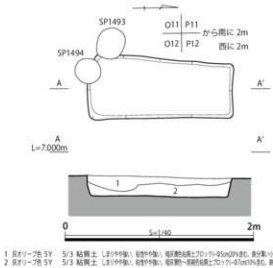
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北側を SK1165・SP1497・SP1498 に切られている。長軸が 0.68m、短軸が 0.63m、最大深度は 0.14m を測り、断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

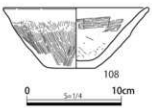
遺物出土状況　東壁寄りから土器が出土している。

出土遺物　106 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。



第 149 図　SK1169 平断面図（1/40）



第 150 図　SK1169 出土遺物

167 号土坑（SK1167）（第 147・148 図）

検出地点　N－11・O－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北東隅を SK1166 に切られている。長軸が 0.82m、短軸が 0.69m、最大深度は 0.28m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層が黄灰色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　107 は弥生土器の壺の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

169 号土坑（SK1169）（第 149・150 図）

検出地点　O－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し南西隅を SP1493・SP1494 に切られている。長軸が 1.53m、短軸が 0.63m、最大深度は 0.25m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　108 は弥生土器の鉢である。

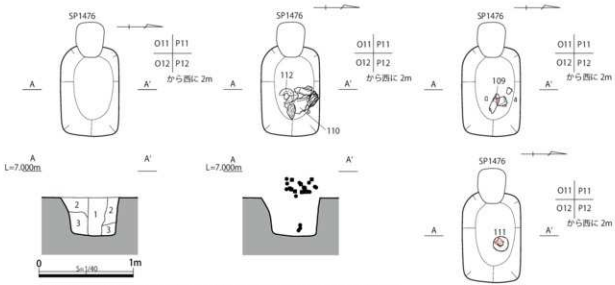
時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

170 号土坑（SK1170）（第 151・152 図）

検出地点　O－11 グリッド。

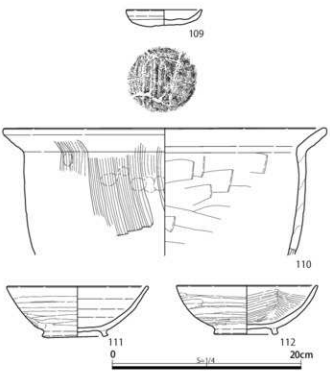
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、西側を SP1476 に切られている。長軸が 0.97m、短軸が 0.62m、最大深度は 0.40m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1・3 層が暗灰黄色、2 層がオリーブ褐色となっている。1 層は柱痕の可能性が考えられる。

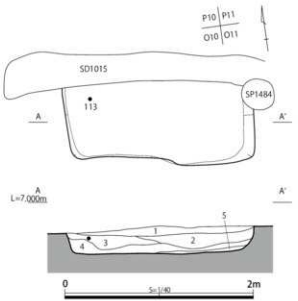


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い。ネオ・ローム粒子ブロック・0.5cm以下含む。炭化物・一部土器・0.1cm以下含む。遺構に沿って堆積。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い。暗灰黄色粘質土ブロック・φ3cm以30%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い。灰黄色粘質土ブロック・φ3cm以30%含む。マンガン薄い中程状少量含む。

第 151 図　SK1170 平断面図（1/40）

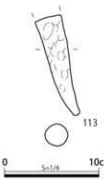


第 152 図　SK1170 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（炭・焼土粒、砂・砂粒少、炭粒径2～5mm程度、ガラス・質粒径1～2mm程度、ローム小塊多く含む）。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（炭・焼土粒、砂・砂粒少、ガラス質粒径2～5mm程度、粒径径1～2mm程度、焼土・ローム小塊多く含む）。
3 灰黄色 2.5Y 6/2 粘質土（炭・焼土粒、砂・砂粒少、ガラス質粒径2～5mm程度、炭・焼土小塊多く含む）。
4 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土（炭・焼土粒、砂・砂粒少、ガラス質粒径2～5mm程度、炭粒径1～5mmにくらべ小塊多く含む、焼土粒・ローム小塊多く含む）。
5 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土（炭・焼土粒、砂・砂粒少、焼土小塊多く含む）。

第 153 図　SK1172 平断面図（1/40）



第 154 図　SK1172 出土遺物

遺物出土状況　遺構検出面上面と底部付近より土器が出土している。

出土遺物　109 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。110 は土師器の甕である。111・112 は黒色土器 A 類の椀である。

時期　出土した遺物から平安時代末頃の年代が想定される。

172 号土坑（SK1172）（第 153・154 図）

検出地点　O－10・11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北側を SD1015 に切られている。残存値で長軸が 2.00m、短軸が 0.82m、最大深度は 0.32m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 5 層に分層されており、1・2 層が暗灰黄色、3 層が灰黄色、4 層が黄灰色、5 層がにぶい黄色となっている。

遺物出土状況　西寄りの 3 層中から土器が出土している。

出土遺物　113 は土師器の羽釜の脚部である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

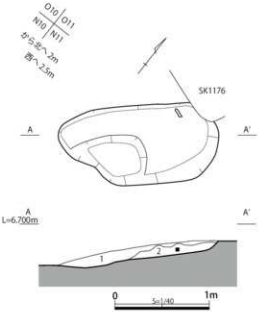
178 号土坑（SK1178）（第 155・156 図）

検出地点　O－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し北東部分を SK1176 に切られている。長軸が 1.58m、短軸が 0.85m、最大深度は 0.28m を測り、断面形状は皿形である。

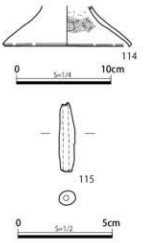
土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　北東寄りから礫が出土している。

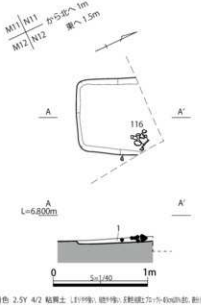


1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（しまりやや強い。砂質やや強い。直径5前後土ブロック7～8%含む。炭化物ごく微含む。）
2 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（しまりやや強い。砂質やや強い。炭素粒前後土ブロック3～5%含む。炭化物ごく微含む。）

第 155 図　SK1178 平断面図（1/40）

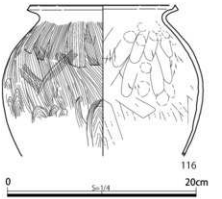


第 156 図　SK1178 出土遺物

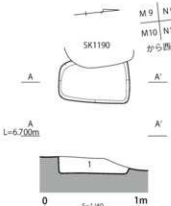


1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い。砂質やや強い。炭粒前後土ブロック8%前後含む。炭化物前後含む。）

第 157 図　SK1185 平断面図（1/40）

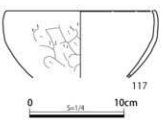


第 158 図　SK1185 出土遺物

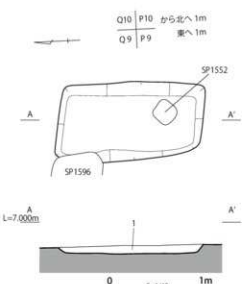


1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い。多量の黒色フロック・ブロック・炭化物含む。）

第 159 図　SK1191 平断面図（1/40）



第 160 図　SK1191 出土遺物



1 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い。炭オリーブ褐色粘土ブロック・ブロック・炭化物含む。）

第 161 図　SK1197 平断面図（1/40）

第 162 図　SK1197 出土遺物

出土遺物　114 は弥生土器の高杯の脚部である。115 は管状の土錘である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

185 号土坑（SK1185）（第 157・158 図）

検出地点　N − 12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられ、北側は撹乱によって切られている。残存値で長軸が 0.81m、短軸が 0.79m、最大深度は 0.08m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　北寄りから土器が出土している。

出土遺物　116 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

191 号土坑（SK1191）（第 159・160 図）

検出地点　M − 9・10 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、西側を SK1190 に切られている。残存値で長軸が 0.78m、短軸が 0.38m、最大深度は 0.18m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　117 は弥生土器の鉢である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

197 号土坑（SK1197）（第 161・162 図）

検出地点　Q − 9・10 グリッド。

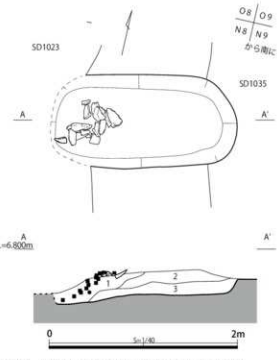
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北西隅を SP1596 に切られている。長軸が 1.58m、短軸が 0.83m、最大深度は 0.09m を測り、断面形状は皿形である。

土層　黒褐色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

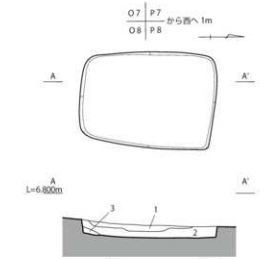
出土遺物　118 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。



1 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘土ブロック5~8cm20%含む、動植物遺物。
2 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘土ブロック5~8cm10%含む、炭化物・焼土粒~8mm1%含む、動植物遺物。
3 オリーブ黒色 5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック5~8cm20%含む、動植物遺物。

第 163 図　SK1205 平断面図（1/40）



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色~オリーブ黒色粘質土ブロック1~8cm10%含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック1~8cm20%含む。
3 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘土ブロック1~8cm10%含む。

第 164 図　SK1212 平断面図（1/40）

第 165 図　SK1212 出土遺物

205 号土坑（SK1205）（第 163 図）

検出地点　N－8・9 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.97m、短軸が 0.99m、最大深度は 0.37m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1・2 層が灰オリーブ色、3 層がオリーブ黄色となっている。

遺物出土状況　西半部の 1 層中を中心として拳大の結晶片岩礫がまとまって出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

212 号土坑（SK1212）（第 164・165 図）

検出地点　O－7・8・P－7・8 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.43m、短軸が 1.00m、最大深度は 0.25m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が黒褐色、3 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　119 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

216 号土坑（SK1216）（第 166・167 図）

検出地点　Q－5・6・R－5・6 グリッド。

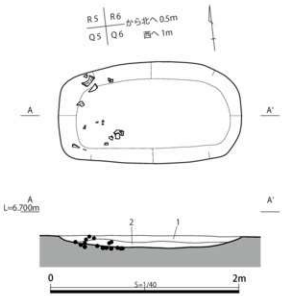
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.91m、短軸が 1.06m、最大深度は 0.17m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　西半部の底部付近を中心として土器が出土している。

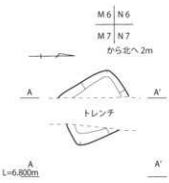
出土遺物　120 は弥生土器の高杯の脚部である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。



1 灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。

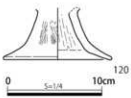
第 166 図　SK1216 平断面図（1/40）



1 黄灰色　2.5Y　4/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭粒混在(～7cm)20%前、鉄(黒)・粘土粒～8mmごく少々含む。

第 168 図　SK1219 平断面図（1/40）

第 169 図　SK1219 出土遺物



第 167 図　SK1216 出土遺物

219 号土坑（SK1219）（第 168・169 図）

検出地点　N－7 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、中央部は確認トレンチにより欠損している。長軸が 0.72m、短軸が 0.63m、最大深度は 0.12m を測る。断面形状は皿形である。

土層　黄灰色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　121 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から中世以降の年代が想定される。

232 号土坑（SK1232）（第 170・171 図）

検出地点　M－6 グリッド。

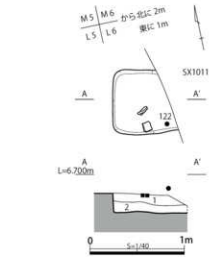
形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが東側を SX1011 に切られている。残存値で長軸が 0.66m、短軸が 0.60m、最大深度は 0.21m を測り、断面形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器や礫が出土している。

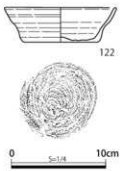
出土遺物　122 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

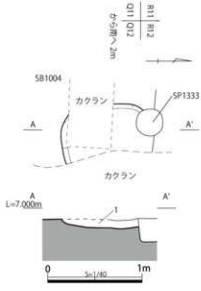


1 灰色　5Y　4/1 粘質土（ややや強い、硬性や強）、Fe・Mn 斑（Fe：1～4cm、Mn：数ミリ）、炭化物（ごく少）、
2 オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（ややや強い、硬性や強）、斑鉄（Fe：1～4cm）あり。

第 170 図　SK1232 平断面図（1/40）

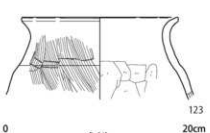


第 171 図　SK1232 出土遺物



1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（ややや強い、硬性や強）、炭化物（炭化ブロック：4～6cm）あり。

第 172 図　SK1234 平断面図（1/40）



第 173 図　SK1234 出土遺物

234 号土坑（SK1234）（第 172・173 図）

検出地点　Q－12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形或いは楕円形を呈するとみられるが、攪乱によって形状が大きく損なわれている。残存値で長軸が 0.95m、短軸が 0.51m、最大深度は 0.12m を測り、断面形状は皿形である。

土層　黄灰色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　123 は土師器の甕である。

時期　出土した遺物から古墳時代以降の年代が想定される。

240 号土坑（SK1240）（第 174・175 図）

検出地点　O－10 グリッド。

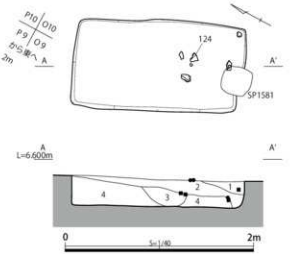
形態・規模　平面形状は長方形を呈し南端を SP1581 に切られている。長軸が 1.82m、短軸が 0.97m、最大深度は 0.35m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層がオリーブ黄色、2・3 層が灰オリーブ色、4 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　南半部 1 ～ 2 層を中心として土器や礫が出土している。

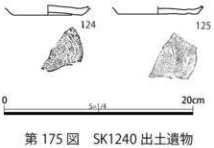
出土遺物　124・125 は土師器の杯である。底部の切り離しはいずれも回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。



1 オリーブ黄色 5Y　6/3 粘質土（土ボケ強い、砂質不強）、黒褐色粒子フロック・石(φ20cm)含む。底面に小さいくぼみがある。断面は小型ピットかもしれない。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（土ボケ強い、砂質不強）、オリーブ褐色粒子フロック・石(φ20cm)含む。断面は小型ピットかもしれない。
3 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（土ボケ強い、砂質不強）、黒褐色粒子フロック・石(φ20cm)含む。断面は小型ピットかもしれない。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（土ボケ強い、砂質不強）、黒褐色粒子フロック・石(φ20cm)含む。断面は小型ピットかもしれない。

第 174 図　SK1240 平断面図（1/40）



第 175 図　SK1240 出土遺物

⑥小穴（SP）

8 号小穴（SP1008）（第 176・177 図）

検出地点　Q－18 グリッド。

形態・規模　平面形状はほぼ円形を呈し径は 0.43m、最大深度は 0.31m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層される。第 2 層は柱痕の可能性が考えられる。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　126 は須恵器の蓋である。

時期　出土した遺物から古墳時代以降の年代が想定される。

31 号小穴（SP1031）（第 178・179 図）

検出地点　P－17 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.25m、短軸が 0.20m、最大深度は 0.08m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　灰色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

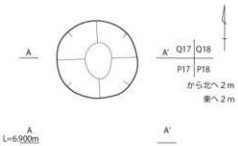
出土遺物　127 は土師器の高台付き杯であるが、形態から黒色土器の可能性も考えられる。

時期　出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

38 号小穴（SP1038）（第 180 図）

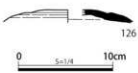
検出地点　O－17 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.24m、短軸が 0.20m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は逆台形である。

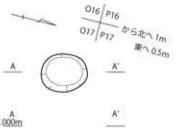


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、砂質やや強い。ナトリー顕著根鉄とフロッパ-粒2mm以下含む。炭化物微量。フロッパ-9.0m以下含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、砂質やや強い。ナトリー顕著根鉄とフロッパ-粒2mm以下含む。炭化物1~2%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、砂質やや強い。炭化物微量。フロッパ-粒2mm以下含む。

第 176 図　SP1008 平断面図（1/20）



第 177 図　SP1008 出土遺物



1 灰色　5Y　6/1 粘質土　しまりやや強い、砂質強い、炭化物・炭化粒~0.1mが微量含む。

第 178 図　SP1031 平断面図（1/20）

第 179 図　SP1031 出土遺物

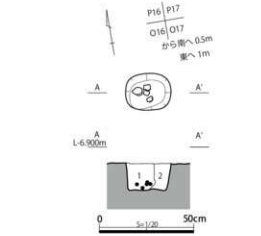
土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。
遺物出土状況　1 層の底部付近から土器が出土している。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　年代は特定できない。

51 号小穴（SP1051）（第 181・182 図）

検出地点　N － 17・18 グリッド。
形態・規模　平面形状は方形を呈し長軸が 0.64m、短軸が 0.52m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は舟底形である。
土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層が灰色、3 層がオリーブ黒色となっている。
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　T10 は責金具である。
時期　年代は特定できない。

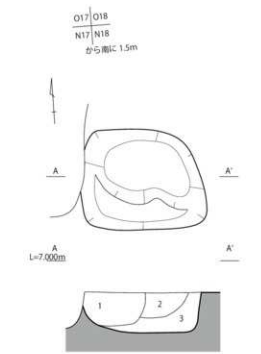
93 号小穴（SP1093）（第 183・184 図）

検出地点　O － 16 グリッド。
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.49m、短軸が 0.29m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は不整形である。



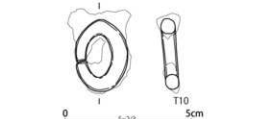
1 灰色　5Y　5/1 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物少、灰オリーブ色粘質土ブロック少～まれ20%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物少、灰オリーブ色粘質土ブロック少～まれ20%含む。

第 180 図　SP1038 平断面図（1/20）



1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物少、オリーブ黄色ブロック少～まれ30%含む。
2 灰色　5Y　4/1 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物少、灰オリーブ色粘質土ブロック少～まれ20%含む。
3 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物少、灰オリーブ色粘質土ブロック少～まれ30%含む。

第 181 図　SP1051 平断面図（1/20）



第 182 図　SP1051 出土遺物

土層　いずれも粘質土で灰色を主体として 3 層に分層されており、1・2 層が灰色、3 層が灰オリーブ色となっている。1 層と 2・3 層が別遺構の切り合いの可能性も考えられる

遺物出土状況　2 層中より石器が出土している。

出土遺物　S12 は砂岩の敲石である。

時期　年代は特定できない。

117 号小穴（SP1117）（第 185・186 図）

検出地点　O － 15・P － 15 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.45m、短軸が 0.37m、最大深度は 0.41m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1・3 層が灰オリーブ色、2 層が灰色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　128 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

138 号小穴（SP1138）（第 187・188 図）

検出地点　N － 15 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、南西隅を SP1137 に切られている。長軸が 0.52m、短軸が 0.37m、最大深度は 0.51m を測り、断面形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 6 層に分層されており、1 ～ 4 層が灰オリーブ色、5 層がオリーブ黄色、6 層が灰色となっている。2 層は柱の抜き取り痕であると考えられる。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

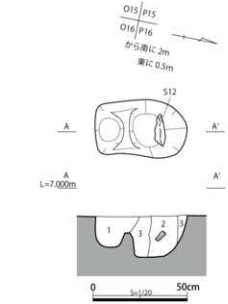
出土遺物　129 は須恵器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

179 号小穴（SP1179）（第 189・190 図）

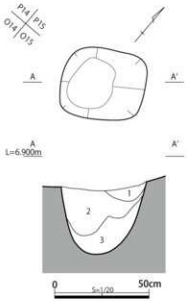
検出地点　O － 14 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.43m、短軸が 0.37m、最大深度は 0.38m を測る。断面形状は



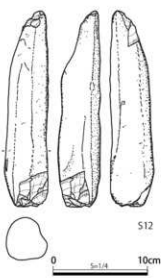
1 灰色　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、砂やや強い、オリーブ黒色粘土ブロック-Φ1cm20%含む、炭化物多少含む。
2 灰色　5Y　6/1 粘質土 しまりやや強い、砂やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック-Φ2cm20%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、砂やや強い、オリーブ黒色粘土ブロック-Φ2cm20%含む。

第 183 図　SP1093 平断面図（1/20）

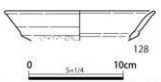


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック-Φ1cm30%含む。
2 灰色　5Y　4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック-Φ1cm10%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック-Φ1cm20%含む。

第 185 図　SP1117 平断面図（1/20）



第 184 図　SP1093 出土遺物



第 186 図　SP1117 出土遺物

逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色、3・4 層が灰オリーブ色となっている。2 層は柱の抜き取り痕であると考えられる。

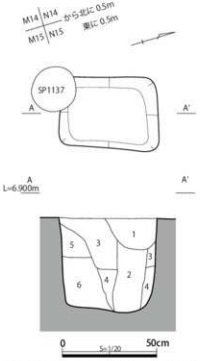
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　130 は須恵器の蓋である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

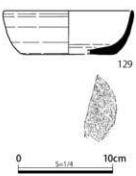
222 号小穴（SP1222）（第 191・192 図）

検出地点　N − 13 グリッド。

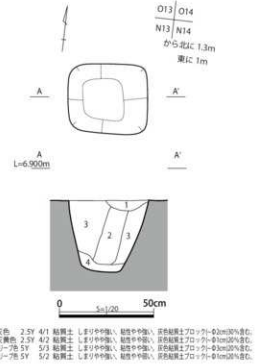


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.1cm)が多く、炭化物(～0.5cm)こくわずかに含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粒土ブロック(～0.1cm)が多く、
3 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粒土ブロック(～0.2cm)が多く、
4 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.1cm)が多く、
5 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.1cm)が多く、
6 灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ褐色粒土ブロック(～0.2cm)が多く、

第 187 図　SP1138 平断面図（1/20）

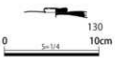


第 188 図　SP1138 出土遺物



1 黄灰色　2.5Y　4/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.2cm)が多く、
2 暗灰黄色　2.5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.1cm)が多く、
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、炭化粒土ブロック(～0.2cm)が多く、
4 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭化粒土ブロック(～0.1cm)が多く、

第 189 図　SP1179 平断面図（1/20）



第 190 図　SP1179 出土遺物

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.37m、短軸が 0.28m、最大深度は 0.27m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層される。2 層は柱の抜き取り痕であると考えられる。

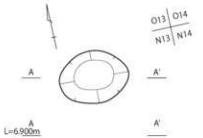
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　131 は土師器の蓋である。内外面に赤色塗彩が施される。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

223 号小穴（SP1223）（第 193・194 図）

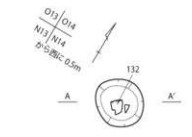
検出地点　N－13・14 グリッド。



1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(1～3cm)40%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(～0.1cm)20%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック(～3cm)20%含む。

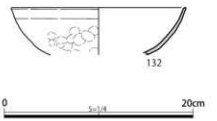
第 191 図　SP1222 平断面図（1/20）

第 192 図　SP1222 出土遺物



1 灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ粘質土ブロック(～4cm)5%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック(～4cm)3%含む。

第 193 図　SP1223 平断面図（1/20）



第 194 図　SP1223 出土遺物

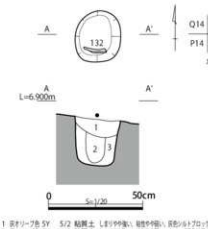
形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.28m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は逆台形である。
土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。
遺物出土状況　中央付近の 1 層下部から土器が出土している。
出土遺物　132 は瓦器の椀である。
時期　出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代以降の年代が想定される。

238 号小穴（SP1238）（第 195・196 図）

検出地点　P－14 グリッド。
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.27m、短軸が 0.24m、最大深度は 0.26m を測る。断面形状は逆台形である。
土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層される。2 層は柱痕であると考えられる。
遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。
出土遺物　133 は陶器で備前焼の甕である。
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

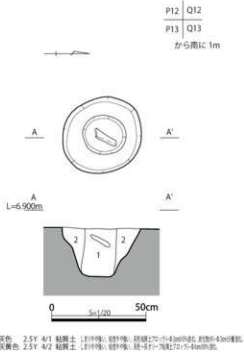
270 号小穴（SP1270）（第 197・198 図）

検出地点　P－13 グリッド。



第 195 図　SP1238 平断面図（1/20）

第 196 図　SP1238 出土遺物



第 197 図　SP1270 平断面図（1/20）

第 198 図　SP1270 出土遺物

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.44m、最大深度は 0.26m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。2 層は柱痕であると考えられる。

遺物出土状況　1 層の上部から板状の礫が出土している。

出土遺物　134 は須恵器の杯である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

282 号小穴（SP1282）（第 199・200 図）

検出地点　O－13 グリッド。

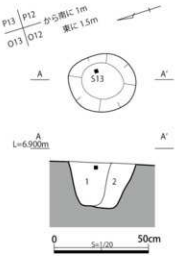
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.36m、短軸が 0.31m、最大深度は 0.27m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が黄灰色となっている。

遺物出土状況　1 層上面より石器が出土している。

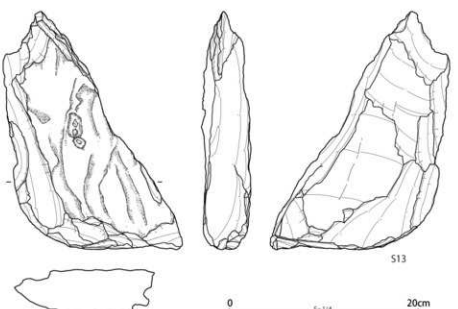
出土遺物　S13 は結晶片岩の台石である。

時期　年代は特定できない。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。礫やや多い。炭粒微量。ブロック小4mm以下含む。
2 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い。礫やや多い。炭粒微量。ブロック小4mm以下含む。鉄酸化物ブロック小4mm以下含む。

第 199 図　SP1282 平断面図（1/20）



第 200 図　SP1282 出土遺物

301 号小穴（SP1301）（第 201・202 図）

検出地点　N − 13 グリッド。

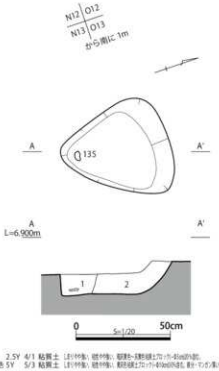
形態・規模　平面形状はやや不整形な三角形を呈し長軸が 0.57m、短軸が 0.42m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

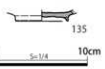
遺物出土状況　南端の 1 層中から土器が出土している。

出土遺物　135 は瓦器の椀である。

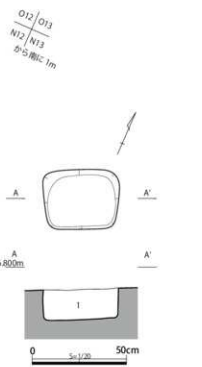
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。



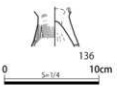
第 201 図　SP1301 平断面図（1/20）



第 202 図　SP1301 出土遺物



第 203 図　SP1303 平断面図（1/20）



第 204 図　SP1303 出土遺物

303 号小穴（SP1303）（第 203・204 図）

検出地点　N－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.39m、短軸が 0.32m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は長方形である。

土層　灰オリーブ色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　136 は弥生土器の高杯の脚部である。

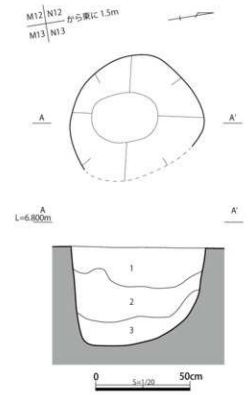
時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

315 号小穴（SP1315）（第 205・206 図）

検出地点　N－13 グリッド。

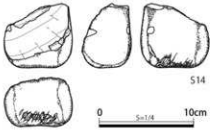
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.70m、短軸が 0.66m、最大深度は 0.52m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層がオリーブ黄色、3 層が黒褐色となっ



1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（やややや強い。砂質や強い。オリーブ褐色ブロック5~6%20%含む。粒径一様。部分的に粘質。）
2 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土（やややや強い。砂質や強い。褐色粘質土ブロック5~6%20%含む。粒径ばらつき。オリブ褐~明灰褐色粘質。）
3 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土（やややや強い。砂質や強い。オリーブ黒色~灰オリーブ色粘質土ブロック5~6%30%含む。）

第 205 図　SP1315 平断面図（1/20）



第 206 図　SP1315 出土遺物

ている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　S14 は砂岩の敲石である。

時期　年代は特定できない。

319 号小穴（SP1319）（第 207・208 図）

検出地点　M－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.27m、短軸が 0.22m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　1 層の底部付近から土器が出土している。

出土遺物　137 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

320 号小穴（SP1320）（第 209・210 図）

検出地点　M－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.35m、短軸が 0.28m、最大深度は 0.13m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　灰オリーブ色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　中央部から甕が横位の状態で出土している。

出土遺物　138 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

348 号小穴（SP1348）（第 211・212 図）

検出地点　O－12・P－12 グリッド。

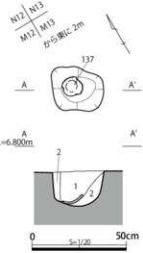
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.25m、短軸が 0.22m、最大深度は 0.29m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　灰オリーブ粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

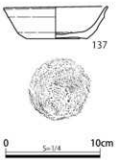
出土遺物　139 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

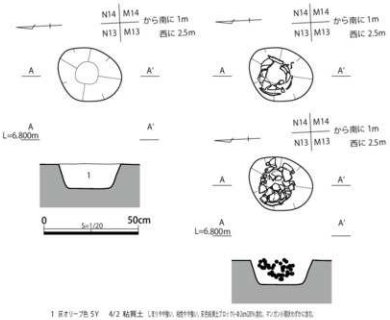


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（まじり中粗）、植物中粗）、オリーブ褐色土ブロック多量含む。粘質土。
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（まじり中粗）、植物中粗）、褐色土ブロック多量含む。粘質土。

第 207 図　SP1319 平断面図（1/20）

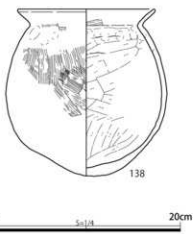


第 208 図　SP1319 出土遺物



1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（まじり中粗）、植物中粗）、褐色土ブロック多量含む。粘質土。

第 209 図　SP1320 平断面図（1/20）



第 210 図　SP1320 出土遺物

351 号小穴（SP1351）（第 213・214 図）

検出地点　O－12 グリッド。

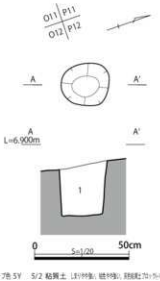
形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.41m、最大深度は 0.41m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層がにぶい黄色、2 層が灰黄色、3 層が暗灰黄色、4 層が黄灰色となっている。1 層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況　2 層と 3 層の境から土器が出土している。

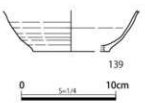
出土遺物　140 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

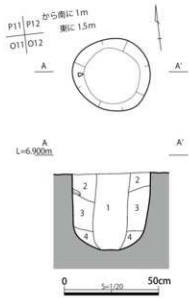


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（ φ1~99㎜、砂 99㎜）、炭化物ブロック~40㎜含む。

第 211 図　SP1348 平断面図（1/20）

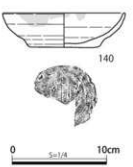


第 212 図　SP1348 出土遺物



1 にぶい黄色　2.5Y　6/3 粘質土（ φ1~99㎜、砂 99㎜）、炭化物ブロック~40㎜含む。炭化物ブロック~数ブロック~40㎜含む。赤褐色粒が散在。
2 灰黄色　2.5Y　6/2 粘質土（ φ1~99㎜、砂 99㎜）、炭化物ブロック~40㎜含む。炭化物ブロック~40㎜含む。赤褐色粒が少たに含む。
3 暗灰黄色　2.5Y　5/2 粘質土（ φ1~99㎜、砂 99㎜）、炭化物ブロック~40㎜含む。赤褐色粒が少たに含む。
4 黄灰色　2.5Y　5/1 粘質土（ φ1~99㎜、砂 99㎜）、炭化物ブロック~40㎜含む。

第 213 図　SP1351 平断面図（1/20）



第 214 図　SP1351 出土遺物

378 号小穴（SP1378）（第 215・216 図）

検出地点　S－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.28m、最大深度は 0.21m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　141 は弥生土器の鉢である。

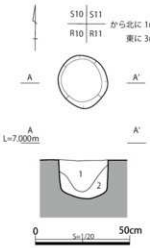
時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

390 号小穴（SP1390）（第 217・218 図）

検出地点　R－11 グリッド。

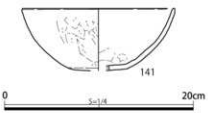
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.47m、短軸が 0.38m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は長方形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

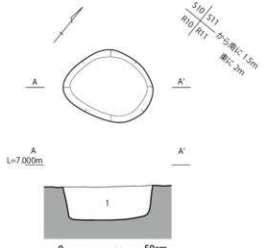


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い 砂やや強い 炭オリーブ色粘質土ブロック(~0.2cm)20%含む。
2 炭オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い 砂やや強い オリーブ褐色粘質土ブロック(~0.1cm)20%含む。

第 215 図　SP1378 平断面図（1/20）

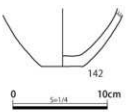


第 216 図　SP1378 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い 砂やや強い 炭褐色粘質土ブロック(~0.1cm)20%含む。マンガン粒(~0.2cm)を含む。

第 217 図　SP1390 平断面図（1/20）



第 218 図　SP1390 出土遺物

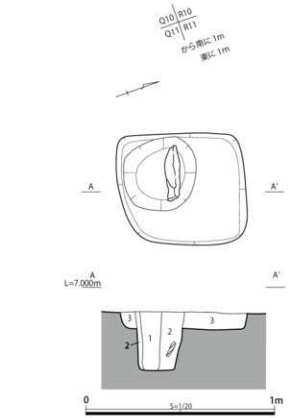
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　142 は弥生土器の甕である。
時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

403 号小穴（SP1403）（第 219 図）

検出地点　Q－11 グリッド。
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.67m、短軸が 0.58m、最大深度は 0.32m を測る。断面形状は二段形である。
土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層は黄灰色、2・3 層は暗灰黄色となっている。1 層は柱痕と考えられる。
遺物出土状況　2 層中から柱の隙間の詰め石とみられる礫が出土している。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　年代は特定できない。

424 号小穴（SP1424）（第 220・221 図）

検出地点　Q－11 グリッド。
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、SP1421、SP1422 に周囲を切られている。長軸が 0.69m、短軸が 0.63m、最大深度は 0.33m を測り、断面形状は二段形である。



第 219 図　SP1403 平断面図（1/20）

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が暗灰黄色、3 層が黄灰色、4 層が黄褐色となっている。2 層は柱の抜き取り痕と考えられる。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　143 は土師器の皿である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

437 号小穴（SP1437）（第 222 図）

検出地点　P－11・Q－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し、南側を SP1436 に切られている。一辺 0.19m、最大深度は 0.19m を測り、断面形状は長方形である。

土層　黄灰色粘質土 1 層である。

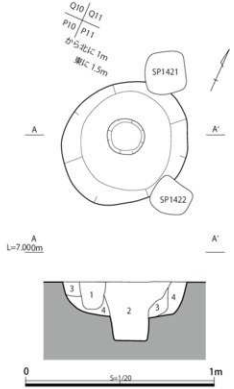
遺物出土状況　下部付近から根石と考えられる礫が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

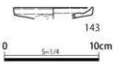
時期　年代は特定できない。

447 号小穴（SP1447）（第 223・224 図）

検出地点　P－11 グリッド。



第 220 図　SP1424 平断面図（1/20）



第 221 図　SP1424 出土遺物

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.39m、短軸が 0.34m、最大深度は 0.33m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2・3 層が黄灰色となっている。

遺物出土状況　1 層中からは柱とみられる炭化材が出土している。また検出面上面付近を中心として焼土の拡がりがみられた。

出土遺物　S15 は砂岩の敲石である。

時期　年代は特定できない。

448 号小穴（SP1448）（第 225・226 図）

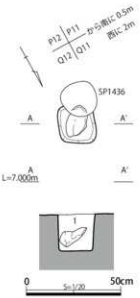
検出地点　P－11 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形を呈し長軸が 0.49m、短軸が 0.38m、最大深度は 0.55m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1・2 層が暗灰黄色、3 層がオリーブ褐色、4 層が黒褐色となっている。2 層は柱の抜き取り痕と考えられる。また 1 ～ 3 層中にはやや大粒の炭化物片が含まれている。

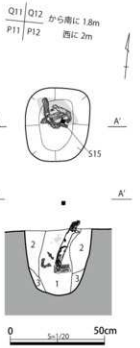
遺物出土状況　遺構検出面上面において土器が、2 層中からは金属製品がそれぞれ出土している。

出土遺物　144・145 は土師器の杯である。底部の切り離しはいずれも回転ヘラ切りである。T11 は銭貨である。3 枚が重なった状態で付いているため銭種は不明である。



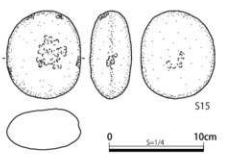
1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土（まれや強い、硬性や強い、ガラ・浮石粗土フロ・ガ・約1cm以内含む、炭化物ガ・4mm以下含む。

第 222 図　SP1437 平断面図（1/20）



1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（まれや強い、硬性や強い、炭化物粗土フロ・ガ・約2cm以内含む、炭化物・炭化面・4mm以下含む。
2 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（まれや強い、硬性や強い、ガラ・浮石粗土フロ・ガ・約4cm以内含む、炭化物・約4mm以下含む、焼成粘土含む。
3 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（まれや強い、硬性や強い、粗粒粘質土フロ・ガ・約2cm以内含む。

第 223 図　SP1447 平断面図（1/20）



第 224 図　SP1447 出土遺物

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

451 号小穴（SP1451）（第 227・228 図）

検出地点　P－11 グリッド。

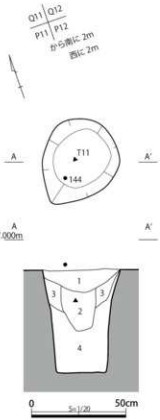
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、SP1449、SP1450 に周囲を切られている。残存値で長軸が 0.28m、短軸が 0.26m、最大深度は 0.20m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　1 層中から礫が出土している。

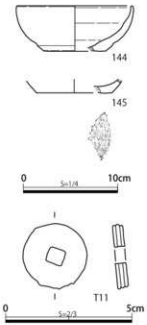
出土遺物　S16 は結晶片岩の分割石である。

時期　年代は特定できない。

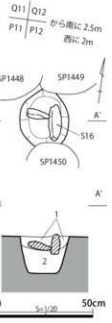


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 〔やややや強い、粘性やや強い、事前掘削土ブロック～φ1cm20%含む、炭化物ごく少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 〔やややや強い、粘性やや強い、事前掘削土ブロック～φ1cm30%含む、炭化物ごく少量含む。〔地盤崩土〕〕粘土。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 〔やややや強い、粘性やや強い、炭化物～φ1cm少量含む。
4 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 〔やややや強い、粘性強い、事前掘削土ブロック～φ1cm20%含む。

第 225 図　SP1448 平断面図（1/20）

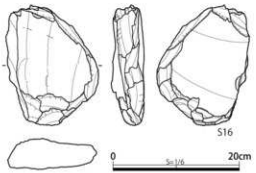


第 226 図　SP1448 出土遺物

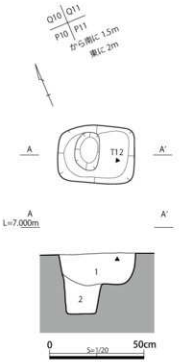


1 オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 〔やややや強い、粘性やや強い、事前掘削土ブロック～φ1cm20%含む。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 〔やややや強い、粘性やや強い、事前掘削土ブロック～φ1cm20%含む。

第 227 図　SP1451 平断面図（1/20）

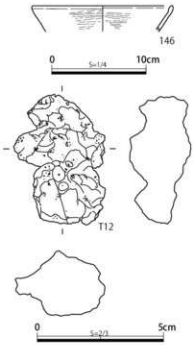


第 228 図　SP1451 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（上10~15cm、底部中央に、土器・金属製品がまとまって出土。）
2 黒褐色 2.5Y 3/1 粘質土（上10~15cm、底部中央に、土器・金属製品がまとまって出土。）

第 229 図　SP1454 平断面図（1/20）



第 230 図　SP1454 出土遺物

454 号小穴（SP1454）（第 229・230 図）

検出地点　P－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.41m、短軸が 0.31m、最大深度は 0.49m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　1 層中から金属が出土している。

出土遺物　146 は黒色土器 B 類の椀である。T12 は鉄滓である。

時期　出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

460 号小穴（SP1460）（第 231・232 図）

検出地点　P－11 グリッド。

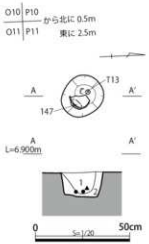
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.24m、短軸が 0.20m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　底部付近から土器や金属製品がまとまって出土している。

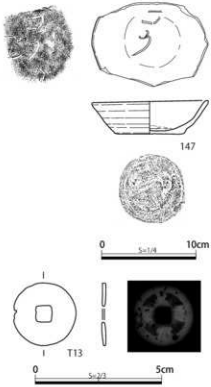
出土遺物　147 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。底部の内面に「コウ」の刻書がみられる。T13 は銭貨で 1039 年初鋳の「皇宋通寶」である。

時期　出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代初期頃の年代が想定される。

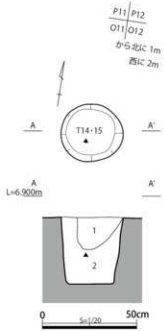


1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土　しまり中強、粘性中強。炭粒微量、ブロック(~4cm)含む。炭化物(~数cm)中程度含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土　しまり中強、粘性中強。炭粒微量、ブロック(~4cm)含む。炭化物(~数cm)微量含む。

第 231 図　SP1460 平断面図（1/20）

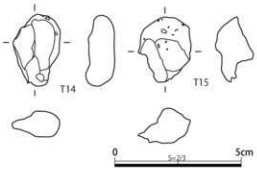


第 232 図　SP1460 出土遺物

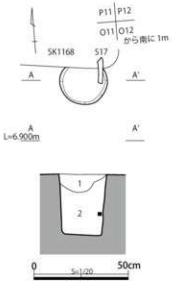


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土　しまり中強、粘性中強。にぶい黄褐色ブロック(~4cm)含む。炭化物(~数cm)まばらに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土　しまり中強、粘性中強。黄褐色ブロック(~4cm)含む。炭化物(~数cm)微量。

第 233 図　SP1462 平断面図（1/20）

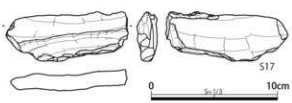


第 234 図　SP1462 出土遺物

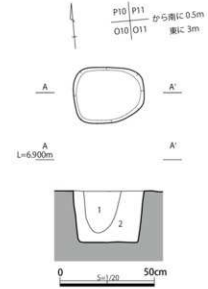


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強く、粘性やや強く、鉄分沈着とフロックが多量に含まれる。部分的に撹乱を。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強く、粘性やや強く、鉄分沈着とフロックが多量に含まれる。部分的に撹乱を。

第 235 図　SP1473 平断面図（1/20）

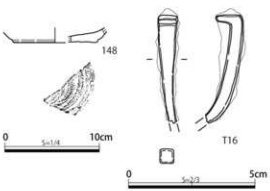


第 236 図　SP1473 出土遺物



1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強く、粘性やや強く、鉄分沈着とフロックが多量に含まれる。部分的に撹乱を。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強く、粘性やや強く、鉄分沈着とフロックが多量に含まれる。部分的に撹乱を。

第 237 図　SP1476 平断面図（1/20）



第 238 図　SP1476 出土遺物

462 号小穴（SP1462）（第 233・234 図）

検出地点　P－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.33m、最大深度は 0.38m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　第 2 層から金属関連遺物が出土している。

出土遺物　T14・T15 は鉄滓である。

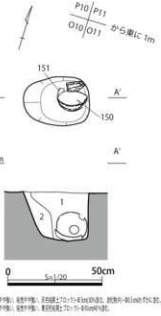
時期　年代は特定できない。

473 号小穴（SP1473）（第 235・236 図）

検出地点　O－11 グリッド。

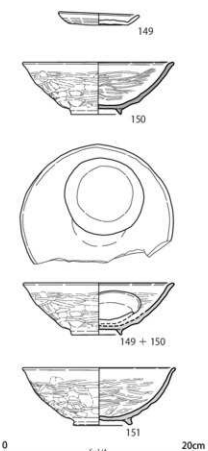
形態・規模　平面形状は円形を呈し北側を SK1168 に切られている。径が 0.25m、最大深度は 0.33m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層がオリーブ褐色となっている。

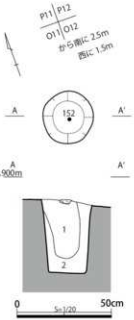


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い。植物や微小、炭化物とブロック(5~40cm)が混在。鉄分が5~40cmが大に混じ。最初~マンガン細粒物が大に混じ。
2 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土　しまりやや強い。植物や微小、炭化物とブロック(5~40cm)が小混じ。

第 239 図　SP1482 平断面図（1/20）



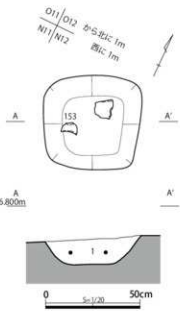
第 240 図　SP1482 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い。植物や微小、炭化物とブロック(5~40cm)が混在。
2 オリーブ褐色 2.5Y　4/3 粘質土　しまりやや強い。植物や微小、炭化物と焼土粒が混在ブロック(5~40cm)が混在。

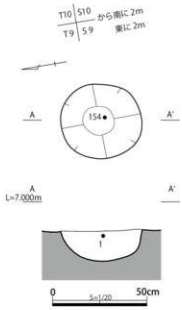
第 241 図　SP1494 平断面図（1/20）

第 242 図　SP1494 出土遺物



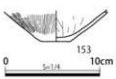
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、礫やや多い、炭化材多く、ブロック状の土が多く含む。最大径5cmの石が多く含む。）

第 243 図　SP1497 平断面図（1/20）

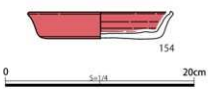


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物多く含む。）

第 245 図　SP1526 平断面図（1/20）



第 244 図　SP1497 出土遺物



第 246 図　SP1526 出土遺物

遺物出土状況　2 層の東壁際から石器が出土している。

出土遺物　S17 は結晶片岩の加工痕を有する剥片である。石庖丁の未製品の可能性が考えられる。

時期　出土した遺物から弥生時代以降の年代が想定される。

476 号小穴（SP1476）（第 237・238 図）

検出地点　O－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.38m、短軸が 0.30m、最大深度は 0.27m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

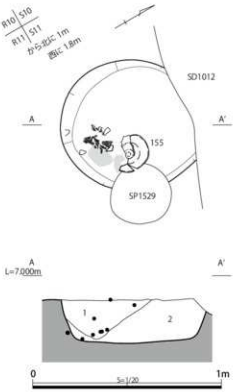
出土遺物　148 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。T16 は釘である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

482 号小穴（SP1482）（第 239・240 図）

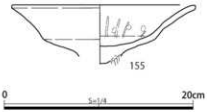
検出地点　O－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.27m、短軸が 0.19m、最大深度は 0.29m を測る。断面形状は逆台形である。

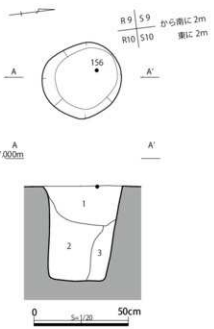


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 （まりや等）、砂や等）、炭粒径2フェ～7ミリ4%含む。黒色粘土フェ～7ミリ40%含む。炭化物、焼土4%程度含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 （まりや等）、砂や等）、炭粒径2フェ～7ミリ4%含む。黒色粘土フェ～7ミリ40%含む。

第 247 図　SP1530 平断面図（1/20）

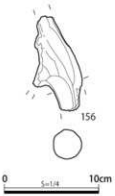


第 248 図　SP1530 出土遺物

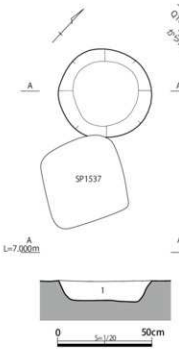


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 （まりや等）、砂や等）、炭粒径2フェ～7ミリ4%含む。焼土フェ～7ミリ4%にくしたがいに含む。炭化物1～4ミリ4%ぐらいに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 （まりや等）、砂や等）、炭化物1～4ミリ5%ぐらいに含む。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 （まりや等）、砂や等）、炭粒径2フェ～7ミリ4%含む。

第 249 図　SP1534 平断面図（1/20）

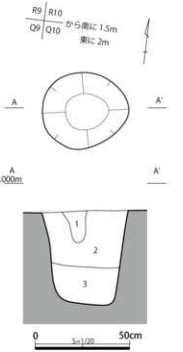


第 250 図　SP1534 出土遺物



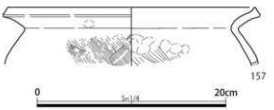
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物・赤白色粒炭土ブロック1~0.3cm20%含む。

第 251 図　SP1536 平断面図（1/20）

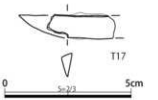


1 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物・炭化粒・ブロック~0.6cm10%含む、赤白・アズキ色・細砂粒やや多く含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物・炭化粒・ブロック~0.6cm20%含む、赤白・アズキ色・細砂粒やや多く含む。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物・炭化粒・ブロック~0.6cm20%含む。

第 253 図　SP1539 平断面図（1/20）



第 252 図　SP1536 出土遺物

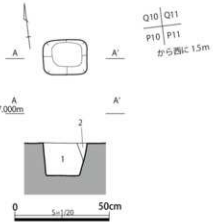


第 254 図　SP1539 出土遺物

土層　いずれも粘質土で２層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層がオリーブ黄色となっている。
遺物出土状況　1 層の底部から土師器の皿が 1 点と瓦器椀 2 点が重なって出土している。柱の抜き取り後の埋納と考えられる。
出土遺物　149 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。150・151 は瓦器椀である。
時期　出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代初期頃の年代が想定される。

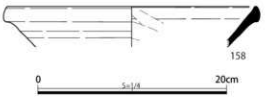
494 号小穴（SP1494）（第 241・242 図）

検出地点　O－11 グリッド。
形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.27m、最大深度は 0.39m を測る。断面形状は逆台形である。
土層　いずれも粘質土で２層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層がオリーブ褐色となっている。
遺物出土状況　検出面上面から土器が出土している。
出土遺物　152 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。
時期　出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代初期頃の年代が想定される。

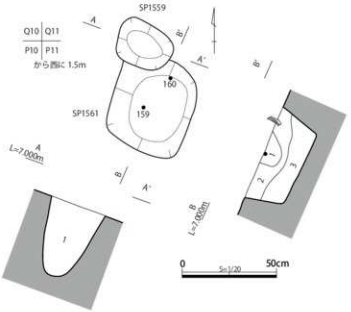


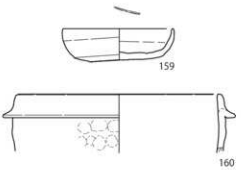
1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、にぶい橙色粘質土ブロック(～0.5cm)10%含む。
2 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.3cm)30%含む。表土(現代)が乗る。

第 255 図　SP1555 平断面図（1/20）



第 256 図　SP1555 出土遺物



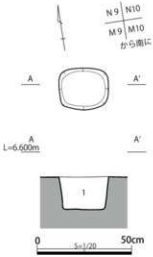


第 258 図　SP1561 出土遺物

SP1559
1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、灰白色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。埋土粒(～0.5cm)ごくわずかに含む。

SP1561
1 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～0.5cm)10%含む。鉄分・マンガン小粒状がごく含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.5cm)30%含む。鉄分・マンガン集い粒状が多く含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土　しまりやや強い、砂性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。炭化物(～0.1cm)わずかに含む。

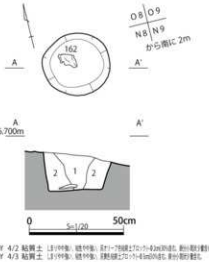
第 257 図　SP1559・SP1561 平断面図（1/20）



1 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土（やややや強い、硬やや強い）。暗褐色粘質土ブロック（～4.2cm）含む。

第 259 図　SP1617 平断面図（1/20）

第 260 図　SP1617 出土遺物



1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（やややや強い、硬やや強い）。オリーブ褐色土ブロック（～4.2cm）含む。炭化材含む。
2 オリーブ褐色　2.5Y 4/3 粘質土（やややや強い、硬やや強い）。炭化材含む。ブロック（～4.0cm）含む。炭化材含む。

第 261 図　SP1644 平断面図（1/20）

第 262 図　SP1644 出土遺物

497 号小穴（SP1497）（第 243・244 図）

検出地点　O－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し一辺が 0.51m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　中層付近から土器が出土している。

出土遺物　153 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

526 号小穴（SP1526）（第 245・246 図）

検出地点　S－10 グリッド。

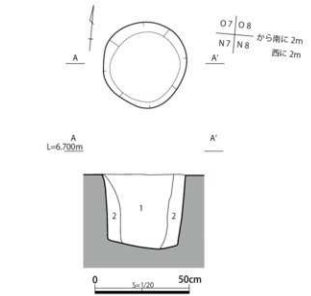
形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.43m、最大深度は 0.17m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　154 は土師器の杯である。内外面に赤色塗彩が施される。

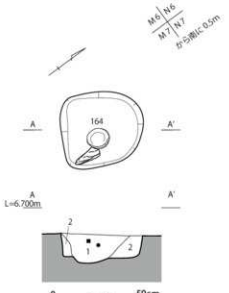
時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（上1/3中層）、砂質中層に、炭化物多く含む。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土（上1/3中層）、粗粒砂礫とマンガン多く含む。マンガン層形成。

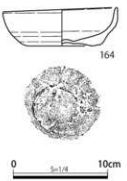
第 263 図　SP1690 平断面図（1/20）

第 264 図　SP1690 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（上1/3中層）、砂質中層に、炭化物多く含む。粗粒砂礫とマンガン多く含む。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土（上1/3中層）、砂質中層に、炭化物多く含む。粗粒砂礫とマンガン多く含む。

第 265 図　SP1700 平断面図（1/20）



第 266 図　SP1700 出土遺物

530 号小穴（SP1530）（第 247・248 図）

検出地点　S－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、北側を SD1012 に、東側を SP1529 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 0.74m、短軸が 0.69m、最大深度は 0.29m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　1 層中を中心として土器および焼土・炭化物が出土している。

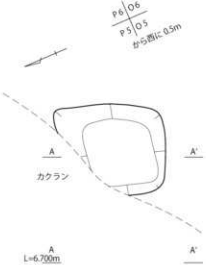
出土遺物　155 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

534 号小穴（SP1534）（第 249・250 図）

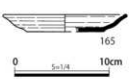
検出地点　R－1 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.43m、短軸が 0.40m、最大深度は 0.50m を測る。断面



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ φ1～5mm、焼ボケ多、炭粒・焼土ブロック・小礫φ2mm含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（ φ1～5mm、焼ボケ多、炭粒・焼土ブロック・小礫φ2mm含む。炭化物・φ5mmにくだけ含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土（ φ1～5mm、焼ボケ多、炭粒・焼土ブロック・小礫φ2mm含む。

第 267 図　SP1728 平断面図（1/20）



第 268 図　SP1728 出土遺物

形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1･2 層が暗灰黄色、3 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　156 は土師質土器の羽釜の脚部である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

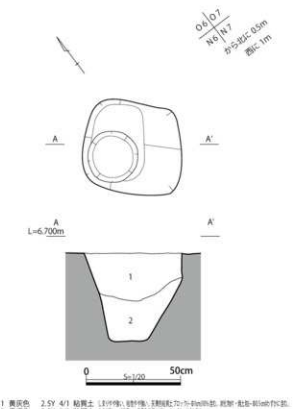
536 号小穴（SP1536）（第 251・252 図）

検出地点　Q－10 グリッド。

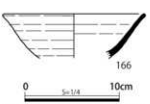
形態・規模　平面形状は円形を呈し南側を SP1537 に切られている。径が 0.49m、最大深度は 0.13m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

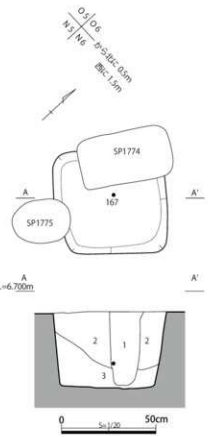
遺物出土状況　図化可能なものはない。



第 269 図　SP1763 平断面図（1/20）



第 270 図　SP1763 出土遺物



第 271 図　SP1776 平断面図（1/20）

第 272 図　SP1776 出土遺物

出土遺物　157 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

539 号小穴（SP1539）（第 253・254 図）

検出地点　Q－10 グリッド。

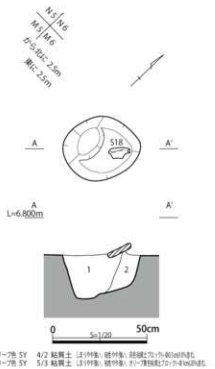
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.46m、短軸が 0.40m、最大深度は 0.50m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1 層が黄褐色、2 層が暗灰黄色、3 層がオリーブ褐色となっている。

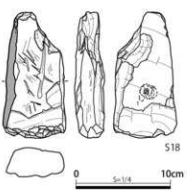
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　T17 は刀子である。

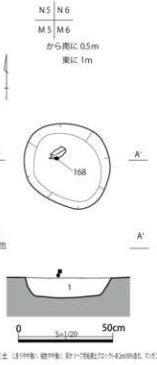
時期　年代は特定できない。



第 273 図　SP1798 平断面図（1/20）



第 274 図　SP1798 出土遺物



第 275 図　SP1819 平断面図（1/20）

第 276 図　SP1819 出土遺物

555 号小穴（SP1555）（第 255・256 図）

検出地点　P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.23m、短軸が 0.19m、最大深度は 0.19m を測る。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰オリーブ色、2 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

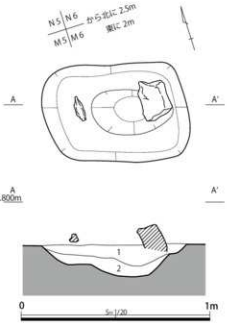
出土遺物　158 は東播系須恵器のこね鉢である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

559 号小穴（SP1559）（第 257 図）

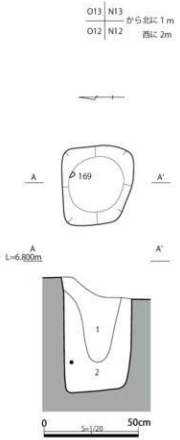
検出地点　P－10・Q－10 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な長方形を呈し長軸が 0.30m、短軸が 0.23m、最大深度は 0.39m を



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック～φ1cm(30%)含む。
2 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック～φ2cm(20%)含む。

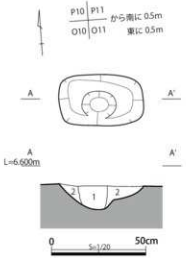
第 277 図　SP1844 平断面図（1/20）



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック～φ1cm(30%)含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック～φ1cm(10%)含む。

第 278 図　SP1866 平断面図（1/20）

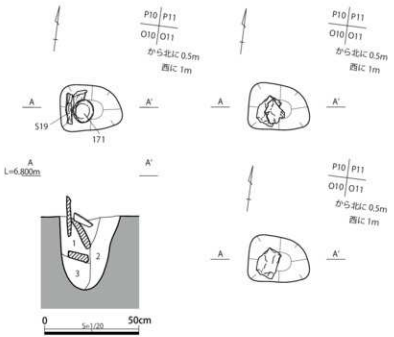
第 279 図　SP1866 出土遺物



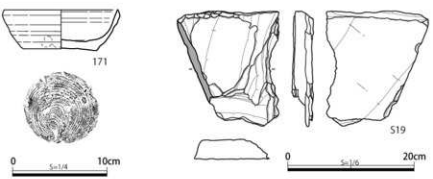
1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭粒径2ブロック～φ1cm(10%)含む、炭化物φ1～4cm(5%)含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭粒径2ブロック～φ1cm(2%)含む。

第 280 図　SP1875 平断面図（1/20）

第 281 図　SP1875 出土遺物



第 282 図　SP1878 平断面図（1/20）



第 283 図　SP1878 出土遺物

測る。断面形状は丸底形である。

土層　灰オリーブ色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　遺構の切り合い関係から鎌倉時代以降の年代が想定される。

561 号小穴（SP1561）（第 257・258 図）

検出地点　P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北側を SP1559 に切られている。長軸が 0.51m、短軸が 0.43m、最大深度は 0.25m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が黄灰色、2・3 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　159 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。160 は土師質土器の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

617 号小穴（SP1617）（第 259・260 図）

検出地点　M－9 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.26m、短軸が 0.22m、最大深度は 0.19m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　黒褐色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　161 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

644 号小穴（SP1644）（第 261・262 図）

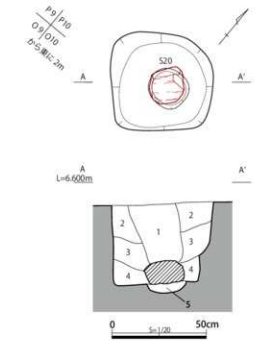
検出地点　N－8 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.36m、最大深度は 0.21m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層がオリーブ褐色となっている。

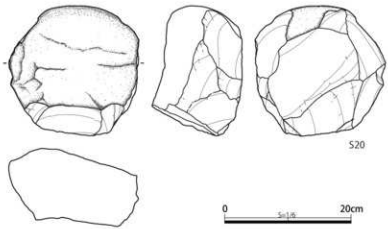
遺物出土状況　底部付近から土器が出土している。

出土遺物　162 は弥生土器の高杯である。



1 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（上は中砂層、粒径中層、土壌粒径2フロー75～4.8mm含む、粒径中～粗砂が多く含む）
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（上は中砂層、粒径中層、粒径粗径2フロー75～4.8mm含む）
3 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（上は中砂層、粒径中層、粒径～土壌粒径2フロー75～4.8mm含む）
4 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（上は中砂層、粒径層、粒径粗径2フロー75～4.8mm含む）
5 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（上は中砂層、粒径層、粒径粗径2フロー75～4.8mm含む）

第 284 図　SP1881 平断面図（1/20）



第 285 図　SP1881 出土遺物

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

690 号小穴（SP1690）（第 263・264 図）

検出地点　N－7 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.48m、最大深度は 0.41m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層がにぶい黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　163 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

700 号小穴（SP1700）（第 265・266 図）

検出地点　M－7 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形を呈し長軸が 0.43m、短軸が 0.40m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は浅い二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　中央で底部からやや浮いた部分から土器および結晶片岩の板石が出土している。

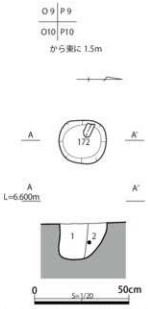
出土遺物　164 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

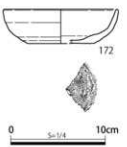
728 号小穴（SP1728）（第 267・268 図）

検出地点　P－5 グリッド。

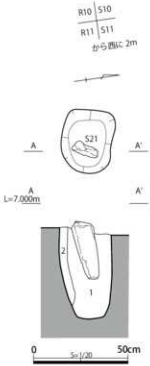
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北西部分を攪乱に切られている。長軸が 0.55m、短軸が 0.48m、



第 286 図　SP1882 平断面図（1/20）

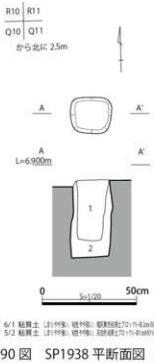


第 287 図　SP1882 出土遺物



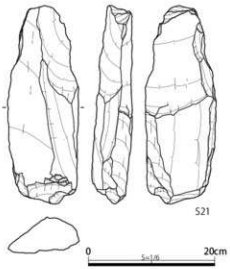
1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（炭・焼土粒、礫を含む。土器・石器を含む。底面形=40cm前後に含む。）
2 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（炭・焼土粒、礫を含む。土器・石器を含む。底面形=40cm前後に含む。）

第 288 図　SP1937 平断面図（1/20）

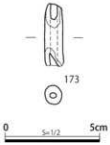


1 黄灰色　2.5Y 6/1 粘質土（炭・焼土粒、礫を含む。土器・石器を含む。底面形=40cm前後に含む。）
2 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（炭・焼土粒、礫を含む。土器・石器を含む。底面形=40cm前後に含む。）

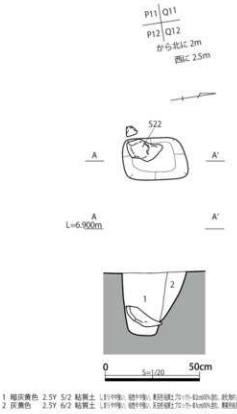
第 290 図　SP1938 平断面図（1/20）



第 289 図　SP1937 出土遺物

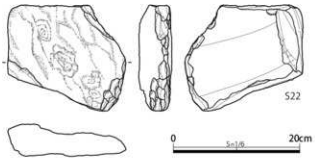


第 291 図　SP1938 出土遺物

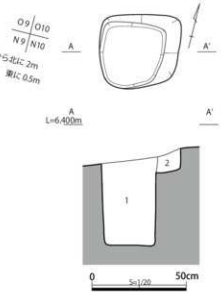


1 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（ φ1~5mm砂含む。炭化物~φ2cmの炭含む。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（ φ1~5mm砂含む。炭化物~φ2cm炭含む。

第 292 図　SP1939 平断面図（1/20）

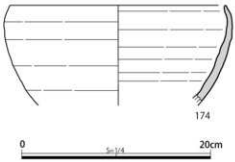


第 293 図　SP1939 出土遺物



1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（ φ1~5mm砂含む。オリーブ褐色土ブロック5~8mm砂含む。炭化物~φ3mmが炭含む。マンガン集中部分が含む。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（ φ1~5mm砂含む。黒褐色土ブロック5~8mm砂含む。マンガン集中部分が含む。

第 294 図　SP1960 平断面図（1/20）



第 295 図　SP1960 出土遺物

最大深度は 0.49m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・2 層が暗灰黄色、3 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

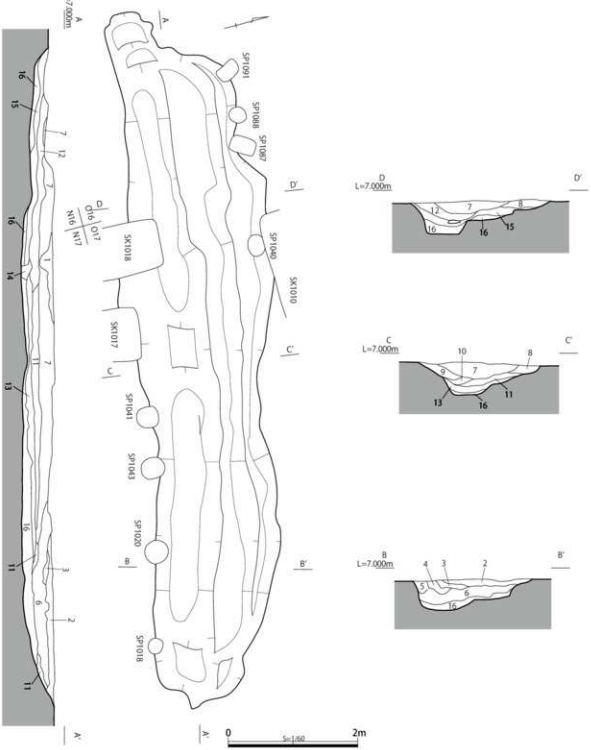
出土遺物　165 は須恵器の皿である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

763 号小穴（SP1763）（第 269・270 図）

検出地点　N－6・O－6 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し一辺が 0.52m、最大深度は 0.60m を測る。断面形状はやや不整な逆台形である。



第 296 図　SX1001 平断面図①（1/60）

1　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性弱い、黒褐色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。土器片(～0.1cm)少量含む。鉄分・マンガン細粒末少量含む。
2　黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。炭化物片(～0.2cm)やや多く含む。土器片(～0.5cm)わずかに含む。焼土粒(～0.2cm)わずかに含む。
3　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、オリーブ色粘質土ブロック(～0.2cm)30%含む。炭化物片(～0.1cm)多く含む。
4　灰色　　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、淡色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。炭化物片(～0.5cm)やや多く含む。焼土粒(～0.5cm)わずかに含む。
5　灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄色～淡色粘質土ブロック(～0.5cm)20%含む。炭化物片(～0.5cm)にくもりがに含む。
6　黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。炭化物片(～0.2cm)やや多く含む。焼土粒(～0.1cm)わずかに含む。
7　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粗性強い、炭化物片・焼土粒(～0.1cm)やや多く含む。鉄・0.5cmわずかに含む。
8　黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック(～0.1cm)1%含む。炭化物片(～0.1cm)わずかに含む。
9　にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～0.2cm)40%含む。炭化物片(～0.1cm)わずかに含む。
10 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄色粘質土ブロック(～0.2cm)20%含む。炭化物片(～0.1cm)わずかに含む。
11 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～0.2cm)10%含む。炭化物片(～0.5cm)わずかに含む。
12 褐オリーブ色 5Y　4/3 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。炭化物片(～0.1cm)にくもりがに含む。
13 灰色　　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。
14 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、淡色粘質土ブロック(～0.1cm)20%含む。炭化物片・焼土粒(～0.5cm)わずかに含む。
15 灰色　　5Y　5/1 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～0.5cm)30%含む。
16 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、淡色粘質土ブロック(～0.1cm)10%含む。焼土粒(～0.5cm)わずかに含む。

第 297 図　SX1001 平断面図②

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　166 は須恵器の椀である。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

776 号小穴（SP1776）（第 271・272 図）

検出地点　N－5・O－5 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し、東側を SP1774 に、南側を SP1775 にそれぞれ切られている。一辺が 0.60m、最大深度は 0.41m を測り、断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・3 層が黒褐色、2 層が暗灰黄色となっている。1 層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況　第 1 層下部から土器が出土している。

出土遺物　167 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から奈良時代以降の年代が想定される。

798 号小穴（SP1798）（第 273・274 図）

検出地点　N－6 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.41m、短軸が 0.34m、最大深度は 0.24m を測る。断面形状はやや不整な二段形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　遺構検出面上面から石器が出土している。

出土遺物　S18 は滑石の温石である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

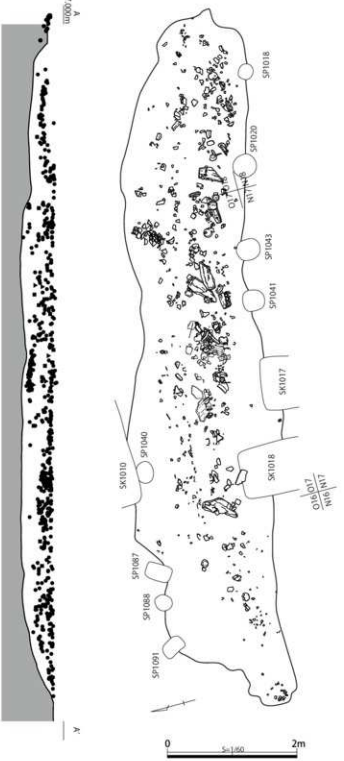
819 号小穴（SP1819）（第 275・276 図）

検出地点　M－6 グリッド。

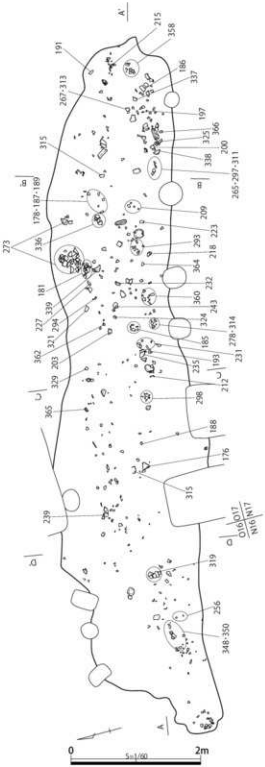
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.46m、短軸が 0.43m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

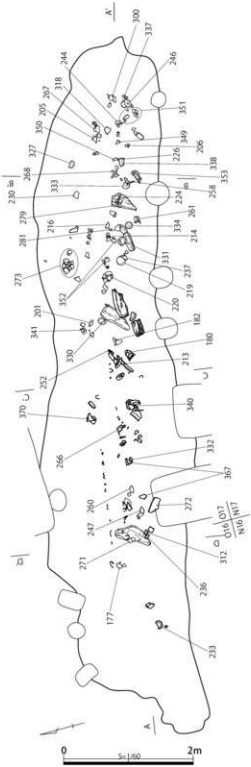
遺物出土状況　遺構検出面上面から礫とともに土器が出土している。



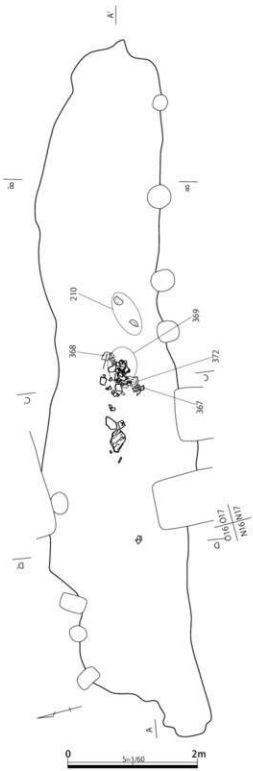
第 298 図　SX1001 遺物出土状況図①（1/60）



第 299 図　SX1001 遺物出土状況図②（1/60）



第 300 図　SX1001 遺物出土状況図③（1/60）



第 301 図　SX1001 遺物出土状況図④（1/60）

出土遺物　168 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

844 号小穴（SP1844）（第 277 図）

検出地点　N－6 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.77m、短軸が 0.51m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　中央最深部を挟んで両側に礫が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

866 号小穴（SP1866）（第 278・279 図）

検出地点　O－12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.41m、短軸が 0.37m、最大深度は 0.61m を測る。断面形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　第 2 層中の北壁寄りから土器が出土している。

出土遺物　169 は弥生土器の高杯の脚部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後半以降の年代が想定される。

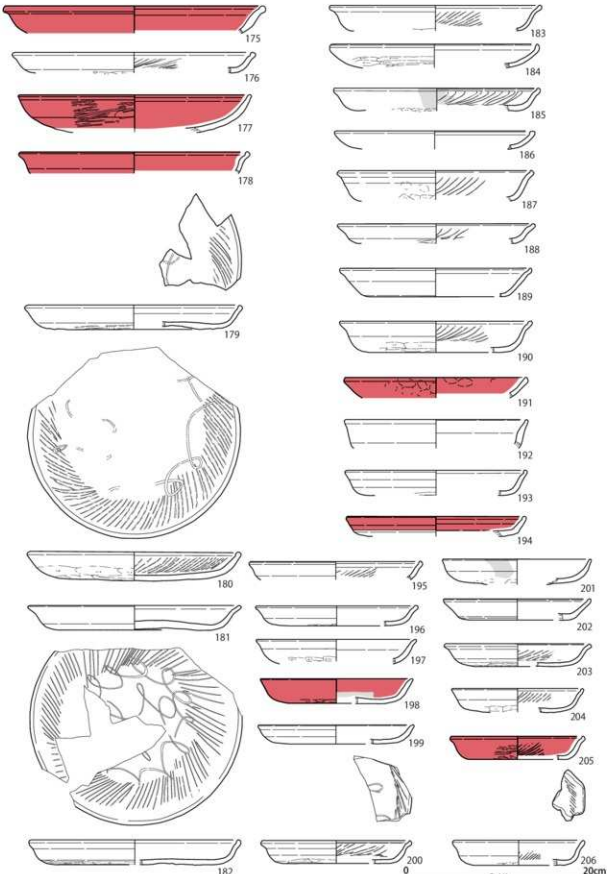
875 号小穴（SP1875）（第 280・281 図）

検出地点　O－11 グリッド。

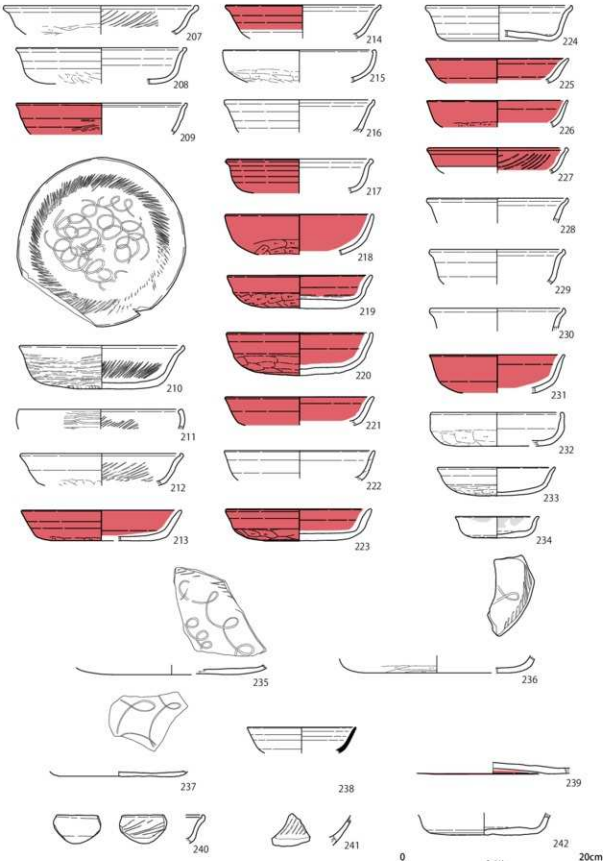
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.45m、短軸が 0.27m、最大深度は 0.13m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

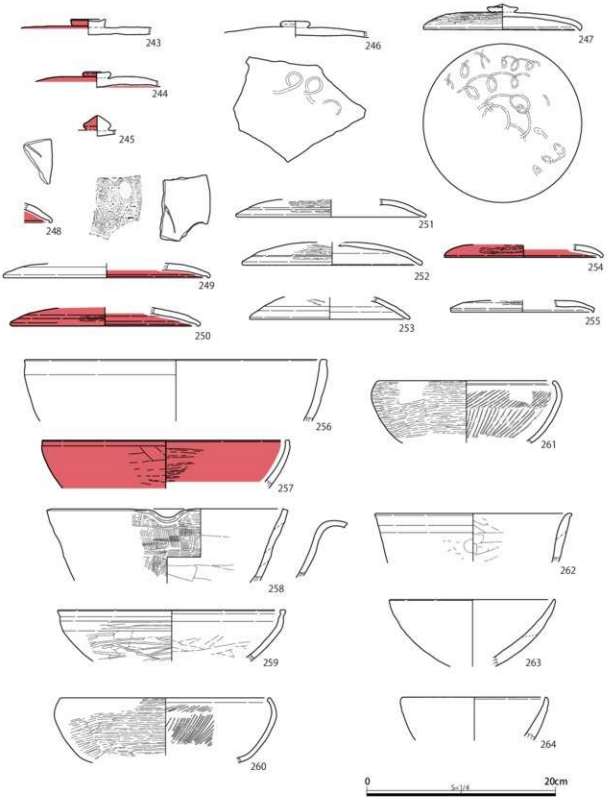
遺物出土状況　図化可能なものはない。



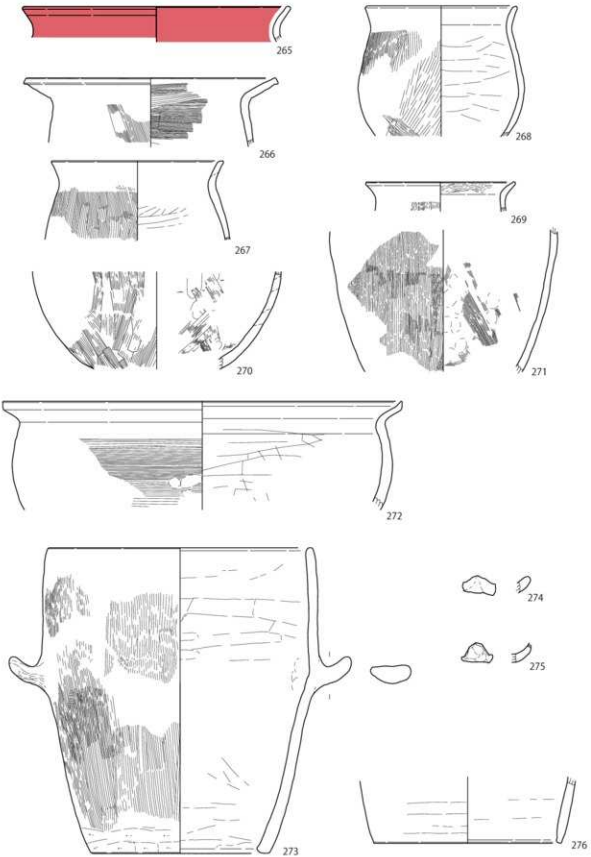
第 302 図　SX1001 出土遺物①



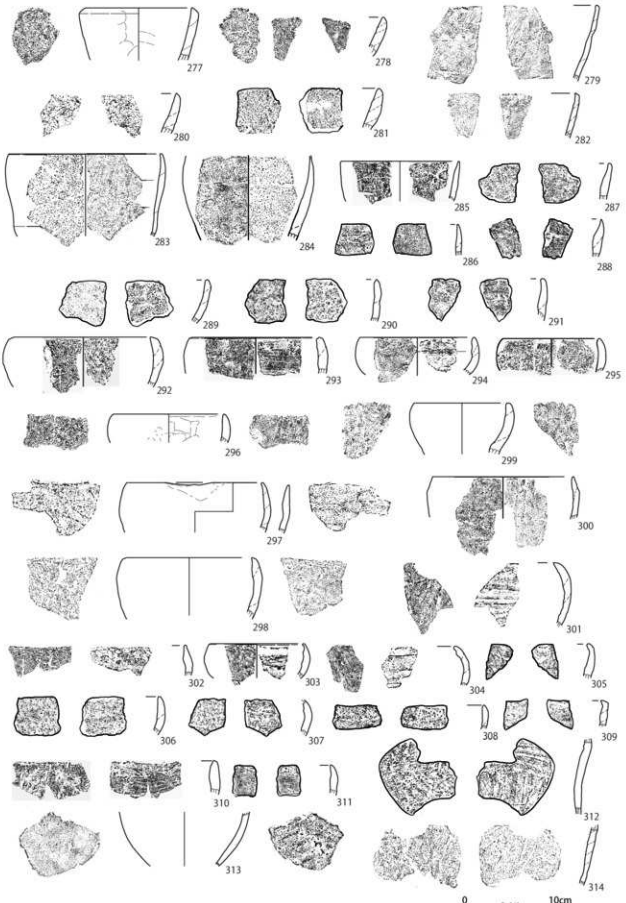
第 303 図　SX1001 出土遺物②



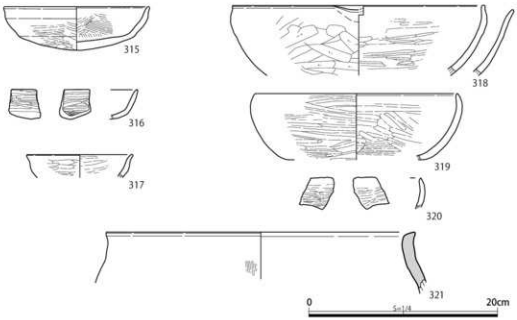
第 304 図　SX1001 出土遺物③



第 305 図　SX1001 出土遺物④



第 306 図　SX1001 出土遺物⑤



第 307 図　SX1001 出土遺物⑥

出土遺物　170 は土師器の杯である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

878 号小穴（SP1878）（第 282・283 図）

検出地点　O－10・P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な長方形を呈し長軸が 0.31m、短軸が 0.23m、最大深度は 0.40m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が灰オリーブ色、2・3 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　いずれも 1 層中から結晶片岩の板状の礫と土器が出土している。

出土遺物　171 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。S19 は結晶片岩の板状の礫である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

881 号小穴（SP1881）（第 284・285 図）

検出地点　O－10・P－10 グリッド。

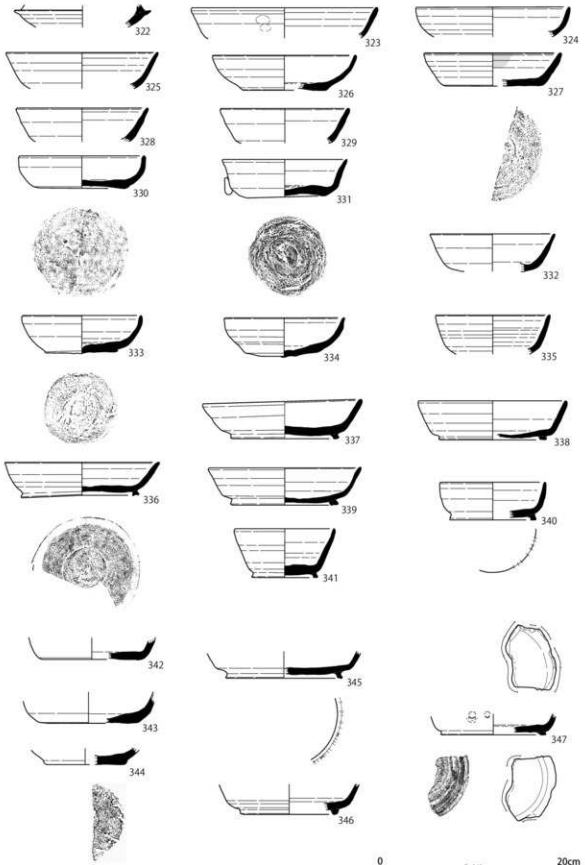
形態・規模　平面形状はやや不整な方形を呈し、一辺が 0.54m、最大深度は 0.55m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 5 層に分層され、1・3 層が暗灰黄色、2 層が灰黄色、4・5 層が黄灰色となっている。1 層は柱痕と考えられる。

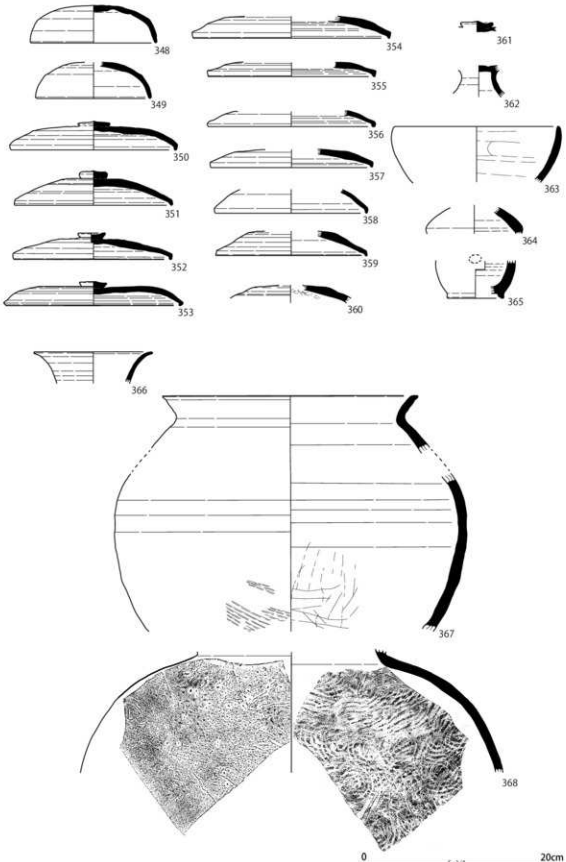
遺物出土状況　1 層下部から根石とみられる大型の礫が出土している。

出土遺物　S20 は砂岩の分割礫である。

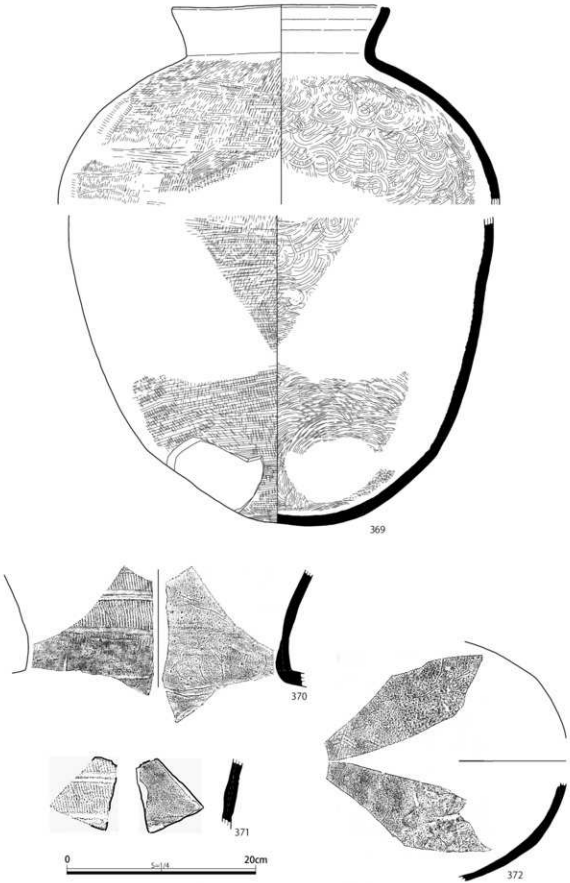
時期　年代は特定できない。



第 308 図　SX1001 出土遺物⑦



第 309 図　SX1001 出土遺物⑧



第 310 図　SX1001 出土遺物⑨

882 号小穴（SP1882）（第 286・287 図）

検出地点　P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸は 0.25m、短軸は 0.23m、最大深度は 0.19m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　西壁寄りの中層から土器が出土している。

出土遺物　172 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

937 号小穴（SP1937）（第 288・289 図）

検出地点　R－10・S－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.33m、短軸が 0.27m、最大深度は 0.49m を測る。断面形状は長方形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　中央から棒状の礫が出土している。

出土遺物　S21 は結晶片岩の分割礫である。

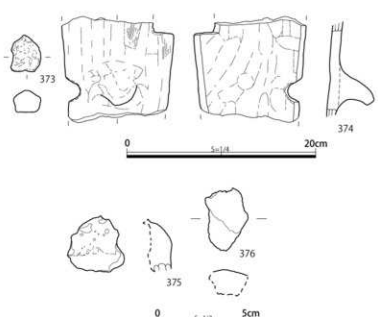
時期　年代は特定できない。

938 号小穴（SP1938）（第 290・291 図）

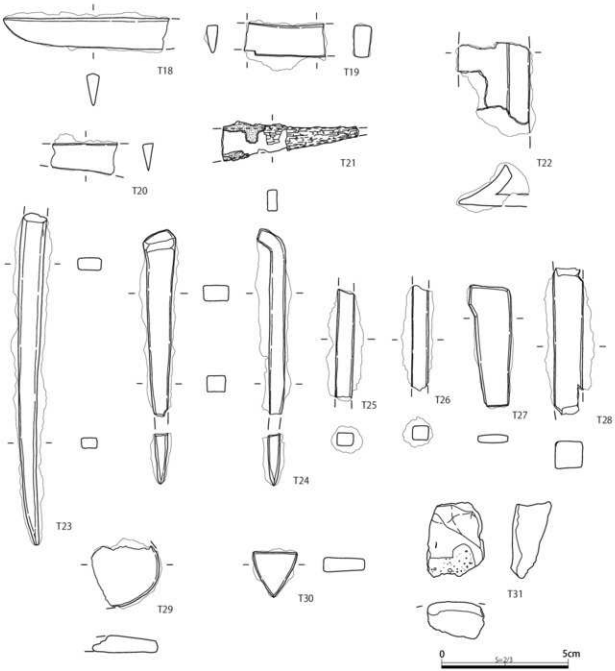
検出地点　R－11 グリッド。

形態・規模　平面形状はほぼ方形を呈し一辺が 0.21m、最大深度は 0.42m を測る。断面の形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。



第 311 図　SX1001 出土遺物⑩



第 312 図　SX1001 出土遺物⑪

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　173 は管状の土錘である。

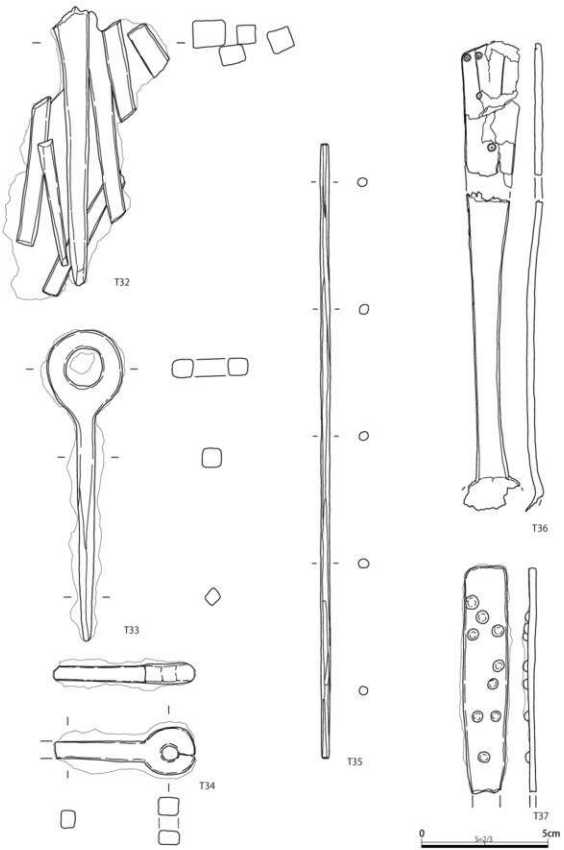
時期　年代は特定できない。

939 号小穴（SP1939）（第 292・293 図）

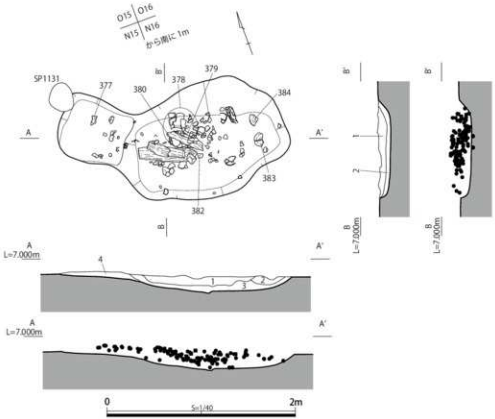
検出地点　Q－11 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 0.34m、短軸が 0.22m、最大深度は 0.33m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が灰黄色となっている。



第 313 図　SX1001 出土遺物⑫



第 314 図　SX1002 平断面図（1/40）

遺物出土状況　第 1 層底部付近から板状の礫が出土している。

出土遺物　S22 は結晶片岩の分割礫である。

時期　年代は特定できない。

960 号小穴（SP1960）（第 294・295 図）

検出地点　O－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し一辺が 0.42m、最大深度は 0.57m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　174 は瓦質土器の鉢である。

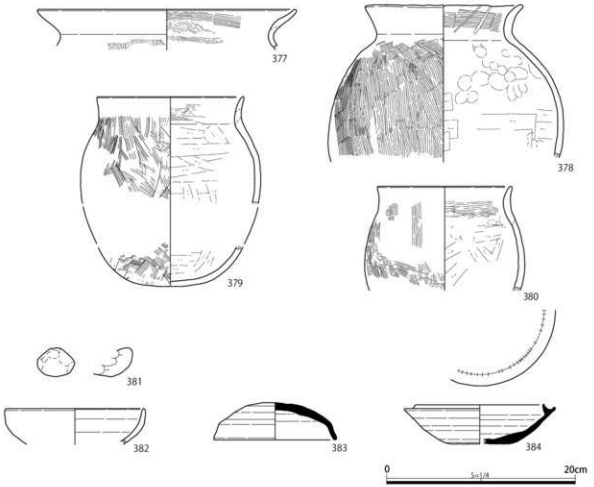
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

⑦性格不明遺構（SX）

1 号性格不明遺構（SX1001）（第 296 ～ 313 図）

検出地点　N－16 ～ 18・O－16 ～ 18 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝状の遺構で長軸が 11.21m、短軸が 2.21m、最大深度は 0.57m を測る。断面形状は南北断面においておもに二段形を呈する。

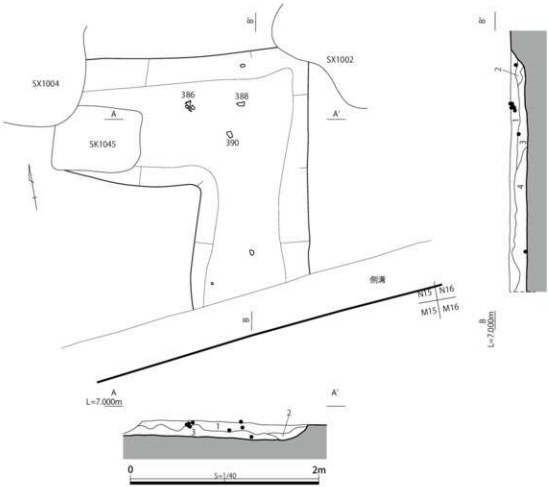


第 315 図　SX1002 出土遺物

土層　いずれも粘質土で 16 層に分層されており、1・5・10・11・14・16 層が灰オリーブ色、2・3・6・7・8 層が黄灰色、4・13・15 層が灰色、9 層がにぶい黄色、12 層が暗オリーブ色となっており、おもに上層部分に黄灰色粘質土、下層部分には灰オリーブ色粘質土がそれぞれ主体として堆積している。

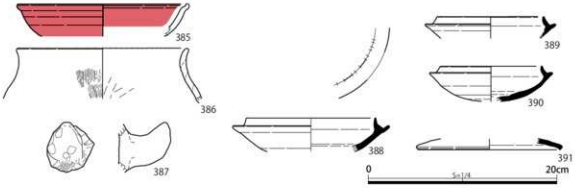
遺物出土状況　上層部の 6・7 層と下層部の 11・12 層を中心として遺物が出土している。遺構検出面付近ではおもに土器が主体として出土しており、焼土や炭化物も多く含んでいる。下層ではやや大型の土器類が中央付近にまとまっており、また 30 ～ 50cm の結晶片岩の板状礫も多く含んでいる。

出土遺物　175 ～ 314 は土師器である。175 ～ 206・235 ～ 239 は皿である。口径は約 30 ～ 15cm であり分布の幅は大きいが、口縁部～体部にかけて回転ナデにより整形し、底部は手持ちヘラケズリによって仕上げを行うものが主体である。内面には放射状および螺旋状の暗文を施すものが多くみられる。また一部には内外面に赤色塗彩が施されている。207 ～ 234・240 ～ 242 は杯である。整形や仕上げについては皿と共通するが、口径は約 20 ～ 10cm とやや小さい。また 210・211 のように体部外面にヘラミガキを施すものもみられる。243 ～ 255 は蓋である。口径は復元可能なもので約 20 ～ 15cm を主体としている。256 ～ 264 は鉢である。265 ～ 271 は甕である。272 は鍋である。273 ～ 276 は甑である。277 ～ 314 は製塩土器である。315 ～ 320 は黒色土器、315 ～ 317 は杯である。318 ～ 320 は鉢である。321 は瓦質土器の火鉢である。322 ～ 372 は須恵器である。322 ～ 347 は杯である。口径は約 20 ～ 15cm に分布している。348 ～ 361 は蓋である。362 は高杯の脚部である。

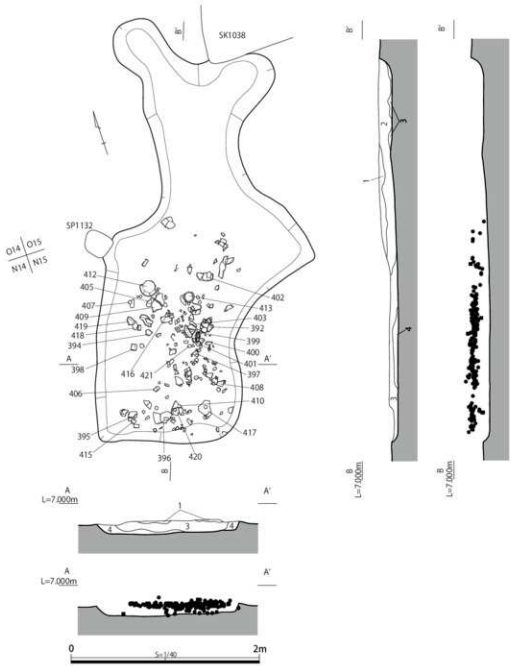


1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土：しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ褐色粘質土ブロック7～8cm30%含む。炭化物片～8cmにくわずかに含む。
2 オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土：しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック7～8cm30%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土：しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック7～8cm20%含む。
4 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土：しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック7～65cm30%含む。

第 316 図　SX1003 平断面図（1/40）

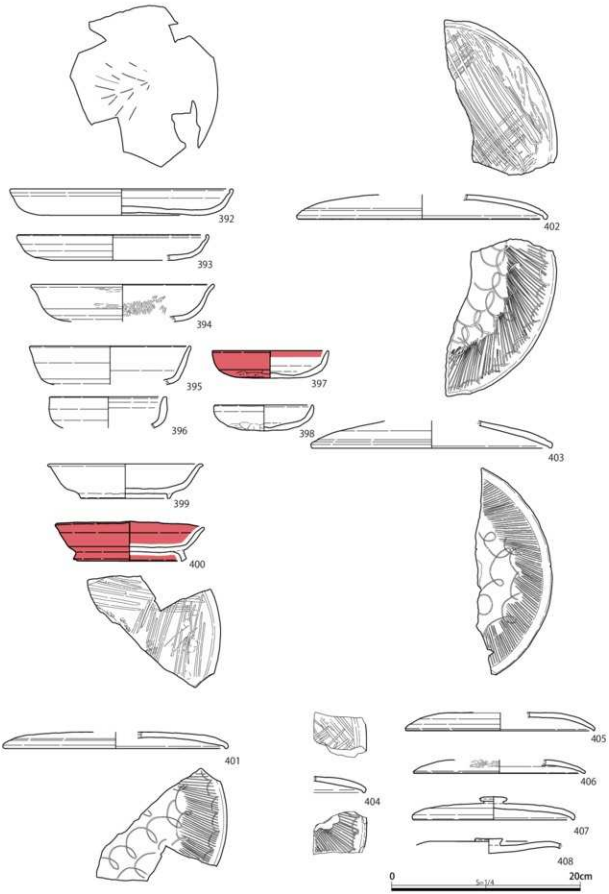


第 317 図　SX1003 出土遺物

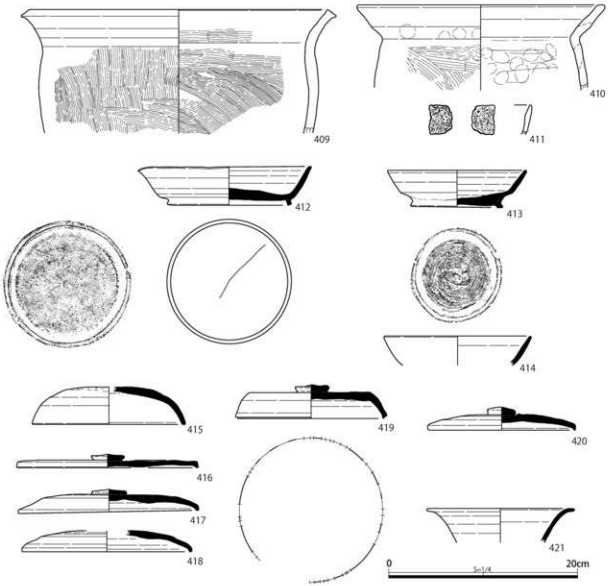


1 灰オリーブ7.5Y　6/2 粘質土　しまりやや強い、粒質低い、炭化物少しブロック1～5mm40%含む。焼土塊が～最大約～4cmがすじに含む。
2 灰オリーブ7.5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粒質やや低い、炭化物微量とブロック1～3cm10%含む。焼土塊が～3cmが最多に、最大約～4cmがすじに含む。
3 灰オリーブ7.5Y　5/2 粘質土　しまりやや強い、粒質やや低い、炭化物微量とブロック1～3cm10%含む。
4 灰オリーブ7.5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粒質やや低い、炭化物微量とブロック1～3cm20%含む。

第 318 図　SX1004 平断面図（1/40）



第 319 図　SX1004 出土遺物①



第 320 図　SX1004 出土遺物②

363 は鉢である。364・365 は甕である。367 ～ 371 は甕である。372 は横瓶である。374 は置き竈である。375・376 は壁土と考えられる。

T18 ～ T21 は刀子である。T22 は鋤先である。T23 は鑿である。T24 ～ T26 は釘、T27・T28 は棒状の用途不明鉄器、T29・T30 は板状の用途不明鉄器である。T31 は羽口と考えられる。T32 は用途不明の鉄器である。T33 は馬具の引手、T34 は銜である。T35 ～ T37 は用途不明の銅製品である。

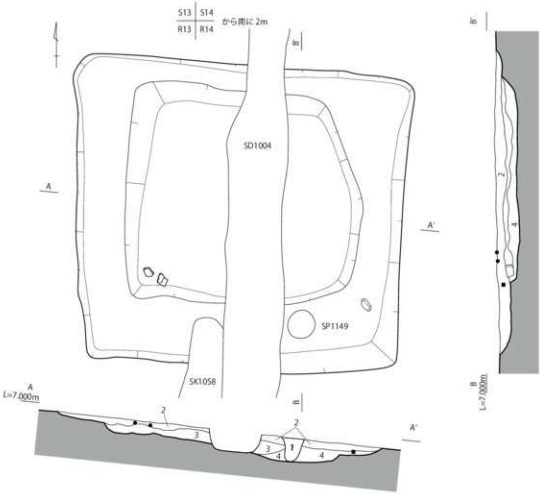
時期　出土した遺物から奈良時代頃の年代が想定される。

2 号性格不明遺構（SX1002）（第 314・315 図）

検出地点　N － 15・16 グリッド。

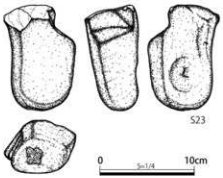
形態・規模　平面形状は不整形で東西方向にやや長く延びている。長軸が 2.45m、短軸が 1.17m、最大深度は 0.23m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・2 層が灰オリーブ色、3 層が灰色となっている。

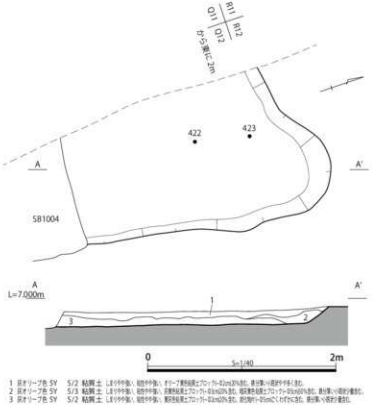


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、砂質薄い、オリーブ灰色粘質土ブロック1～5%、5cm以内含む。
2 オリーブ灰色 5Y　6/3 粘質土 しまりやや強い、砂質やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック1～3cm40%含む。
3 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、砂質やや弱い、オリーブ灰色粘質土ブロック1～3cm40%含む。
4 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、砂質やや弱い、灰色粘質土ブロック1～2cm30%含む。炭化物片～厚さ数1～8cmにくわ状に含む。

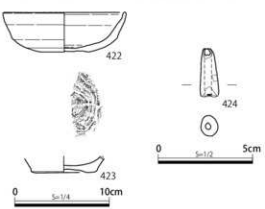
第 321 図　SX1005 平断面図（1/40）



第 322 図　SX1005 出土遺物



第 323 図　SX1007 平断面図（1/40）



第 324 図　SX1007 出土遺物

遺物出土状況　遺構検出面上面を中心として土器や板状礫が出土している。

出土遺物　377 ～ 380 は土師器の甕である。381 は甑の把手と考えられる。382 は土師器の杯である。383 は須恵器の蓋、384 は須恵器の杯である。

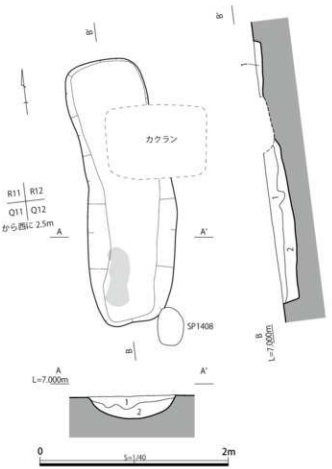
時期　出土した遺物から 7 世紀第 1 四半期頃（TK209 併行）の年代が想定される。

3 号性格不明遺構（SX1003）（第 316・317 図）

検出地点　N － 15 グリッド。

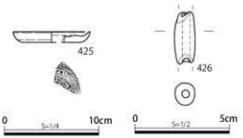
形態・規模　平面形状は L 字状を呈し幅が 1.36m、最大深度は 0.20m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で灰オリーブ色を主体として 4 層に分層される。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。多土器・ロームφ5mmが含む。天ボロ・浅間B2ブロック・ロームφ5mmが含む。炭化物φ4mmやや多く含む。
2 灰オリーブ色 5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。多焼成粘土ブロックφ5mmが含む。

第 325 図　SX1008 平断面図（1/40）



第 326 図　SX1008 出土遺物

遺物出土状況　中央部分を中心として土器が出土している。

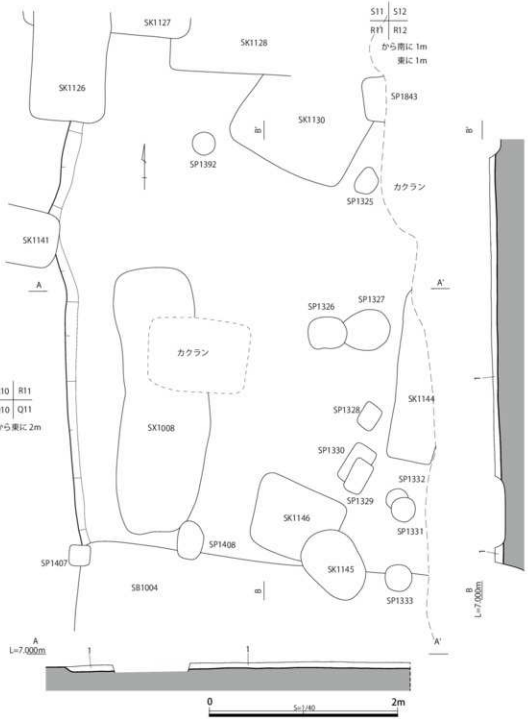
出土遺物　385 は土師器の杯である。内外面は赤色塗彩が施されている。386 は土師器の甕である。387 は甑の把手である。388 ～ 390 は須恵器の杯である。391 は須恵器の蓋である。

時期　主要な遺物から 7 世紀以降の年代が想定される。

4 号性格不明遺構（SX1004）（第 318 ～ 320 図）

検出地点　N － 15・O － 15 グリッド。

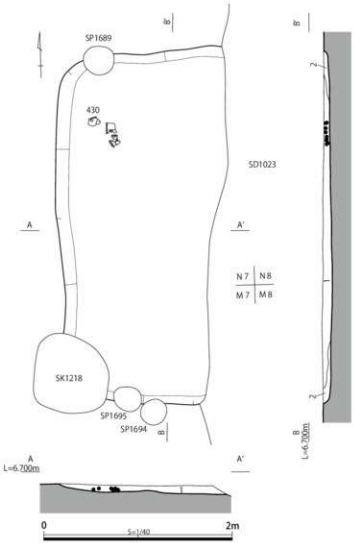
形態・規模　平面形状は不整形で南北に長く延びている。長軸が 4.07m、短軸が 2.20m、最大深度は 0.21m を測る。断面形状は皿形である。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、炭化物多量にブロック(~81cm)含む、炭化物片・焼土粒(~61cm)こくわずかに含む。

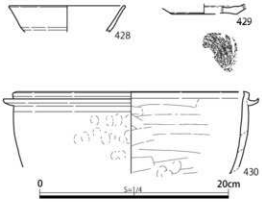
第 327 図　SX1009 平断面図（1/40）

第 328 図　SX1009 出土遺物

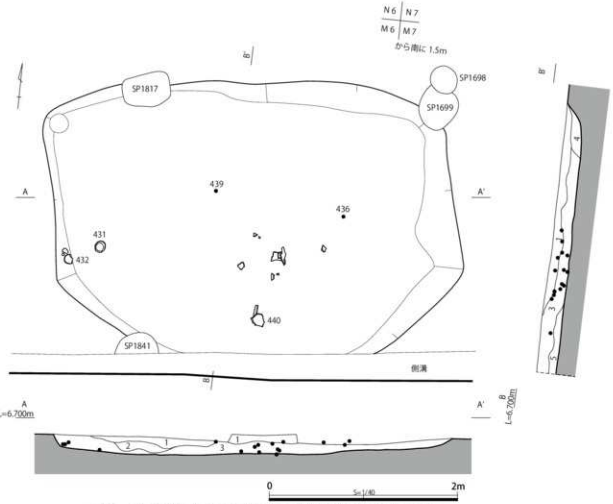


1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。ミリ単位程度のフロック状が30%含む。炭化物が~80.0mの範囲で5%含む。遺物・マンガン斑が僅少。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。粗砂粒状態とフロック状が50%含む。黒褐色の斑点が5%含む。

第 329 図　SX1010 平断面図（1/40）



第 330 図　SX1010 出土遺物



1 黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、ロニ・骨粉混土ブロック・ガイ0.1mが入る。炭化材1～3cmが少にまじる。炭化粒・焼土粒が多くにまじる。
2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒色粒混土ブロック・ガイ0.2mが入る。炭化粒1～3cmにくしまじる。炭化粒・焼土粒が多くにまじる。
3 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粒混土ブロック・ガイ0.2mが入る。炭化粒1～3cmが少にまじる。炭化粒・焼土粒が多くにまじる。
4 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粒混土ブロック・ガイ0.2mが入る。炭化粒・焼土粒が多くにまじる。
5 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粒混土ブロック・ガイ0.2mが入る。炭化粒・焼土粒が多くにまじる。

第 331 図　SX1011 平断面図（1/40）

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 4 層に分層される。

遺物出土状況　南寄りの部分から遺構検出面上面を中心として土器が出土している。

出土遺物　392 ～ 411 は土師器、392・393 は皿である。394 ～ 400 は杯である。401 ～ 408 は蓋である。409・410 は甕である。411 は製塩土器である。412 ～ 421 は須恵器、412 ～ 414 は杯である。415 ～ 420 は蓋である。421 は壺である。

時期　出土した遺物から奈良時代頃の年代が想定される。

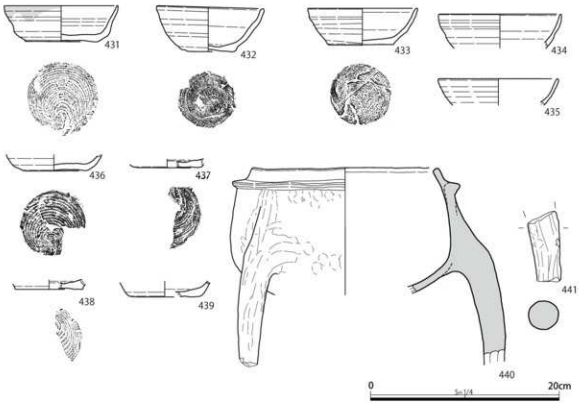
5 号性格不明遺構（SX1005）（第 321・322 図）

検出地点　Q － 13・14・R － 13・14 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し中央を SD1004 に切られている。一辺 3.43m、最大深度は 0.28m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層され、1・3・4 層が灰オリーブ色、2 層がオリーブ黄色となっている。

遺物出土状況　南寄りの部分から散漫な状態で土器や礫が出土している。

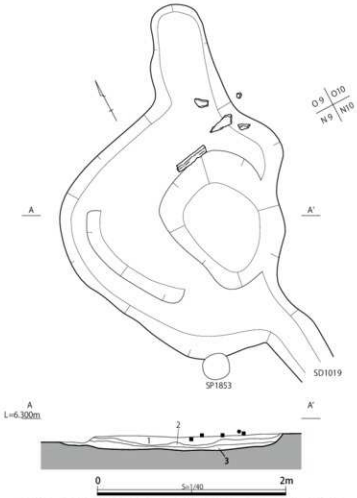


第 332 図　SX1011 出土遺物

出土遺物　S23 は砂岩の敲石である。
時期　年代は特定できない。

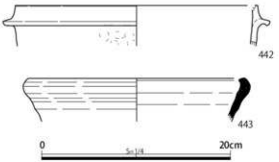
7 号性格不明遺構（SX1007）（第 323・324 図）
検出地点　Q－12・R－12 グリッド。
形態・規模　平面形状は不整形で南側を SB1004 に、西側を攪乱によって切られている。残存値で長軸が 5.89m、短軸が 1.16m、最大深度は 0.21m を測る。断面形状は皿形である。
土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層される。
遺物出土状況　中央やや北寄りから土器が出土している。
出土遺物　422・423 は土師器の杯である。底部の切り離しはいずれも回転ヘラ切りである。424 は管状の土錘である。
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

8 号性格不明遺構（SX1008）（第 325・326 図）
検出地点　Q－11・R－11 グリッド。
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、東側を攪乱に切られている。長軸が 2.80m、短軸が 0.90m、最大深度は 0.25m を測り、断面形状は丸底形である。
土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が灰オリーブ色となっている。
遺物出土状況　南より 1 層中に焼土の拡がりがみられる。

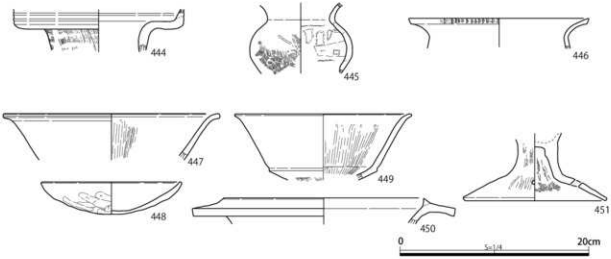


1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、焼土ブロック・オリーブ褐色粘質土ブロック7~8cm40%含む。第9ハ~H層ほぼ全面に。
2 灰黄色　2.5Y 7/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、焼土ブロック・オリーブ褐色粘質土ブロック7~8cm20%含む。
3 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭焼色粘質土ブロック7~8cm30%含む。第9ハ~H層ほぼ全面に。

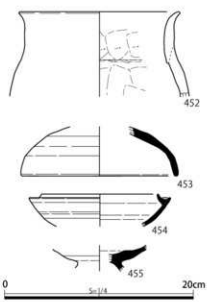
第 333 図　SX1012 平断面図（1/40）



第 334 図　SX1012 出土遺物



第 335 図　包含層出土土器①（弥生時代）



第 336 図　包含層出土土器②（古墳時代）

出土遺物　425 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。426 は管状の土錘である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

9 号性格不明遺構（SX1009）（第 327・328 図）

検出地点　Q－11・12・R－11・12 グリッド。

形態・規模　浅い窪地状の地形で、残存値が南北 5.40m、東西 3.87m ほどの拡がりをみせる。最大深度は 0.12m を測り、断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土が 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　427 は土師器の皿である。

時期　含まれる遺物が少量のため年代は特定できない。

10 号性格不明遺構（SX1010）（第 329・330 図）

検出地点　M－7・N－7 グリッド。

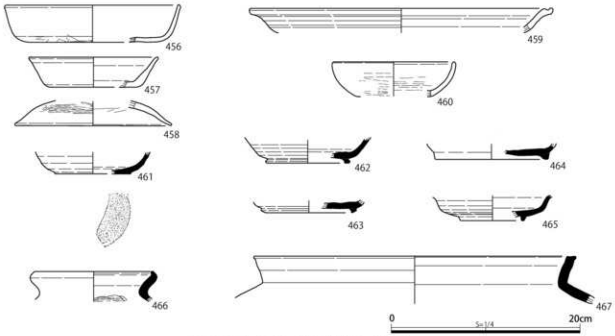
形態・規模　平面形状は長方形を呈し。東側を SD1023 に切られている。残存値で長軸が 3.74m、短軸が 1.63m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が灰黄色、2 層がにぶい黄色となっている。

遺物出土状況　北西隅寄りから土器がまとまって出土している。

出土遺物　428・429 は土師器の杯である。430 は土師器の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。



第 337 図　包含層出土土器③（古代）

11 号性格不明遺構（SX1011）（第 331・332 図）

検出地点　L－6・7・M－6・7 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 4.24m、短軸が 2.86m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は皿形であり、周囲を SP1699、SP1817、SP1841 などに切られている。

土層　いずれも粘質土で 5 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層がにぶい黄色、3 ～ 5 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　3 層中を中心として土器が出土している。

出土遺物　431 ～ 439 は土師器の杯である。底部の切り離しは 432 が回転ヘラ切りである以外は回転糸切りである。440・441 は瓦質の羽釜である。

時期　出土した遺物から鎌倉時代頃の年代が想定される。

12 号性格不明遺構（SX1012）（第 333・334 図）

検出地点　N－9・O－9 グリッド。

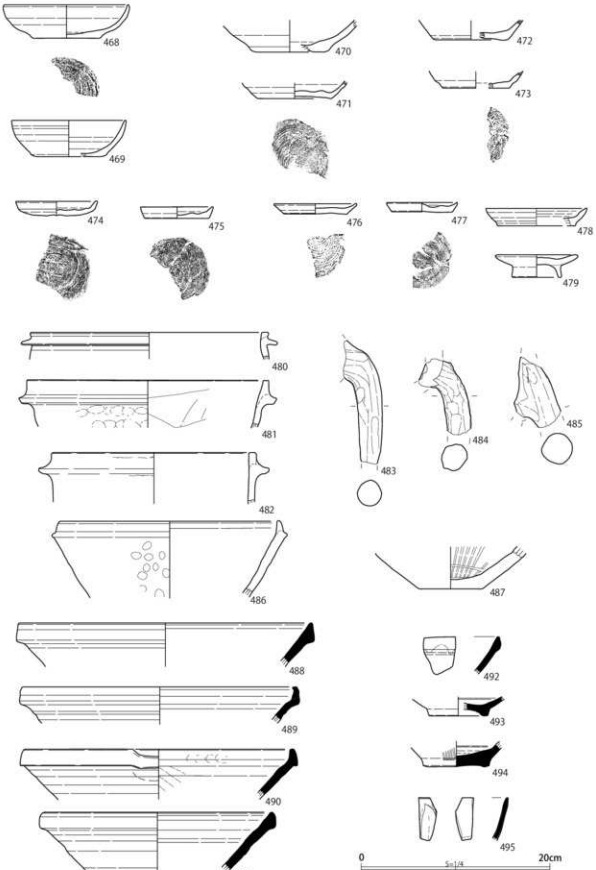
形態・規模　平面形状は不整形で楕円形状の中央部から南北に細い張り出しがみられる。最大深度は 0.20m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・2 層が灰黄色、3 層が暗灰黄色となっている。

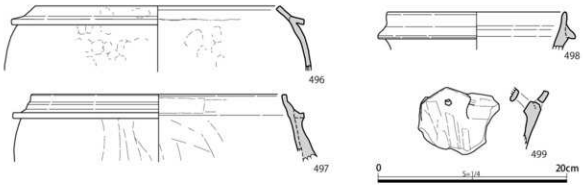
遺物出土状況　北側の張り出し部付近から板状の礫がまとまって出土している。

出土遺物　442 は土師器の羽釜である。443 は東播系須恵器のこね鉢である。

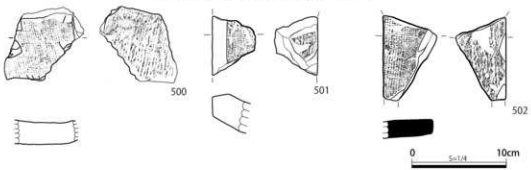
時期　出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。



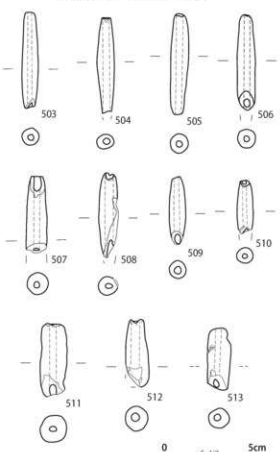
第 338 図　包含層出土土器④（中世）



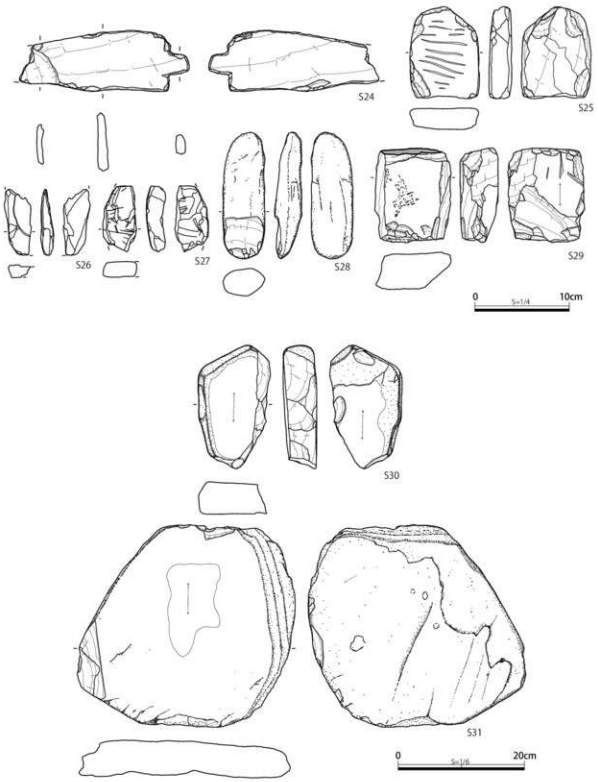
第 339 図　包含層出土土器⑤（中世）



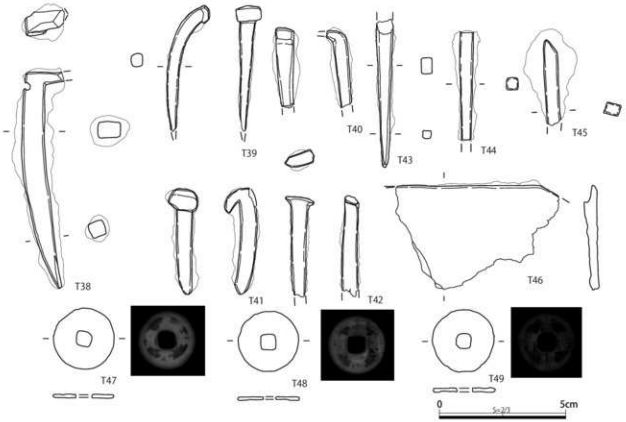
第 340 図　包含層出土瓦



第 341 図　包含層出土土錘



第342図　包含層出土石器



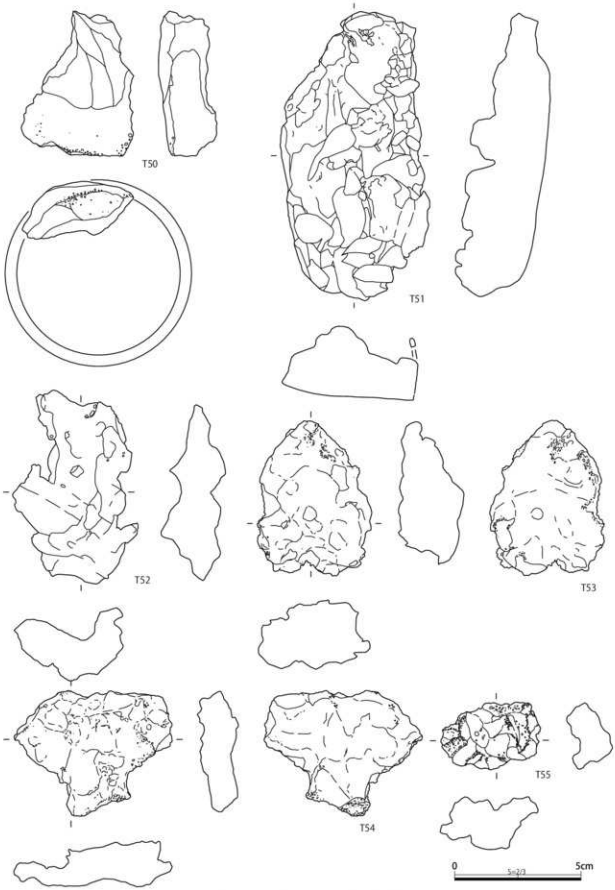
第 343 図　包含層出土金属類①

⑧包含層出土遺物（第 335 ～ 344 図）

444 ～ 451 は弥生時代の遺物である。444・445 は壺である。446 は甕である。447・449 ～ 451 は高杯である。448 は鉢である。452 ～ 455 は古墳時代の遺物である。452 は土師器の甕である。453 は須恵器の蓋、454 は杯、455 は高杯である。456 ～ 467 は古代の遺物である。456・457 は土師器の杯、458 は蓋、459 は皿である。460 は黒色土器 B 類の碗である。461 ～ 464 は須恵器の杯である。465 は白磁の皿である。466 は須恵器の壺、467 は甕である。468 ～ 499 は中世の遺物である。468 ～ 473 は土師器の杯である。474 ～ 479 は皿である。480 ～ 482 は羽釜、483 ～ 485 は羽釜の脚部である。486 はこね鉢、487 はすり鉢である。488 ～ 491 は東播系須恵器のこね鉢である。492 ～ 494 は白磁、495 は青磁の碗である。496 ～ 499 は瓦質の羽釜である。500 ～ 502 は瓦で、500・501 は土師質、502 は須恵質である。503 ～ 513 は管状の土錘である。

S24 は結晶片岩の石戈である。刃部などは作り出されていないため模造品の可能性が高い。S25 は結晶片岩の砥石である。S26 は粘板岩の硯、S27 は滑石の温石である。S28 は泥岩の敲石、S29・S30 は砂岩の砥石である。S31 は結晶片岩の大型の板状礫を用いた砥石である。

T38 ～ T45 は釘である。T46 は鎌である。T47 ～ T49 は銭貨である。T47 は 1034 年初鋳の「景祐元寶」、T48 は 1101 年初鋳の「聖宋元寶」、T49 は 1078 年初鋳の「元豊通寶」である。



第 344 図　包含層出土金属類②

（2）第 2 遺構面（第 345 図）

第 2 遺構面からは竪穴住居（SB）が 5 軒、溝（SD）が 13 条、土坑（SK）が 53 基、小穴（SP）が 309 基、性格不明遺構（SX）が 11 基検出されている。

①第 2 遺構面の微地形（第 346 ～ 350 図）

第 1 遺構面とほぼ同様の場所に拡がっており、最も標高が高いのは 11 ～ 17 のグリッド付近で、6.6m 前後となっている。東側と北側は近世以降の削平により階段状の傾斜が存在している。西側は緩やかに標高が下がっており、調査区西壁では 6.0 ～ 6.2m 程となっている。遺構は中央部に近づくほど密度が濃く、SD2008 を境として南西部の低地部では遺構や遺物はほとんど確認できなかった。

②竪穴住居（SB）

1 号竪穴住居（SB2001）（第 351 ～ 354 図）

検出地点　P － 13・14・Q － 13・14・R － 13・14 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、長軸が 5.35m、短軸が 5.15m、深さは 0.31m を測る。中央北寄りを SD2003 に、東側を SK2008 などにそれぞれ一部が切られている。断面の形状は皿形で、壁際に周壁溝（ED）が 1 条巡らされている。また柱穴（EP）は 8 基検出されている。

土層　いずれも粘質土で周壁溝（ED）を合わせると 6 層に分層され、1 層が灰黄色、2・3・5・6 層が暗灰黄色、4 層がにぶい黄色となっている。

炉　焼土や掘り込みは検出されていない。

遺物出土状況　2 層およびその上面を中心として土器、石器が出土している。

出土遺物　514 ～ 520 は弥生土器の壺である。521 ～ 536 は甕である。537 ～ 540 は鉢である。541・542 は高杯である。S32 は泥岩製の磨製石斧である。S33 は砂岩、S35 は粘板岩製の砥石である。S34 は砂岩製の敲石である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

2 号竪穴住居（SB2002）（第 355・356 図）

検出地点　N － 13・14・O － 13・14 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し一辺が 4.47m、最大深度は 0.37m を測る。断面の形状は皿形で、壁際に周壁溝（ED）が 1 条巡らされている。また柱穴（EP）は 5 基検出されている。

土層　いずれも粘質土で周壁溝（ED）を合わせると 4 層に分層され、1 層が灰オリーブ色、2・4 層が暗灰黄色、3 層がオリーブ褐色となっている。

炉　焼土や掘り込みは検出されていない。

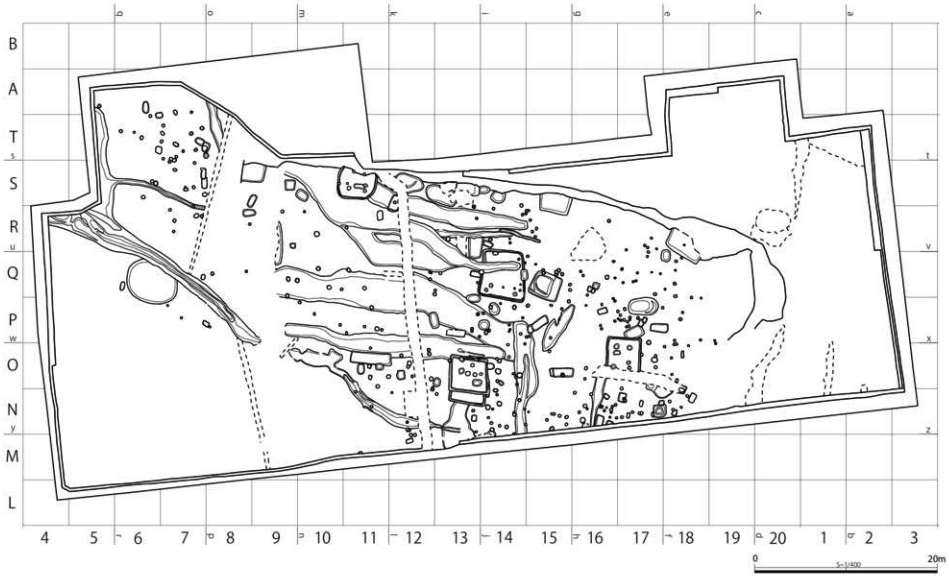
遺物出土状況　中央付近の第 1 層中を中心として土器が出土している。

出土遺物　543 は弥生土器の壺である。S36 は砂岩の分割礫である。

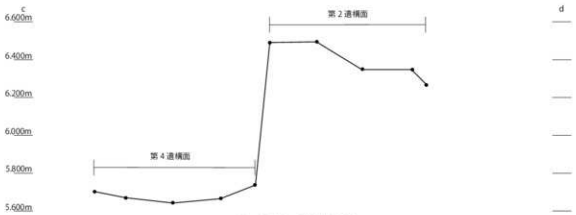
時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

3 号竪穴住居（SB2003）（第 355 図）

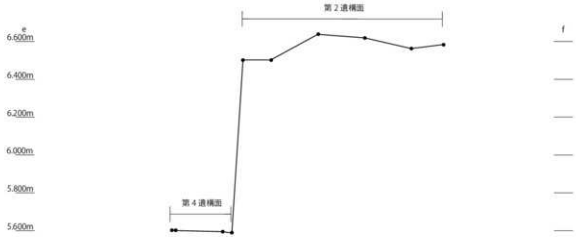
検出地点　O － 13・14 グリッド。



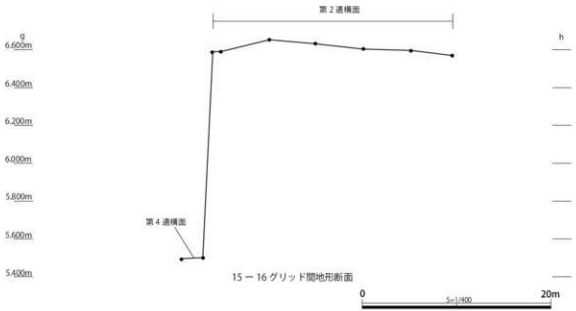
第 345 図　第 2 遺構面平面図（1/400）



19 ― 20 グリッド間地形断面

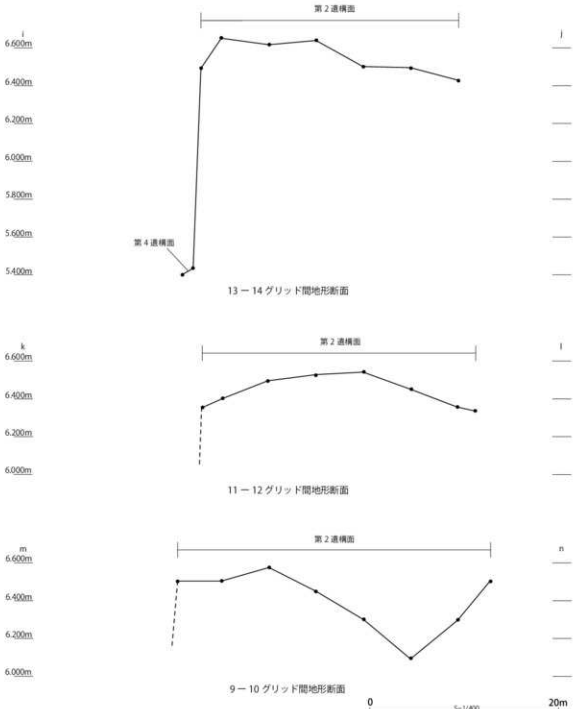


17 ― 18 グリッド間地形断面

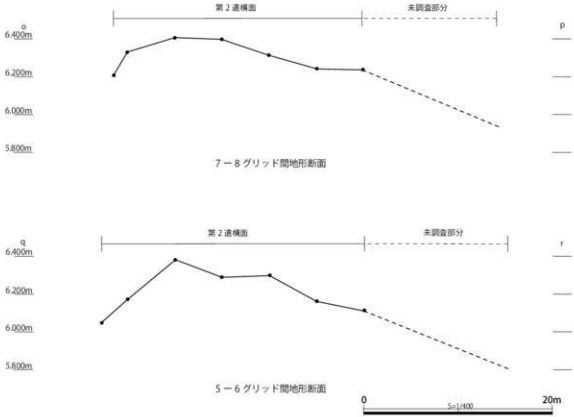


15 ― 16 グリッド間地形断面

第 346 図　第 2 遺構面地形断面図①



第 347 図　第 2 遺構面地形断面図②



第 348 図　第 2 遺構面地形断面図③

形態・規模　平面形状は方形を呈するとみられるが、北側を SB2002 に切られている。残存値で一辺が 4.01m、最大深度は 0.31m を測り、断面の形状は皿形である。壁際に周壁溝（ED）が 1 条巡らされている。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で周壁溝（ED）を合わせると 3 層に分層されている。

炉　焼土や掘り込みは検出されていない。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　平面形状や遺構の切り合いなどから弥生時代終末期以降の年代が想定される。

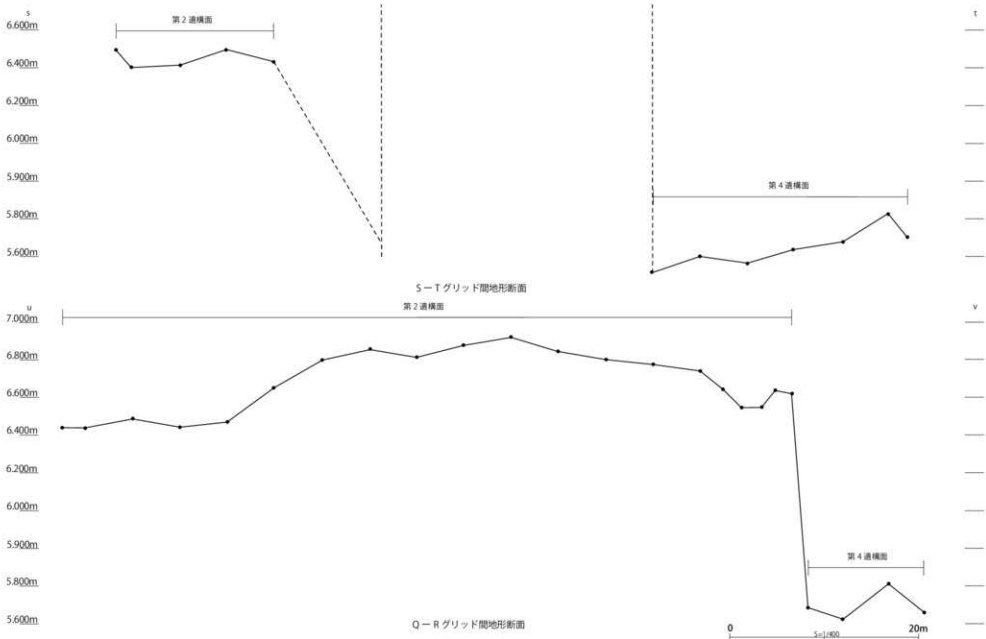
4 号竪穴住居（SB2004）（第 357 ～ 360 図）

検出地点　O － 16・17・P － 16・17 グリッド。

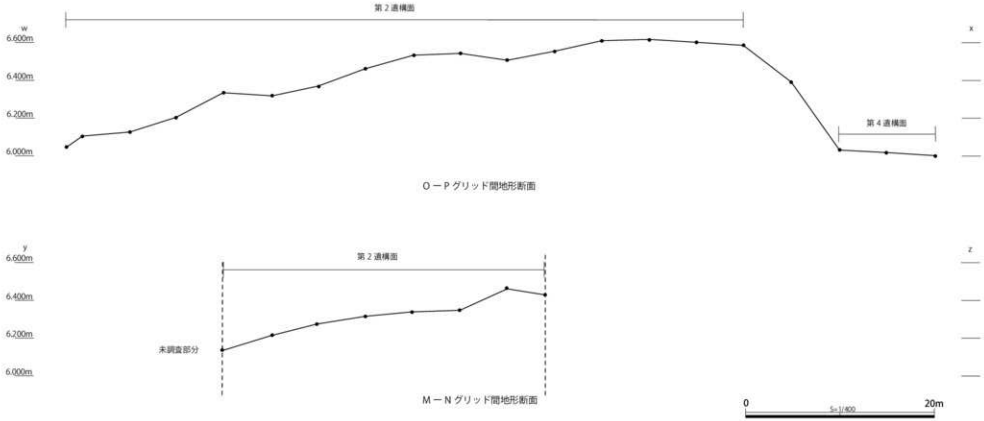
形態・規模　平面形状は方形を呈するとみられるが、南側を SX1001 に切られている。残存値で一辺が 3.84m、最大深度は 0.32m を測り、断面の形状は皿形である。壁際に周壁溝（ED）が 1 条巡らされている。また柱穴（EP）は 5 基検出されている。

土層　いずれも粘質土で周壁溝（ED）を合わせると 5 層に分層され、1 ～ 3・5 層が暗灰黄色、4 層がオリーブ褐色となっている。

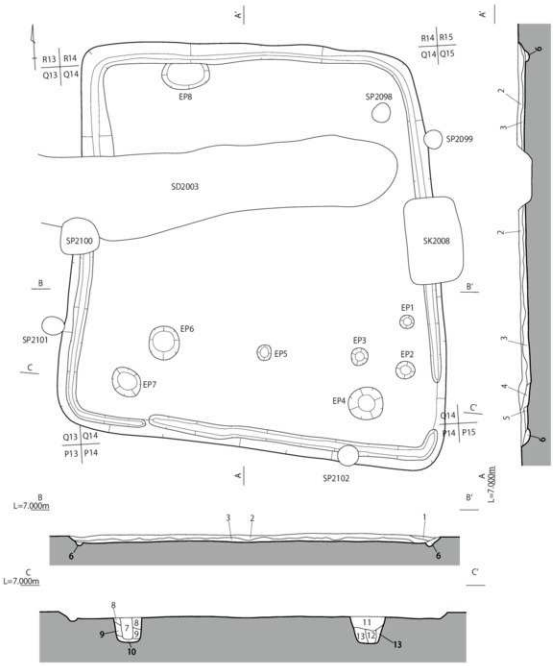
炉　中央やや西寄りから 1 基検出された。平面形状は長方形を呈し長軸が 0.77m、短軸が 0.44m、最大深度は 0.10m を測る。断面形状は皿形である。暗灰黄色を主体として 3 層に分層され、いずれも炭化物や焼土を多く含んでいる。



第 349 図　第 2 遺構面地形断面図④

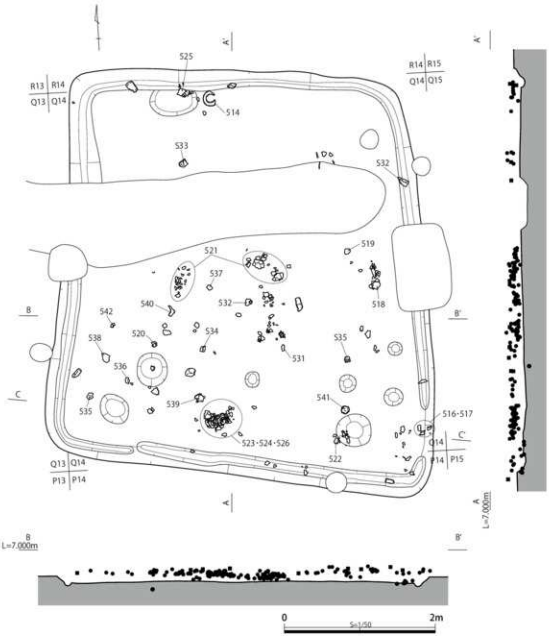


第 350 図　第２遺構面地形断面図⑤

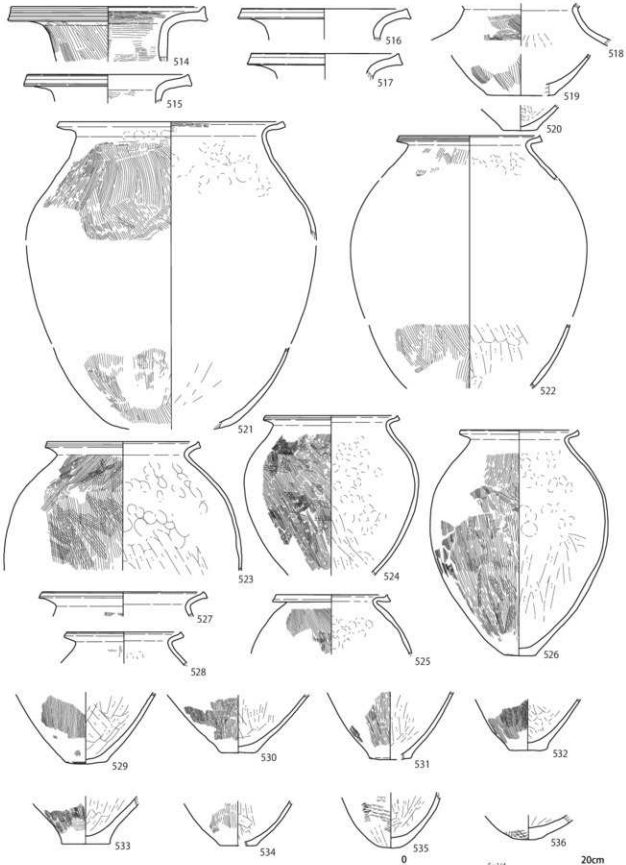


1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、黄灰色粘質土ブロック(φ0.5cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、灰色～明赤褐色粘質土ブロック(φ1cm)30%含む。炭化物(1～3)cmがこくわずかに含む。鉄分集いが斑状わずかに含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色～黄灰色粘質土ブロック(φ3cm)40%含む。鉄分集いが～中斑状さくわずかに含む。
4 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、褐灰粘質土ブロック(φ3cm)10%含む。マンガンが斑状わずかに含む。鉄分集いが斑状さくわずかに含む。
5 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、褐灰粘質土ブロック(φ3cm)40%含む。マンガンが斑状わずかに含む。
6 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色粘質土ブロック(φ2cm)30%含む。鉄分集いが～中斑状多量含む。
7 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、青褐色粘質土ブロック(φ1cm)10%含む。褐灰色粘質土ブロック(φ2cm)2%含む。鉄分・マンガン細斑状多量含む。
8 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、青褐色粘質土ブロック(φ1cm)10%含む。褐灰色粘質土ブロック(φ2cm)2%含む。鉄分・マンガン細斑状多量含む。
9 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色粘質土ブロック(φ2cm)20%含む。鉄分集いが斑状わずかに含む。
10 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、褐灰色粘質土ブロック(φ2cm)30%含む。
11 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(φ3cm)2%含む。鉄分集い斑状多量含む。
12 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(φ3cm)2%含む。鉄分斑状多量含む。
13 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、青褐色粘質土ブロック(φ1cm)10%含む。鉄分集いが斑状わずかに含む。

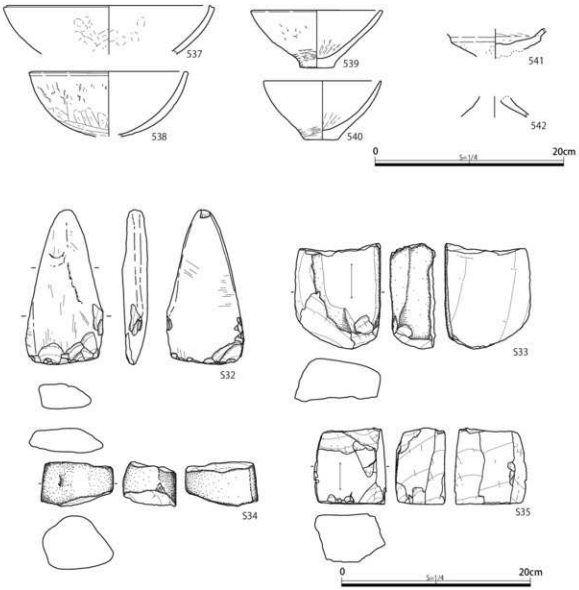
第 351 図　SB2001 平断面図（1/50）



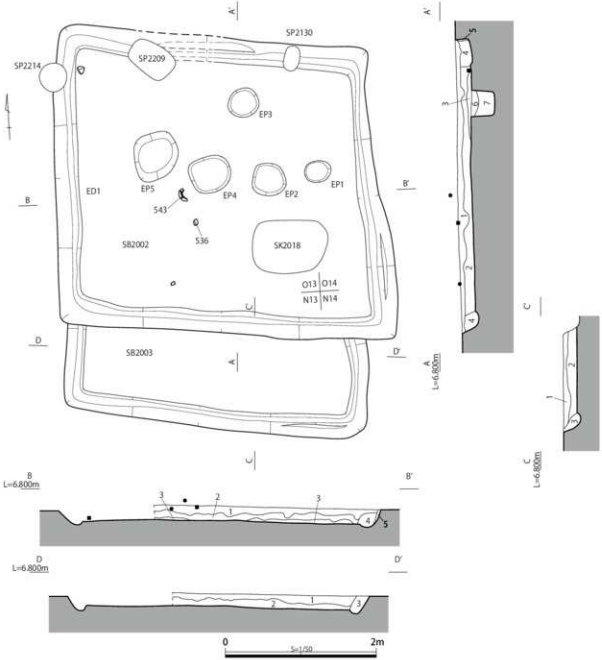
第 352 図　SB2001 遺物出土状況図（1/50）



第 353 図　SB2001 出土遺物①



第 354 図　SB2001 出土遺物②



SB2002

1 黄オリーブ色 2.5Y 5/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック1~8cm10%含む、炭化物片1~3mにくわずかに含む、鉄分小斑状少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色~オリーブ黄色粘質土ブロック1~3cm30%含む、鉄分黒い硬一小斑状少量含む。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色粘質土ブロック1~3cm20%含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、浅黄色粘質土ブロック1~2cm20%含む、鉄分黒いり斑状わずかに含む。
5 黄褐色 2.5Y 5/3 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰色粘質土ブロック1~3mm10%含む。
6 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック1~2cm10%含む。
7 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、浅黄色粘質土ブロック1~2mm10%含む。

SB2003

1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、浅黄色粘質土ブロック1~05cm40%含む、鉄分小斑状やや多く含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色~にぶい黄色粘質土ブロック1~3cm20%含む、鉄分小斑状少量含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗黄土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄色粘質土ブロック1~3cm20%含む、鉄分・マンガン黒いり斑状多く含む。

第 355 図　SB2002・SB2003 平断面図（1/50）

遺物出土状況　中央から西寄りを中心として、第３層を主体に土器が出土している。また炉の上面周辺においては炭化物の分布がみとめられた。

出土遺物　544 ～ 549 は弥生土器の壺である。550 ～ 554 は甕である。555 ～ 568 は鉢である。569 ～ 570 は小型丸底鉢である。572 ～ 575 は高杯の脚部である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

5 号竪穴住居（SB2005）（第 361 ～ 365 図）

検出地点　S － 10・11 グリッド。

形態・規模　平面形状は隅丸方形を呈するとみられるが、北側は削平されている。残存値で一辺が 4.32m、最大深度は 0.31m を測る。断面形状は皿形である。壁際に周壁溝（ED）が 1 条巡らされている。また柱穴（EP）は 6 基検出されている。

土層　いずれも粘質土で周壁溝（ED）を含わせると 7 層に分層され、1 層がにぶい黄色、2・5・7 層が暗灰黄色、3・6 層が灰黄色となっている。

炉　中央やや南寄りから 1 基検出された。平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.20m、短軸が 0.49m、最大深度は 0.05m を測る。断面形状は皿形である。暗灰黄色粘質土 1 層で炭化物や焼土を多く含んでいる。

遺物出土状況　炉周辺や壁際を中心として土器が出土している。また南西隅の第 5 層の上面から白色粘土塊が東西約 1.2m、南北約 1m、厚さが約 0.2m の範囲で出土している。

出土遺物　576 ～ 579 は弥生土器の壺である。580 ～ 585 は甕である。586 ～ 595 は鉢である。594 は小型丸底鉢である。596・597 は高杯である。598・599 は用途不明の土製品である。S37・S38 は砂岩の敲石である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

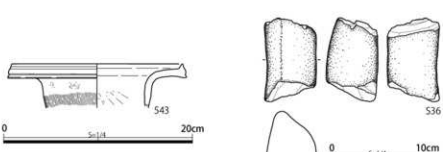
③溝（SD）

2 号溝（SD2002）（第 366 ～ 368 図）

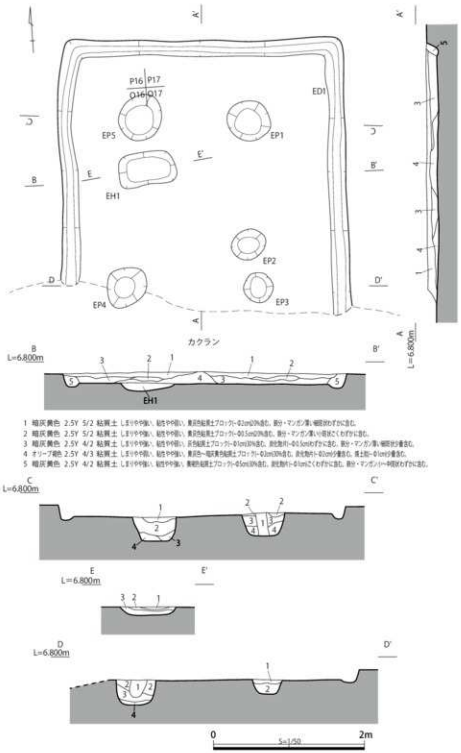
検出地点　R － 13・14 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 8.17m、最大幅は 0.68m、最大深度は 0.14m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。



第 356 図　SB2002 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(7~0.2cm)20%含む。炭化・マンガン薄い帯状にわずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(7~0.5cm)20%含む。炭化・マンガン薄い帯状にくもりがある。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土ブロック(7~0.1cm)10%含む。炭化物(1~0.5cm)がごく含む。炭化・マンガン薄い帯状部分が含む。
4 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄灰色~暗灰黄色粘質土ブロック(7~0.2cm)30%含む。炭化物(7~0.1cm)が含む。焼土粒(7~0.1cm)が含む。
5 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色粘質土ブロック(7~0.5cm)30%含む。炭化物(1~0.1cm)ごくわずかに含む。炭化・マンガン(1~0.1cm)帯状にわずかに含む。

第 357 図　SB2004 平断面図①（1/50）

EP1

1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(~φ5cm)40%含む、マンガン粒・中礫状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色~にぶい黄色粘質土ブロック(~φ5cm)20%含む、マンガン粒・中礫状こくわずかに含む。
3 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(~φ3cm)40%含む、マンガン小粒状こくわずかに含む。
4 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(~φ3cm)20%含む、マンガン小~中粒状こくわずかに含む。

EP3

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰白色粘質土ブロック(~φ1cm)10%含む。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰白色粘質土ブロック(~φ1cm)10%含む。

EP4

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ2cm)30%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ3cm)10%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
3 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色~暗灰黄粘質土ブロック(~φ3cm)20%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
4 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(~φ2cm)20%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。

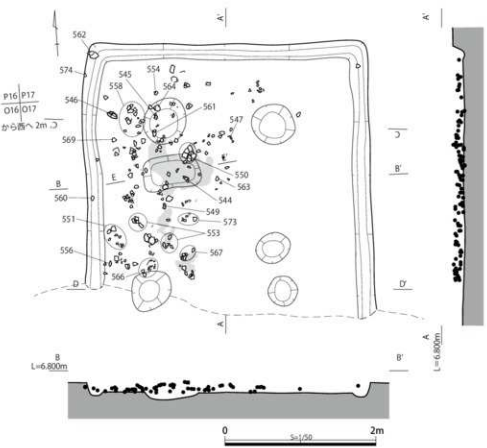
EP5

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ2cm)30%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)10%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
3 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)20%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)10%含む、鉄分薄い小斑状わずかに含む。

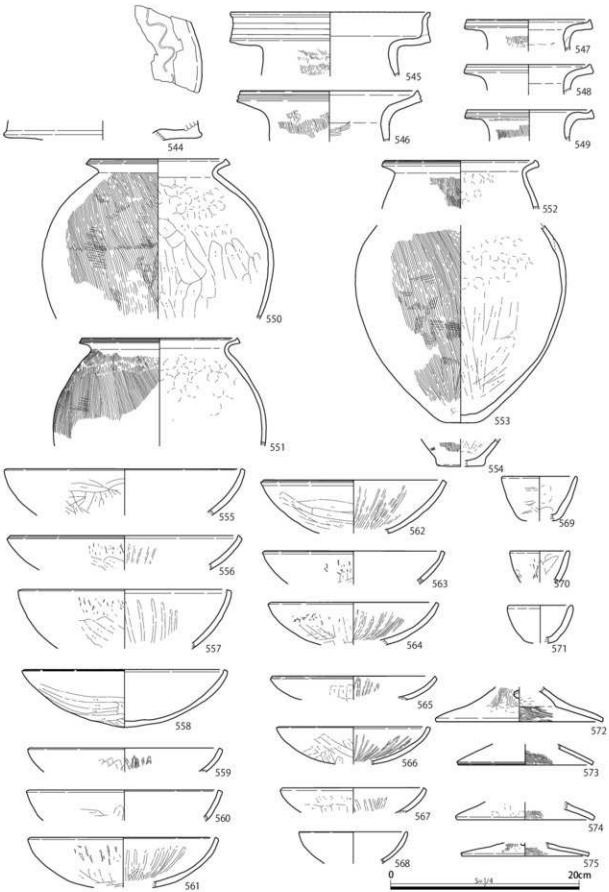
EH1

1 にぶい褐色 7.5YR 5/4 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)10%含む、炭化物片(~φ1cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)40%含む、炭化物片・焼土粒(~φ1cm)少量含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(~φ1cm)20%含む、炭化物片・焼土粒(~φ0.5cm)こくわずかに含む。

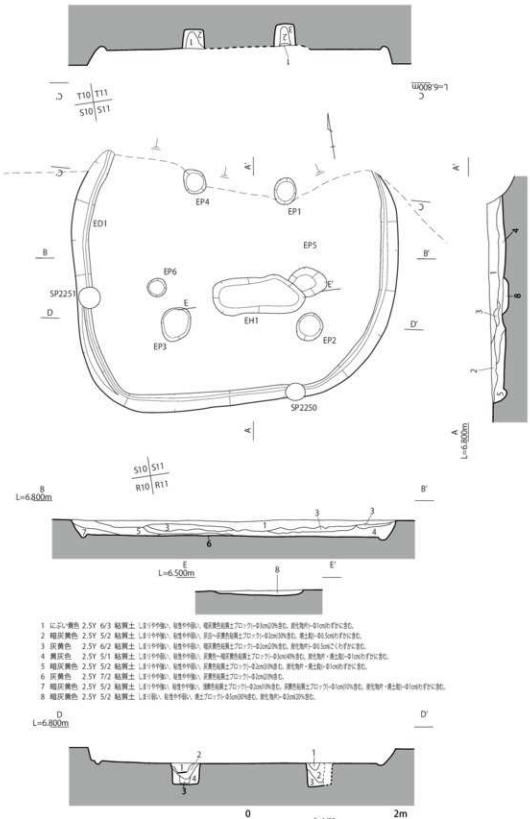
第 358 図　SB2004 平断面図②



第 359 図　SB2004 遺物出土状況図（1/50）



第 360 図　SB2004 出土遺物



第 361 図　SB2005 平断面図①（1/50）

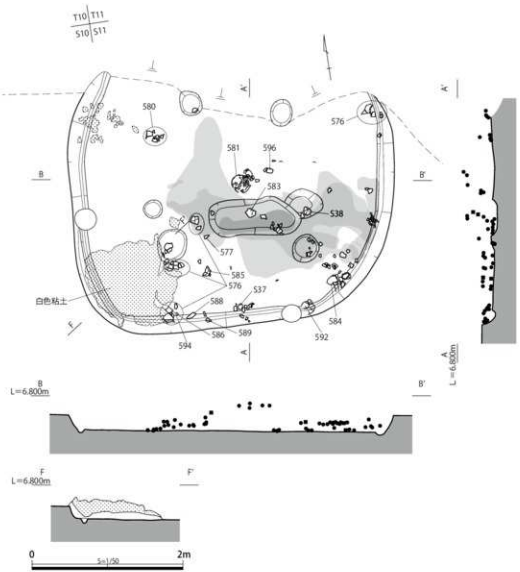
EP1
1 浜白色　7.5Y 7/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、焼土ブロック(~3cm)60%含む。炭化物片(~1cm)多く含む。
2 浜オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浜色~浜白色粘質土ブロック(~3cm)10%含む。炭化物片・焼土粒(~1cm)わずかに含む。
3 浜オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック(~1cm)20%含む。

EP2
1 浜オリーブ色 5Y　6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物片・焼土粒(~2cm)60%含む。
2 浜オリーブ色 5Y　4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物片・焼土粒(~1cm)少量含む。
3 オリーブ黒色 5Y　3/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浜オリーブ色粘質土ブロック(~1cm)20%含む。

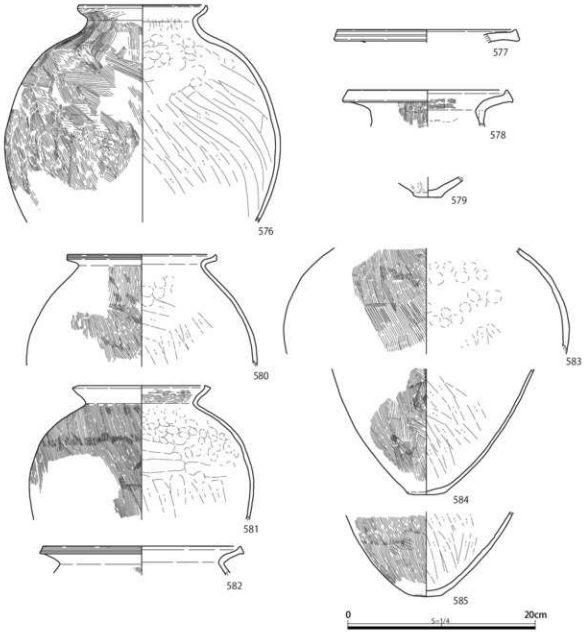
EP3
1 暗浜黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗浜岩ブロック(~2cm)10%含む。浜黄色粘質土ブロック(~1cm)10%含む。
2 暗浜黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性強い、暗浜岩ブロック(~5cm)40%含む。
3 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土 しまり強い、粘性強い、浜黄色~浜色粘質土ブロック(~1cm)10%含む。
4 暗浜黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浜黄色粘質土ブロック(~1cm)10%含む。炭化物片(~0.5cm)わずかに含む。

EP4
1 暗浜黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浜黄色粘質土ブロック(~1cm)10%含む。炭化物片(~0.5cm)にくわずかに含む。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、浜黄色粘質土ブロック(~1cm)20%含む。

第 362 図　SB2005 平断面図②



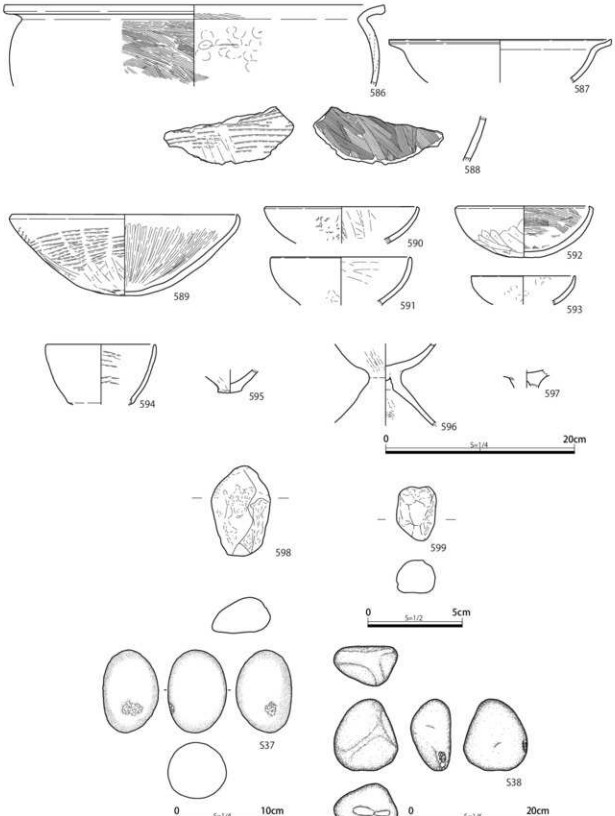
第 363 図　SB2005 遺物出土状況図（1/50）



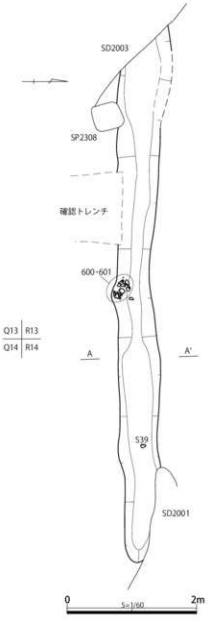
第 364 図　SB2005 出土遺物①

遺物出土状況　中央付近から土器が出土している。
出土遺物　600・601 は弥生土器の甕である。S39 は砂岩の敲石である。
時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

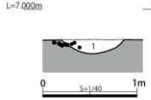
3 号溝（SD2003）（第 369 ～ 375 図）
検出地点　Q － 9 ～ 14・R － 9 ～ 14・S － 9 ～ 14 グリッド。
形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 23.79m、最大幅は 6.90m、最大深度は 0.32m を測る。断面の形状は舟底形である。
土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 4 層に分層される。



第 365 図　SB2005 出土遺物②

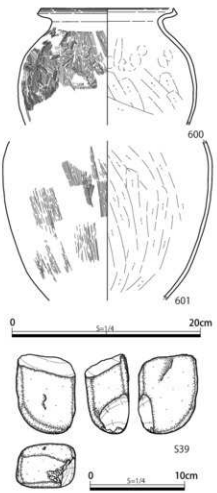


第 366 図　SD2002 平面図（1/100）

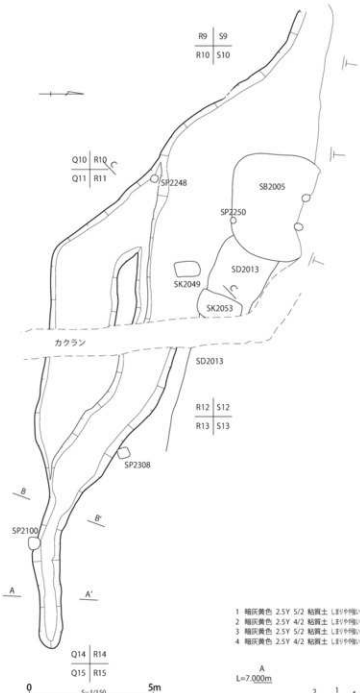


1　暗灰黄色　2.5Y　5/2　粘質土（しまりやや強い。粘性やや強い。黒色粒土 7Cハ~8CmCM含む。マンガン粒散在がにぶる。

第 367 図　SD2002 断面図（1/40）

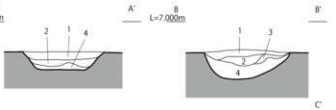


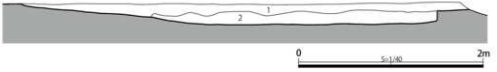
第 368 図　SD2002 出土遺物



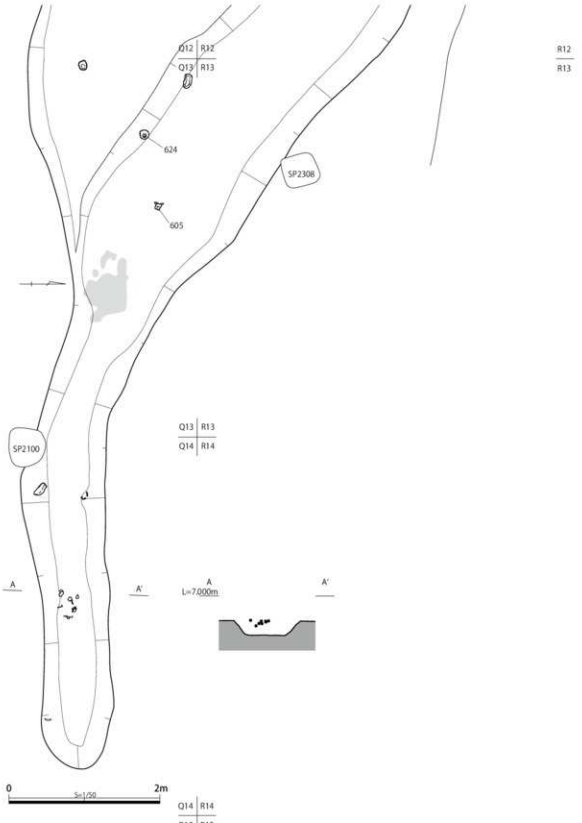
第 369 図　SD2003 平面図（1/150）

1　暗灰黄色　2.5Y 5/2　粘質土　しまりやや強い。植物や根い。炭酸色粘質土ブロック・カーボン0.5mm以下含む。粒状黒っぽい硬質小礫含む。粒状物が～90.1mmおずかに含む。
2　暗灰黄色　2.5Y 4/2　粘質土　しまりやや強い。植物や根い。炭酸色粘質土ブロック・カーボン0.2mm以下含む。粒状黒いマーマ硬質ヤキ多く含む。粒状物が～粒状粒～90.1mmが僅含む。
3　暗灰黄色　2.5Y 5/2　粘質土　しまりやや強い。植物や根い。炭酸色粘質土ブロック・カーボン0.5mm以下含む。粒状黒っぽい硬質小礫含む。
4　暗灰黄色　2.5Y 4/2　粘質土　しまりやや強い。植物や根い。炭酸色粘質土ブロック・カーボン0.2mm以下含む。粒状・マンガン黒い硬質ずかずかに含む。

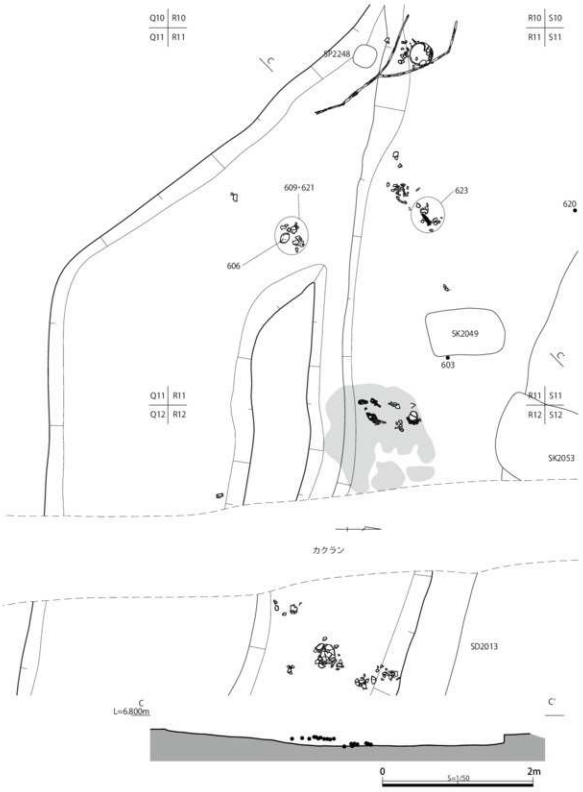




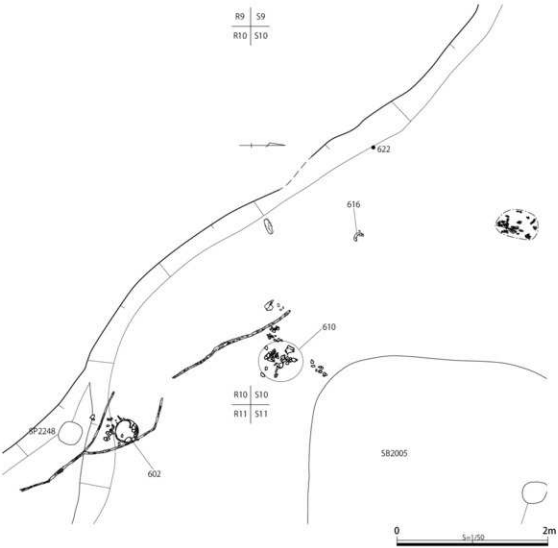
第 370 図　SD2003 断面図（1/40）



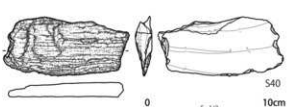
第 371 図　SD2003 遺物出土状況図①（1/50）



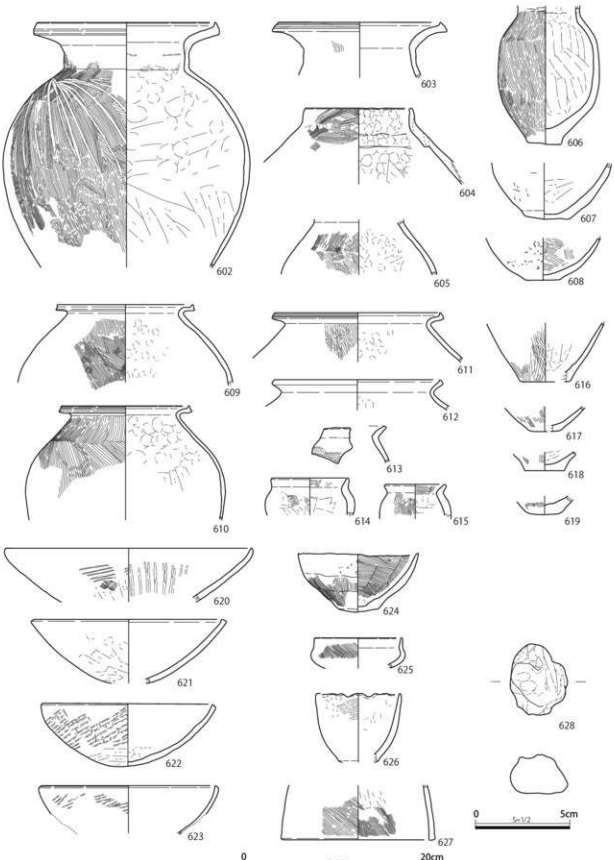
第 372 図　SD2003 遺物出土状況図②（1/50）



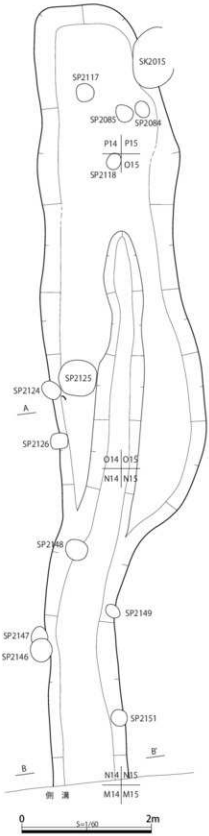
第 373 図　SD2003 遺物出土状況図③（1/50）



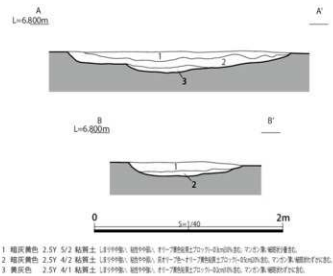
第 374 図　SD2003 出土遺物①



第 375 図　SD2003 出土遺物②



第 376 図　SD2004 平面図（1/60）



第 377 図　SD2004 断面図（1/40）

遺物出土状況　土器は遺構検出面上面付近を中心として出土している。また炭化物の拡がりが 3 ヶ所程度確認されている。

出土遺物　S40 は結晶片岩の石庖丁である。602 ～ 608 は弥生土器の壺である。609 ～ 619 は甕である。620 ～ 625 は鉢である。626 は小型丸底鉢である。627 は脚台である。628 は用途不明の土製品である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

4 号溝（SD2004）（第 376 ～ 379 図）

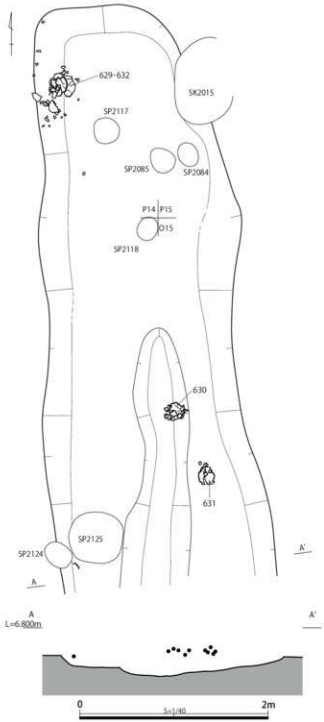
検出地点　M － 14・15・N － 14・15・O － 14・15・P － 14・15 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、延長距離は 12.47m、最大幅は 2.38m、最大深度は 0.21m を測る。断面の形状は皿形である。

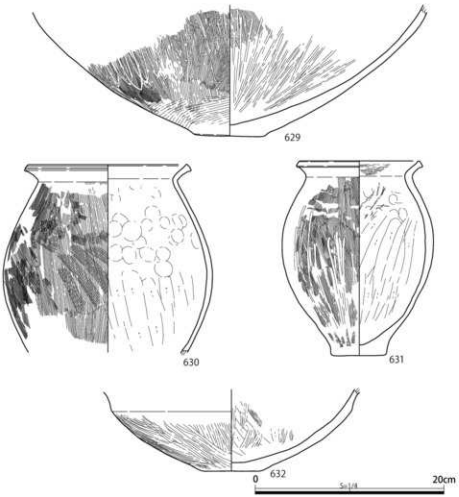
土層　いずれも粘質土で 3 層に分層されており、1・2 層が暗灰黄色、3 層が黄灰色となっている。

遺物出土状況　北寄りの部分の遺構検出面付近において土器が出土している。

出土遺物　629 は弥生土器の壺である。630・631 は甕である。632 は鉢である。



第 378 図　SD2004 遺物出土状況図（1/40）



第 379 図　SD2004 出土遺物

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半頃の年代が想定される。

5 号溝（SD2005）（第 380 ～ 384 図）

検出地点　O － 9 ～ 14・P － 9 ～ 14・Q － 9 ～ 14 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 27.92m、最大幅は 4.60m、最大深度は 0.25m を測る。断面の形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　東寄りの部分で第 1 層と第 2 層の境付近を中心として土器が出土している。

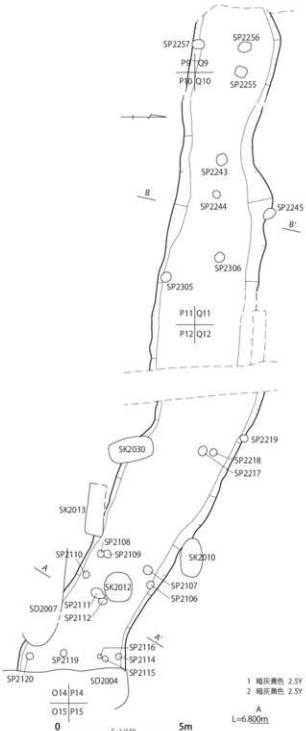
出土遺物　633 ～ 643 は弥生土器の壺である。644 ～ 658 は甕である。659 ～ 661 は鉢である。663 は製塩土器である。664 は脚台である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

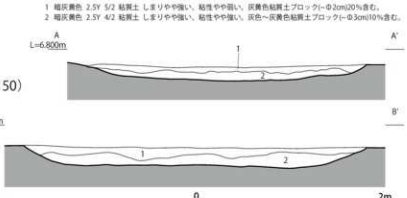
7 号溝（SD2007）（第 385 ～ 387 図）

検出地点　O － 9 ～ 14・P － 9 ～ 14 グリッド。

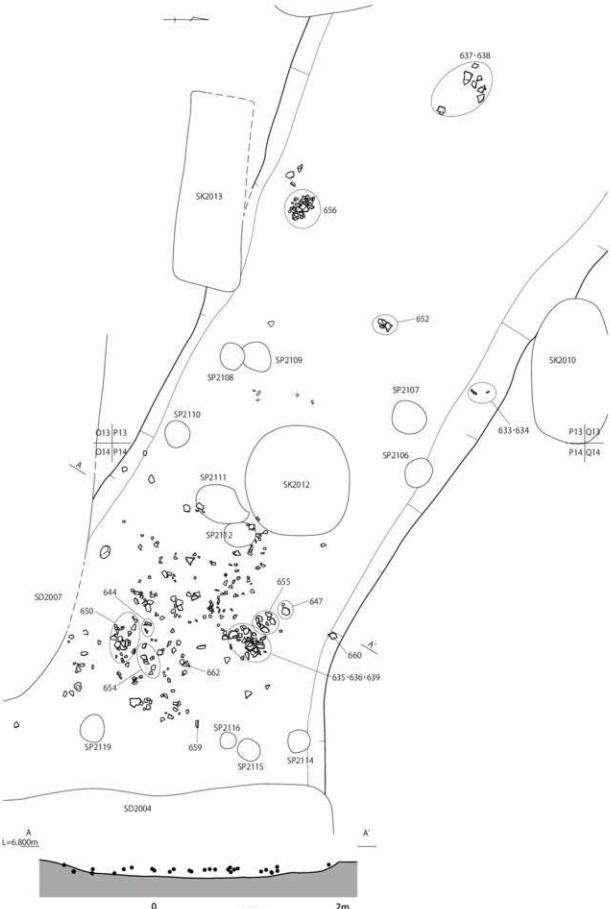
形態・規模　東西方向に延びる溝で、延長距離は 24.19m、最大幅は 2.75m、最大深度は 0.19m を測る。断面の形状は皿形である。



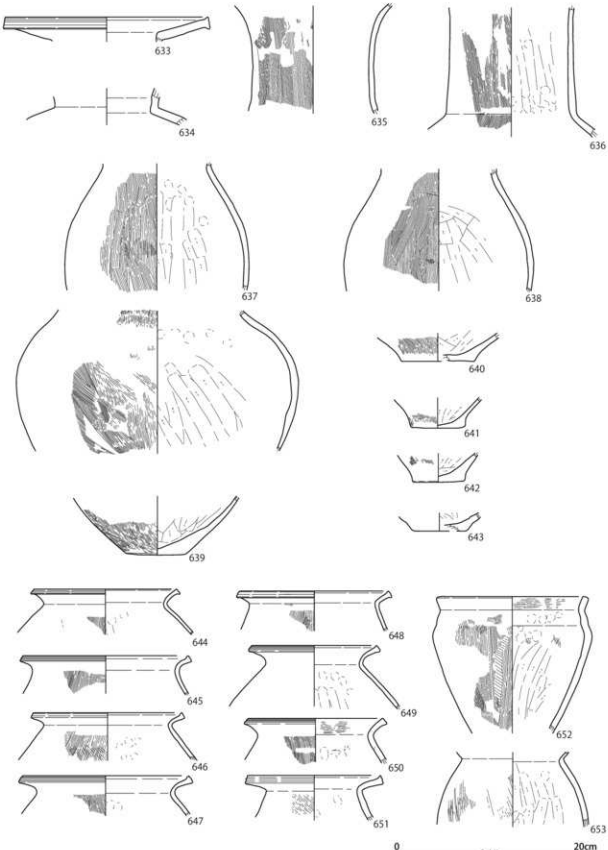
第 380 図　SD2005 平面図（1/150）



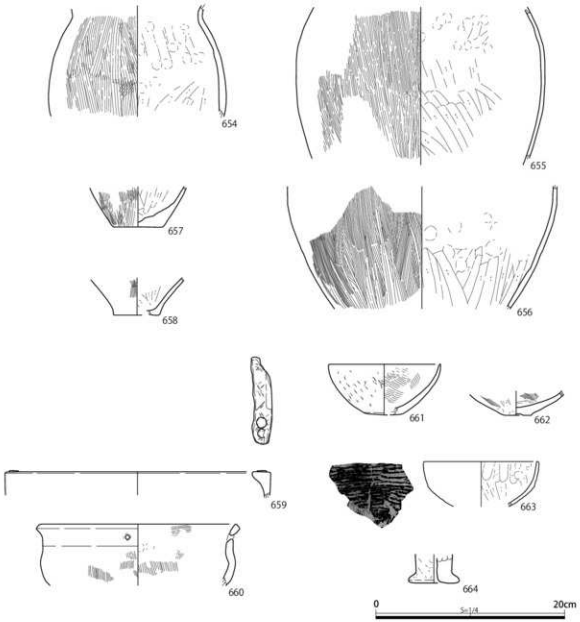
第 381 図　SD2005 断面図（1/40）



第 382 図　SD2005 遺物出土状況図（1/40）



第 383 図　SD2005 出土遺物①



第 384 図　SD2005 出土遺物②

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・3 層が暗灰黄色、2 層が灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　665 は弥生土器の壺である。666･667 は甕である。668 は鉢である。669 は有孔鉢である。

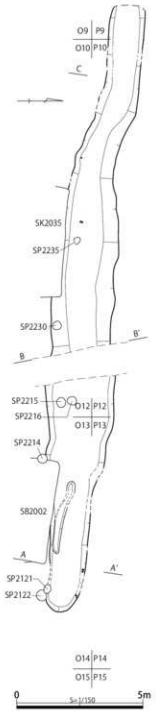
時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

8 号溝（SD2008）（第 388 ～ 400 図）

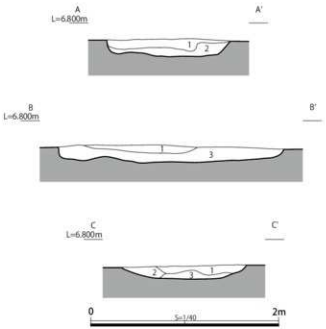
検出地点　N － 4 ～ 12・O － 4 ～ 12・P － 4 ～ 12・Q － 4 ～ 12・R － 4 ～ 12 グリッド。

形態・規模　北西から南東に延びる溝で、延長距離は 45.50m、最大幅は 4.14m、最大深度は 0.71m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で暗灰黄色を主体として 5 層に分層され、1 層が灰白色、2 層が灰黄色、3 ～ 5

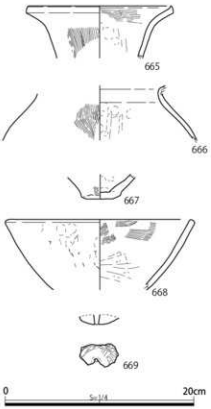


第 385 図　SD2007 平面図（1/150）

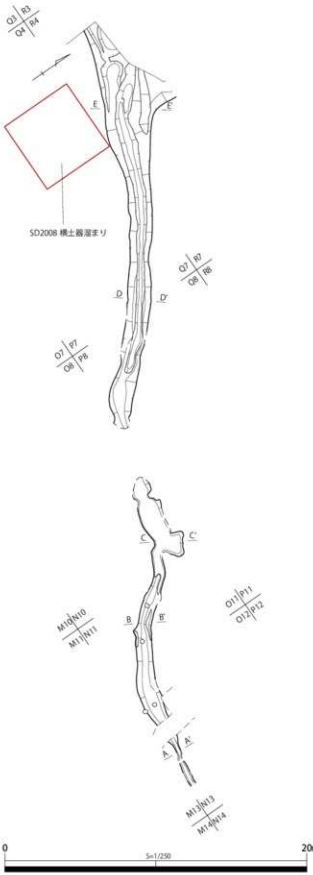


1　暗灰黄色　2.5Y 5/2　粘質土　しまりやや強い、砂性やや弱い、炭焼色風化土ブロック（～φ2cm）30%含む。側壁～マンガン層～小礫がやや多く含む。
2　灰黄色　2.5Y 6/2　粘質土　しまりやや強い、砂性やや弱い、酸化色風化土ブロック（～φ2cm）10%含む。マンガン小礫がごくわずかに混じる。
3　暗灰黄色　2.5Y 4/2　粘質土　しまりやや強い、砂性やや弱い、炭焼色風化土ブロック（～φ2cm）40%含む。側壁～小礫がやや多く含む。

第 386 図　SD2007 断面図（1/40）



第 387 図　SD2007 出土遺物



第 388 図　SD2008 平面図（1/250）

層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　おもに北西部に土器がまとまって廃棄されている。溝が埋没した第 1 層中に集中して出土している。また SD2008 に隣接した Q－5 グリッドからも土器がまとまって出土しており、ほぼ同時期に廃棄されたものと考えられる。

出土遺物　S41 は砂岩の砥石である。670 ～ 686 は弥生土器の壺である。687 ～ 738 は甕である。739 ～ 755 は鉢である。756 は有孔鉢である。757 ～ 788 は高杯である。789 は製塩土器である。790 は管状の土錘である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

8 号溝横の土器溜まり（第 388・401 ～ 403 図）

検出地点　Q－5 グリッド。

形態・規模　東西・南北ともに約 4m ほどの拡がりで、標高はおよそ 6.40 ～ 6.50m の高さに集中しており、隣接する SD2008 内から出土している土器の標高とほぼ同一レベルに位置しており、前後して投棄されたものと考えられる。

出土遺物　791 は弥生土器の壺である。792 ～ 812 は甕である。813 ～ 815 は鉢である。816 は小型丸底鉢である。817 ～ 823 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

9 号溝（SD2009）（第 404・405 図）

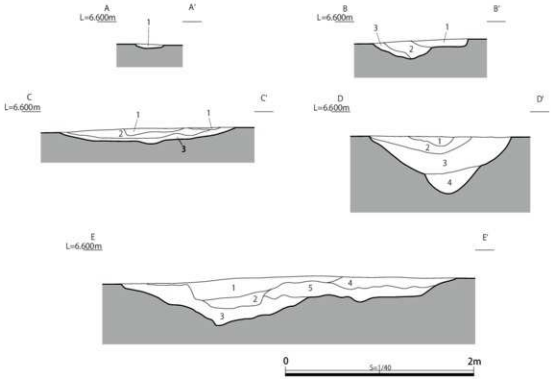
検出地点　Q－9・R－9 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、西側を SD1023 に切られている。残存値で延長距離は 4.67m、最大幅は 0.71m、最大深度は 0.35m を測る。断面形状は皿形とみられる。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　遺構検出面付近から出土している。

出土遺物　824 は弥生土器の壺である。825 は



第 389 図　SD2008 断面図（1/40）

高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

11 号溝（SD2011）（第 406 ～ 408 図）

検出地点　S － 5・6・T － 5・6・A － 5・6 グリッド。

形態・規模　南北方向に延びる溝で、南端は SD2008 に合流しており、西側は調査区外に延びている。残存値で延長距離は 10.57m、最大幅は 1.92m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は皿形とみられる。

土層　黄褐色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　北寄りの遺構検出面上面付近から土器が集中して出土している。

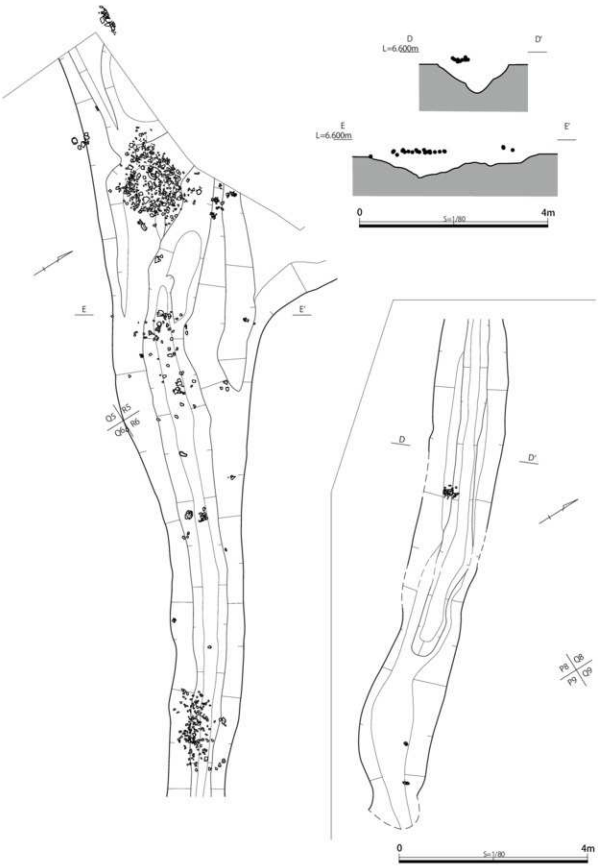
出土遺物　826 は弥生土器の壺である。827・828 は甕である。829 ～ 831 は鉢である。832・833 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

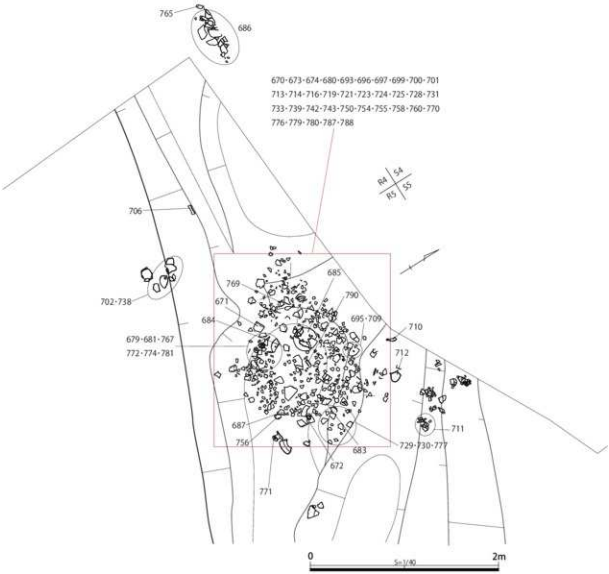
13 号溝（SD2013）（第 409 ～ 411 図）

検出地点　R － 11 ～ 15・S － 11 ～ 15 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で、西端を SB2005 に切られている。残存値で延長距離は 17.04m、最大幅は 2.30m、最大深度は 0.27m を測る。断面形状は皿形である。



第 390 図　SD2008 遺物出土状況図①（1/80）



第 391 図　SD2008 遺物出土状況図②（1/40）

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　S － 12 グリッド付近から土器が出土している。

出土遺物　834・835 は弥生土器の壺である。836・837 は甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

④土坑（SK）

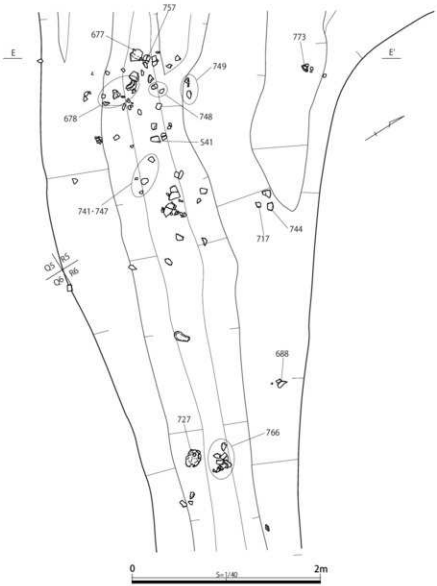
1 号土坑（SK2001）（第 412・413 図）

検出地点　Q － 17・18・R － 17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.33m、短軸が 1.00m、最大深度は 0.23m を測る。断面形状は緩やかな二段形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・3 層が暗灰黄色、2 層が灰黄色となっている。

遺物出土状況　1 層を中心として土器および炭化物が出土している。



第 392 図　SD2008 遺物出土状況図③（1/40）

出土遺物　838 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後半以降の年代が想定される。

2 号土坑（SK2002）（第 414・415 図）

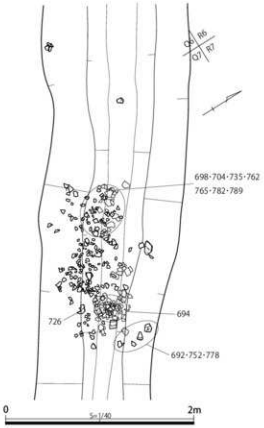
検出地点　P－17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.92m、短軸が 0.91m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は皿形である。

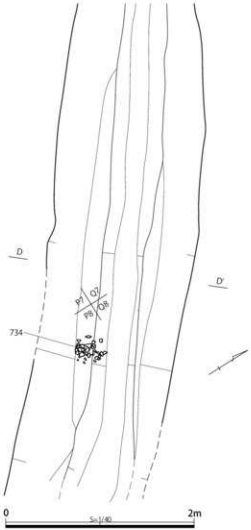
土層　いずれも粘質土で 4 層に分層され、1 層が灰オリーブ色、2 層が黄灰色、3･4 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

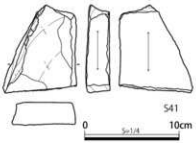
出土遺物　839 は弥生土器の甕の底部である。



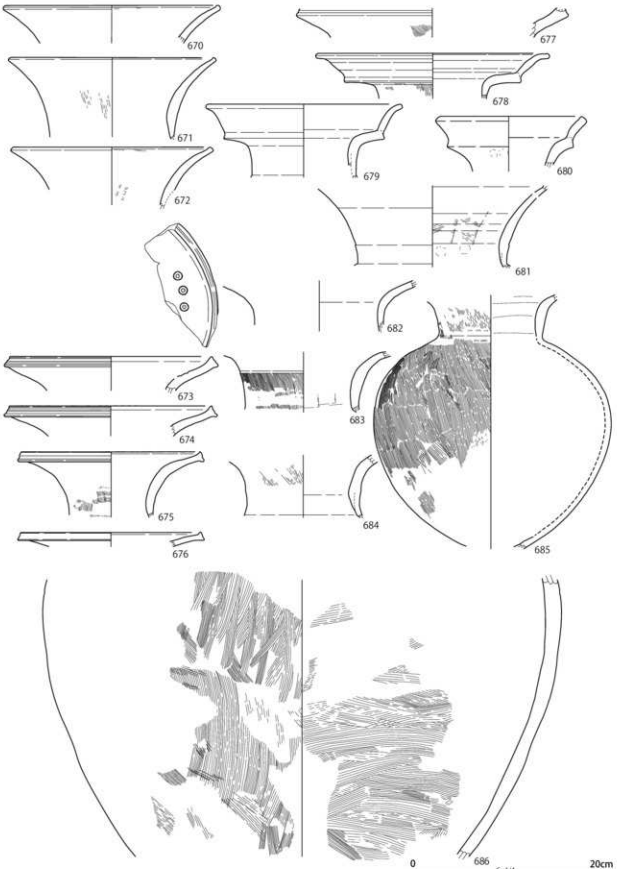
第 393 図　SD2008 遺物出土状況図④（1/40）



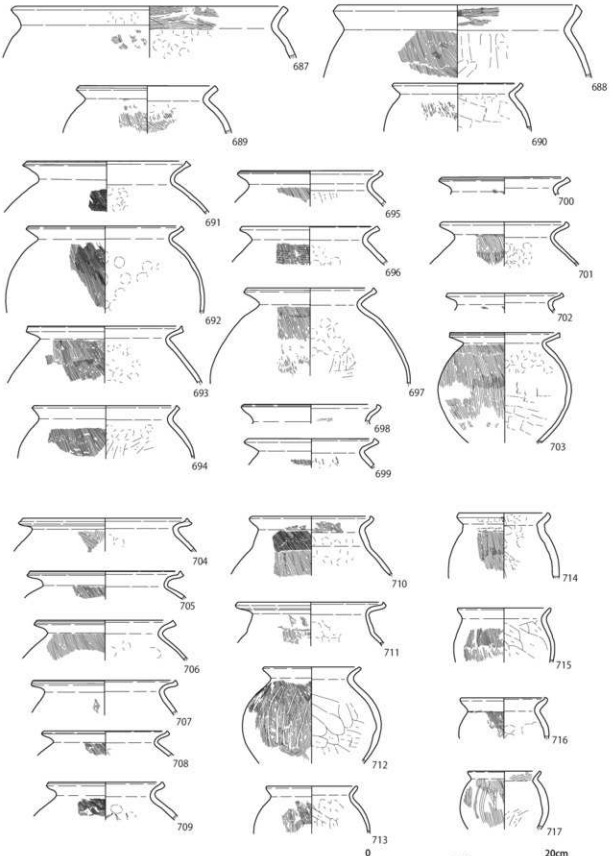
第 394 図　SD2008 遺物出土状況図⑤（1/40）



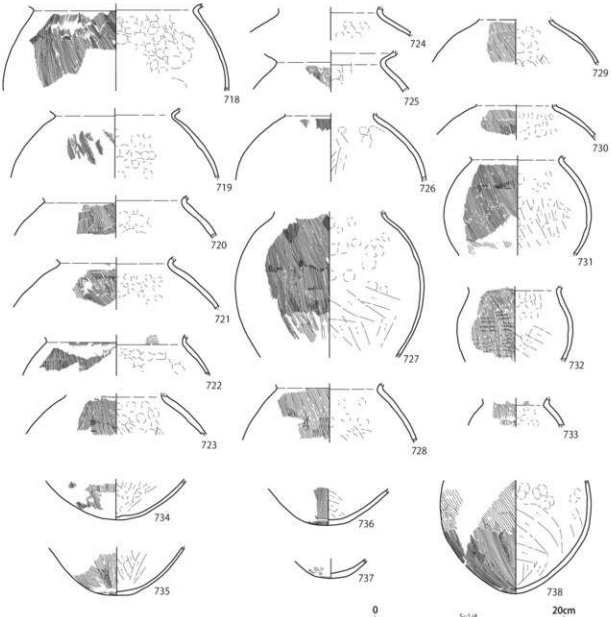
第 395 図　SD2008 出土遺物①



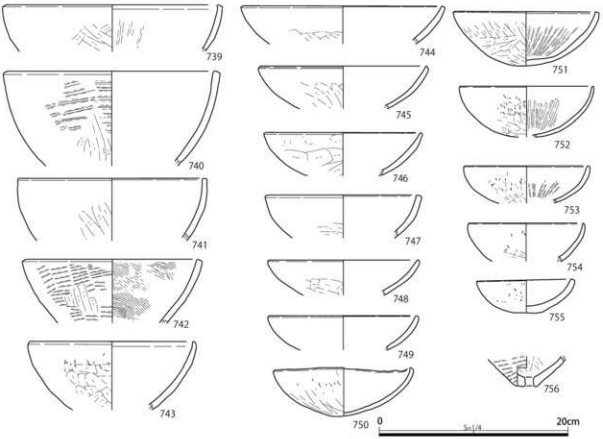
第 396 図　SD2008 出土遺物②



第 397 図　SD2008 出土遺物③



第 398 図　SD2008 出土遺物④



第 399 図　SD2008 出土遺物⑤

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

3 号土坑（SK2003）（第 416・417 図）

検出地点　P － 17・Q － 17 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し、南西部分を SB2004 に、北東部分を SP2037 にそれぞれ切られている。長軸が 2.05m、短軸が 1.30m、最大深度は 0.30m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層され、1 層が黄灰色、2 ～ 4 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　840 は弥生土器の鉢である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

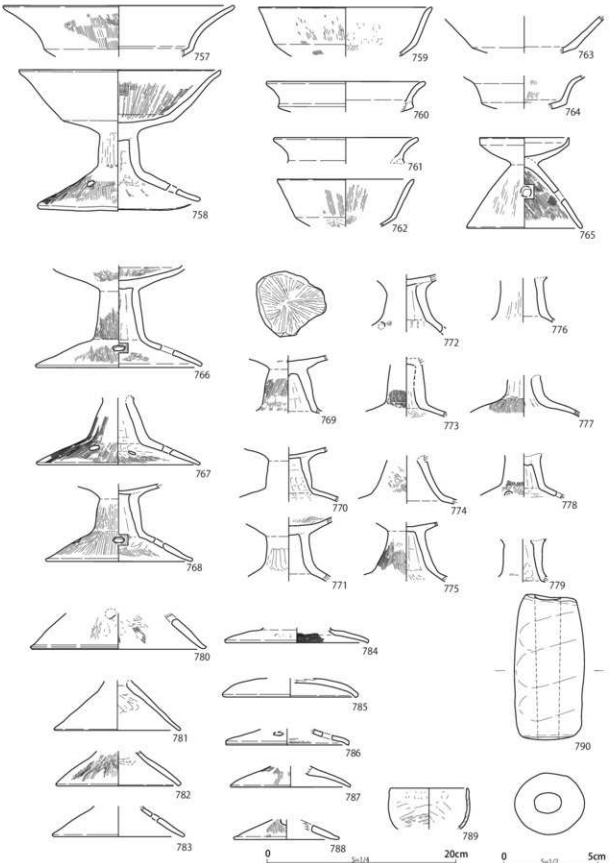
4 号土坑（SK2004）（第 418・419 図）

検出地点　P － 16 グリッド。

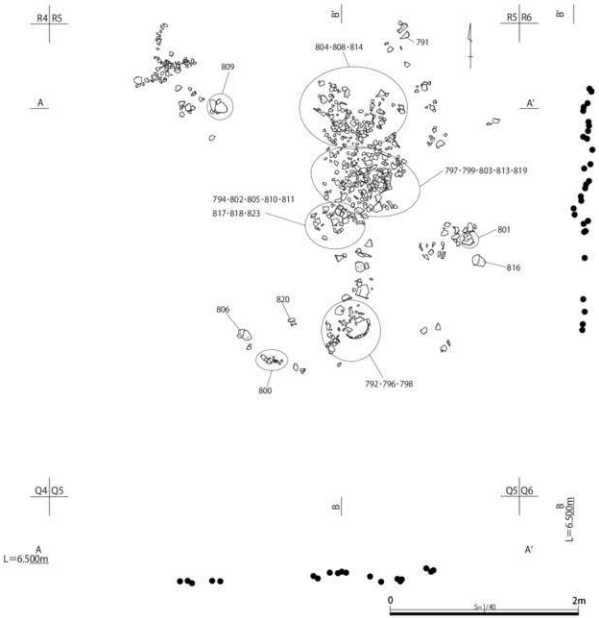
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.13m、短軸が 0.57m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

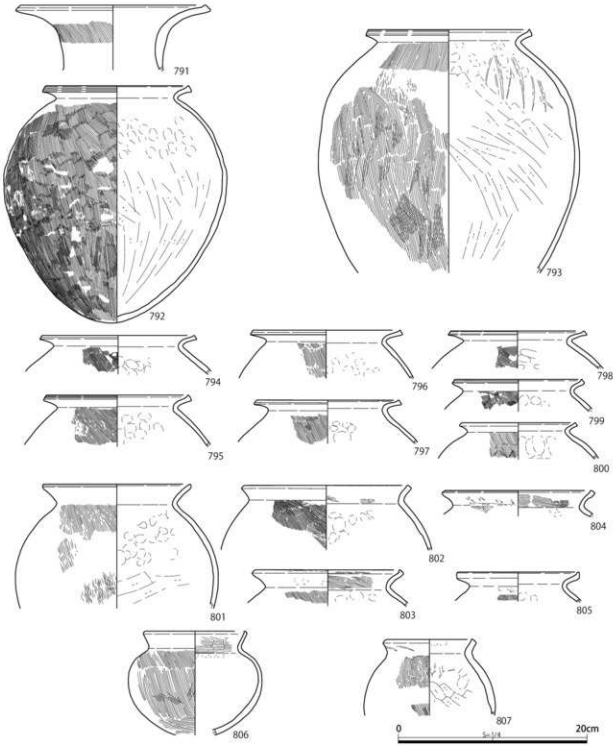
遺物出土状況　遺構検出面上面を中心に土器が出土している。



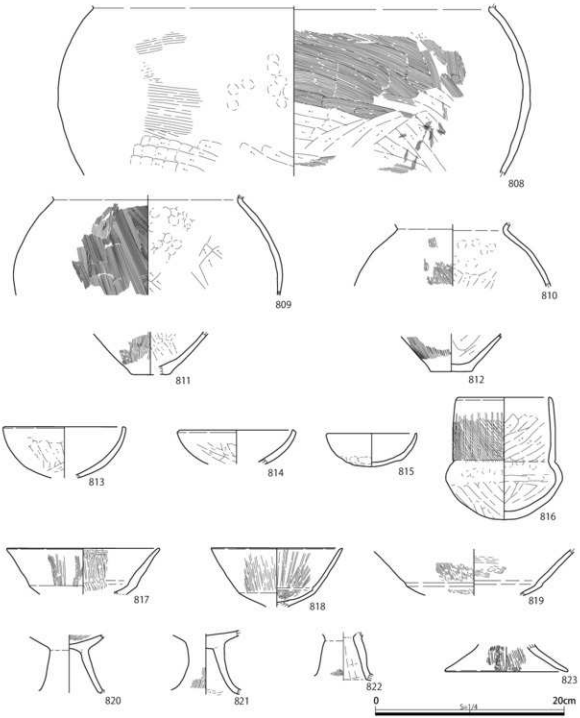
第 400 図　SD2008 出土遺物⑥



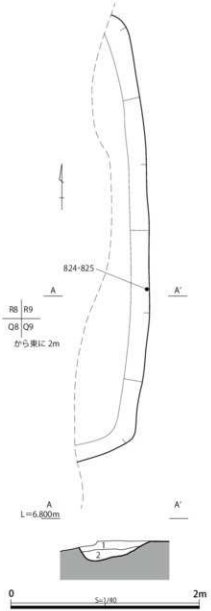
第 401 図　SD2008 横土器溜まり遺物出土状況図（1/40）



第 402 図　SD2008 横土器溜まり出土遺物①

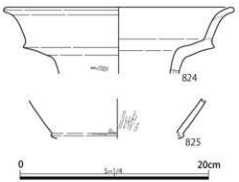


第 403 図　SD2008 横土器溜まり出土遺物②

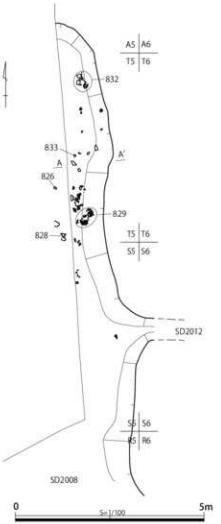


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い。砂やや多い。天井部崩落とコンクリート塊(20cm以内)含む。部分的に~40cm厚ずつに拡。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。黒褐色粘土ブロック(~4cm以内)含む。動物骨が散在する。

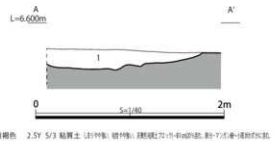
第 404 図　SD2009 平断面図（1/40）



第 405 図　SD2009 出土遺物

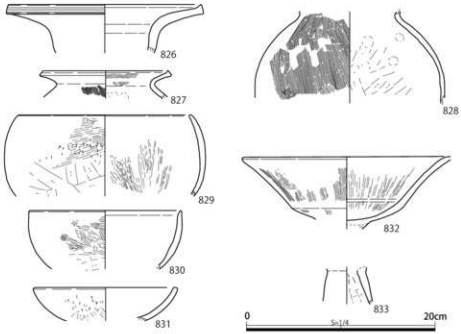


第 406 図　SD2011 平面図（1/100）



1 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い。砂やや多い。天井部崩落とコンクリート塊(~40cm以内)含む。動物~マンガン層~小礫部が多に拡。

第 407 図　SD2011 断面図（1/40）

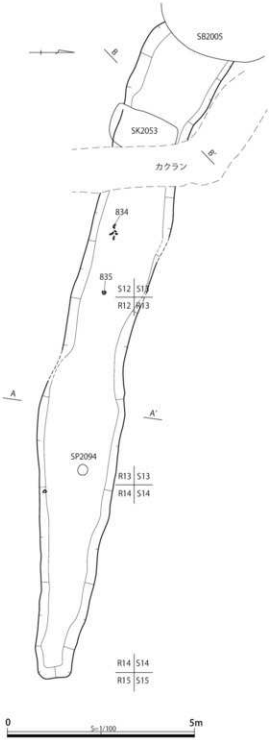


第 408 図　SD2011 出土遺物

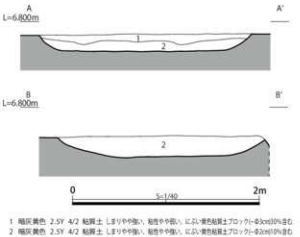
出土遺物　841・842 は弥生土器の甕である。
時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

1 号集石遺構（SU2001）（調査時名称 SK2005）（第 420 ～ 436 図）

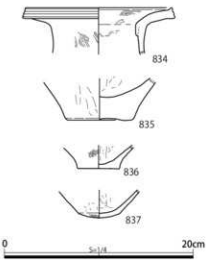
検出地点　R － 15・S － 15 グリッド。
形態・規模　調査区の中央北寄りにおいて検出された集石遺構で、北側は後世の削平によって失われている。遺構検出当初の所見では土坑状の浅い掘り込み内に石が集中的に投棄された可能性を想定していたが、礫のエレベーションの検討などから中央付近が盛り上がっており、周辺に離れるに従って緩やかに傾斜しながら低くなっている状況が確認できたため、小規模ながらもマウント状の集石であると結論づけた。残存値で長軸が 3.51m、短軸が 2.18m、中央部の高さが約 0.30m を測る。平面形状は方形に近いプランを推定している。集石はおもに 10cm 前後の砂岩の円礫や亜角礫などを中心としているが、より基底部に近い中央部付近においては最大 40cm 前後の砂岩や大型の結晶片岩の板石などが集中して出土して石槨状を呈しており、その内部には体部下半に穿孔を施した壺形土器が出土していることから墓壙の可能性も考えられる。
土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。
遺物出土状況　集石内から多くの土器や石器類が出土している。
出土遺物　843 ～ 890 は弥生土器の壺である。891 ～ 948 は甕である。949 ～ 960 は鉢である。961・962 は把手と考えられる。963 ～ 977 は高杯である。978 ～ 981 は脚台である。S42 ～ S45 は石庖丁である。S46 は砂岩の砥石である。S47・S48 は斑糲岩の敲石である。これらは S49 と同様に石斧の未製品の可能性も考えられる。S50 ～ S77 は敲石または敲打痕を持つ石である。S78 ～ S93 は砥石である。



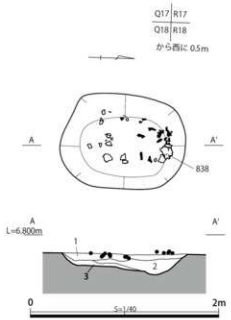
第 409 図　SD2013 平面図（1/100）



第 410 図　SD2013 断面図（1/40）

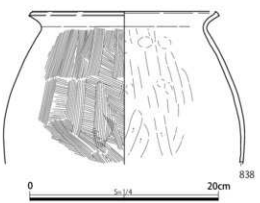


第 411 図　SD2013 出土遺物

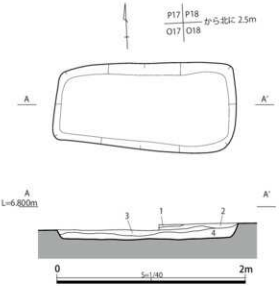


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、砂やや多い、径5cmまでのパミス約5%含む。約直径40cm広がりをもって出土。動物骨の破砕されたものが多い。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、砂やややや多い、径5cmまでのパミス約5%含む。約直径40cmの円形に出土。動物骨の破砕されたものが多い。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、砂やややや多い、径5cmまでのパミス約5%含む。動物骨の破砕されたものが多い。

第 412 図　SK2001 平断面図（1/40）

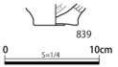


第 413 図　SK2001 出土遺物



1 灰オリーブ色 5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄灰色粘質土ブロック(φ2cm)30%含む。
2 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(φ1cm)20%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黄色粘質土ブロック(φ1cm)30%含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック(φ3cm)20%含む。

第 414 図　SK2002 平断面図（1/40）



第 415 図　SK2002 出土遺物

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃の時期と考えられる。

7 号土坑（SK2007）（第 437・438 図）

検出地点　R－14 グリッド。

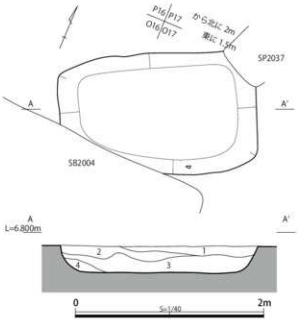
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.08m、短軸が 0.58m、最大深度は 0.24m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で、1 層が灰オリーブ色、2 層が暗灰黄色に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

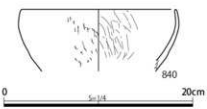
出土遺物　982 は弥生土器の壺である。983 は甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

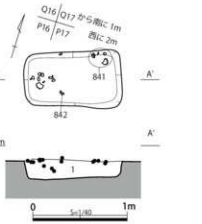


1 黒灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりや強い、粘性や強い、暗灰黄色粘質土ブロック(～Φ10cm)40%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりや強い、粘性や強い、黄灰色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりや強い、粘性や強い、黄褐色粘質土ブロック(～Φ10cm)30%含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりや強い、粘性や強い、灰色粘質土ブロック(～Φ2cm)30%含む。

第 416 図　SK2003 平断面図（1/40）

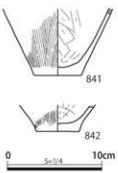


第 417 図　SK2003 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりや強い、粘性や強い、にぶい黄褐色粘質土ブロック(～Φ3cm)5%含む。断面観察のみにあり。

第 418 図　SK2004 平断面図（1/40）



第 419 図　SK2004 出土遺物

9 号土坑（SK2009）（第 439 図）

検出地点　Q－13 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.11m、短軸が 0.53m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が灰オリーブ色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　2 層中の北西隅から土器が出土している。

出土遺物　図化可能なものは出土していない。

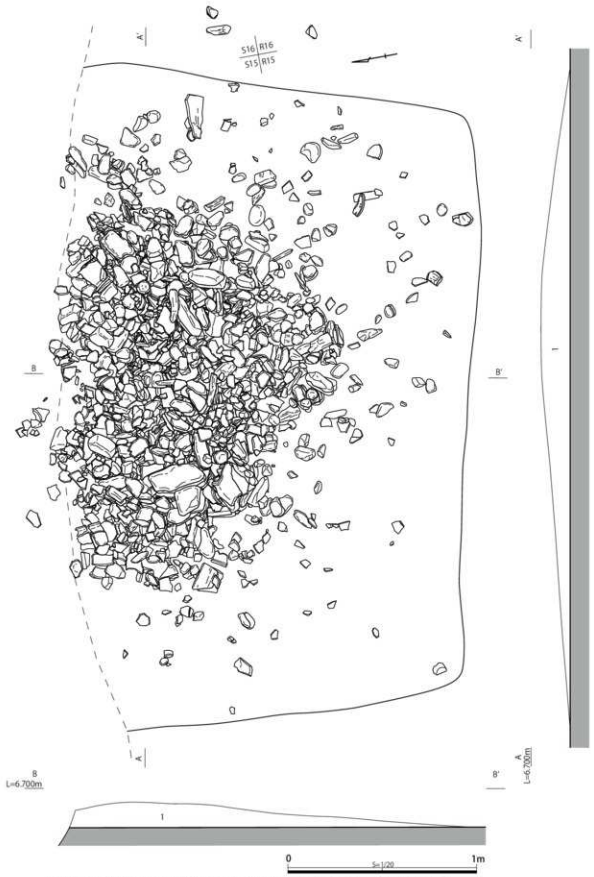
時期　年代は特定できない。

10 号土坑（SK2010）（第 440・441 図）

検出地点　P－13・Q－13 グリッド。

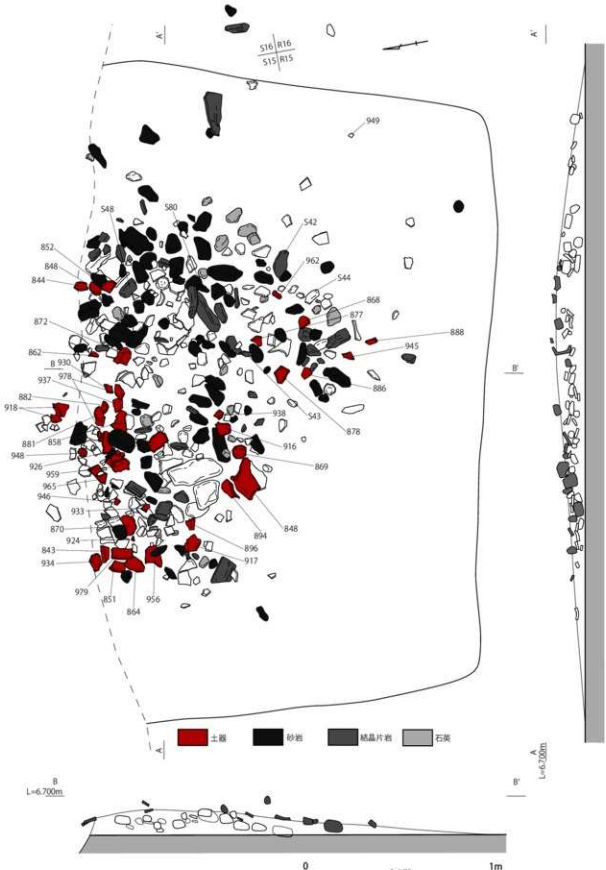
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.53m、短軸が 0.88m、最大深度は 0.26m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・2 層が灰オリーブ色、3 層が暗灰黄色となっている。

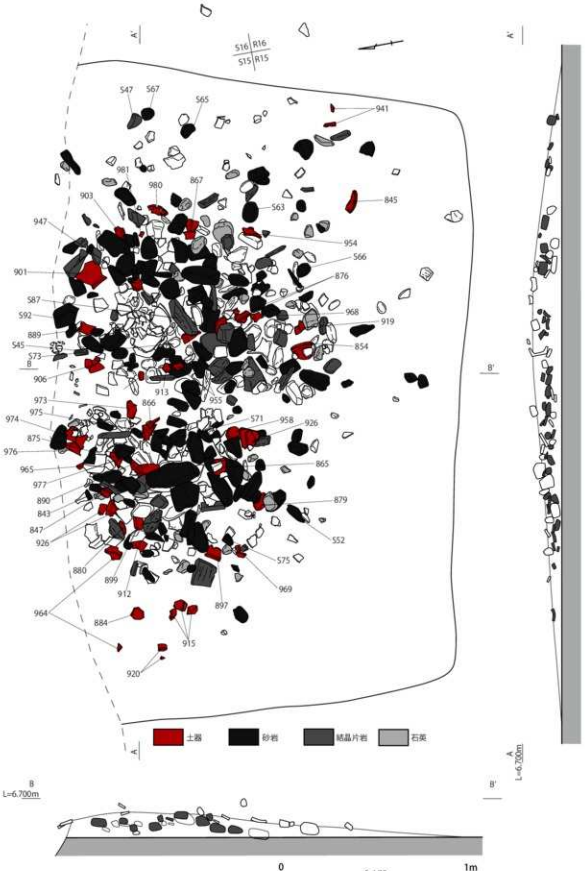


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い。炭粒を微量に含む。遺物は礫を多量に含む。礫は直径5～10cmを多量に含む。土器片を少量含む。炭化物が～5mmまでを少量含む。）

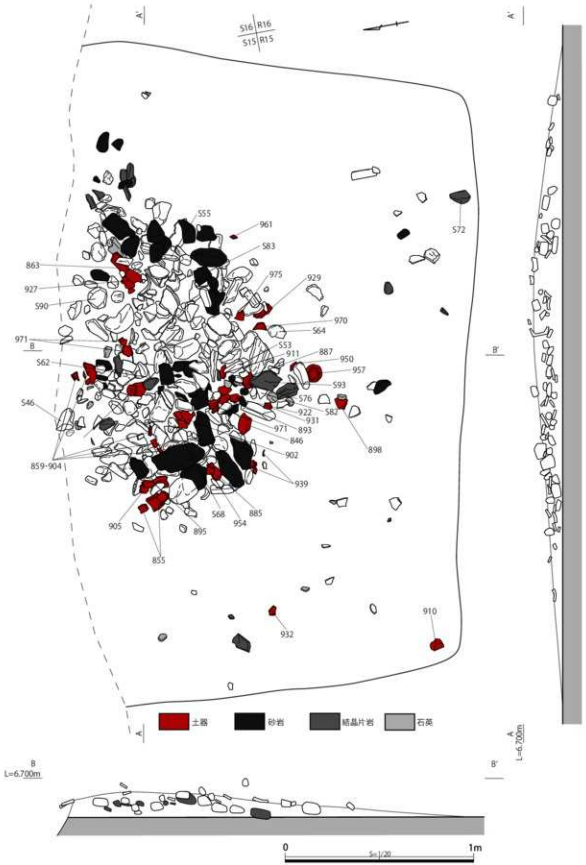
第 420 図　SU2001（SK2005）平断面図（1/20）



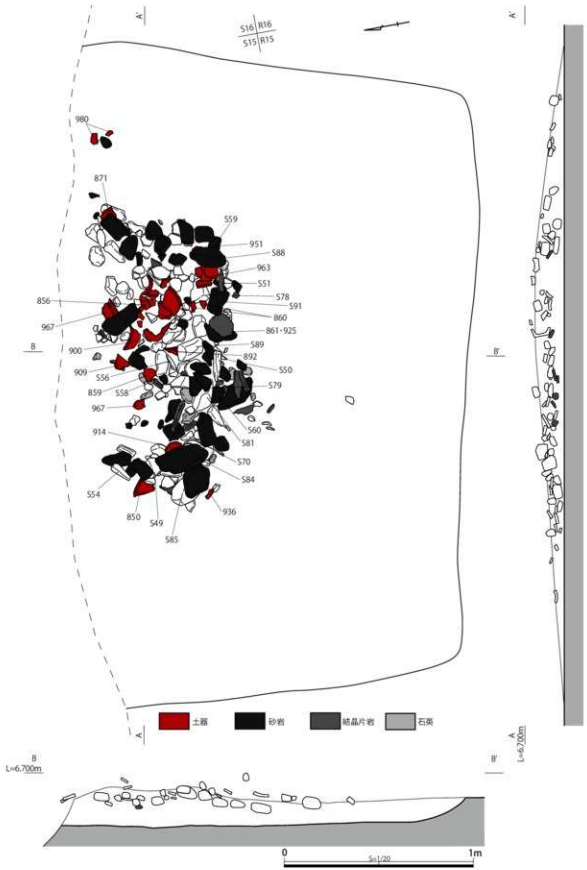
第 421 図　SU2001（SK2005）遺物出土状況図①（1/20）



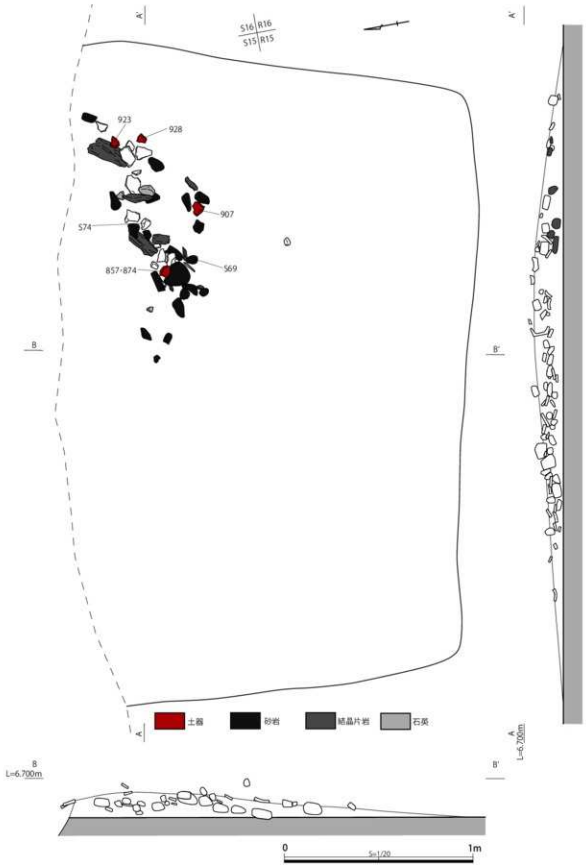
第 422 図　SU2001（SK2005）遺物出土状況図②（1/20）



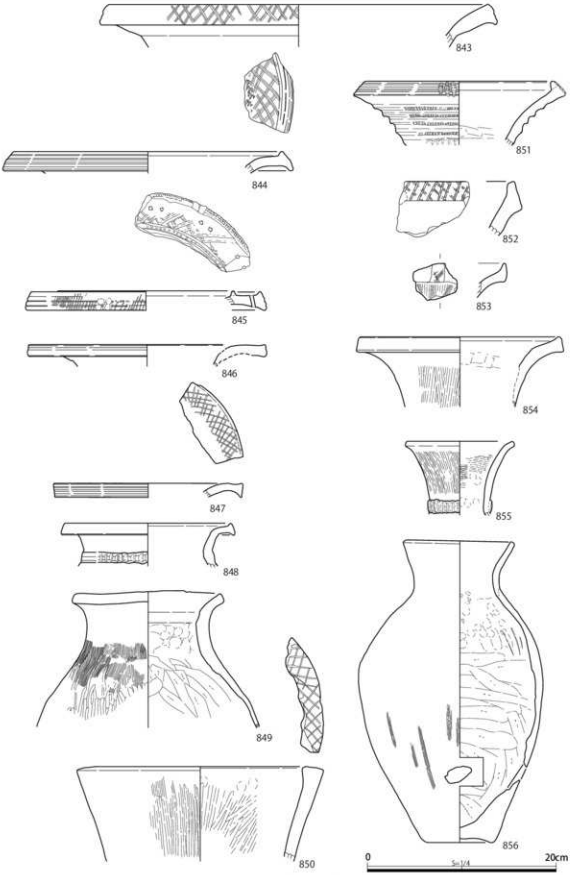
第 423 図　SU2001（SK2005）遺物出土状況図③（1/20）



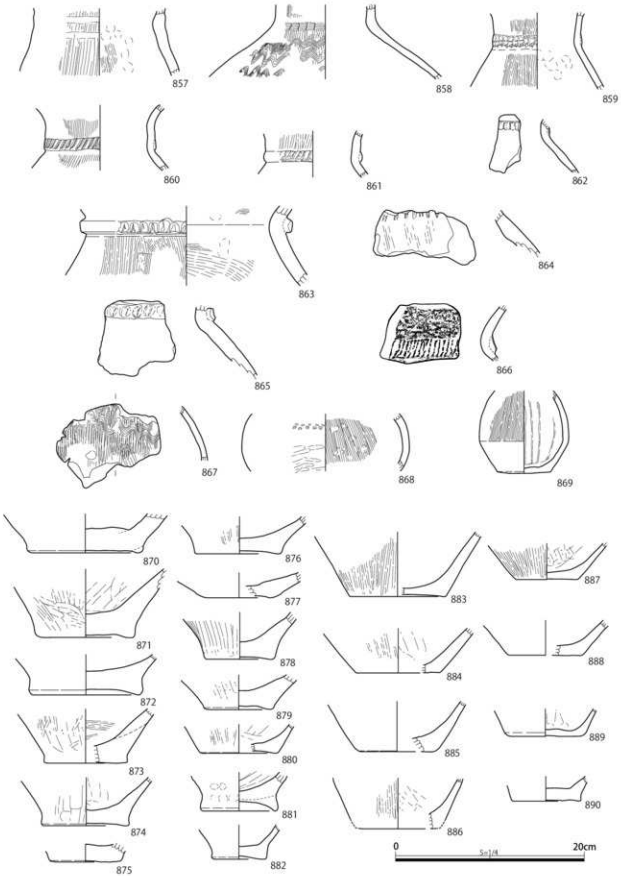
第 424 図　SU2001（SK2005）遺物出土状況図④（1/20）



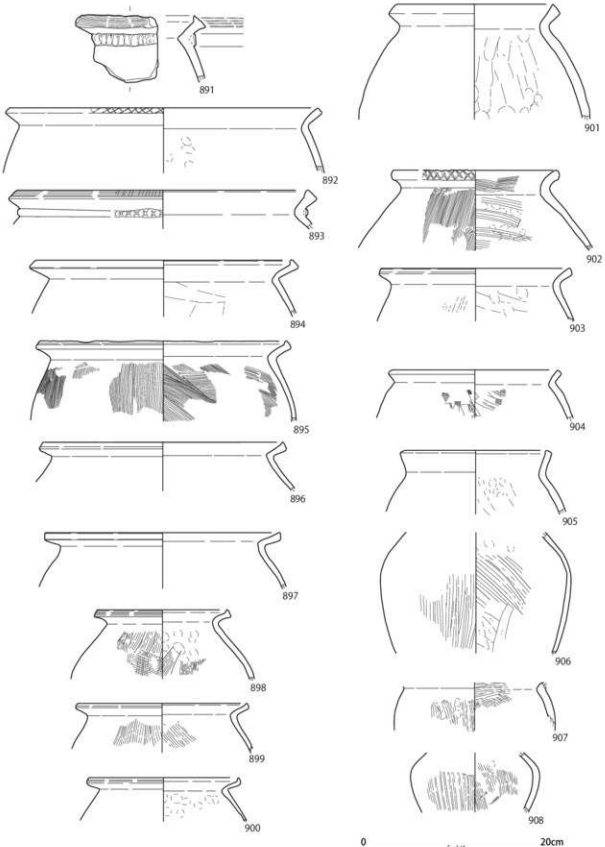
第 425 図　SU2001（SK2005）遺物出土状況図⑤（1/20）



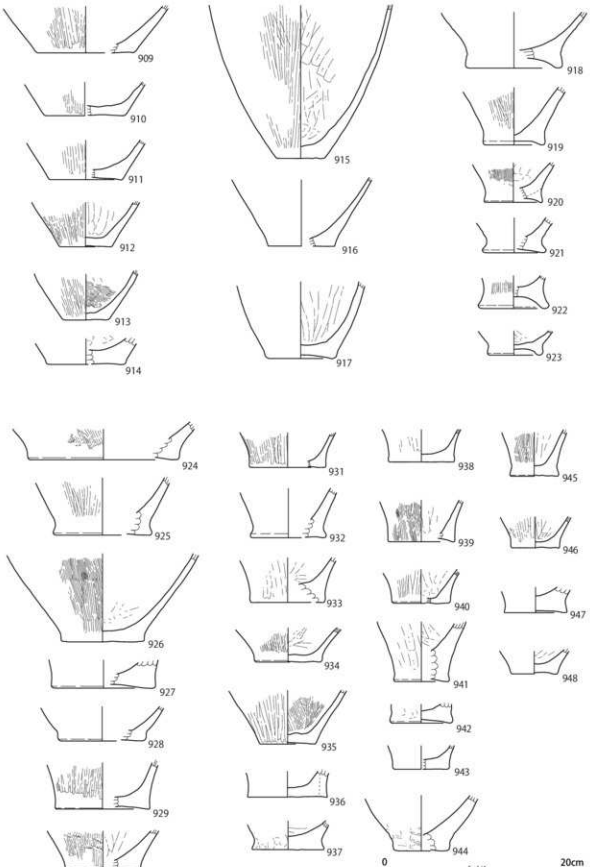
第 426 図　SU2001（SK2005）出土遺物①



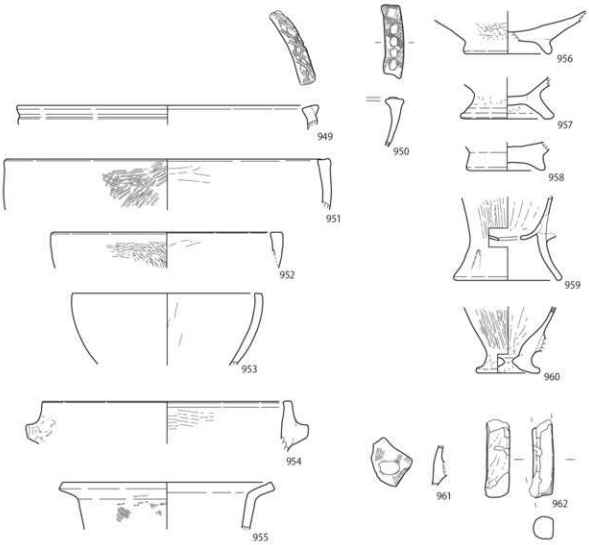
第 427 図　SU2001（SK2005）出土遺物②



第 428 図　SU2001（SK2005）出土遺物③



第 429 図　SU2001（SK2005）出土遺物④



第 430 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑤

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　984 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

12 号土坑（SK2012）（第 442・443 図）

検出地点　P－13・14 グリッド。

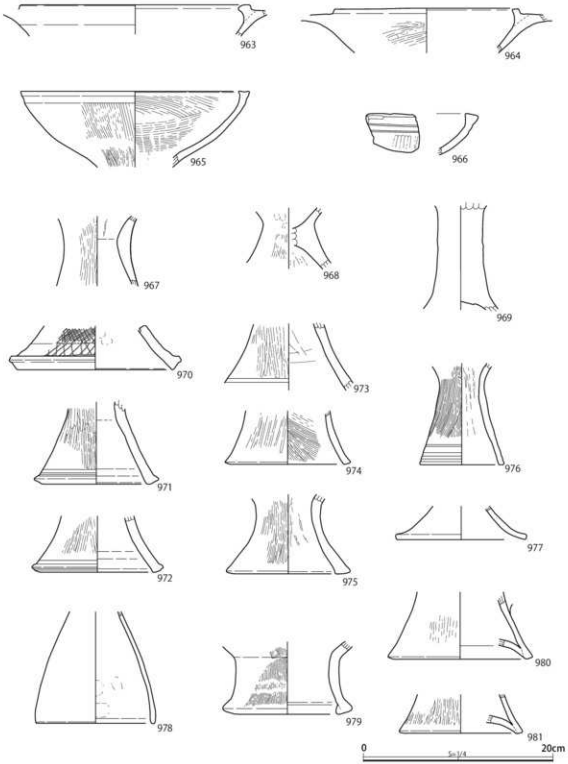
形態・規模　平面形状は円形を呈し一辺が 1.16m、最大深度は 0.23m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で、1 層が灰オリーブ色、2 層が暗灰黄色に分層される。

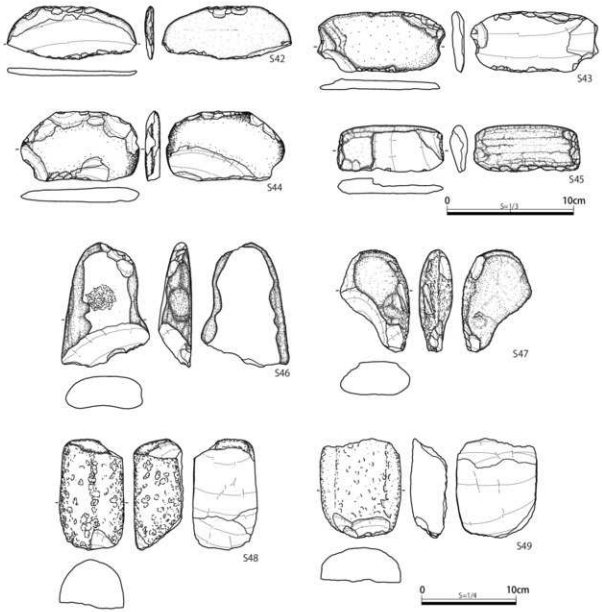
遺物出土状況　第 1 層と第 2 層の境から土器が出土している。

出土遺物　985 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。



第 431 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑥



第 432 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑦

15 号土坑（SK2015）（第 444・445 図）

検出地点　P－15 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.90m、短軸が 0.45m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で、第 1 層が黒褐色、第 2 層が灰オリーブ色、第 3 層が暗灰黄色に分層される。

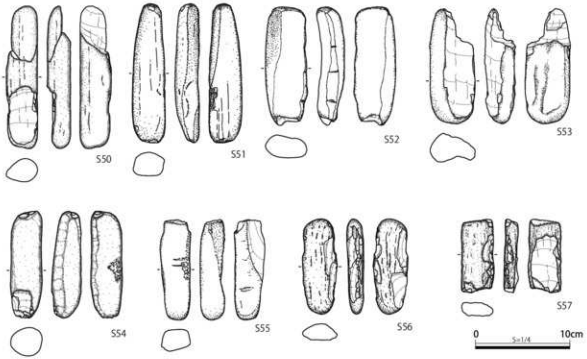
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　986 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

19 号土坑（SK2019）（第 446・447 図）

検出地点　M－14・N－14 グリッド。



第 433 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑧

形態・規模　平面形状は楕円形とみられ、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸が 0.94m、短軸が 0.37m、最大深度は 0.19m を測る。断面形状は二段形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　987 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

25 号土坑（SK2025）（第 448・449 図）

検出地点　N － 17・18 グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し一辺が 1.37m、最大深度は 0.38m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも粘質土で 8 層に分層され、1 層がにぶい黄色、2･4 ～ 6･8 層が暗灰黄色、3 層が灰オリーブ色、7 層が灰黄色となっている。

遺物出土状況　ほぼ中央部分の 5 層、7 層を中心として土器が出土している。

出土遺物　988・989 は弥生土器の甕である。990・991 は鉢である。992 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

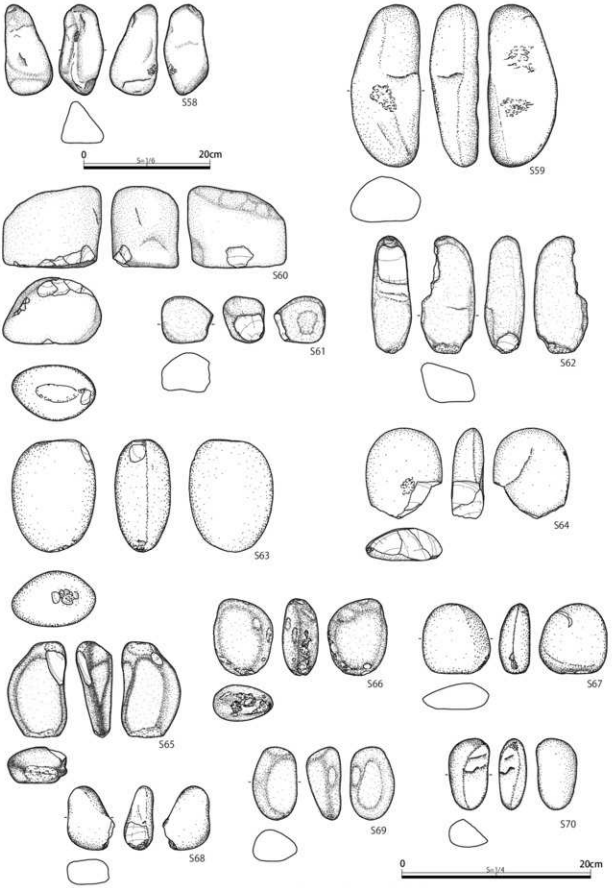
35 号土坑（SK2035）（第 450・451 図）

検出地点　O － 11・12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 4.42m、短軸が 1.29m、最大深度は 0.21m を測る。断面形状は皿形である。

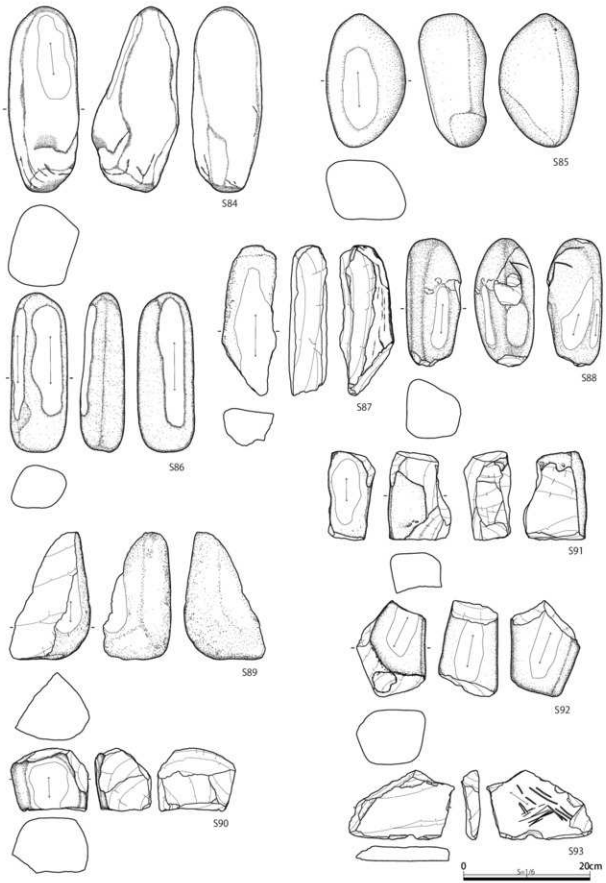
土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が灰黄色、2 層が暗灰黄色、3 層が灰白色となっている。

遺物出土状況　西寄りの 1 層中から土器が出土している。

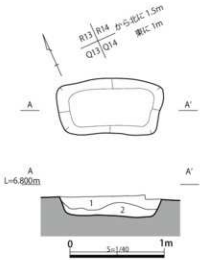


第 434 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑨

第 435 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑩

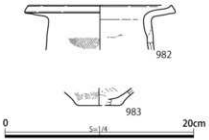


第 436 図　SU2001（SK2005）出土遺物⑪

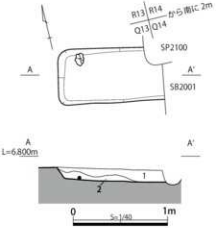


1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（まり砂質）、硬砂利質。最深部は幅2フロット5~4.2m深さ0.8m。底面は幅2フロット5~4.0m深さ0.5m。動き・マボガ集・細部ボケ不良。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まり砂質）、硬砂利質。底すぐ一円は幅2フロット5~4.2m深さ0.8m。動き・マボガ集・細部ボケ良。

第 437 図　SK2007 平断面図（1/40）

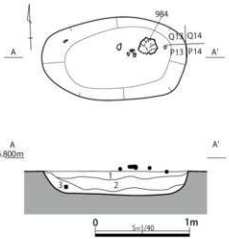


第 438 図　SK2007 出土遺物



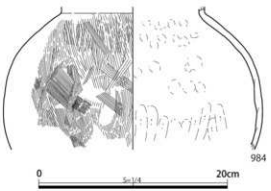
1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（まり砂質）、硬砂利質。底面は幅2フロット5~4.0m深さ0.5m。部分的に幅0.3程度。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まり砂質）、硬砂利質。底部・底すぐ一円は幅2フロット5~4.0m深さ0.5m。

第 439 図　SK2009 平断面図（1/40）

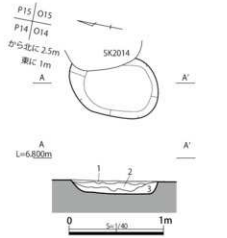


1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粒土ブロック7～8%含む、炭化物2%程度含む。）
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック7～8%含む。）
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック7～8%含む。）

第 440 図　SK2010 平断面図（1/40）

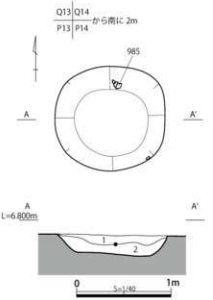


第 441 図　SK2010 出土遺物



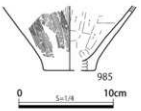
1 黒褐色　2.5Y 3/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粒土ブロック7～8%含む。）
2 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粒土ブロック7～8%含む。炭化物2%含む。）
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色～赤色粒土ブロック7～8%含む。）

第 444 図　SK2015 平断面図（1/40）

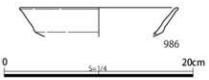


1 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック7～8%含む。炭化・マンガン粒2%程度含む。）
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、オリーブ黒色粘質土ブロック7～8%含む。黄褐色粘質土ブロック7～8%含む。）

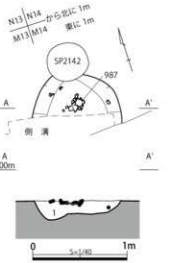
第 442 図　SK2012 平断面図（1/40）



第 443 図　SK2012 出土遺物



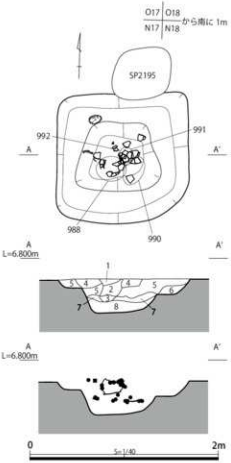
第 445 図　SK2015 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細土ブロック・カーボン0.5mを20%含む、表付い遺物少量含む。

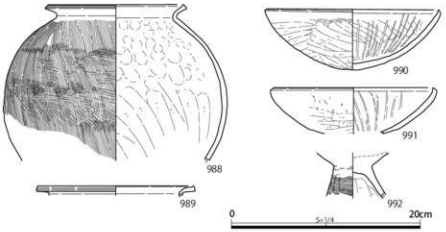
第 446 図　SK2019 平断面図（1/40）

第 447 図　SK2019 出土遺物

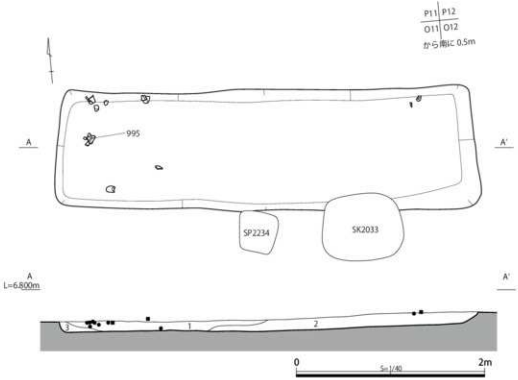


1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細土ブロック・カーボン0.5mを40%含む、マンガン粒少量含む遺物。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色～赤褐色細土ブロック・カーボン0.2mを10%含む、表付・マンガン少量含む遺物。
3 灰オリーブ色 5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰褐色細土ブロック・カーボン0.2mを10%含む、表付い遺物少量含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細土ブロック・カーボン0.2mを10%含む、表付い遺物少量含む。
5 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、にぶい黄褐色細土ブロック・カーボン0.2mを10%含む、黄灰褐色細土ブロック・カーボン0.5mを20%含む、表付い遺物ややキズ付く。
6 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黄褐色細土ブロック・カーボン0.5mを20%含む、表付い遺物少量含む。
7 灰黄色 2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色細土ブロック・カーボン0.5mを10%含む、表付い遺物少量含む。
8 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰褐色細土ブロック・カーボン0.2mを10%含む、表付い遺物少量含む。

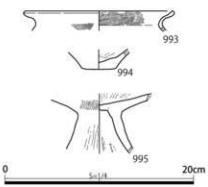
第 448 図　SK2025 平断面図（1/40）



第 449 図　SK2025 出土遺物



第 450 図　SK2035 平断面図（1/40）

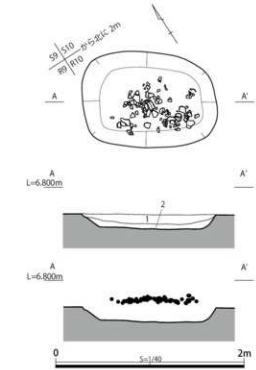


第 451 図　SK2035 出土遺物

出土遺物　993・994 は弥生土器の甕である。995 は高杯である。
時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

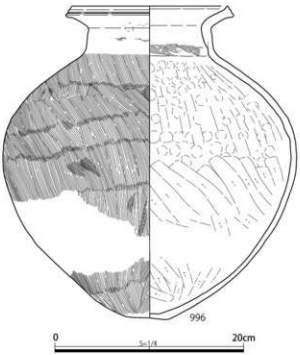
36 号土坑（SK2036）（第 452・453 図）

検出地点　S－9・10 グリッド。
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.42m、短軸が 1.10m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は皿形である。
土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。
遺物出土状況　遺構検出面上面より壺形土器の破片がほぼ 1 個体分集中して出土している。
出土遺物　996 は弥生土器の壺である。



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（まり中径5、砂中径5、炭粒径最大2ミリ）0.1m(10%含む)。炭化材1~3cmごくわずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（まり中径5、砂中径5、炭粒径最大2ミリ）0.1m(10%含む)。

第 452 図　SK2036 平断面図（1/40）



第 453 図　SK2036 出土遺物

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

38 号土坑（SK2038）（第 454・455 図）

検出地点　R－8・9 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 1.40m、短軸が 0.75m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 3 層に分層されている。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　997 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

39 号土坑（SK2039）（第 456・457 図）

検出地点　T－7・8 グリッド。

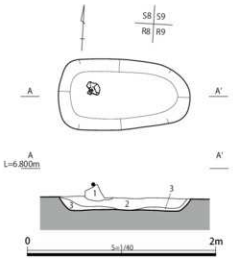
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.18m、短軸が 0.80m、最大深度は 0.22m を測る。断面形状は二段形である。

土層　いずれも灰オリーブ色粘質土で 2 層に分層されている。

遺物出土状況　中央付近を中心に土器が出土している。

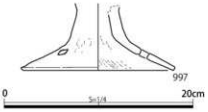
出土遺物　998 は弥生土器の甕である。999 は鉢である。1000 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

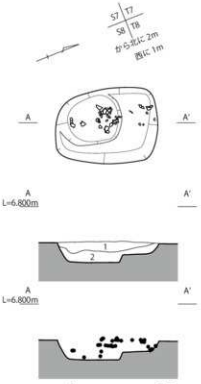


1 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性中強い、オリーブ黄色粘質土ブロック小～0.1m以下含む。）
2 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（しまりやや強い、粘性中強い、オリーブ黄色粘質土ブロック小～0.2m以下含む。）
3 灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性中強い、灰黄褐色土ブロック小～0.1m以下含む。）

第 454 図　SK2038 平断面図（1/40）

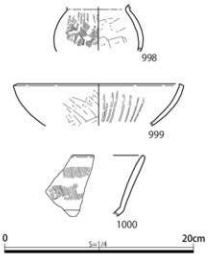


第 455 図　SK2038 出土遺物

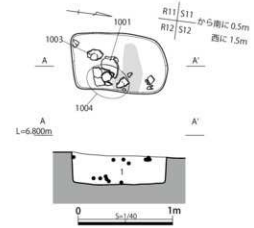


1 灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土（しまりやや強い、粘性中強い、灰黄褐色土ブロック小～0.1m以下含む。炭化物ポ～黒色粒ポ～0.01m以下に含む。）
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土（しまりやや強い、粘性中強い、灰黄褐色土ブロック小～0.1m以下含む。炭化物ポ～0.1m以下に含む。）

第 456 図　SK2039 平断面図（1/40）

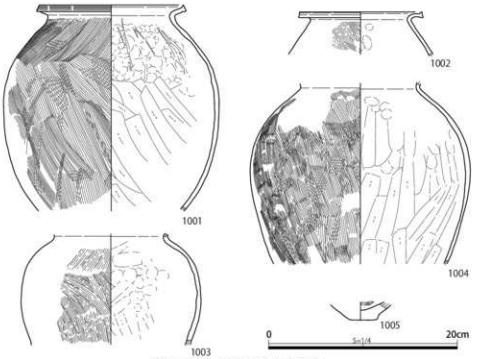


第 457 図　SK2039 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（炭・焼土多く含む。）

第 458 図　SK2049 平断面図（1/40）



第 459 図　SK2049 出土遺物

49 号土坑（SK2049）（第 458・459 図）

検出地点　R－11 グリッド。

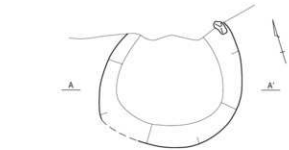
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.11m、短軸が 0.56m、最大深度は 0.35m を測る。断面形状は長方形である。

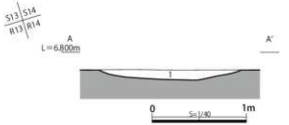
土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　中央付近に焼土や炭化物が拡がっており、その周囲から土器が出土している。

出土遺物　1001 ～ 1004 は弥生土器の甕である。1005 は鉢である。

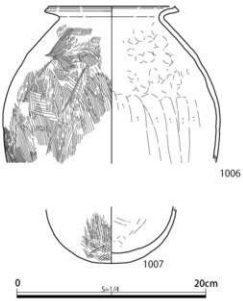
時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。



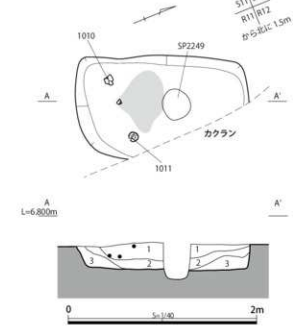


1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土（まり状集）。硬や堅い。鉄分極土ブロック・小礫が多く、Ⅱ鉄分極土ブロック・小礫が多く、炭化物が一部混ざりながら混ぜ。

第 460 図　SK2051 平断面図（1/40）

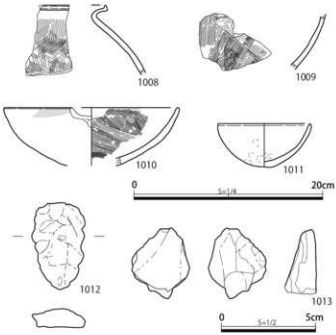


第 461 図　SK2051 出土遺物



1 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや高い。
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い。炭化物が～0.1cmのブロックにまじる。焼土粒が～0.2cmのブロックにまじる。
3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い。マンガンが微少のブロックにまじる。

第 462 図　SK2053 平断面図（1/40）



第 463 図　SK2053 出土遺物

51 号土坑（SK2051）（第 460・461 図）

検出地点　S－14 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、北側は削平されている。残存値で長軸が 1.49m、短軸が 1.18m、最大深度は 0.12m を測り、断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　北端付近から土器や礫が出土している。

出土遺物　1006・1007 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

53 号土坑（SK2053）（第 462・463 図）

検出地点　R－11・12・S－11・12 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し北東部分は撹乱に切られている。残存値で長軸が 1.84m、短軸が 0.85m、最大深度は 0.39m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が黄褐色、2・3 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　中央付近の 2 層中に焼土や炭化物が拡がっており、土器はそれより上の 1 層中から出土している。

出土遺物　1008・1009 は弥生土器の甕である。1010・1011 は鉢である。1012 は不明の土製品、1013 は羽口の可能性が考えられる。

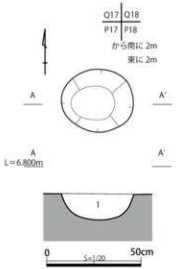
時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

⑤小穴（SP）

11 号小穴（SP2011）（第 464・465 図）

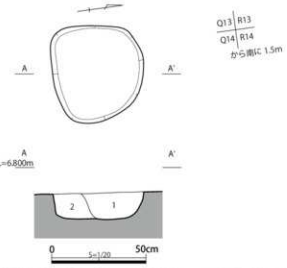
検出地点　P－18 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.39m、短軸が 0.33m、最大深度は 0.14m



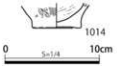
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い 砕粒やや強い、炭オリーブ色粘質土ブロック(1~5mm)20%含む。

第 464 図　SP2011 平断面図（1/20）

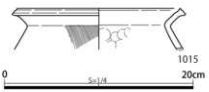


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い 砕粒やや強い、炭色粘質土ブロック(1~5mm)5%含む。最砂集り傾斜わずかに含む。
2 黒褐色 2.5Y 3/2 粘質土 しまりやや強い 砕粒やや強い、暗茶色~暗灰黄色粘質土ブロック(1~5mm)20%含む。

第 466 図　SP2100 平断面図（1/20）



第 465 図　SP2011 出土遺物



第 467 図　SP2100 出土遺物

を測る。断面形状は丸底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1014 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

100 号小穴（SP2100）（第 466・467 図）

検出地点　Q－13・14 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な円形を呈し径が 0.51m、最大深度は 0.15m を測り、断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が黒褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

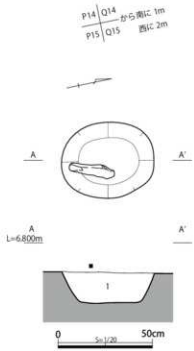
出土遺物　1015 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

103 号小穴（SP2103）（第 468・469 図）

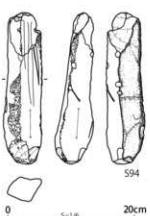
検出地点　P－14 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.50m、短軸が 0.40m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は逆台形である。

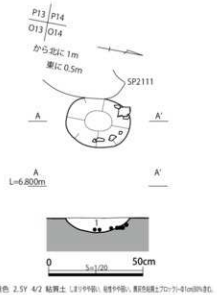


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。黒褐色風化ブロック少～多10cm以内含む。

第 468 図　SP2103 平断面図（1/20）

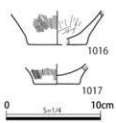


第 469 図　SP2103 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い。粘性やや強い。黒褐色風化ブロック少～多10cm以内含む。

第 470 図　SP2112 平断面図（1/20）



第 471 図　SP2112 出土遺物

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から砥石が出土している。

出土遺物　S94 は砂岩製の砥石である。

時期　年代は特定できない。

112 号小穴（SP2112）（第 470・471 図）

検出地点　P － 14 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、西側を SP2111 に切られている。長軸が 0.34m、短軸が 0.26m、最大深度は 0.08m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　北側および東側壁沿いから土器が出土している。

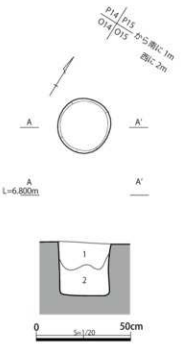
出土遺物　1016・1017 は弥生土器の甕の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

120 号小穴（SP2120）（第 472・473 図）

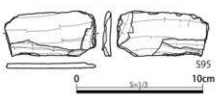
検出地点　O － 14 グリッド。

形態・規模　平面形状は円形を呈し径が 0.28m、最大深度が

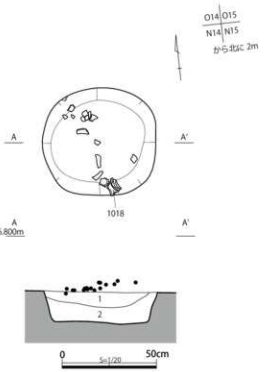


1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土（しまりやや強い、砲弾やや強い）暗灰黄色砲弾土ブロック7～8cm30%含む。
2 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、砲弾やや強い）黄灰色砲弾土ブロック7～8cm10%含む。

第 472 図　SP2120 平断面図（1/20）

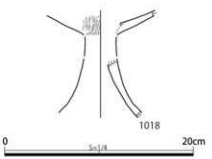


第 473 図　SP2120 出土遺物



1 暗灰黄色　2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、砲弾やや強い）黄灰色砲弾土ブロック7～8cm30%含む。
2 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土（しまりやや強い、砲弾やや強い）灰白色砲弾土ブロック7～8cm10%含む。

第 474 図　SP2125 平断面図（1/20）



第 475 図　SP2125 出土遺物

0.29m を測り、断面形状は長方形を呈する。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　S95 は結晶片岩の打製石庖丁である。

時期　出土した遺物から弥生時代以降の年代が想定される。

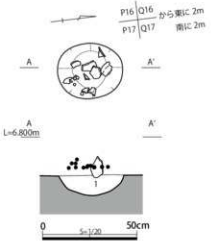
125 号小穴（SP2125）（第 474・475 図）

検出地点　O － 14 グリッド。

形態・規模　平面形状はほぼ円形を呈し径が 0.59m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は逆台形である。

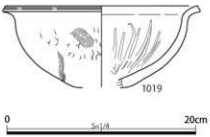
土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

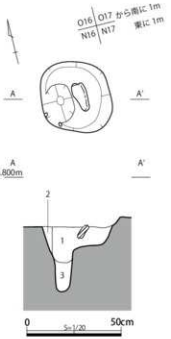


1 黄褐色　2.5Y 5/4 粘質土 しまり強い、粘性や強い、マンガン小・φ1cm10%含む。

第 476 図　SP2184 平断面図（1/20）



第 477 図　SP2184 出土遺物



1 黄灰色　2.5Y 4/3 粘質土 しまり や強い、粘性や強い、オリーブ褐色～にぶい黄色細粒土ブロック小・φ3cm30%含む。
2 灰オリーブ色 5Y　5/2 粘質土 しまり や強い、粘性や強い、黄褐色細粒土ブロック小・φ3cm30%含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまり や強い、にぶい黄色細粒土ブロック小・φ3cm30%含む。

第 478 図　SP2191 平断面図（1/20）

出土遺物　1018 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

184 号小穴（SP2184）（第 476・477 図）

検出地点　P－17 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.34m、短軸が 0.29m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は丸底形である。

土層　黄褐色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　1019 は弥生土器の鉢である。

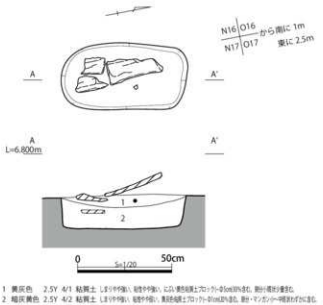
時期　出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

191 号小穴（SP2191）（第 478 図）

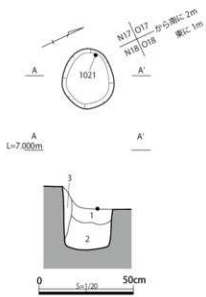
検出地点　N－17 グリッド。

形態・規模　平面形状はほぼ円形を呈し径が 0.38m、最大深度は 0.40m を測る。断面形状は二段形である。

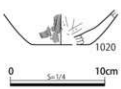
土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が灰オリーブ色、3 層が暗灰黄色となっている。



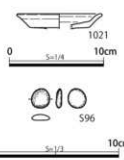
第 479 図　SP2193 平断面図（1/20）



第 481 図　SP2198 平断面図（1/20）



第 480 図　SP2193 出土遺物



第 482 図　SP2198 出土遺物

遺物出土状況　1 層中より砂岩の礫が出土している。

出土遺物　図化可能なものは出土していない。

時期　年代は特定できない。

193 号小穴（SP2193）（第 479・480 図）

検出地点　N－17 グリッド。

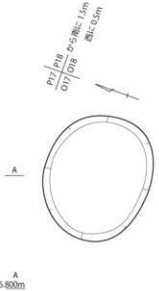
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.66m、短軸が 0.35m、最大深度は 0.18m を測る。断面形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面および 1 層中を中心として土器や結晶片岩の板礫が出土している。

出土遺物　1020 は弥生土器の甕の底部である。

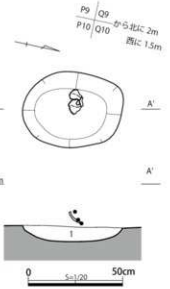
時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い 粘性やや強い 表土粘質土ブロック(7~10mm)10%含む 炭化物 焼土粒 ごくわずかに含む。

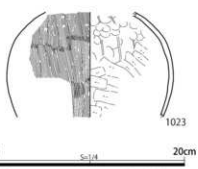
第 483 図　SP2205 平断面図（1/20）

第 484 図　SP2205 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い 粘性やや強い 炭化物 焼土粒 表土ブロック(7~10mm)10%含む。マンガン小粒状少量含む。

第 485 図　SP2256 平断面図（1/20）



第 486 図　SP2256 出土遺物

198 号小穴（SP2198）（第 481・482 図）

検出地点　N－18 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.32m、短軸が 0.27m、最大深度は 0.34m を測る。断面形状は長方形を呈する。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1・2 層が黒褐色、3 層は暗灰黄色となっている。

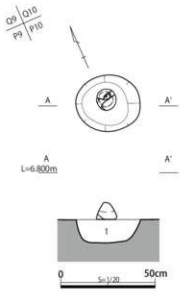
遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　1021 は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。S96 は泥岩の黒碁石である。

時期　出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

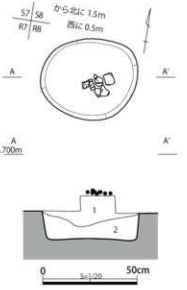
205 号小穴（SP2205）（第 483・484 図）

検出地点　O－17 グリッド。



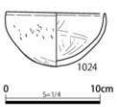
1　灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、鉄分・マンガン小粒状やや多く含む。

第 487 図　SP2258 平断面図（1/20）

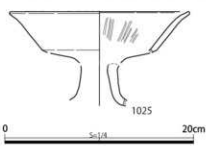


1　オリーブ黒色 5Y　6/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い）炭オリーブ色砂質土ブロック小～中20mm以下含む。
2　灰オリーブ色 5Y　4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い）オリーブ黒色砂質土ブロック小～中10mm以下含む。

第 489 図　SP2289 平断面図（1/20）



第 488 図　SP2258 出土遺物



第 490 図　SP2289 出土遺物

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.65m、短軸が 0.60m、最大深度は 0.36m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1022 は弥生土器の壺の底部である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

256 号小穴（SP2256）（第 485・486 図）

検出地点　Q－10 グリッド。

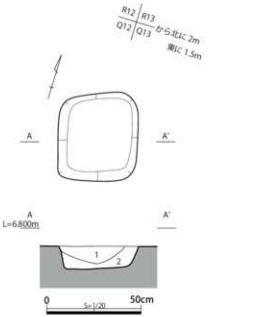
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.53m、短軸が 0.40m、最大深度は 0.08m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

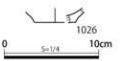
出土遺物　1023 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、砂やや強い、炭素粒混土ブロック少・φ1cm以下含む。 測定地点から-60.5cmにて土器が出土。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、砂やや強い、炭素粒・炭化物混土ブロック少・φ1cm以下含む。

第 491 図　SP2308 平断面図（1/20）



第 492 図　SP2308 出土遺物

258 号小穴（SP2258）（第 487・488 図）

検出地点　P－10 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.34m、短軸が 0.29m、最大深度は 0.13m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

出土遺物　1024 は弥生土器の鉢である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

289 号小穴（SP2289）（第 489・490 図）

検出地点　S－7・8 グリッド。

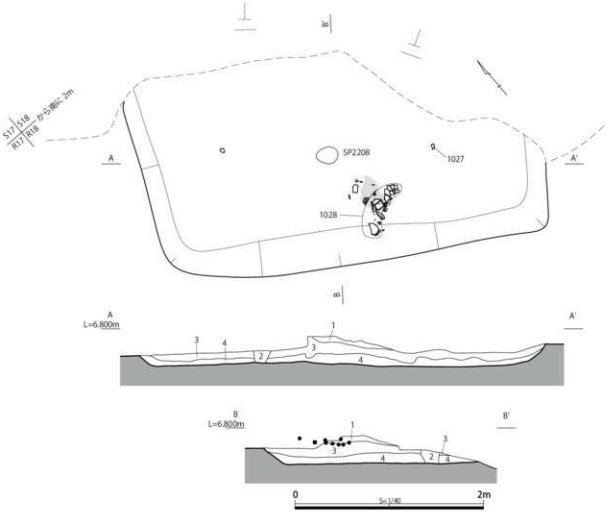
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.50m、短軸が 0.43m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は長方形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層がオリーブ黄色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している。

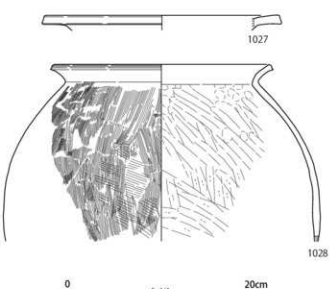
出土遺物　1025 は弥生土器の高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

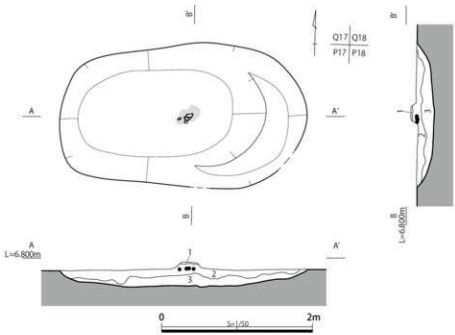


1 黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土　しまりやや強い、粘性強い、炭黒色～にぶい黄色粘質土ブロック(7～8.3cm)20%含む。炭化物(1～0.5cm)ややみる。
2 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土　しまりやや強い、粘性強い、炭色粘質土ブロック(～8.3cm)10%含む。炭化物(1～0.5cm)にくわずかに含む。
3 暗灰黄色　2.5Y 5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(～8.3cm)20%含む。炭化物(1～0.5cm)にくわずかに含む。鉄分集い層状とくわずかに含む。
4 黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック(～8.3cm)40%含む。

第 493 図　SX2001 平断面図（1/40）

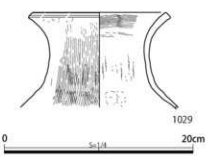


第 494 図　SX2001 出土遺物



1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック1～0.5cm10%含む。炭土粒1～0.2cmが微含む。炭化物片1～0.5cmがまばらに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰白色～浅黄色粘質土ブロック1～0.5cm10%含む。マンガン薄い小斑状がまばらに含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、黒褐色～黄白色粘質土ブロック1～0.1cm10%含む。炭粒・マンガン薄い小斑状にくもりがまばらに含む。

第 495 図　SX2002 平断面図（1/50）



第 496 図　SX2002 出土遺物

308 号小穴（SP2308）（第 491・492 図）

検出地点　R－13 グリッド。

形態・規模　平面形状はほぼ方形を呈し一辺が 0.45m、最大深度は 0.12m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

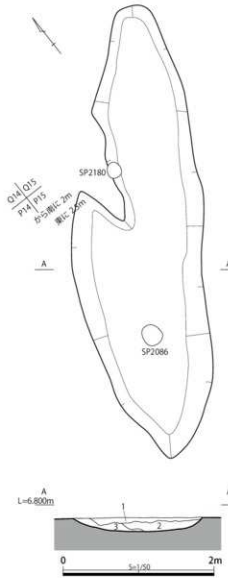
出土遺物　1026 は弥生土器の甕の底部である。

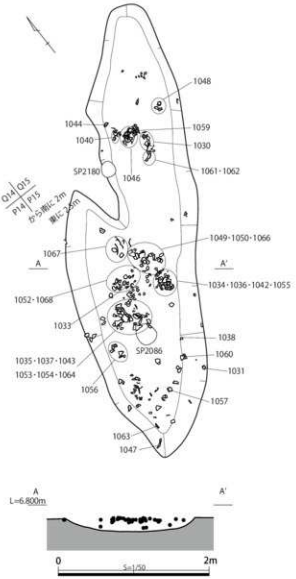
時期　出土した遺物から弥生時代後期以降の年代が想定される。

⑥性格不明遺構（SX）

1 号性格不明遺構（SX2001）（第 493・494 図）

検出地点　Q－18・R－18 グリッド。





1　黄灰色　2.5Y 5/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色～反オリーブ色粘質土ブロック1～0.1cm40%含む。
2　暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色～灰黄色粘質土ブロック1～0.1cm20%含む、炭化物ε1～0.5cmごくわずかに含む。
3　黄灰色　2.5Y 4/1 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭色粘質土ブロック1～0.1cm20%含む。

第 497 図　SX2003 平断面図（1/50）　　第 498 図　SX2003 遺物出土状況図 (1/50)

形態・規模　平面形状は長方形を呈するとみられるが、北側は削平によって失われている。残存値で長軸が 4.24m、短軸が 2.29m、最大深度は 0.32m を測り、断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 4 層に分層され、1 層が黄灰色、2 層が灰黄色、3 層が暗灰黄色、4 層が黄褐色となっている。

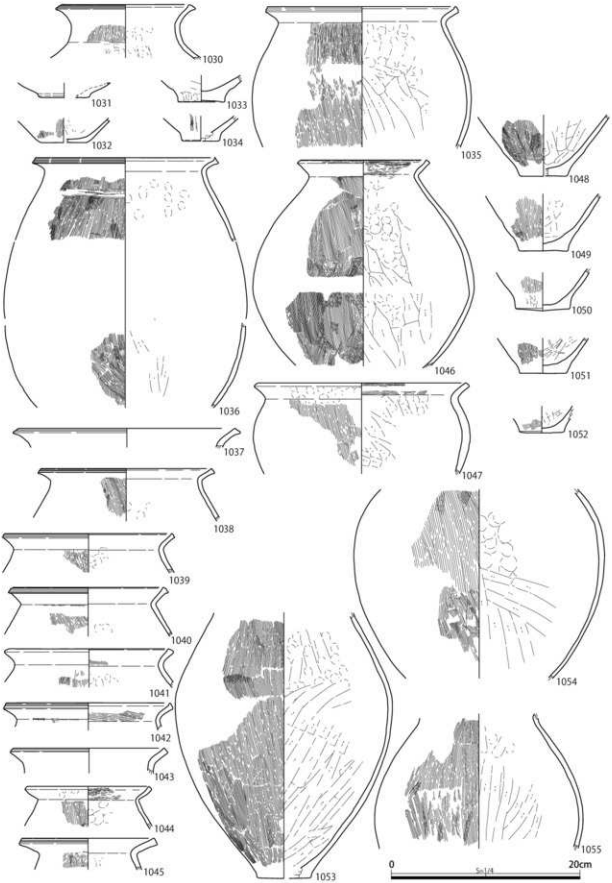
遺物出土状況　中央からやや南壁寄りの部分から炭化物の拡がりとともに土器が出土している。層位はいずれも 1 層および 3 層の上面である。

出土遺物　1027 は弥生土器の壺、1028 は甕である。

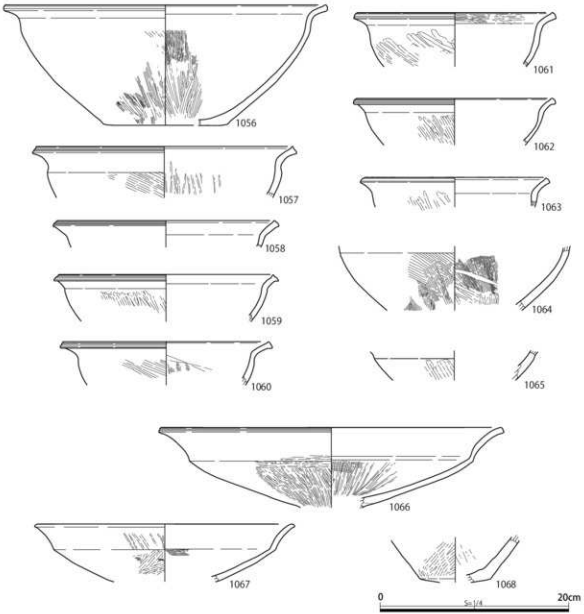
時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

2 号性格不明遺構（SX2002）（第 495・496 図）

検出地点　P － 17 グリッド。



第 499 図　SX2003 出土遺物①



第 500 図　SX2003 出土遺物②

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 3.27m、短軸が 1.94m、最大深度は 0.33m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層がにぶい黄色、2・3 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　中央の部分から炭化物の拡がりとともに土器が出土している。層位はいずれも 1 層の下部および 2 層の上面である。

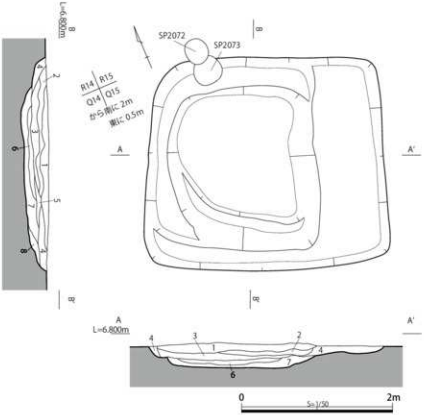
出土遺物　1029 は弥生土器の壺である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

3 号性格不明遺構（SX2003）（第 497 ～ 500 図）

検出地点　O － 15・16・P － 15・16 グリッド。

形態・規模　平面形状は北東から南西方向に延びるやや不整形な溝状で、長軸が 5.99m、短軸が 1.73m、



1 灰オリーブ色5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性弱い、灰白色～灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。炭化物片・焼土粒(～φ1cm)少量含む。
2 灰オリーブ色5Y　5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、オリーブ黄色粘質土ブロック(～φ10cm)10%含む。炭化物片(～φ2cm)やや多く含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。炭化物片(～φ1cm)やや多く含む。
4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。炭化物片(～φ0．5cm)わずかに含む。
5 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ1cm)30%含む。
6 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色細質土ブロック(～φ2cm)30%含む。炭化物片(～φ0.5cm)わずかに含む。
7 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。
8 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色～黒灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。

第501図　SX2004平断面図（1/50）

最大深度は0.18mを測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で3層に分層され、1・3層が黄灰色、2層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　長軸方向に沿うように中央付近から土器がまとまって出土している。

出土遺物　1030～1034は弥生土器の壺である。1035～1055は甕である。1056～1065は鉢である。1066～1068は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半頃の年代が想定される。

4号性格不明遺構（SX2004）（第501～503図）

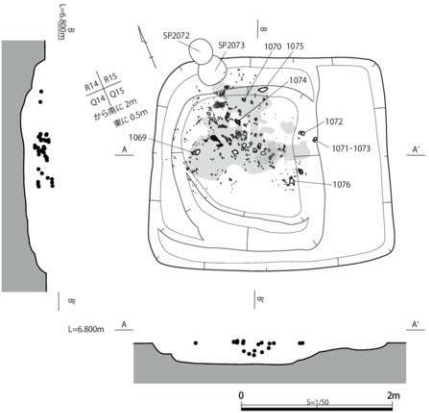
検出地点　P－15・Q－15グリッド。

形態・規模　平面形状は方形を呈し長軸が3.12m、短軸が2.83m、最大深度は0.37mを測る。断面の形状は二段形である。

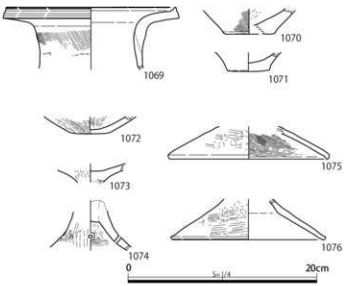
土層　いずれも粘質土で8層に分層され、1・2層が灰オリーブ色、3～8層は暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　中央やや北寄りを中心として1～3層中を中心に1.5×1.5mの範囲に炭化物が拡がっており、その上面を中心として土器が出土している。

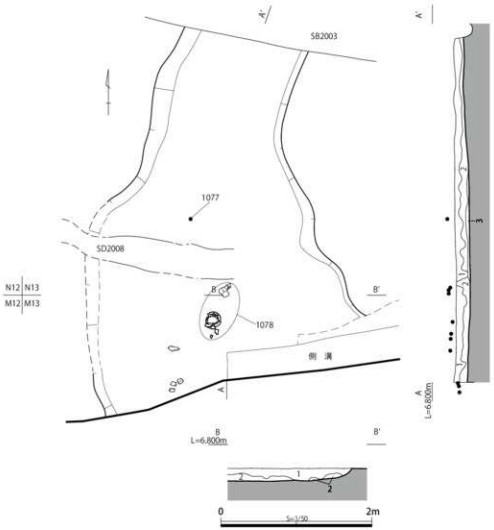
出土遺物　1069は弥生土器の壺である。1070・1071は甕の底部である。1072は鉢の底部である。



第 502 図　SX2004 遺物出土状況図（1/50）

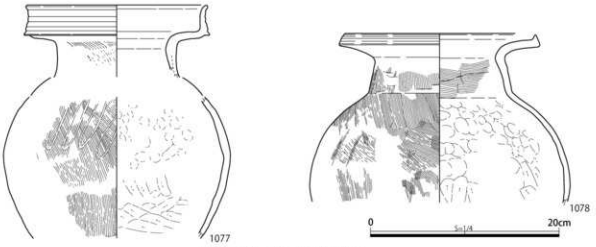


第 503 図　SX2004 出土遺物

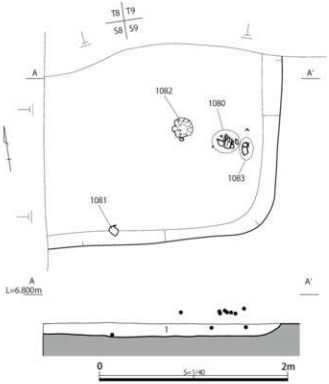


1 灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄灰色～灰色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む。鉄分小～大斑状やや多く含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや弱い、灰黄色～黄灰色粘質土ブロック(～φ2cm)20%含む。鉄分薄い小斑状少量含む。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粗性やや強い、黄灰色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。鉄分薄い小斑状わずかに含む。

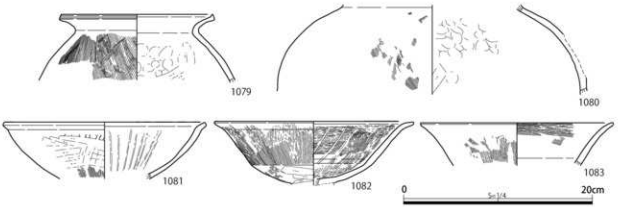
第 504 図　SX2005 平断面図（1/50）



第 505 図　SX2005 出土遺物



第 506 図　SX2007 平断面図（1/40）



第 507 図　SX2007 出土遺物

1073 ～ 1076 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代後期後半頃の年代が想定される。

5 号性格不明遺構（SX2005）（第 504・505 図）

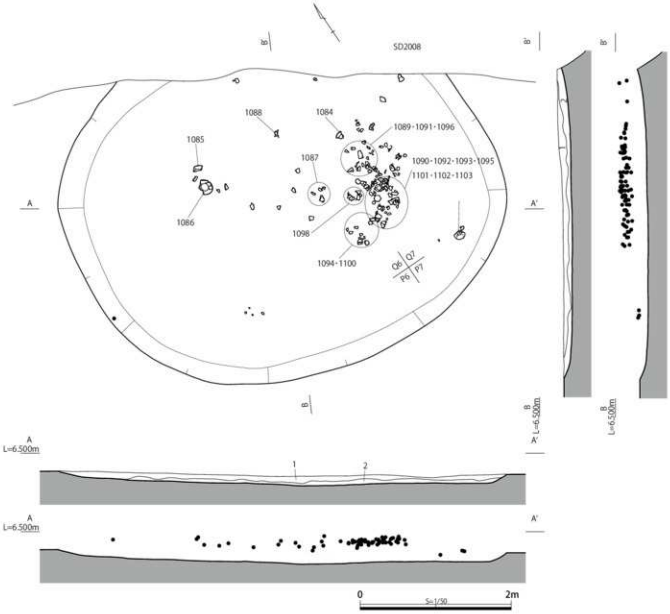
検出地点　N － 13 グリッド。

形態・規模　SB2003 の南側に位置する浅い窪地状の落ち込みである。長軸が 4.33m、短軸が 3.05m、最大深度は 0.20m を測る。

土層　いずれも粘質土で 3 層に分層され、1 層が灰黄色、2・3 層が暗灰黄色となっている。

遺物出土状況　長軸方向に沿うように中央付近から土器が出土している。

出土遺物　1077・1078 は弥生土器の壺である。



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)30%含む、鉄分薄いが斑状少量含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む、鉄分薄いが斑状わずかに含む。

第 508 図　SX2008 平断面図（1/50）

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

7 号性格不明遺構（SX2007）（第 506・507 図）

検出地点　S－8・9 グリッド。

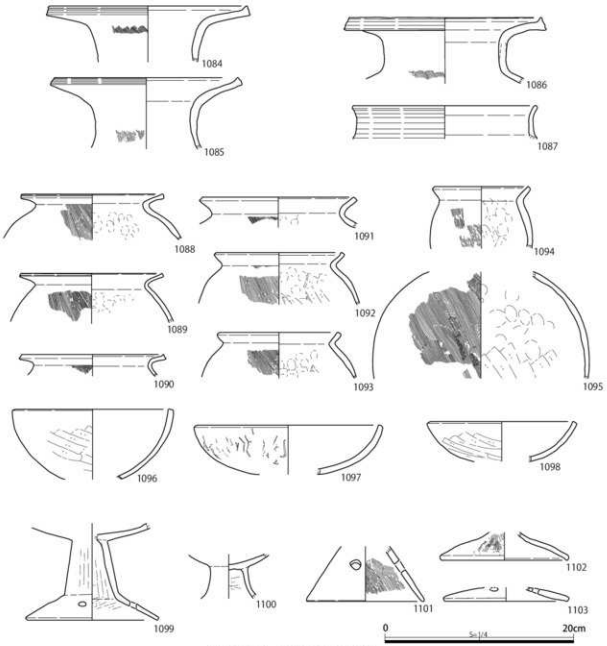
形態・規模　調査区北西部に位置する浅い窪地状の落ち込みで、北側と西側は削平を受けている。残存値で長軸が 2.00m、短軸が 1.72m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　遺構検出面上面の東壁寄りから土器がまとまって出土している。

出土遺物　1079・1080 は弥生土器の甕である。1081 は鉢である。1082・1083 は高杯である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。



第 509 図　SX2008 出土遺物

8 号性格不明遺構（SX2008）（第 508・509 図）

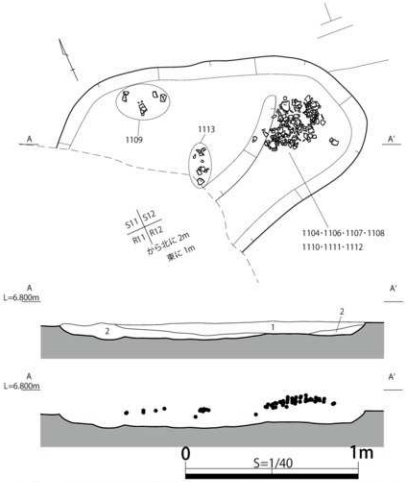
検出地点　P－6・7・Q－6・7 グリッド。

形態・規模　調査区西端に位置する浅い窪地状の落ち込みで、北側を SD2008 に切られている。残存値で長軸が 5.92m、短軸が 3.87m、最大深度は 0.20m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

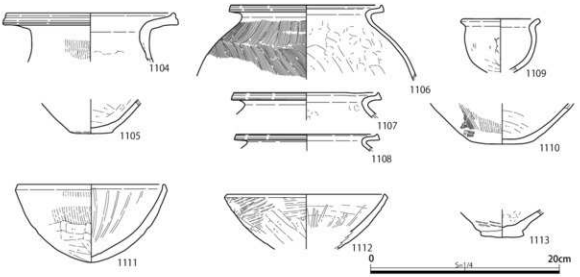
遺物出土状況　中央部からやや東寄りを中心として、遺構検出面上面から土器がまとまって出土している。

出土遺物　1084 ～ 1087 は弥生土器の壺である。1088 ～ 1095 は甕である。1096 ～ 1098 は鉢である。1099 ～ 1103 は高杯の脚部である。

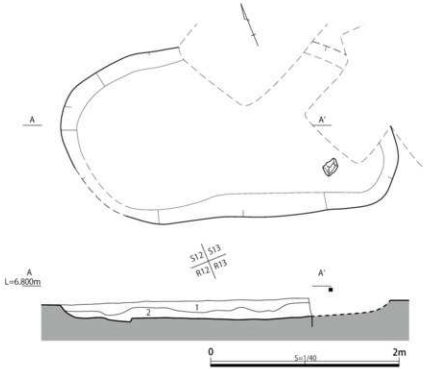


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりや中強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む、炭化物・焼土粒(～φ1cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりや中強い、粘性やや強い、灰黄色粘質土ブロック(～φ1cm)20%含む、炭化物(～φ0.5cm)ごくわずかに含む。

第 510 図　SX2009 平断面図（1/40）

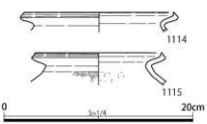


第 511 図　SX2009 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック(～Φ3cm)20%含む。炭化物(～Φ1cm)わずかに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、灰黄色～灰白色粘質土ブロック(～Φ1cm)10%含む。

第 512 図　SX2010 平断面図（1/40）



第 513 図　SX2010 出土遺物

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。

9 号性格不明遺構（SX2009）（第 510・511 図）

検出地点　S－12 グリッド。

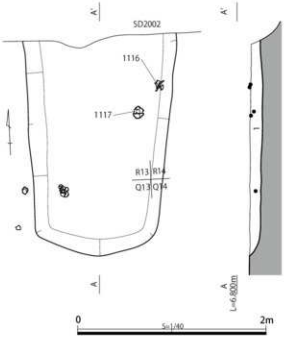
形態・規模　調査区の中央北端に位置する浅い窪地状の落ち込みで、西側を撹乱に切られている。残存値で長軸が 3.29m、短軸が 1.92m、最大深度は 0.20m を測る。断面形状は浅い二段形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　中央部および東壁寄りから土器がまとまって出土している。層位は遺構検出面上面を中心としている。

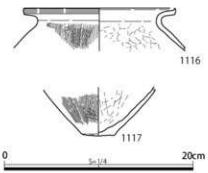
出土遺物　1104・1105 は弥生土器の壺である。1106 ～ 1110 は甕である。1111 ～ 1113 は鉢である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期頃の年代が想定される。



1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土（オリーブ中粒い、砂質中粒い、炭化物微量）、炭化物微量土ブロック（7～8cm20%含む）、炭素色粘質土ブロック（7～8cm20%含む）、炭化・マンガン集いり微量が含まれる。

第 514 図　SX2011 平断面図（1/40）



第 515 図　SX2011 出土遺物

10 号性格不明遺構（SX2010）（第 512・513 図）

検出地点　R－12・13・S－12・13 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し、北東部分を撹乱によって切られている。長軸が 3.57m、短軸が 1.86m、最大深度は 0.25m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも暗灰黄色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　南東隅付近から拳大の砂岩角礫が出土している。

出土遺物　1114・1115 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

11 号性格不明遺構（SX2011）（第 514・515 図）

検出地点　Q－13・14・R－13・14 グリッド。

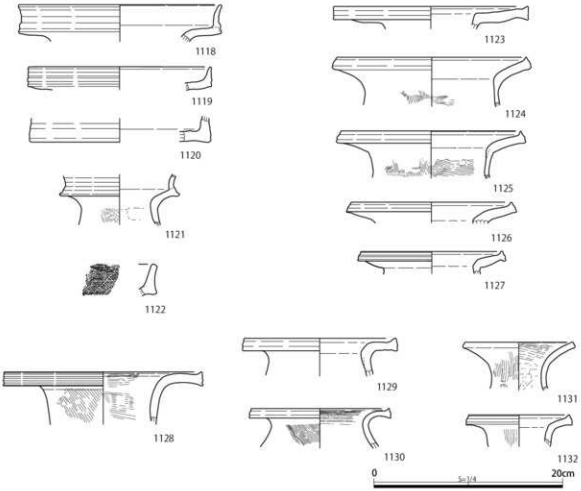
形態・規模　調査区のほぼ中央に位置しており、北側を SD2002 に切られている。平面形状は長方形の浅い窪地状の落ち込みである。残存値で長軸が 2.21m、短軸が 1.59m、最大深度は 0.14m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　東西両壁付近から土器が出土している。

出土遺物　1116・1117 は弥生土器の甕である。

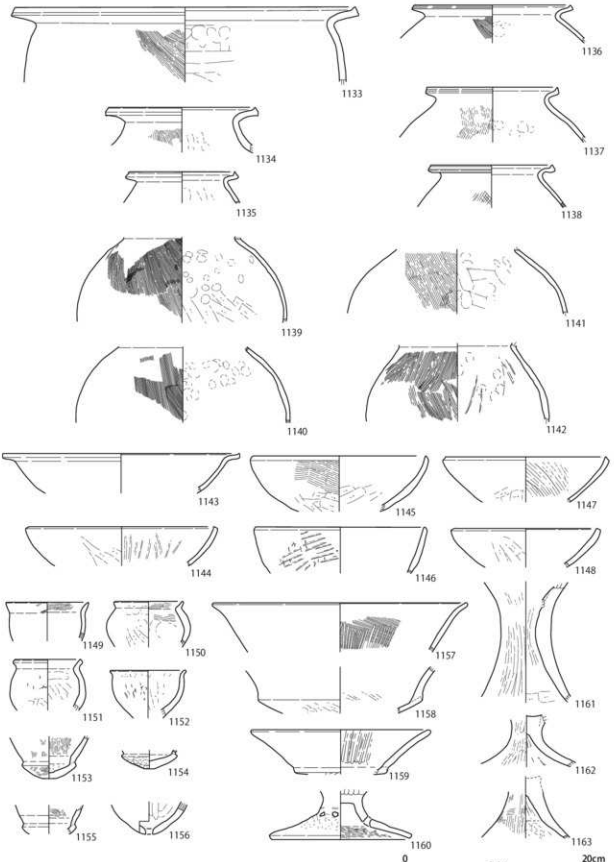
時期　出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。



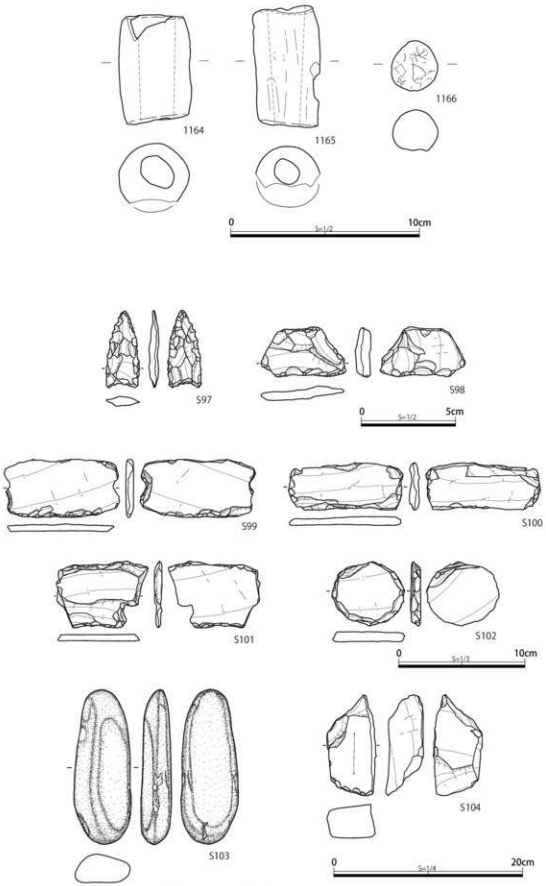
第 516 図　第 2 包含層出土遺物①

⑦包含層出土遺物（第 516 ～ 518 図）

1118 ～ 1132 は弥生土器の壺である。1133 ～ 1142、1149 ～ 1152 は甕である。1143 ～ 1148、1153 ～ 1156 は鉢である。1157 ～ 1163 は高杯である。1164・1165 は管状の土錘、1166 は用途不明の土製品である。S97 は凹基式の石鏃、S98 は楔形石器である。石材はいずれもサヌカイトである。S99 ～ S101 は結晶片岩の打製石庖丁である。S102 は結晶片岩の円盤状石製品である。未製品の可能性も考えられる。S103 は砂岩の敲石である。S104 は砂岩の砥石である。



第 517 図　第 2 包含層出土遺物②



第 518 図　第 2 包含層出土遺物③

（3）第 3 遺構面（第 519 図）

第 3 遺構面からは溝（SD）が 22 条、土坑（SK）が 30 基、小穴（SP）が 92 基、自然流路（SR）が 1 ヶ所、性格不明遺構（SX）が 11 基検出されている。

①第 3 遺構面の微地形（第 520 ～ 523 図）

遺構の拡がりは第 2 遺構面とほぼ同様の部分に存在しているが、最も標高が高いのは 16 ～ 18 のグリッド付近で、6.3m 前後となっている。西に向かってなだらかに傾斜して西端では 5.3 ～ 5.5m を測り、一部では下部からの地下水の染み出しも観察された。

②溝（SD）

1 号溝（SD3001）（第 524 ～ 526 図）

検出地点　O － 20・1・2・P － 19・20・Q － 18・19・R － 18・19 グリッド。

形態・規模　調査区の東端に位置しており、北西から南東方向に延びる溝である。延長距離は 26.14m、最大幅は 1.51m、最大深度は 0.25m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が灰色、2 層が灰オリーブ色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1167 は弥生土器の甕の底部である。1168 は甕の体部を利用した紡錘車である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

12 号溝（SD3012）（第 527・528 図）

検出地点　N － 10 ～ 13・O － 10 ～ 13 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で形状はやや不整形である。延長距離は 14.50m、最大幅は 2.10m、最大深度は 0.09m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1169 は弥生土器の壺である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

14 号溝（SD3014）（第 529・530・532 図）

検出地点　Q － 8・R － 8・9・S － 8・9 グリッド。

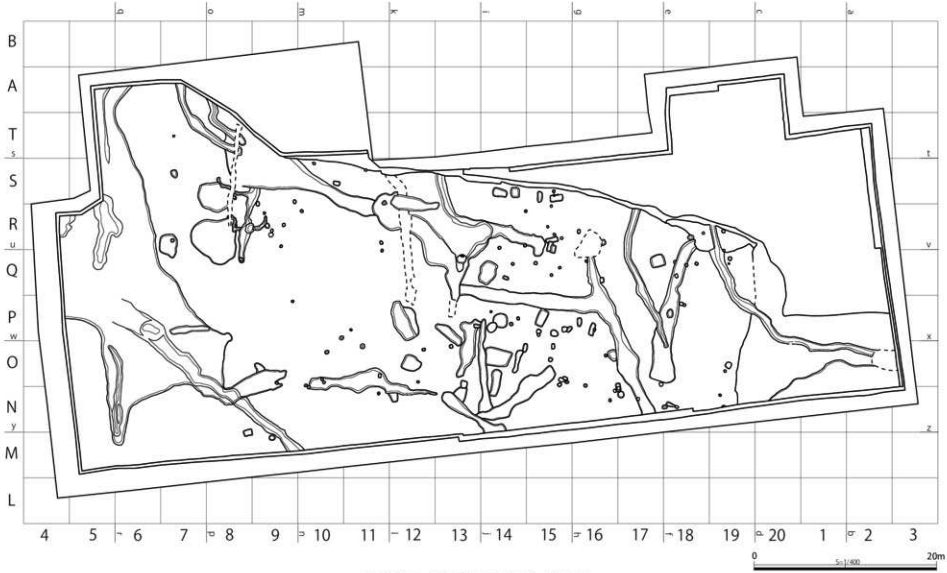
形態・規模　南北方向に延びる溝で延長距離は 8.44m、最大幅は 1.24m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は皿形である。

土層　にぶい黄色粘質土 1 層である。

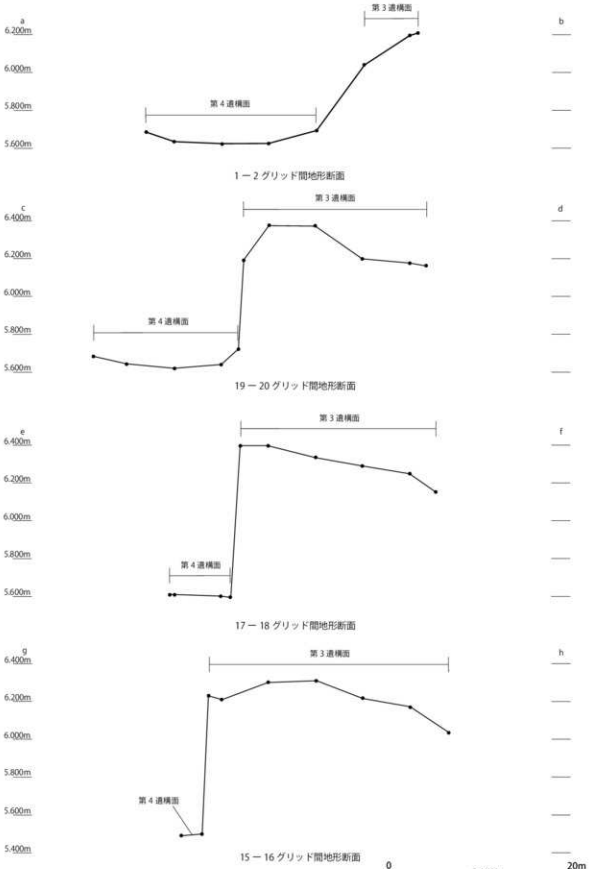
遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1170 は壁土と考えられる。

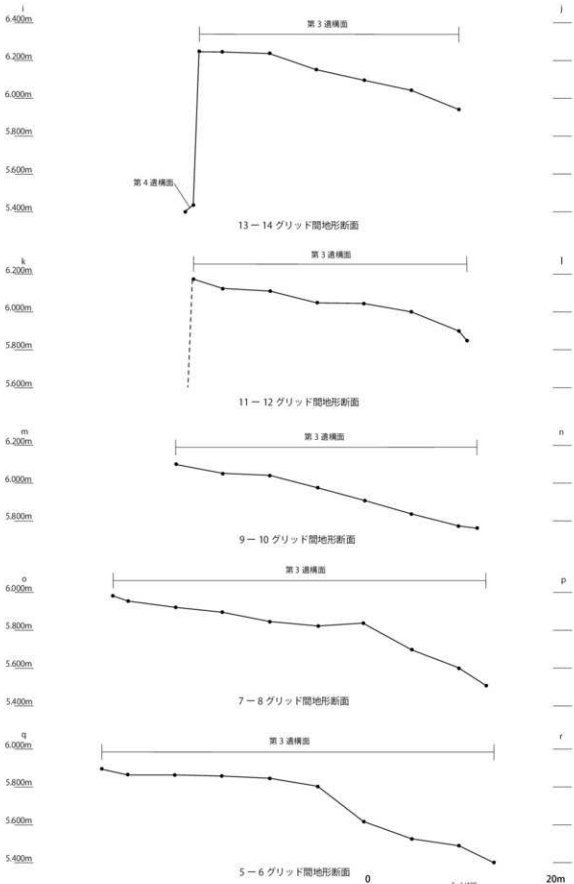
時期　年代は特定できない。



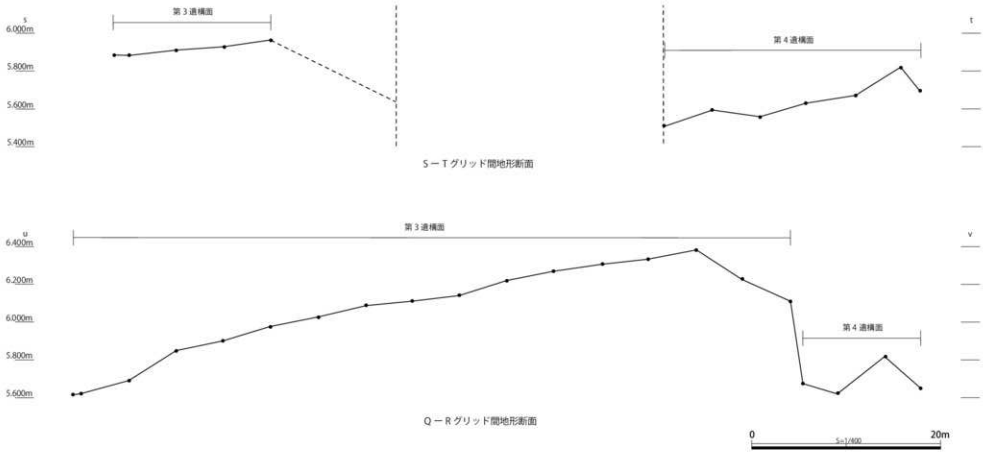
第 519 図　第 3 遺構面平面図（1/400）



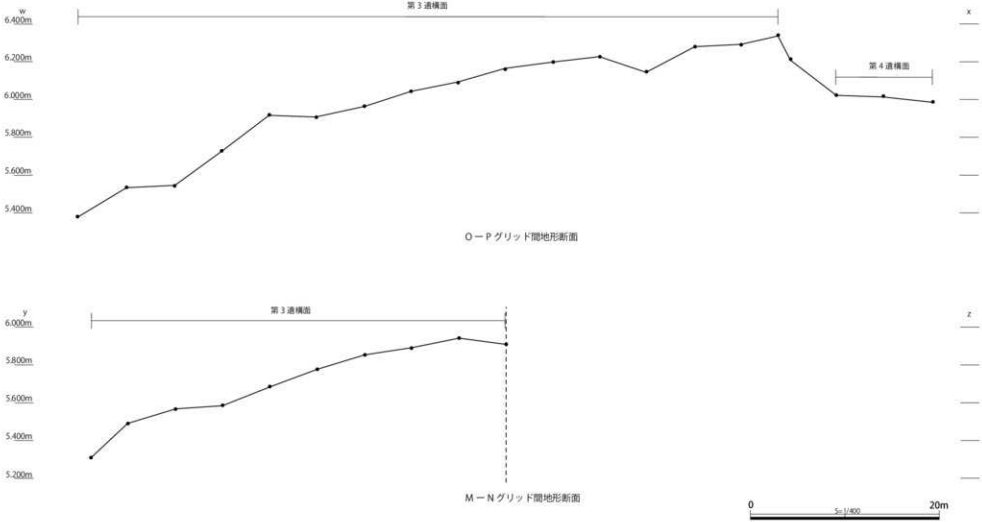
第 520 図　第 3 遺構面地形断面図①



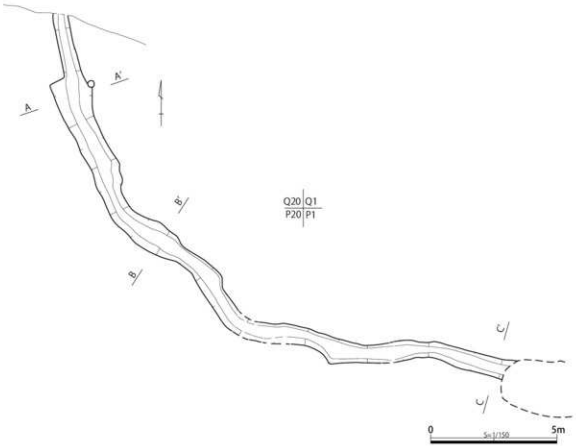
第 521 図　第 3 遺構面地形断面図②



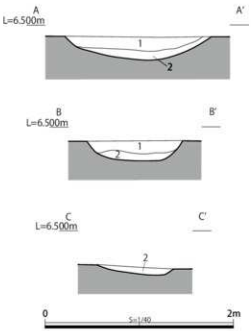
第 522 図　第 3 遺構面地形断面図③



第 523 図　第３遺構面地形断面図④

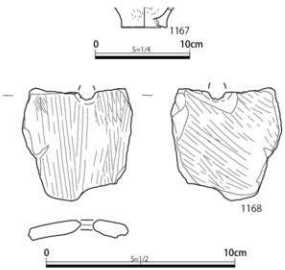


第 524 図　SD3001 平面図（1/150）



1　灰色　5Y　5/1 粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、黄白色粘質土ブロック(～φ1cm)10%含む。
2　灰オリーブ色 5Y　5/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、黄白色粘質土ブロック(～φ2cm)30%含む。

第 525 図　SD3001 断面図（1/40）



第 526 図　SD3001 出土遺物

15 号溝（SD3015）（第 529・531 図）

検出地点　S－8 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で東端は SD3014 に合流している。延長距離は 1.37m、最大幅は 0.53m、最大深度は 0.09m を測る。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

20 号溝（SD3020）（第 533・534 図）

検出地点　N－8・9・O－8・9 グリッド。

形態・規模　東西方向に延びる溝で平面形状はやや不整形である。西側は SR3001 に合流している。延長距離は 5.70m、最大幅は 2.38m、最大深度は 0.14m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層されており、1 層が暗灰黄色、2 層が灰黄色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　1171 は弥生土器の甕の底部である。

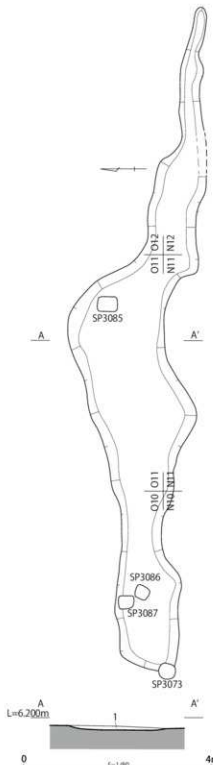
時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

22 号溝（SD3022）（第 535 ～ 537 図）

検出地点　N－8・9・M－8・9 グリッド。

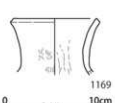
形態・規模　北西から南東方向に延びる溝で、北半部は SR3001 内に延びている。延長距離は 8.01m、最大幅は 1.57m、最大深度は 0.14m を測る。断面形状は皿形である。

土層　灰黄色粘質土 1 層である。

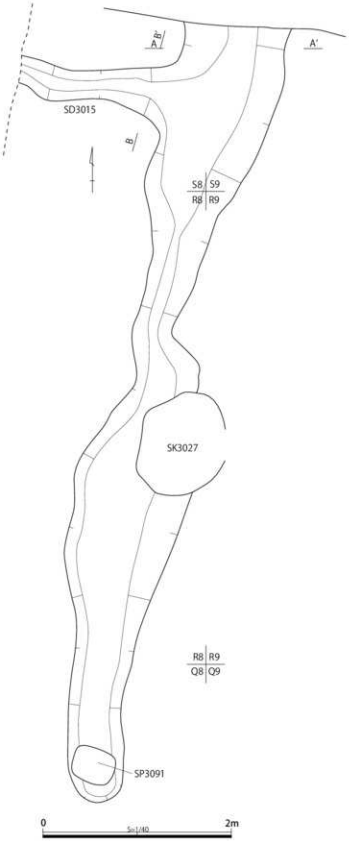


1　暗灰黄色　2.5Y　4/2　粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、炭黒色粘質土ブロック（～3cm）20%含む、貝殻小礫含む。

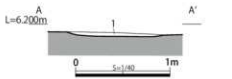
第 527 図　SD3012 平断面図（1/80）



第 528 図　SD3012 出土遺物

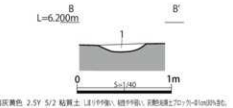


第 529 図　SD3014・SD3015 平面図（1/40）



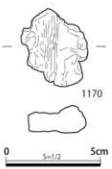
1　に云い黄色 2.5Y 6/3 粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック少～φ3cm30%含む。

第 530 図　SD3014 断面図（1/40）

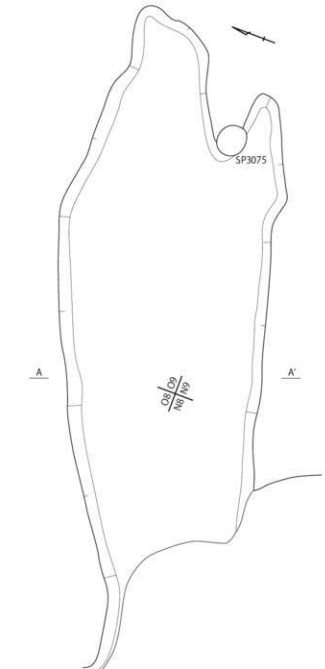


1　暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや弱い、灰黄色粘質土ブロック少～φ1cm30%含む。

第 531 図　SD3015 断面図（1/40）

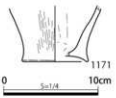


第 532 図　SD3014 出土遺物

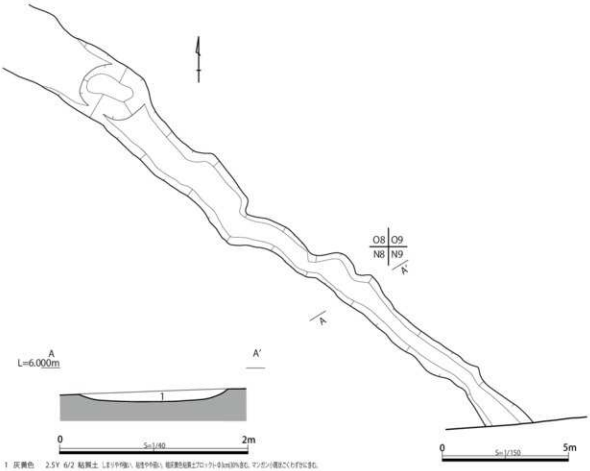


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭素粒粘土ブロック1~0.5cm30%含む、砂利薄い中粗砂ややに含む。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄粘質土ブロック1~0.5cm30%含む、マンガン小粒がとくに多く含む。

第 533 図　SD3020 平断面図（1/40）



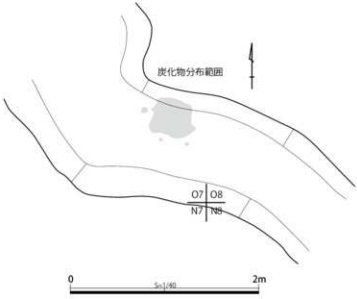
第 534 図　SD3020 出土遺物



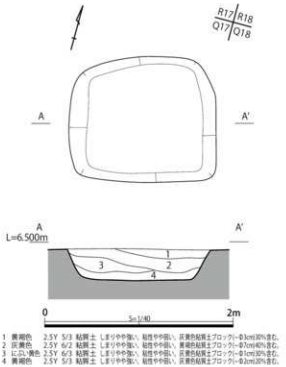
1　灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土　しまりやや強い、粘性やや強い、植原要因風倒土ブロック1～3cm20%含む、マンガン小粒径ごくわずかに含む。

第 536 図　SD3022 断面図（1/40）

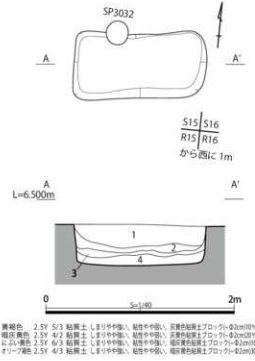
第 535 図　SD3022 平面図（1/150）



第 537 図　SD3022 炭化物分布図（1/40）



第 538 図　SK3001 平断面図（1/40）



第 539 図　SK3008 平断面図（1/40）

遺物出土状況　O－7 グリッドにおいて底部から約 50cm 四方程度の炭化物の拡がりが確認されている。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　年代は特定できない。

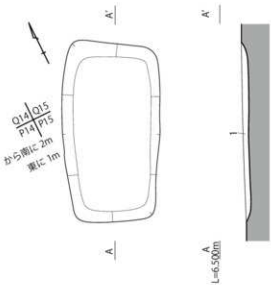
③土坑（SK）

1 号土坑（SK3001）（第 538 図）

検出地点　Q－17・18 グリッド。
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.56m、短軸が 1.32m、最大深度は 0.39m を測る。断面形状は舟底形である。
土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1・4 層が黄褐色、2 層が灰黄色、3 層がにぶい黄色となっている。
遺物出土状況　図化可能なものはない。
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。
時期　年代は特定できない。

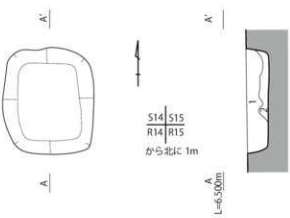
8 号土坑（SK3008）（第 539 図）

検出地点　S－15 グリッド。
形態・規模　平面形状は長方形を呈し、北側を SP3032 に切られている。長軸が 1.41m、短軸が 0.68m、最大深度は 0.44m を測る。断面形状は長方形である。
土層　いずれも粘質土で 4 層に分層されており、1 層が黄褐色、2 層が暗灰黄色、3 層がにぶい黄色、



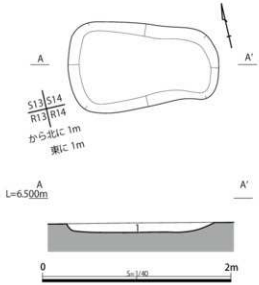
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、炭黄色粘質土ブロック(～φ3cm)20%含む。

第 540 図　SK3013 平断面図（1/40）



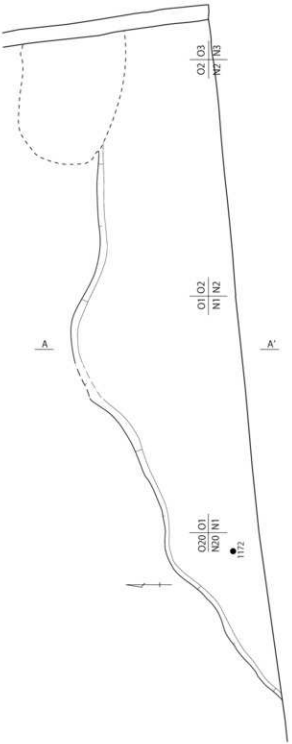
1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、褐灰色粘質土ブロック(～φ2cm)10%含む、炭色粘質土ブロック(～φ10cm)30%含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、炭色粘質土ブロック(～φ5cm)10%含む。

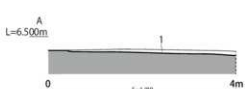
第 541 図　SK3017 平断面図（1/40）



1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、炭色粘質土ブロック(～φ5cm)20%含む。斜面部(R～S0.5m)にくわずかに含む。

第 542 図　SK3018 平断面図（1/40）

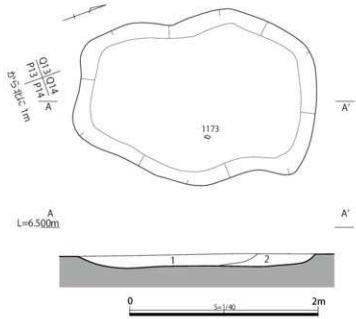




1　黄褐色　2.5Y 5/3 粘質土　しまりやや強い。砂粒やや強い。炭粒微量とブロック小少量含む。炭化物・焼土粒・炭化物・焼土ブロックがごく少。

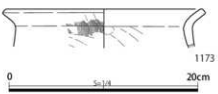
第 543 図　SX3001 平断面図（1/80）

第 544 図　SX3001 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、黄褐色粘質土ブロック(～φ3cm)30%含む。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、粘性やや弱い、暗灰黄色粘質土ブロック(～φ5cm)30%含む。

第 545 図　SX3002 平断面図（1/40）



第 546 図　SX3002 出土遺物

4 層がオリーブ褐色となっている。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

13 号土坑（SK3013）（第 540 図）

検出地点　P － 15 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.88m、短軸が 1.04m、最大深度は 0.10m を測る。断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。

17 号土坑（SK3017）（第 541 図）

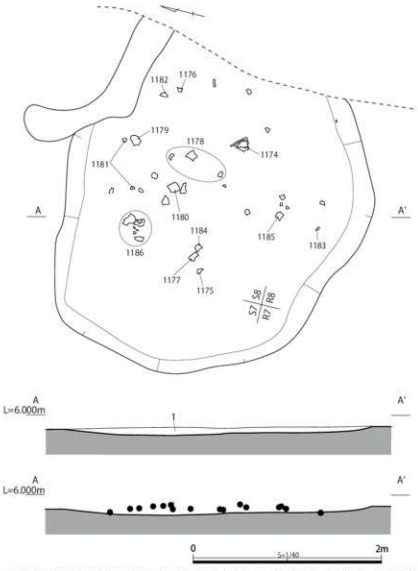
検出地点　S － 14 グリッド。

形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.13m、短軸が 0.96m、最大深度は 0.24m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で、1 層がにぶい黄色、2 層が暗灰黄色に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。



第 547 図　SX3010 平断面図（1/40）

時期　年代は特定できない。

18 号土坑（SK3018）（第 542 図）

検出地点　S － 14 グリッド。

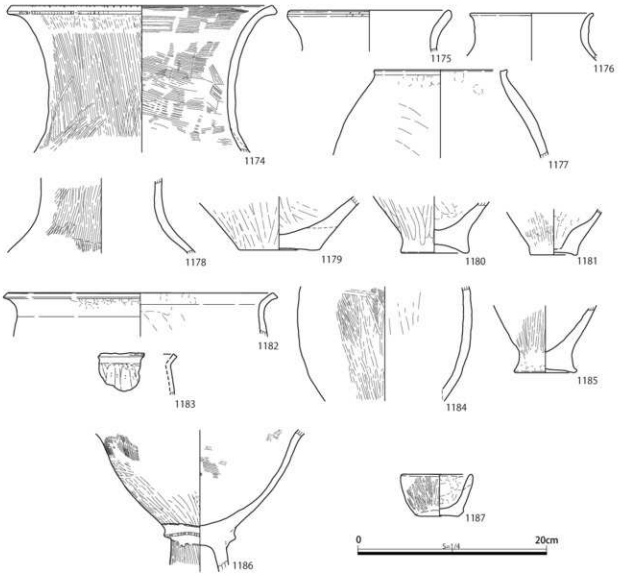
形態・規模　平面形状は長方形を呈し長軸が 1.60m、短軸が 0.90m、最大深度は 0.10m を測る。断面形状は皿形である。

土層　にぶい黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　年代は特定できない。



第 548 図　SX3010 出土遺物

④性格不明遺構（SX）

1 号性格不明遺構（SX3001）（第 543・544 図）

検出地点　N － 20・1・2・3・O － 20・1・2・3 グリッド。

形態・規模　調査区の南東隅に位置しており、平面形状は不整形の浅い窪地状の落ち込みである。残存値で長軸が 14.78m、短軸が 3.59m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は皿形である。

土層　黄褐色粘質土 1 層である。

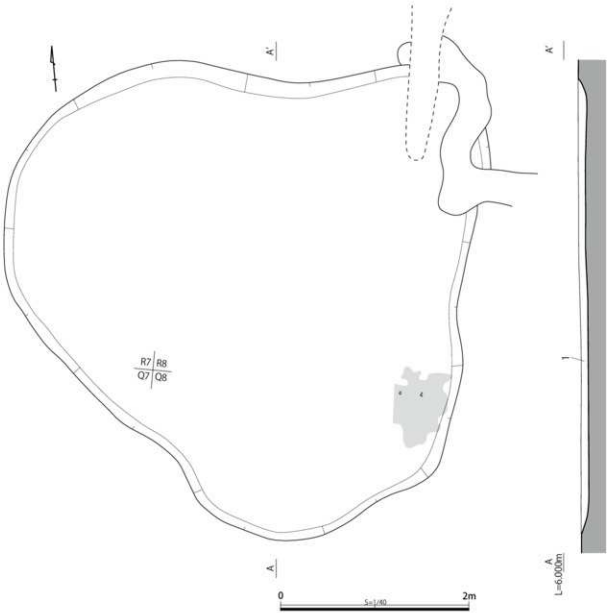
遺物出土状況　遺構検出面上面から土器が出土している

出土遺物　1172 は弥生土器の高杯の脚部である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

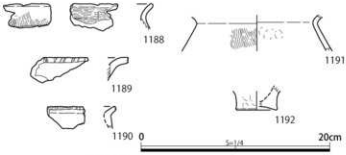
2 号性格不明遺構（SX3002）（第 545・546 図）

検出地点　Q － 13・14 グリッド。



1　灰黄色　2.5Y 6/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、暗灰黄色～黒灰色粘質土ブロック(1～3cm)10%含む。炭化物・焼土粒(～3cm)わずかに含む。

第 549 図　SX3011 平断面図（1/40）



第 550 図　SX3011 出土遺物

形態・規模　平面形状はやや不整な長方形を呈し長軸が 2.55m、短軸が 1.85m、最大深度は 0.14m を測る。断面形状は皿形である。

土層　いずれも粘質土で 2 層に分層され、1 層が暗灰黄色、2 層が黄褐色となっている。

遺物出土状況　中央やや東寄りから土器が単独で出土している。

出土遺物　1173 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

10 号性格不明遺構（SX3010）（第 547・548 図）

検出地点　S－7・8・R－7・8 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形を呈し東側は削平されている。残存値で長軸が 3.27m、短軸が 3.26m、最大深度は 0.09m を測り、断面形状は皿形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　埋土全体に散漫に土器が出土している。

出土遺物　1174 ～ 1181 は弥生土器の壺である。1182 ～ 1185 は甕である。1186 は高杯である。1187 は鉢である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

11 号性格不明遺構（SX3011）（第 549・550 図）

検出地点　Q－7・8・R－7・8 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形を呈し北東部の一部は SD3013 に切られている。長軸が 4.88m、短軸が 4.88m、最大深度は 0.06m を測り、断面形状は皿形である。

土層　灰黄色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　南東隅の部分から炭化物の拡がりとともに土器が出土している。

出土遺物　1188 ～ 1192 は弥生土器の甕である。

時期　出土した遺物から弥生時代中期頃と考えられる。

（4）第 4 遺構面（第 551 図）

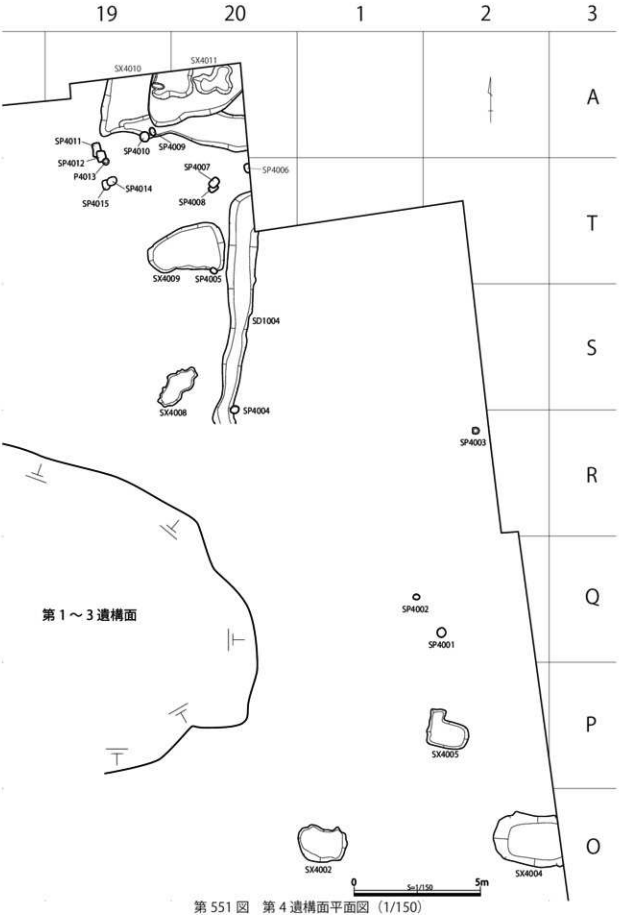
第 4 遺構面からは溝（SD）が 1 条、小穴（SP）が 15 基、性格不明遺構（SX）が 11 基検出されている。

①第 4 遺構面の地形と概要

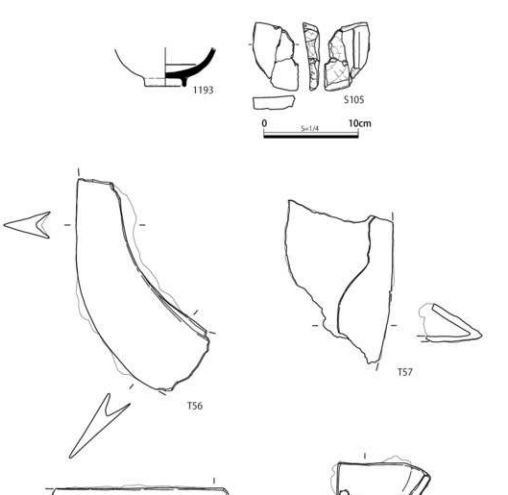
調査区の北東部分を中心として検出されている。調査開始の機械掘削時より第 1 ～ 3 遺構面に該当する土層は存在せず、表土・盛り土を除去すると黒褐色粘質土が露出し、その上面に遺構とみられる掘り込みが検出されたため、第 4 遺構面として調査を行った。遺構内やその周辺から出土した遺物はいずれも近世～近代にかけてのものであるため、土地の造成に伴って上部の土層が削平され、その後に現在の農業試験場の建設前に大規模な盛り土がなされたものと考えられる。

②出土遺物（第 552 図）

1193 は染め付けの碗である。S105 は粘板岩の硯である。T56・T57 は鋤先である。T58 は茎、T59



第 551 図　第４遺構面平面図（1/150）



第 552 図　第 4 遺構面出土遺物

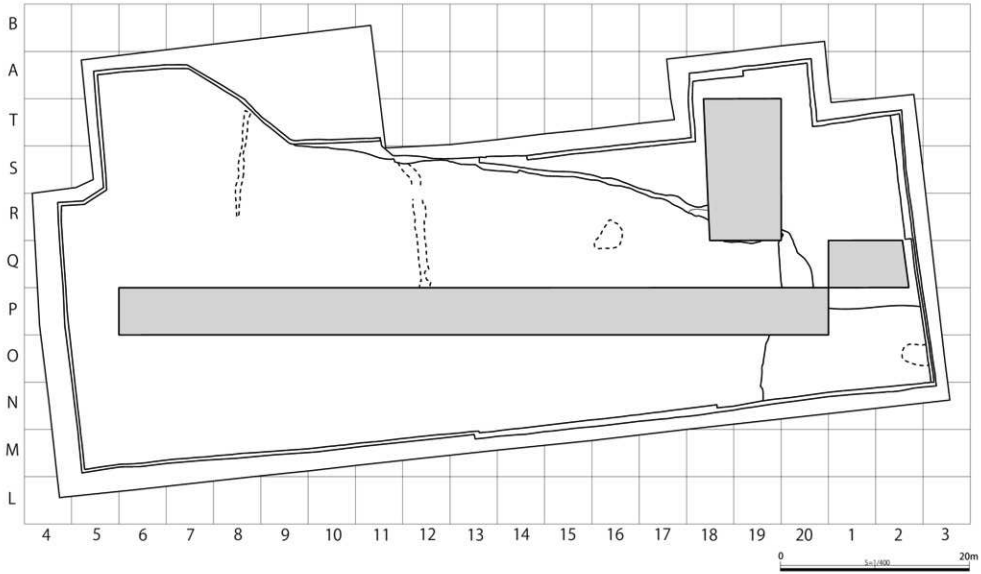
は用途不明の鉄器である。

（5）第 5 遺構面

第 5 遺構面からは 3 ヶ所のトレンチから竪穴住居（SB）が 1 軒、焼土（SH）が 1 基、小穴（SP）が 18 基、性格不明遺構（SX）が 6 基検出されている。

①第 5 遺構面の地形と概要（第 553 図）

第 4 遺構面の調査時に遺構検出面である黒褐色粘質土中から縄文土器が出土した。そのため第 3 遺構面の調査が終了した後、調査区中央の P グリッドラインに沿って機械によるトレンチ掘削を行い、縄文時代の遺物、遺構の確認を行った（1 トレンチ）。その結果、遺物包含層として想定した黒褐色粘質土は調査区の全域に拡がっていることがトレンチの土層観察から確認できた。しかし遺物については



第 553 図　第 5 遺構面トレンチ配置図（1/400）

調査区内でも東寄りのＰ－17・18 グリッドのみにおいて土器・石器などが散漫ではあるが出土すること、基本層序の⑪黒褐色粘質土より下の⑫褐灰色粘質土～⑭黄灰色粘質土にかけても縄文土器が包含されていることが確認できた。その為、調査区内のより東側において遺構、遺物が偏在している可能性があると考え、2 トレンチ・3 トレンチを設定し、黒褐色粘質土層以下の人力掘削と精査を行いながら追加調査を行った。その結果、2 トレンチにおいては⑭黄灰色粘質土層を挟んだ上下の面において、3 トレンチにおいては⑭黄灰色粘質土層の下面においてそれぞれ遺構が検出されたため、それぞれ第 5a、5b の遺構面と呼称して遺構の調査を行った。

② 1 トレンチ出土遺物（第 554 図）

1194・1195 は縄文土器の深鉢である。S106 は結晶片岩製の打製石斧である。

③ 2 トレンチ 5a 遺構面

a) 遺構面の概要（第 555 図）

最も北寄りに設定されたトレンチである。遺構面の標高は約 5.2m 前後でほぼ水平に近い。小穴（SP）が 11 基検出されているが、遺構内から遺物の出土はなかった。包含層中から土器が出土しているが、小片が多く出土数も少なかった。遺構面の時期は出土した土器等から縄文後期と考えられる。

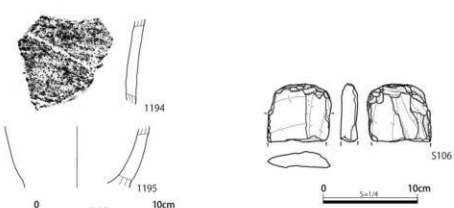
b) 包含層出土遺物（第 556 図）

1196・1197 は縄文土器の深鉢である。いずれも施文は RL 縄文である。

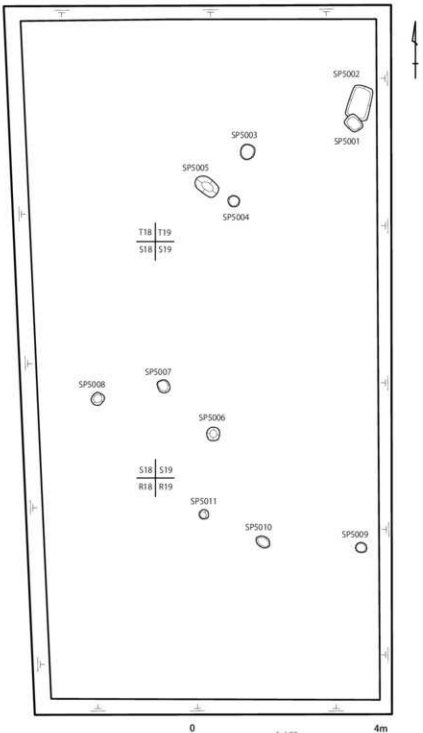
④ 2 トレンチ 5b 遺構面

a) 遺構面の概要（第 557 図）

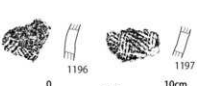
遺構面の標高は約 5m 前後で、わずかに南側が高い程度である。包含層中からは上層に比べると多くの土器が出土している。遺物は遺構の集中する北側に多く出土しているが、南西隅からも一定量出土している。遺構は竪穴住居（SB）が 1 軒、小穴（SP）が 7 基、性格不明遺構（SX）が 6 基検出された。遺構面の時期は出土した土器等から縄文後期と考えられる。



第 554 図　第 5 遺構面 1 トレンチ出土遺物



第 555 図　第 5 遺構面 2 トレンチ平面図（5a 面・1/80）



第 556 図　2 トレンチ 5a 面出土遺物

b) 包含層出土遺物（第 558 図）

1198・1199 は口縁端部に RL の縄文原体を付加した文様帯が存在している深鉢である。1200 ～ 1205 はおもに表面に条痕文を施した深鉢の口縁部である。1206 は表裏に条痕文を施した深鉢の体部。1207・1208 は RL 縄文を施した深鉢の体部である。1209 は表裏にナデ調整を施した浅鉢である。S107・S108 はサヌカイトの剥片である。S109 は砂岩製の敲石である。S110 は結晶片岩製の二次加工痕を有する剥片である。

c）竪穴住居（SB）

1 号竪穴住居（SB5001）（第 559・560 図）

検出地点　T － 18 グリッド。

形態・規模　2 トレンチの北西部に位置しており、平面形状は円形を呈するとみられるが全体の 4 分の 1 程度しか調査が行われていない。現状で径が約 3.30m 程度で、最大深度は 0.30m を測る。断面形状は皿形である。

土層　埋土は暗灰黄色粘質土が 1 層である。北西隅に屋内炉を有するとみられ、径約 0.20m 程度の焼土・炭化物の拡がり（2 層）が検出されている。

遺物出土状況　床面付近を中心として土器や石器類が出土している。

出土遺物　1210 は口縁端部に RL 縄文を施文した文様帯が存在している深鉢である。1211 は表裏に条痕文を施した深鉢の体部。1212・1213 は RL 縄文を付加した後、沈線を施したもの、1214 は RL 原体を付加した後に、沈線による区画を行い内区を磨り消している。S111 ～ S115 は石錘である。S116・S117 は結晶片岩製の二次加工痕を有する剥片である。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

d）小穴（SP）

13 号小穴（SP5013）（第 561 図）

検出地点　T － 19 グリッド。

形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.33m、短軸が 0.29m、最大深度は 0.13m を測る。断面形状は長方形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層で炭化物片をわずかに含んでいる。

遺物出土状況　上面付近から土器が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

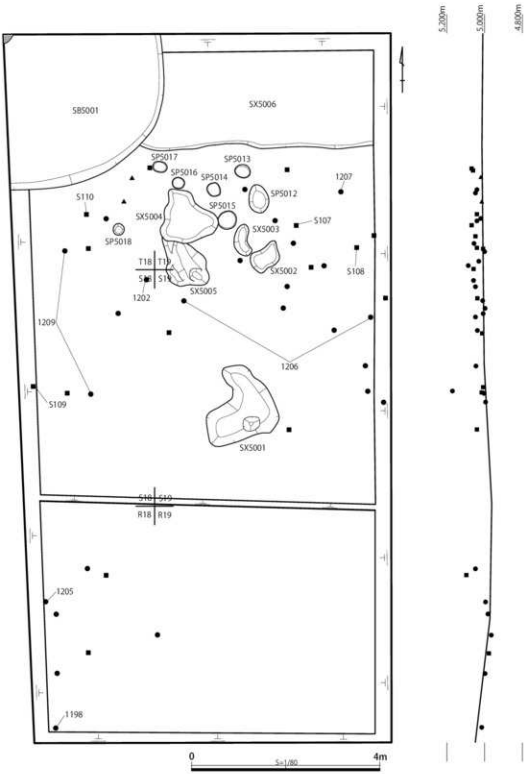
14 号小穴（SP5014）（第 562・563 図）

検出地点　T － 19 グリッド。

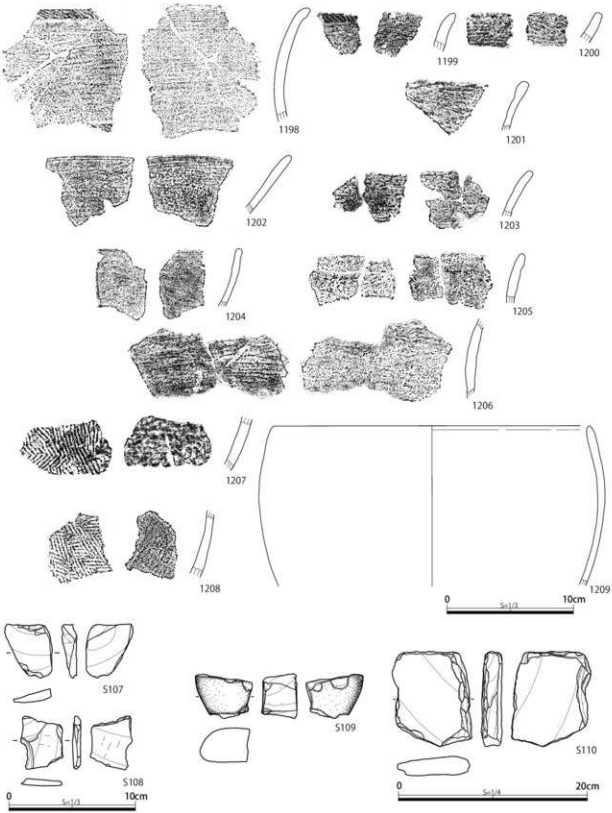
形態・規模　平面形状は楕円形を呈し長軸が 0.31m、短軸が 0.27m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　暗灰黄色粘質土 1 層で炭化物片を少量含んでいる。

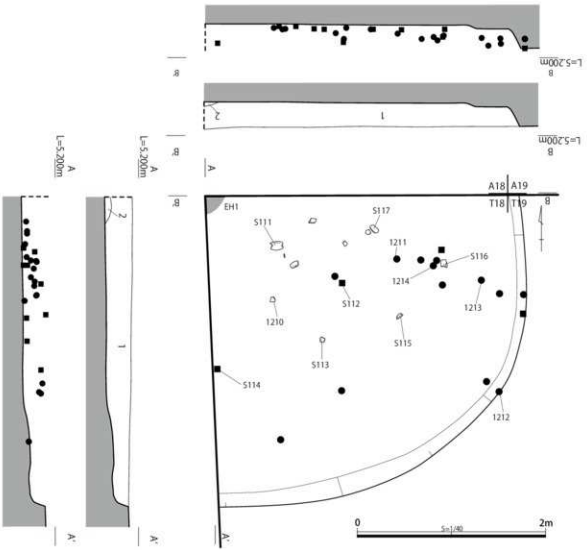
遺物出土状況　上面付近から土器が出土している。



第 557 図　第 5 遺構面 2 トレンチ平断面図（5b 面・1/80）



第 558 図　2 トレンチ 5b 面出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物粒～φ1cm以下を含む。炭化物粒～φ1cmが多く含まれ、土器片～φ5cmがまばらに含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、粘性やや強い、焼土ブロック～φ3cmがやや多く含む。炭化物粒～φ1cmがやや多く含む。

第 559 図　SB5001 平断面図（1/40）

出土遺物　1215 は口縁端部に RL 縄文を付加した深鉢である。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

16 号小穴（SP5016）（第 564 図）

検出地点　T－19 グリッド。

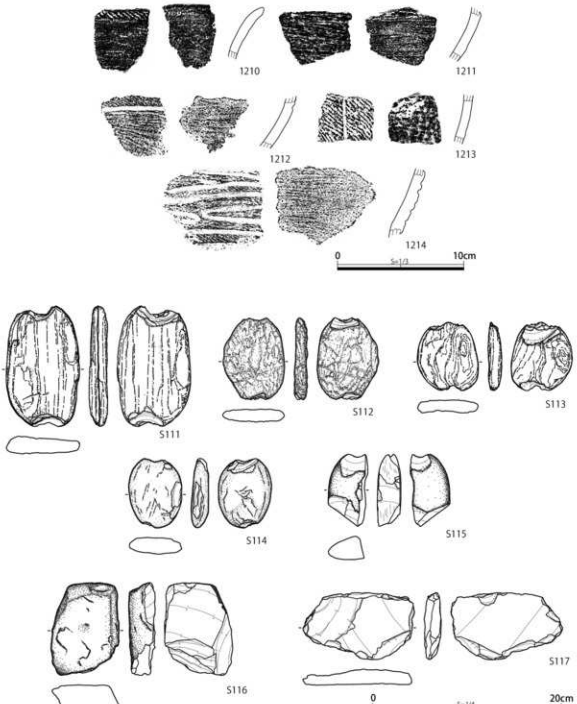
形態・規模　平面形状はほぼ円形を呈し、径が 0.26m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は逆台形である。

土層　いずれも粘質土で、1 層は黄褐色で炭化物を少量含み、2 層はオリーブ褐色に分層されている。

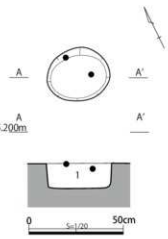
遺物出土状況　上面付近から土器が出土している。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

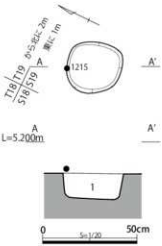


第 560 図　SB5001 出土遺物



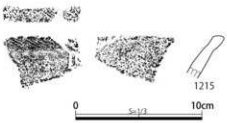
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ややもろい、粗雑中砂含）、炭化物・焼土ブロック小・径2cm以内含む、炭化物小・径0.5cmのガラス含む。

第 561 図　SP5013 平断面図（1/20）



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（ややもろい、粗中砂含）、粗粒礫を70×35×8mm以内含む、炭化物・焼土粒・径2cm以内含む、炭化物・焼土粒・径0.5cmの軟質炭。

第 562 図　SP5014 平断面図（1/20）



第 563 図　SP5014 出土遺物

e）性格不明遺構（SX）

1 号性格不明遺構（SX5001）（第 565 図）

検出地点　S－19 グリッド。

形態・規模　平面形状は不整形で長軸が 1.76m、短軸が 1.68m、最大深度は 0.15m を測る。断面形状は皿形である。

土層　検出面上面には炭化物が少量含まれており、いずれもオリーブ褐色粘質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況　図化可能なものはない。

出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。

時期　周辺の遺構の年代から縄文時代後期頃と考えられる。

2 号性格不明遺構（SX5002）（第 566・567 図）

検出地点　S－19・T－19 グリッド。

形態・規模　平面形状は不整形で長軸が 0.66m、短軸が 0.43m、最大深度は 0.17m を測る。断面形状は舟底形である。

土層　いずれも粘質土で炭化物を含んでおり、1 層が暗灰黄色、2 層がオリーブ褐色に分層される。

遺物出土状況　上面付近から土器が出土している。

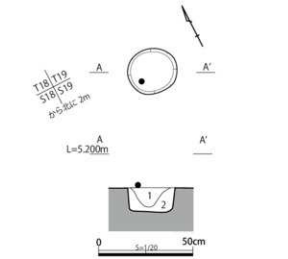
出土遺物　1216 は表面に LR 縄文を施した深鉢の体部である。1217 は深鉢の底部である。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

3 号性格不明遺構（SX5003）（第 568・569 図）

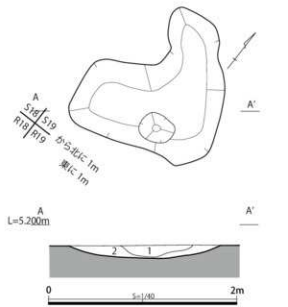
検出地点　T－19 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形で長軸が 0.69m、短軸が 0.29m、最大深度は 0.11m を測る。断面形状は皿形である。



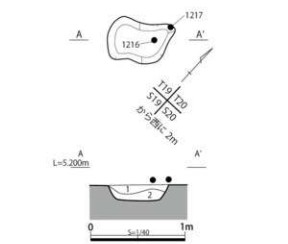
1 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土（しまりやや強い、粘性強い、炭素粒&焼土ブロック少0.1cm以下含む、炭化物片少~0.1cm以下含む）
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、ふし・炭化物&焼土ブロック少0.2cm以下含む）

第 564 図　SP5016 平断面図（1/20）



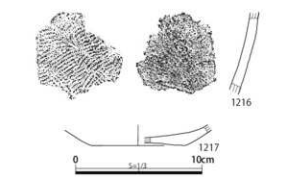
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭素粒&焼土ブロック少0.1cm以下含む、炭化物片少~0.1cm以下含む）
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭素粒&焼土ブロック少0.1cm以下含む、炭化物片少~0.1cm以下含む）

第 565 図　SX5001 平断面図（1/40）



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭素粒&焼土ブロック少0.2cm以下含む、炭化物片少~0.1cm以下含む）
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘質土（しまりやや強い、粘性やや強い、炭素粒&焼土ブロック少0.2cm以下含む、炭化物片少~0.1cm以下含む）

第 566 図　SX5002 平断面図（1/40）



第 567 図　SX5002 出土遺物

土層　暗灰黄色粘質土が 2 層に分層されており、1 層の方に炭化物をやや多く含んでいる。

遺物出土状況　1 層中から土器が出土している。

出土遺物　1218・1219 は深鉢である。1218 は外面に RL 縄文が施されている。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

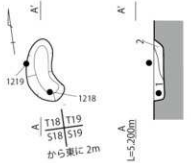
4 号性格不明遺構（SX5004）（第 570・571 図）

検出地点　T－19 グリッド。

形態・規模　平面形状は不整形で長軸が 1.18m、短軸が 1.09m、最大深度は 0.16m を測る。断面形状は皿形である。

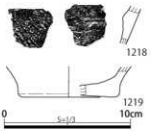
土層　黄褐色粘質土が 2 層に分層されており、1 層の方に炭化物をやや多く含んでいる。

遺物出土状況　1 層中から土器が出土している。

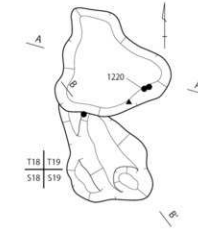


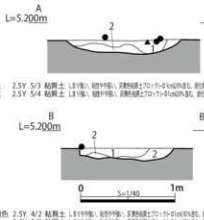
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm20%含む。炭化物1~3mmが少し含む。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm30%含む。炭化物1~3mmごくわずかに含む。

第 568 図　SX5003 平断面図（1/40）



第 569 図　SX5003 出土遺物





1 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりあり、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm20%含む。炭化物1~3mmが僅かに。
2 黄褐色 2.5Y 5/4 粘質土 しまりあり、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm20%含む。炭化物1~3mmがごくわずかに含む。

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土 しまりやや強い、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm30%含む。炭化物1~3mmが僅かに。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 粘質土 しまりやや強い、砂粒やや強い、炭粒焼土ブロック1~5mm20%含む。炭化物1~3mmがごくわずかに含む。

第 570 図　SX5004・SX5005 平断面図（1/40）

第 571 図　SX5004 出土遺物

出土遺物　1220 は深鉢の体部である。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

5 号性格不明遺構（SX5005）（第 570 図）

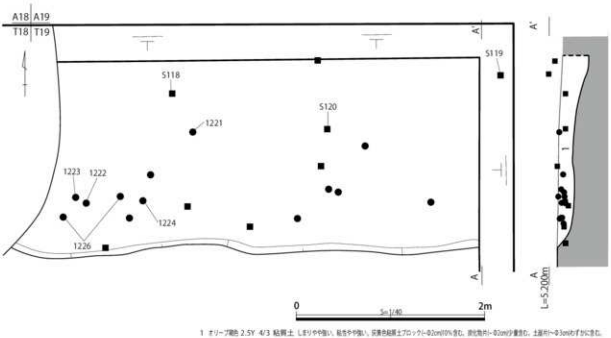
検出地点　S－19・T－19 グリッド。

形態・規模　平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側を SX5004 に切られている。残存値で長軸が 1.16m、短軸が 0.88m、最大深度は 0.13m を測り、断面形状は皿形である。

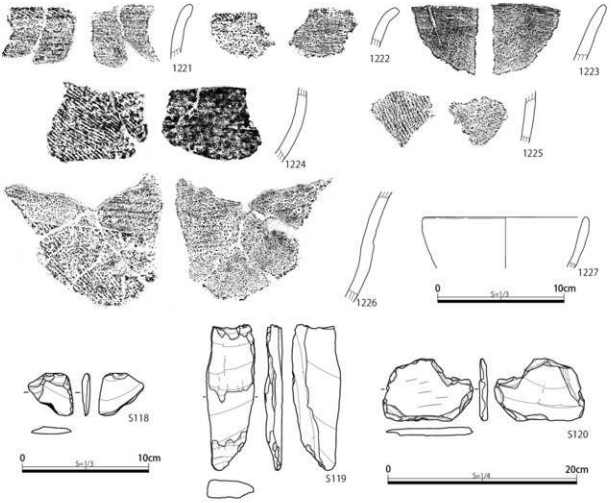
土層　いずれも粘質土で、1 層は暗灰黄色、2 層は黄褐色に分層される。

遺物出土状況　SX5004 との境部分から土器が出土している。

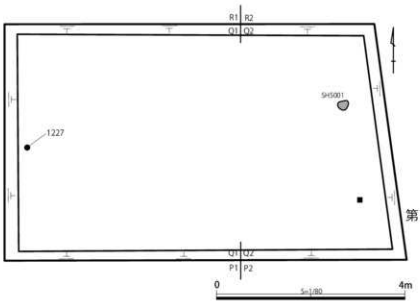
出土遺物　図化可能な遺物は出土していない。



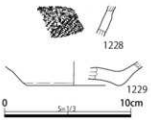
第 572 図　SX5006 平断面図（1/40）



第 573 図　SX5006 出土遺物



第 574 図　第 5 遺構面 3 トレンチ平面図（5b 面・1/80）



第 575 図　3 トレンチ 5b 面出土遺物

時期　周辺の遺構の年代から縄文時代後期頃と考えられる。

6 号性格不明遺構（SX5006）（第 572・573 図）

検出地点　T－18・19 グリッド。

形態・規模　2 トレンチの北側に位置しており、西側は SB5001 に切られている。北に向かって緩やかに傾斜する浅い落ち込みである。残存値で長軸が 4.48m、短軸が 2.08m、最大深度は 0.34m を測る。

土層　オリーブ褐色粘質土 1 層である。

遺物出土状況　上面および埋土中から土器や石器が散漫な状態で出土している。

出土遺物　1221 ～ 1223 は深鉢の口縁部である。1221・1222 は口縁端部に LR 縄文が施されている。1224 ～ 1226 は深鉢の体部である。1224 には LR 縄文、1225・1226 は RL 縄文がそれぞれ表面に施されている。1227 は浅鉢である。S118 はサヌカイトの剥片、S119 は結晶片岩の分割礫、S120 は結晶片岩の二次加工痕を有する剥片である。

時期　出土した遺物から縄文時代後期頃と考えられる。

⑤ 3 トレンチ 5b 遺構面

a) 遺構面の概要（第 574 図）

最も東寄りに設定されたトレンチである。出土した遺物は少なく、土器の小片と礫である。第 5b 遺構面とした⑭黄灰色粘質土層の上面を精査中に Q－2 グリッド東壁寄りの部分から 20cm ほどの焼土の拡がり（SH5001）が検出されている。

b) 包含層出土遺物（第 575 図）

1228 は浅鉢の体部と考えられる。外面は LR 縄文が施され、内面はミガキ調整とみられる。1229 は深鉢の底部である。

Ⅳ自然科学分析

1 清成遺跡における放射性炭素年代（その１）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

清成遺跡は、徳島県名西郡石井町石井字石井 1660 番地に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡、溝等の遺構から出土した木炭、炭化物、土器付着炭化物の合計 8 点である（表 1）。土器付着炭化物は、羽釜の体部中部から下半の外面から採取された。

2　測定の意義

試料が採取された遺構や土器の年代を推定する。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（2）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）14C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C 年代は δ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。14C 年代と誤差は、

下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。pMC が小さい（14C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（14C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ 13C によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1 σ＝ 68.2％）あるいは２標準偏差（2 σ＝ 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C 補正を行い、下１桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２、３、図版１、２に示した。なお、暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表２、図版１に、後者を表３、図版２に示した。

６　測定結果

測定結果を表１～３、図版１、２に示す。較正年代は、cal BP と cal BC/AD の２通りで算出したが、以下の説明では cal BC/AD の値で記載し（表３､図版２）､cal BP の値は図表のみ提示した（表２､図版１）。試料８点の 14C 年代は、1960 ± 20yrBP（試料７）から 640 ± 20yrBP（試料 11）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い７が 21 ～ 71cal AD の範囲、最も新しい 11 が 1295 ～ 1388cal AD の間に２つの範囲で示される。全体で弥生時代後期から室町時代初頭頃に相当する（藤尾 2009、小林 2009、佐原 2005）。

なお、試料７、８が含まれる１～３世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾嵜 2009、坂本 2010 など）。その日本産樹木のデータを用いて試料７、８の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 40％を超えるおおむね適正な値で､化学処理､測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代 , 西本豊弘編 , 新弥生時代のはじまり　第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代 , 雄山閣 , 9-54

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散 , 西本豊弘編 , 新弥生時代のはじまり　第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代 , 雄山閣 , 55-82

尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代 , 設楽博己 , 藤尾慎一郎 , 松木武彦編弥生時代の考古学 1　弥生文化の輪郭 , 同成社 , 225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分 , 佐原眞 , ウェルナー・シュタインハウス監修 , 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集 , ドイツ展記念概説　日本の考古学　上巻 , 学生社 , 14-19

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－ , 第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集 , (株) 加速器分析研究所 , 85-90

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-160751	1	SB1004　竈内	木炭	AAA	-27.70 ± 0.53	1,540 ± 20	82.59 ± 0.24
IAAA-160752	2	SD1025	土器付着炭化物	AaA	-29.22 ± 0.56	790 ± 20	90.65 ± 0.28
IAAA-160753	3	SP1447　柱	木炭	AAA	-22.87 ± 0.46	670 ± 20	91.98 ± 0.27
IAAA-160754	11	SP1448	木炭	AaA	-27.65 ± 0.41	640 ± 20	92.37 ± 0.26
IAAA-160755	5	SP1530	木炭	AAA	-28.43 ± 0.55	730 ± 20	91.27 ± 0.28
IAAA-160756	6	SX1001	炭化物	AAA	-28.66 ± 0.53	1,550 ± 20	82.48 ± 0.25
IAAA-160757	7	SK2001	木炭	AaA	-26.33 ± 0.35	1,960 ± 20	78.37 ± 0.23
IAAA-160758	8	SX2004	炭化物	AaA	-27.65 ± 0.58	1,860 ± 20	79.31 ± 0.24

[#8128-1 ～8]

表 2　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BP）

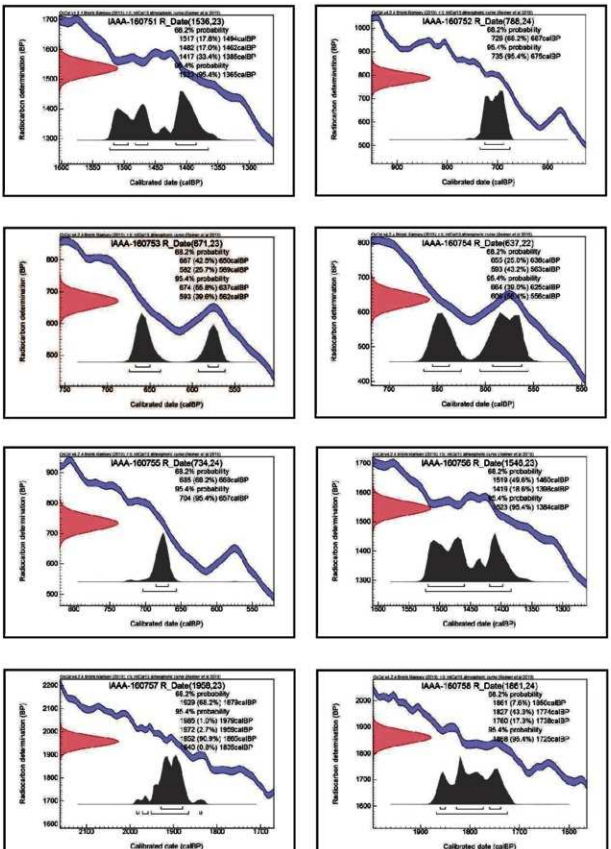
測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-160751	1,580 ± 20	82.13 ± 0.22	1,536 ± 23	1517calBP - 1494calBP (17.8%) 1482calBP - 1462calBP (17.0%) 1417calBP - 1385calBP (33.4%)	1523calBP - 1365calBP (95.4%)
IAAA-160752	860 ± 20	89.87 ± 0.25	788 ± 24	726calBP - 687calBP (68.2%)	735calBP - 675calBP (95.4%)
IAAA-160753	640 ± 20	92.38 ± 0.26	671 ± 23	667calBP - 650calBP (42.5%) 582calBP - 569calBP (25.7%)	674calBP - 637calBP (55.8%) 593calBP - 562calBP (39.6%)
IAAA-160754	680 ± 20	91.87 ± 0.25	637 ± 22	655calBP - 638calBP (25.0%) 593calBP - 563calBP (43.2%)	664calBP - 625calBP (39.0%) 606calBP - 556calBP (56.4%)
IAAA-160755	790 ± 20	90.63 ± 0.26	734 ± 24	685calBP - 668calBP (68.2%)	704calBP - 657calBP (95.4%)
IAAA-160756	1,610 ± 20	81.87 ± 0.23	1,546 ± 23	1519calBP - 1460calBP (49.6%) 1419calBP - 1398calBP (18.6%)	1523calBP - 1384calBP (95.4%)
IAAA-160757	1,980 ± 20	78.15 ± 0.22	1,958 ± 23	1929calBP - 1879calBP (68.2%)	1985calBP - 1979calBP (1.0%) 1972calBP - 1959calBP (2.7%) 1952calBP - 1865calBP (90.9%) 1840calBP - 1835calBP (0.8%)
IAAA-160758	1,910 ± 20	78.88 ± 0.22	1,861 ± 24	1861calBP - 1850calBP (7.6%) 1827calBP - 1774calBP (43.3%) 1760calBP - 1738calBP (17.3%)	1868calBP - 1725calBP (95.4%)

[参考値]

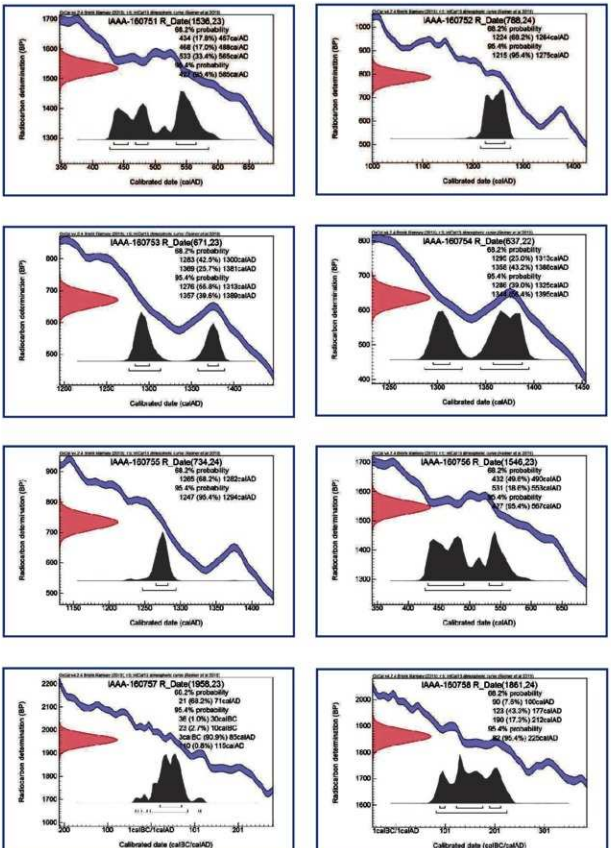
表 3　放射性炭素年代測定結果（暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BC/AD）

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-160751	1,580 ± 20	82.13 ± 0.22	1,536 ± 23	434calAD - 457calAD (17.8%) 468calAD - 488calAD (17.0%) 533calAD - 565calAD (33.4%)	427calAD - 585calAD (95.4%)
IAAA-160752	860 ± 20	89.87 ± 0.25	788 ± 24	1224calAD - 1264calAD (68.2%)	1215calAD - 1275calAD (95.4%)
IAAA-160753	640 ± 20	92.38 ± 0.26	671 ± 23	1283calAD - 1300calAD (42.5%) 1369calAD - 1381calAD (25.7%)	1276calAD - 1313calAD (55.8%) 1357calAD - 1389calAD (39.6%)
IAAA-160754	680 ± 20	91.87 ± 0.25	637 ± 22	1295calAD - 1313calAD (25.0%) 1358calAD - 1388calAD (43.2%)	1286calAD - 1325calAD (39.0%) 1344calAD - 1395calAD (56.4%)
IAAA-160755	790 ± 20	90.63 ± 0.26	734 ± 24	1265calAD - 1282calAD (68.2%)	1247calAD - 1294calAD (95.4%)
IAAA-160756	1,610 ± 20	81.87 ± 0.23	1,546 ± 23	432calAD - 490calAD (49.6%) 531calAD - 553calAD (18.6%)	427calAD - 567calAD (95.4%)
IAAA-160757	1,980 ± 20	78.15 ± 0.22	1,958 ± 23	21calAD - 71calAD (68.2%)	36calBC - 30calBC (1.0%) 23calBC - 10calBC (2.7%) 3calBC - 85calAD (90.9%) 110calAD - 115calAD (0.8%)
IAAA-160758	1,910 ± 20	78.88 ± 0.22	1,861 ± 24	90calAD - 100calAD (7.6%) 123calAD - 177calAD (43.3%) 190calAD - 212calAD (17.3%)	82calAD - 225calAD (95.4%)

［参考値］



第１図　暦年較正年代グラフ（cal BP、参考）



第２図　暦年較正年代グラフ（cal BC/AD、参考）

2 清成遺跡における放射性炭素年代（その２）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

清成遺跡は、徳島県名西郡石井町石井字石井 1660 番地に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡等の遺構から出土した炭化物２点である（表 1）。

2　測定の意義

試料が採取された遺構および遺構面の年代を推定する。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（2）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）14C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C 年代は δ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。14C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代

がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（3）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。pMC が小さい（14C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（14C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ 13C によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2、3、図版 1、2 に示した。なお、暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表 2、図版 1 に、後者を表 3、図版 2 に示した。

6　測定結果

測定結果を表 1 ～ 3、図版 1、2 に示す。

試料の 14C 年代は、試料 9 が 3600 ± 30yrBP、試料 10 が 3500 ± 30yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、試料 9 が縄文時代後期前葉頃、試料 10 が後期中葉頃に相当する（小林編 2008）。

試料の炭素含有率はいずれも 50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器 , 総覧縄文土器刊行委員会 , アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-160759	9	SB5001　炉内	炭化物	AaA	-27.79 ± 0.55	3,600 ± 30	63.90 ± 0.22
IAAA-160760	10	SX5002	炭化物	AaA	-27.77 ± 0.54	3,500 ± 30	64.64 ± 0.22

[#8128-9 ～ 10]

表 2　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BP）

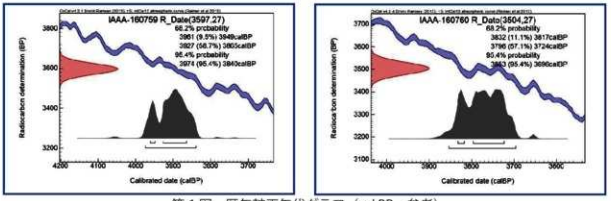
測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-160759	3,640 ± 30	63.54 ± 0.21	3,597 ± 27	3961calBP - 3949calBP (9.5%) 3927calBP - 3865calBP (58.7%)	3974calBP - 3840calBP (95.4%)
IAAA-160760	3,550 ± 30	64.27 ± 0.21	3,504 ± 27	3832calBP - 3817calBP (11.1%) 3796calBP - 3724calBP (57.1%)	3853calBP - 3696calBP (95.4%)

[参考値]

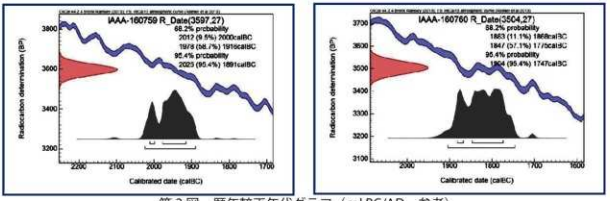
表 3　放射性炭素年代測定結果（暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BC/AD）

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-160759	3,640 ± 30	63.54 ± 0.21	3,597 ± 27	2012calBC - 2000calBC (9.5%) 1978calBC - 1916calBC (58.7%)	2025calBC - 1891calBC (95.4%)
IAAA-160760	3,550 ± 30	64.27 ± 0.21	3,504 ± 27	1883calBC - 1868calBC (11.1%) 1847calBC - 1775calBC (57.1%)	1904calBC - 1747calBC (95.4%)

[参考値]



第 1 図　暦年較正年代グラフ（cal BP、参考）



第 2 図　暦年較正年代グラフ（cal BC/AD、参考）

3 清成遺跡出土土器の胎土分析

岡山理科大学 生物地球学部
白石　純

1．はじめに

この自然科学的な胎土分析では、清成遺跡の弥生時代後期の住居跡および溝より出土した土器 (下川津 B 類模倣土器を含む) と周辺遺跡から出土している土器の胎土を比較することで、この時期の土器の生産地を推定した。周辺遺跡としては、清成遺跡の南に位置する矢野遺跡 (鮎喰川流域)、吉野川北岸位置する黒谷川郡頭遺跡 (吉野川下流域)、拝東遺跡 (吉野川中流域) の各遺跡である。

2．分析方法と試料

分析は蛍光 X 線分析法で行い、胎土の成分 (元素) 量を測定し、その成分量から分析試料の差異について調べた。測定した成分 (元素) は、SiO_2、TiO_2、Al_2O_3、Fe_2O_3、MnO、MgO、CaO、Na_2O、K_2O、P_2O_5 の 10 成分である。

なお測定装置・条件・試料は以下の通りである。

測定装置：SEA5120A(ｴｽｴｲｴｲ・ﾅﾉﾃｸﾉﾛｼﾞｰ社製) を使用した。

測定条件：X 線照射径 2.5mm、電流 50 ～ 200mA、電圧 50kV/15kV、測定時間 300 秒、測定室は真空の条件で測定した。

測定元素：10 成分の定量値は地質調査所の標準試料 JA-1(安山岩)、JG-1a(花崗岩)、JB-1a(玄武岩)、の 3 個を用いて検量線を作成し、定量値を算出した。

測定試料：分析試料は、試料表面の汚れを除去後 (研磨機)、乾燥した試料を乳鉢 (タングステンカーバイト製) で粉末 (100 ～ 200 ﾒｯｼｭ) にしたものを加圧成形機で約 $10^{ﾄﾝ}$ の圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。したがって、一部破壊分析である。

分析結果の比較 (差異) は、有意な差がみられる成分を横軸と縦軸にとり、散布図を作成し、胎土の違いについて検討した。

分析試料は第 1 表に掲載している 4 遺跡 47 点の土器である。内訳は、清成遺跡 15 点、矢野遺跡 10 点、拝東遺跡 12 点、黒谷川郡頭遺跡 9 点、清成遺跡 1 点 (粘土) である。器種は壺、甕、鉢である。

第 1 図には、今回分析した各遺跡の位置図を示している。

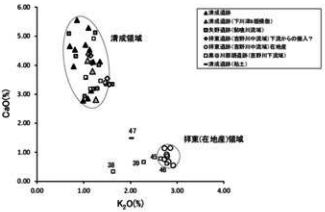
第 1 図　胎土分析した各遺跡の位置図

3．分析結果

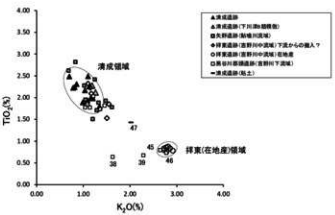
蛍光 X 線分析結果

胎土の差異に特徴がある主な元素は、

TiO2、CaO、K2O で、これらの元素から散布図を作成し検討した。第 2 図 K2O-CaO、第 3 図 K2O-TiO2 の散布図より、清成遺跡出土の土器は、器種や形態 (下川津 B 類模倣＝香東川下流域模倣) に関係なく、ほぼ一つにまとまる。そして、この清成遺跡の分布域には矢野遺跡、拝東遺跡 (下流域からの搬入)、黒谷川郡頭遺跡 (試料番号 40 ～ 44) の土器がそれぞれ分布している。また、拝東遺跡の在地産土器は、CaO 量、TiO2 量が約 1% より少ない領域に分布し、この領域に黒谷川郡頭遺跡の 45、46 の鉢も分布している。また同じ黒谷川郡頭遺跡の 38、39 の壺は拝東遺跡の在地産領域に近いところに分布しているが、在地産とは K2O 量が少し異なる。また、清成遺跡の住居内出土の黄色粘土 47 は、清成遺跡と拝東遺跡 (在地産) の中間領域に分布している。



第 2 図　各遺跡の胎土比較



第 3 図　各遺跡の胎土比較

実体顕微鏡観察

実体顕微鏡観察による結果では、清成遺跡出土の土器 (第 4 図写真 1･2) には、結晶片岩の砂粒が観察でき、矢野遺跡 (鮎喰川流域)、拝東遺跡 (下流域からの搬入) の土器 (第 4 図写真 3･4･5) もほぼ同じ砂粒構成であった。また拝東遺跡の在地産 (第 4 図写真 6) には 1mm 前後の石英、と少量の長石が含まれていた。そして、黒谷川郡頭遺跡の 45、46(第 4 図写真 8) もほぼ同じ砂粒構成であった。

X線回折による分析結果

この分析法は、胎土中の鉱物組成を調べるために実施した。その結果、第 5 図に示しているように、清成遺跡、矢野遺跡、拝東遺跡、黒谷川郡頭遺跡出土の吉野川下流域等の土器は、同じ鉱物組成であることが推定された。それは、第 5 図①⑯㉖㊹のように、石英、長石、透角閃石 (Tremolite) の各鉱物組成で構成されていた。そして、これらの鉱物組成より考えられる源岩は、結晶片岩が考えられる。

また、拝東遺跡 (在地産)、清成遺跡 (粘土) は第 5 図㉝㊼のように石英、長石の鉱物で構成されていた。

4．まとめ

以上の各分析結果をまとめると以下のようになる。

(1) 蛍光X線分析結果では、清成遺跡の分布域に矢野遺跡、拝東遺跡 (下流域からの搬入)、黒谷川郡頭遺跡 (試料番号 40 ～ 44) の土器がそれぞれ分布した。また、実体顕微鏡およびX線回折でも、これ

写真 1. 清成遺跡①

写真 2. 清成遺跡③（下川津 B 類模倣）

写真 3. 矢野遺跡㉖（鮎喰川流域）

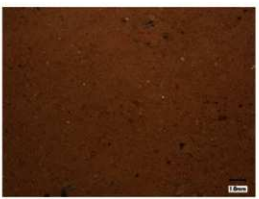


写真 4. 矢野遺跡㉔（鮎喰川流域）

写真 5. 拝東遺跡㉗（下流域からの搬入）

写真 6. 拝東遺跡㉞（在地産）

写真 7. 黒谷川郡頭遺跡㊴（吉野川下流域）

写真 8. 黒谷川郡頭遺跡㊵（吉野川下流域）

第 4 図　実体顕微鏡観察写真

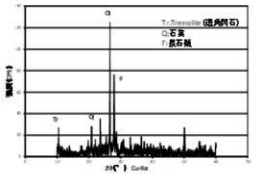
らの土器は同じ結果となった。したがって、今回分析した試料から吉野川下流域産の土器は、遺跡ごとに胎土が異なることはなかった。

(2) 拝東遺跡の在地産土器は、清成遺跡の土器とは明らかに異なっていた。そしてこの領域には黒谷川郡頭遺跡の 45、46 の鉢が入った。また同じ黒谷川郡頭遺跡の 38、39 の壺は拝東遺跡の在地産領域に近いところに分布しているが、在地産とは胎土が少し異なる結果となった。

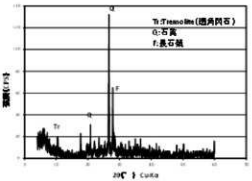
また、水系が異なる矢野遺跡出土（鮎喰川流域）の土器は、吉野川下流域産の土器と胎土が類似していた。そして、清成遺跡出土の粘土は、拝東遺跡の在地産土器に砂粒構成は似ていた。

そして、黒谷川郡頭遺跡の 45、46 の鉢は拝東遺跡の在地産土器と類似し、同じ遺跡の 38、39 の壺は拝東遺跡の在地産土器と少し胎土が異なっていた。これは在地産土器の中には、遺跡により胎土が異なるものがあるかもしれない。

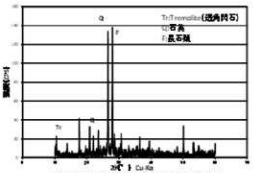
この胎土分析の機会を与えて頂いた氏家敏之氏をはじめ、徳島県埋蔵文化財センターの方々には、お世話になった。記して感謝いたします。



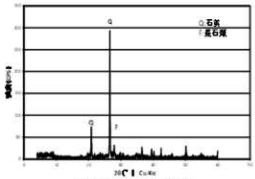
① 清成遺跡(壺)



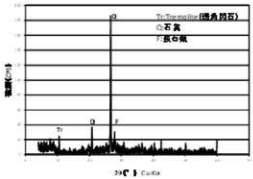
⑯ 矢野遺跡(鮎喰川流域)



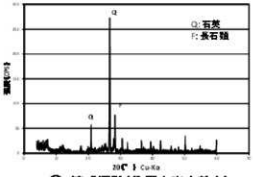
⑮ 拝東遺跡(下流域からの搬入)



⑮ 拝東遺跡(在地産)



⑭ 黒谷川郡頭遺跡(吉野川下流域)



⑰ 清成遺跡(住居内出土粘土)

第 5 図　X 線回折図

表 1　清成遺跡ほか出土土器の胎土分析試料一覧表 (%)

試料番号	遺跡名	遺構	器種番号	SiO2	TiO2	Al2O3	Fe2O3	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	P2O5	備考	掲載番号
1	清成遺跡	SB2001	壺①	56.94	2.17	18.94	10.45	0.15	4.69	4.70	0.76	1.04	0.06		514
2	清成遺跡	SB2001	壺②	57.98	2.24	19.79	9.42	0.11	3.87	4.54	1.10	0.81	0.05		515
3	清成遺跡	SB2001	甕①	57.12	1.87	21.16	9.48	0.14	3.72	4.16	1.10	1.08	0.05	下川津B 鍋崎但	521
4	清成遺跡	SB2001	甕②	56.28	1.98	18.83	10.82	0.15	5.37	4.12	1.05	1.20	0.06		523
5	清成遺跡	SB2001	甕③	59.00	1.80	19.14	8.92	0.14	4.45	4.12	0.86	1.35	0.07		534
6	清成遺跡	SB2001	甕④	60.12	1.94	20.18	10.24	0.10	2.61	2.86	0.71	1.09	0.06		525
7	清成遺跡	SB2001	鉢①	53.62	2.49	20.44	12.92	0.17	3.78	5.29	0.00	1.10	0.06		538
8	清成遺跡	SB2001	鉢②	54.56	2.31	19.86	11.12	0.17	3.74	5.55	1.53	0.86	0.20		540
9	清成遺跡	SD2008	甕⑤	55.41	2.49	19.04	12.14	0.14	3.97	4.66	1.20	0.70	0.06		691
10	清成遺跡	SD2008	甕⑥	54.01	2.26	19.56	12.08	0.19	5.02	4.54	1.03	1.13	0.06		704
11	清成遺跡	SD2008	甕⑦	59.49	2.12	20.09	10.54	0.15	3.36	2.82	0.00	1.26	0.04	下川津B 鍋崎但	711
12	清成遺跡	SD2008	甕⑧	56.83	2.28	19.35	10.92	0.18	4.33	3.79	0.97	1.19	0.06	下川津B 鍋崎但	710
13	清成遺跡	SD2008	鉢③	60.22	1.89	19.97	11.17	0.16	2.45	2.78	0.00	0.99	0.23		739
14	清成遺跡	SD2008	鉢④	58.42	1.99	20.19	10.16	0.14	3.66	3.13	0.77	1.16	0.27		743
15	清成遺跡	SD2008	鉢⑤	54.46	2.23	21.42	11.82	0.14	4.12	3.96	0.91	0.78	0.03		741
16	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2044	壺③	58.97	1.71	19.60	9.72	0.11	4.14	3.20	1.15	1.29	0.03		1540
17	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2044	壺④	60.31	1.51	18.15	9.42	0.12	4.29	3.19	1.70	1.20	0.05		1551
18	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2044	鉢⑥	56.28	1.93	20.82	11.36	0.11	4.19	3.35	0.06	1.48	0.28		1555
19	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2044	鉢⑦	52.47	2.42	20.58	12.25	0.13	4.39	5.12	1.01	1.25	0.28		1558
20	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	壺⑤	50.65	2.62	22.08	12.87	0.16	4.51	5.09	0.93	0.68	0.24		1685
21	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	壺⑥	56.54	1.78	21.27	10.53	0.13	4.60	3.35	0.00	1.61	0.07		1687
22	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	甕⑧	59.28	1.88	19.83	8.55	0.12	3.80	4.01	1.04	1.33	0.04		1695
23	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	甕⑨	56.41	1.95	22.08	10.21	0.13	3.12	3.57	1.09	1.05	0.27		1697
24	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	鉢⑧	54.52	2.28	23.06	12.12	0.11	3.64	2.93	0.00	1.02	0.21		1712
25	矢野遺跡（鮎喰川流域）	SB2051	鉢⑨	53.09	2.82	20.92	13.70	0.16	4.03	4.31	0.00	0.83	0.03		1713
26	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	壺⑦	56.31	2.32	18.74	10.87	0.15	4.61	4.37	1.21	1.10	0.20	下流からの搬入？	360
27	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	壺⑧	56.46	2.23	18.52	11.04	0.13	4.80	4.34	1.19	1.15	0.02	下流からの搬入？	361
28	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	壺⑨	72.13	0.83	15.92	6.14	0.00	0.54	0.76	0.52	2.73	0.30	在地産	364
29	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	壺⑩	70.96	0.78	16.75	5.93	0.00	0.85	0.55	0.78	2.92	0.37	在地産	366
30	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑤	59.66	2.09	19.19	9.74	0.13	3.53	4.08	0.00	1.17	0.26	下流からの搬入？	392
31	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑥	60.09	1.85	18.32	8.51	0.08	4.50	3.34	1.07	1.55	0.52	下流からの搬入？	398
32	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑦	61.87	1.53	17.89	8.50	0.09	3.53	3.54	0.87	1.50	0.45	下流からの搬入？	427
33	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑧	70.83	0.88	17.11	5.70	0.00	0.56	0.68	0.90	2.81	0.33	在地産	395
34	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑨	69.56	0.76	17.25	5.58	0.00	1.85	0.86	1.00	2.78	0.29	在地産	402
35	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	甕⑩	70.45	0.86	17.02	6.66	0.02	0.76	0.93	0.00	2.78	0.41	在地産	404
36	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	鉢⑩	67.38	0.79	17.69	6.79	0.02	2.50	1.14	0.87	2.73	0.03	在地産	441
37	拝東遺跡（吉野川中流域）	1-2区 SB1001	鉢⑪	68.39	0.84	16.54	7.17	0.05	2.02	1.15	0.86	2.85	0.05	在地産	445
38	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	壺⑨	78.70	0.64	13.90	4.41	0.00	0.27	0.34	0.00	1.63	0.05		35-1
39	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	壺⑩	74.63	0.68	15.42	3.44	0.05	1.58	0.67	1.09	2.29	0.05		35-3
40	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	壺⑪	55.29	2.03	19.16	10.67	0.16	4.91	4.91	1.20	1.21	0.28		35-5
41	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	甕⑩	57.83	1.73	18.53	11.35	0.20	3.86	3.46	0.94	1.36	0.59		36-9
42	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	甕⑪	60.15	1.78	18.12	8.92	0.13	4.06	3.59	1.86	1.04	0.22		36-10
43	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	甕⑫	60.82	1.77	17.79	9.61	0.16	4.08	3.19	1.03	1.14	0.29		36-11
44	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	甕⑬	60.28	1.82	18.05	9.18	0.17	4.12	3.41	1.01	1.46	0.36		37-18
45	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	鉢⑨	70.29	0.79	16.58	6.08	0.10	1.82	0.79	0.36	2.65	0.42		38-26
46	黒谷川郡頭遺跡（吉野川下流域）	SE101	鉢⑩	76.28	0.73	14.92	3.17	0.04	0.31	0.61	0.71	2.78	0.35		38-27
47	清成遺跡	SB2005	粘土	65.57	1.43	18.88	6.53	0.06	3.09	1.49	0.76	2.02	0.04		

V まとめ

1 各遺構面における遺構構築の変遷

(1) 第 1 遺構面

第 1 遺構面からは飛鳥時代・奈良時代・平安時代・中世（鎌倉時代）にかけての遺構がおもに検出されている。以下ここでは各時代毎の遺構の変遷についてまとめておく。

①飛鳥時代 [7 世紀代]（第 1 図上）

この時期の遺物がまとまって出土した遺構としては 4 軒の竪穴住居（SB1001 ～ SB1004）が中心となっており、それと 1 基の性格不明遺構（SX1002）が検出されている。竪穴住居の規模としては床面積が 25㎡程度で平面形状が長方形を呈するやや大型のもの（SB1002・SB1004）と床面積が 10㎡程度で平面形状が方形を呈する小型のもの（SB1001・SB1003）とに分けられる。各住居ともに竈が検出されているが、大型の住居ではいずれも北壁のほぼ中央部、小型の住居では東壁と建物の規模によって分かれている。建物の主軸方向は 4 軒ともに正方位からみて東に 10 ～ 15°程度傾いており、建物の建築時に方位が意識されていたものと考えられる。

各竪穴住居の時期であるが竈周辺に残された土器（おもに土師器や須恵器の杯類）の型式から、SB1003 が飛鳥Ⅴ（平城Ⅰ）期で 7 世紀末～ 8 世紀初頭頃、SB1004 が TK217 型式併行期（飛鳥Ⅰ～Ⅱ期）で 7 世紀前半頃と考えられる。残る SB1001、SB1002 については二つの遺構の切り合い関係から、SB1002 → SB1001 という時間経過が分かることと、前述のように住居の規模と竈の位置が SB1002 と SB1004、SB1001 と SB1003 でそれぞれ分けられることから、7 世紀前半と 7 世紀末という 2 時期に分かれて 2 軒ずつ存在していたものと考えられる。また SX1002 は浅い皿状の窪地であり、土器と伴に結晶片岩等の板状の石材も出土していることから廃棄場所であったと考えられる。出土した須恵器の形態から TK217 併行期（7 世紀前半）と考えられ、大型の住居群と同時期とみられる。

竪穴住居の規模に着目して、近隣の敷地遺跡の集落から検出された竪穴住居と比較した場合、敷地遺跡では清成遺跡の竪穴住居と同様に 15 ～ 25㎡の規模のものが、計測できた 41 軒のうち 22 軒と最も多く検出されている。しかしそれよりも大型の竪穴住居（25 ～ 50㎡）が 19 軒と約半数近く存在しているため、数や個々の規模から見た場合には清成遺跡の竪穴住居は小規模にみえてしまう（氏家 2007a）。しかし他の時代においても同様であるが今回の清成遺跡の調査地点は微高地の北側の縁辺部に近いため、集落の中心からはやや外れた場所である可能性は高い。また気延山山塊から四国山地へと連なる北側斜面の尾根筋には、前期古墳から奈良時代の石井廃寺の造営に至るまで、政治的モニュメントが継続的に存在していることからも、清成遺跡含む周辺において古墳時代から古代の集落が継続的に営まれていた可能性は極めて高いと考えられる。

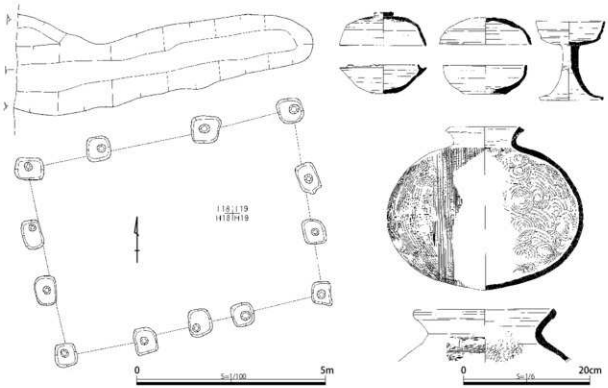
②奈良時代 [8 世紀代]（第 1 図下）

この時期の遺物がまとまって出土した遺構としては性格不明遺構とした SX1001 と SX1004 が存在している。両者ともに多くの遺物が出土しており、廃棄地点（あるいは溝）としての性格を有すると考えられる。それらの遺構に近接して存在しているのが SA1001、SA1002 の 2 軒の掘立柱建物である。これらの掘立柱建物は柱の堀肩が一辺 0.5 ～ 1.0m と大型で平面形状が長方形を呈すること、主軸方向が正方位からみて約 10°前後東に傾くことなどが共通しており、建物の規模についても後から取り上げ

第 1 図　第 1 遺構面の遺構変遷図①（1/700）

る古代後半～中世の掘立柱建物に比べると大規模であることなどから鑑みて古い様相のものであると判断した。当該期の集落は調査区南側を中心に展開していたと考えられる。

特に SA1001 については廃棄地点（あるいは溝）である SX1001、SX1004 と並行的な位置関係にあり、建物と廃棄地点が共時的関係にあるとみられる。SX1001 からは大量の土器類以外にも刀子や鑿などの道具、鋤先などの農具、その他にも馬具や銅製品等も出土しており、建物を中心とした周辺で様々な作業が行われていたと考えられる。このような奈良時代の遺構において建物と廃棄地点とのセット関係の類例は管見では見当たらないが、古墳時代後期～終末期の例が近隣の敷地遺跡に存在している。敷地遺跡 SA3040 は梁間 3 間×桁行 3 間の側柱建物である。SA3040 には北側は SK3068 がそれぞれ沿うように配置されており、土坑内からは土器類以外に土錘や鎌、鑿、紡錘車等の鉄器類が出土している（第 2 図）。敷地遺跡においてはこうした掘立柱建物と廃棄土坑のセットが 6 軒、竪穴住居群とは異なる地



第２図　敷地遺跡の掘立柱建物 [SA3040] と廃棄土坑 [SK3068]（1/100・氏家 2007a）

点にまとまって検出されており、工房的な役割を担っていた可能性が想定される。清成遺跡における SA1001 についても同様に、周囲に同時期の遺構が殆ど検出されていないため生活空間とは隔離された工房的な性格が想定できるかもしれない。

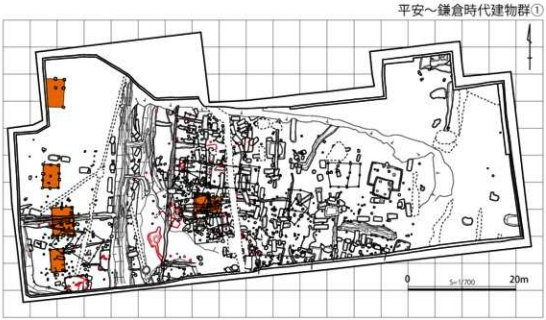
SX1001、SX1004 から出土した土器類は土師器では杯、蓋、皿類等の供膳具が中心として出土している。口径は杯、皿ともに 10 ～ 20cm を越える程度とバラエティーが豊富であるが、底部および底部から体部への変換部分にヘラケズリを施し、一部はその後ナデによる器面の調整を行っている。また杯、蓋、皿類の内面には放射状や螺旋状の暗文が描かれ、蓋の外面には分割ヘラミガキが行われているものも多い。また盤や鉢等の器種の形態からも平城宮Ⅱ～Ⅲ期（8 世紀前半）頃の年代が想定される。当該期の建物群としては敷地遺跡の北半部（敷地遺跡Ⅱ群）において検出された掘立柱建物群の主軸方向が同一の方向を指向していることからも、徳島市国府町から名西郡石井町にかけての 8 世紀代の地割が共通している可能性が考えられる（氏家 2007b）。

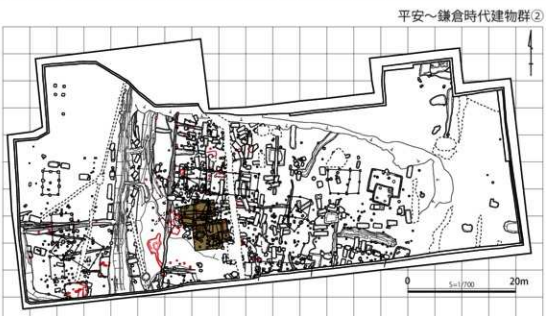
③平安時代～鎌倉時代 [11 ～ 13 世紀代]

平安時代、鎌倉時代の遺構は大型の遺構としては SD1023、SD1025、SX1011 等が存在しているが、それ以外は内部からの遺物の出土が少ないため、個々の遺構での時期判別は少数に限られてしまう。そのため検出された掘立柱建物の主軸方位の類型化を行い、柱穴から出土した遺物の時期から構築の変遷について考えていくことにする。

a) 建物群 1（第３図上）

主軸方向がほぼ北を指向するグループで、SA1011、SA1014、SA1019、SA1020、SA1023、SA1024 の 6 軒が該当する。検出地点は調査区の中央部からやや西寄りと西端にまとまっている。出土





第 3 図　第 1 遺構面の遺構変遷図②（1/700）

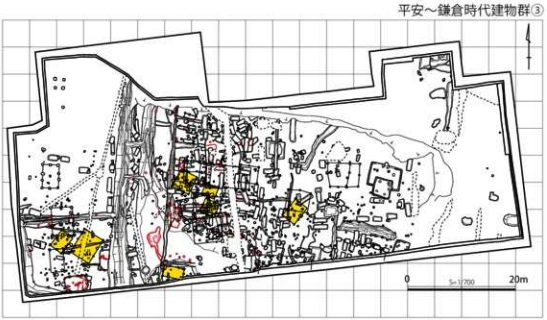
遺物としてはSA1011の南西隅に位置するSK1170内から黒色土器が2点、土師器の皿と甕がそれぞれ1点出土しており、11世紀代の年代が想定される。

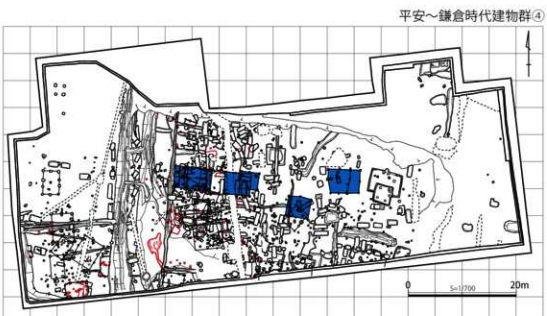
b) 建物群②（第3図下）

主軸方向が北から約5～15°程度西に振れるグループで、SA1013、SA1015、SA1016、SA1017の4軒が該当する。検出地点は調査区の中央部からやや西寄りにまとまっている。出土遺物としてはSA1013の南西隅に位置するSP1482内から瓦器椀が2点と土師器の皿が1点出土しており、12世紀代の年代が想定される。

c) 建物群③（第4図上）

主軸方向が北から約30°前後程度東に振れるグループで、SA1005、SA1009、SA1010、SA1012、SA1018、SA1021、SA1022の7軒が該当する。検出地点は調査区の中央部分と南西寄りの部分にま





第４図　第１遺構面の遺構変遷図③（1/700）

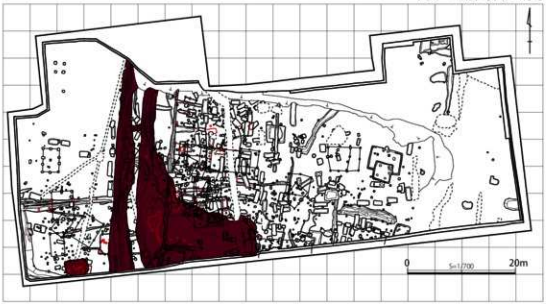
とまっている。出土遺物としてはSA1010の南側に柱であるSP1448内から土師器の杯の破片と銭貨3枚、SA1012の南西隅に位置するSP1460内から土師器の杯と銭貨1枚、SA1022の東側の柱であるSP1690内から土師器の皿が1点、それぞれ出土しており、12世紀代の年代が想定される。

d) 建物群④（第４図下）

主軸方向が北から約10°前後東に振れるグループで、SA1003、SA1004、SA1006、SA1007、SA1008の5軒が該当する。検出地点は調査区の中央部に集中している。柱内から年代を決定できるような出土遺物が無いため、構築時期は決定できない。

e) 溝・その他（第５図）

SD1023、SD1025、SD1035、SX1011等が該当する。溝については底部の傾斜からみて北から南方向に導水を行ったものであり、SD1035は南側に遊水の溜まり場状の拡がりが存在している。また



第 5 図　第 1 遺構面の遺構変遷図④（1/700）

SD1025 は南北方向に延びる二つの溝を繋ぐものである。SD1023、SD1035 の主軸方向は東へ 5° 程度振れている。出土遺物の年代から 13 世紀後半～ 14 世紀前半頃の遺物が主体で、遅くとも 15 世紀頃には埋没したと考えられる。また SD1023 の西側に隣接する SX1011 からも土師器の杯や瓦質の羽釜等が出土しており、土器の年代は 13 世紀後半～ 14 世紀前半に収まるとみられる。

f) 土坑群

第 1 遺構面からは長軸が 1m を越える大型の長方形土坑が数多く検出されている。その分布は調査区のほぼ全域に及ぶが、特に SD1023 西岸よりも東に集中している。主軸方向は東西指向と南北指向の 2 者が存在しているが、主軸の振れをみた場合には、①類：正方位を指向するもの、②類：5° 程度東振りを指向するもの、③類：30° 前後東振りを指向するものに大別できる。そのため方位的な一致をまとまりとして捉えるならば、①類は建物群①、2 類は溝と、3 類は建物群③にそれぞれ関連を持つと推定される。

以上 6 つの遺構群の様相と年代についてまとめてきたが、その変遷について述べていきたい。共伴する遺物の年代から遺構の構築順を辿るならば、最も古いと考えられるのは 11 世紀代の遺物が出土した「建物群①」、続いて 12 世紀代の遺物の出土する「建物群②」、「建物群③」、そして最も新しいと考えられるのは 13 後半～ 14 世紀前半の遺物が出土した「溝・その他」となる。そこで最後に残るのが「建物群④」の位置付けである。現状で年代的な隙間がみられるのは 9 ～ 10 世紀と 13 世紀前半頃であるのだが、現時点では建物群内からそれに相当する年代の遺物、徳島県内の 9、10 世紀に一般的に出土する回転台整形を利用した各種の土師器や黒色土器、そして 13 世紀に多くみられる和泉型瓦器椀（Ⅲ -2・3）や東播系須恵器（Ⅱ -2 ～Ⅲ -1）こね鉢、青磁碗等が殆ど出土していないことから、2 つの時期にこの地点が空白期であった可能性が考えられる。そのため「建物群④」については主軸方位が最も近似していること、最終の段階の溝や土坑群には建物遺構が存在していないことなどから、両者がセットで 13 後半～ 14 世紀前半頃に構築されたものと考えておく。

(2) 第２遺構面［弥生時代後期～庄内・布留期］

第２遺構面は調査区のほぼ中央部を中心として検出されている。集落の範囲は南東から北西方向に流れるSD2008を西限としており、溝内とその周辺からは大量の土器が廃棄された地点（SD2008横土器溜まり、SX2008など）が存在している。また竪穴住居（SB2001、SB2004、SB2005）や性格不明遺構（SX2003）等にも比較的まとまって土器が廃棄されており、遺構内から出土した遺物は第２遺構面が最も多かった。

①遺構の変遷

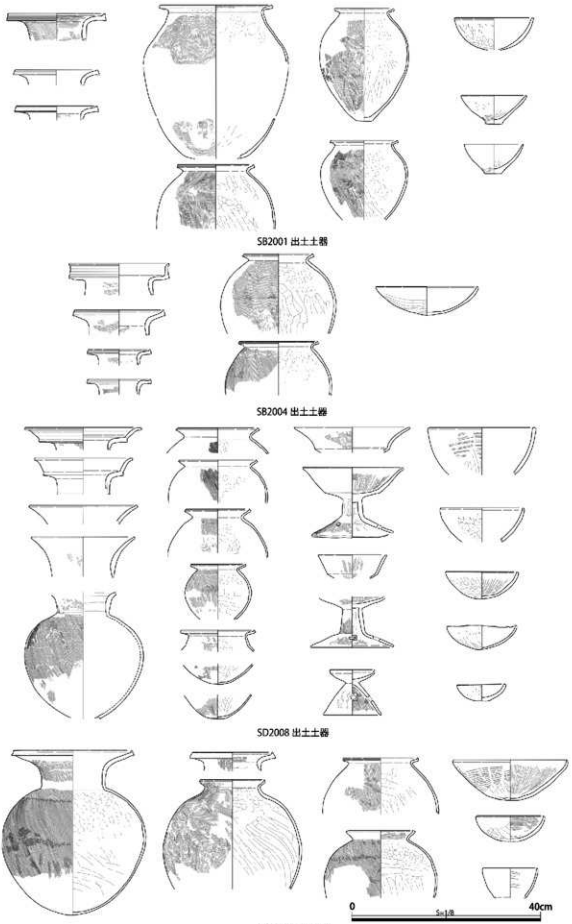
遺構の変遷を記述する前に、吉野川下流域の後期末～終末期にかけての土器の編年について確認しておき、それに基づいて清成遺跡出土土器の位置付けを行っていくこととする。当地域の土器編年については1980年代の板野町黒谷川郡頭遺跡の調査成果を中心として「黒谷川Ⅰ～Ⅳ式」の名称を用いた編年案が示されて以後（菅原1992）、発掘調査件数の増加と伴に細分化が進められていった（菅原・梅木編2000）。その後、標識試料として欠かすことのできない矢野遺跡第Ⅱ群集落の調査報告書が刊行されることにより、ようやく各遺構毎の遺物出土状況や器種組成の状況が初めて明らかにされることとなった。その中で報告者の近藤玲氏は各器種の形式分類を行う中で、特に甕の形態の細分に重点を置いて分類を進め、東阿波型土器へと系統的に繋がっていく「甕①Ⅲ薄」と分類した一群の形態変遷を中心として８期の編年を提示している（近藤編2001）。ここでは近藤案の変遷観に従い、各遺構から出土した甕の位置付けを行う（付図５参照）。

最も古い時期は後期後半Ⅵ-1～２式段階頃とみられる。SD2004、SX2003からの出土した土器群が該当する。出土した甕の体部はやや直線的に膨らむもの（1046）と緩やかで張りの弱いもの（630・1053）が存在している。体部下半の膨らみは弱く、底部直前では僅かに抉り気味に反っている。続く庄内前半（0～１式段階）の時期はまとまった遺物の出土する遺構はなく、SD2005やSK2019、SX2004等が該当すると考えられる。庄内２式段階の遺構としてはSB2001が挙げられる。甕の口縁部は「く」の字または横に大きく開いており、端部はつまみ上げが施されている。体部の張り出しは後期段階に比べると大きく、下半部も丸みを帯びてくる。底部は水平部分がまだ僅かに残されている（SB2001-526）。庄内３式～布留０式段階の遺構としてはSB2004、SB2005、SD2008とSD2008横土器溜まり等が挙げられる。甕の底部は丸底化が進み、SB2004（553）→SD2008横土器溜まり（792）へと漸次変化していくとみられる。また口縁部の立ち上がりも横方向に開き気味のものから、より斜め上方に直線的に立ち上がるものが主体となり、体部のプロポーションも倒卵形からより球形へと変化していく。清成遺跡の資料では指摘したこれらの様相が同じ遺構内で併存しているため明確な区分は難しい（第６図）。

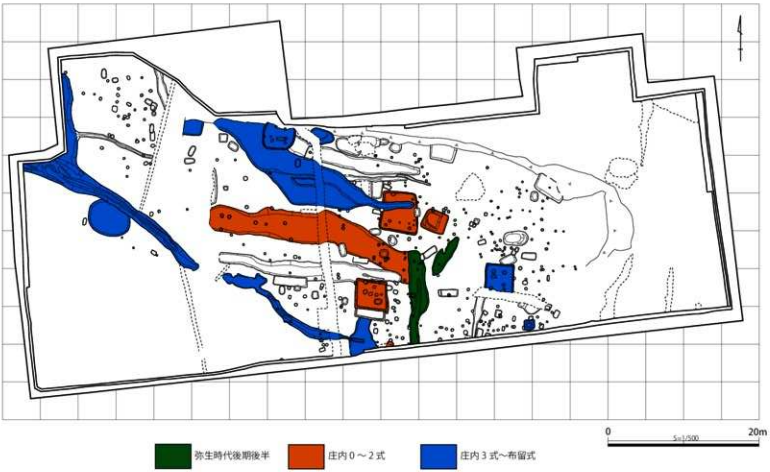
遺構構築の変遷は第７図のようになる。弥生時代後期の段階では明確な遺構は存在せず、窪地状の地形を中心に土器の廃棄が行われている。竪穴住居は庄内式に入った時期から構築されており、以後布留０～１式頃まで継続している。最終的にはSB2005、SD2008の廃絶に伴い大量に土器が廃棄されてこの地点においての活動は終了している。

②清成遺跡と東阿波型土器

第２遺構面出土土器の主体となるのは所謂「東阿波型土器」である。胎土に結晶片岩粗粒を含んだ弥生時代終末期～古墳時代初頭の精製薄形土器で、甕、壺の内面器壁を下半部はヘラケズリ、上半部は



第６図　主要な遺構から出土した土器



第 7 図　第 2 遺構面の遺構変遷図（1/500）

ユビオサエによって仕上げられた一群である。徳島県内における分布の主体は鮎喰川流域～吉野川下流の徳島平野の周辺に位置する遺跡であり、徳島市国府町矢野遺跡、同名東町名東遺跡、板野郡板野町黒谷川郡頭遺跡等では東阿波型土器の甕の割合が３～５割前後の出土量がある（菅原編 1987、岡山 2000、近藤編 2001）。また石井城ノ内遺跡の土器の分析を行った田崎博之氏によると、①石井城ノ内遺跡の調査によって出土した弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器類の大半が東阿波型土器であり、他の遺跡と比べるとその比率が格段に高いこと、②従来から指摘されているように、胎土に含まれる結晶片岩を産する三波川変成地帯に位置する遺跡の中でも、石井城ノ内遺跡は東阿波型土器の出土比率が高いこと、③各調査区から出土した遺物の中に土器焼成に伴うとみられる残滓が確認でき、そのほとんどが東阿波型土器の範疇で捉えられること、等の事実から「東阿波型土器の成立に石井遺跡群の集団が大きく関わっているとともに、最大の製作拠点であることは明らかである。」と述べている（岡山編 2003）。

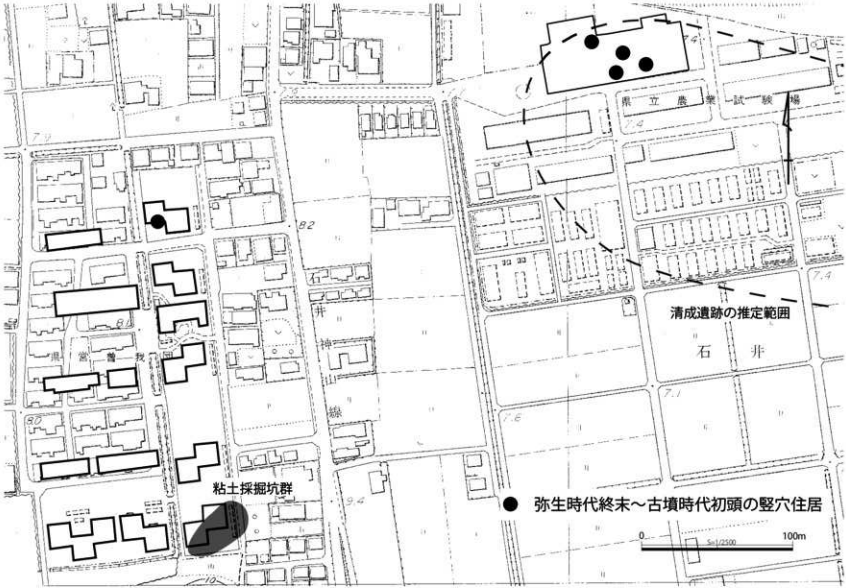
石井城ノ内遺跡に隣接する清成遺跡においても、今回の調査において出土・図化した壺、甕類の内で東阿波型土器の占める割合は高く約８割を越えているとみられる。資料中には焼成時の破裂痕跡とみられる欠損状況を有する壺（544）、甕（551）、鉢（558）等複数器種の土器が同一遺構内（SB2004）に廃棄されている例が見られることなどから、東阿波型土器の製作に関わった集落であった可能性が考えられる。そうした推定を補強する材料として今回の調査において注目されるのは、SB2005 内に廃棄されていた大量の白色粘土塊である。出土量は 1.5m 四方から厚みが 0.2m 程度であるので 0.5㎥弱ほどであり、このような粘土がまとまって出土する例は吉野川下流域では初めてである。粘土の用途としては土器製作の為の原料としてストックされていたと考えられる。これらの粘土の採掘地点の候補としては石井城ノ内遺跡曽我団地地区Ｆ区が考えられる。石井城ノ内遺跡曽我団地地区Ｆ区は清成遺跡調査地点から直線距離で約 300m 程の南西に位置しており、弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構面が検出されている（第８図）。調査区から検出された遺構は径が２～ 3m、深さが１～ 1.5m 前後の大型土坑群であり、粘土採掘坑としての用途が推定されている（岡山編 2003）。

本誌収録を含めた白石純氏のこれまでの胎土分析の結果から見ても、東阿波型土器は吉野川下流の遺跡に止まらず、中流域の美馬市脇町拝東遺跡や美馬郡つるぎ町貞光前田遺跡など、中流域の集落にまで一定量の搬出が行われていることから、清成遺跡と石井城ノ内遺跡を中心とした集落において主導的に集中生産が行われ、搬出された可能性が高いことが追認できる。

(3) 第３遺構面［弥生時代中期］

この時期の遺物がまとまって出土しているのは性格不明遺構とした SX3010 と第２遺構面の調査時において検出された集石遺構である SU2001（調査時 SK2005）の２ヶ所である。SU2001 は調査区の北側が近世～近代時に削平を受けており、断面に礫や土器等が露出していたことから検出が行われたものである。当初、第２遺構面の遺構検出時に中央付近の礫が見えたことから掘り込み内に礫が廃棄されているとの所見で礫の検出が進められていったが、整理作業段階の出土遺物のエレベーション確認作業においては中央部に向かって礫がマウント状に盛り上がる状態であることが判明したため、集石遺構として位置付けることとした。そのため本来の第３遺構面に帰属すると考えた場合、15 ～ 20cm 程度の土と礫とによる盛り土が行われていた可能性が考えられる。

SU2001 の下部からは東西方向に主軸を持つ長方形土坑（SK3008）が検出されているが、遺物等は確認できなかった。また SU1001 と SK3008 は遺構の構築面にレベル差が存在するためそれぞれ異な



第８図　清成遺跡と石井城ノ内遺跡の調査地点

る時期の遺構と考えられる。積み上げられた礫は砂岩・泥岩類を中心としており、その他に結晶片岩や白色の石英を一部用いている。特に 30cm 前後の大型石材には砂岩が使用されており、第 424 図に示したように基底部近くにおいては大型で板状をした砂岩礫を主に用いて石櫛状の区画が形成され、内部から横位に置かれ、体部下半に穿孔を施した壺（856）が出土している。また遺物は土器片だけでなく石器類（敲石・石斧・砥石など）も礫に混じるようにして出土している。供献土器とみられる壺の存在から墓または祭祀遺構としての性格が考えられるが、吉野川北岸にみられる桜ノ岡遺跡（Ⅰ）SK1016（湯浅 1993）や椎ヶ丸～芝生 SK1003（久保脇 1994）等のように掘り込みを伴わない可能性が高いことから類例の増加を待ちたい。

SU1001 の形成時期は出土した土器の形態の特徴から以下のことが挙げられる（Ⅲ章 第 426 ～ 431 図）。①甕および高杯に凹線が施された個体が含まれること、壺や甕の頸部に粘土紐を貼り付けた後に指頭圧を施すものが存在すること、③壺や甕の体部下半内面にヘラケズリを施すこと、④壺の口縁部内面や甕・高杯の口唇部に斜格子文を描くものが存在すること、⑤水平口縁の高杯やジョッキ形土器が伴うことなどから、中期後半のⅣ -1 期に属するものと考えられる（近藤 2014）。この時期の遺構は調査区内からは検出されていないため集落の中心の所在は不明である。

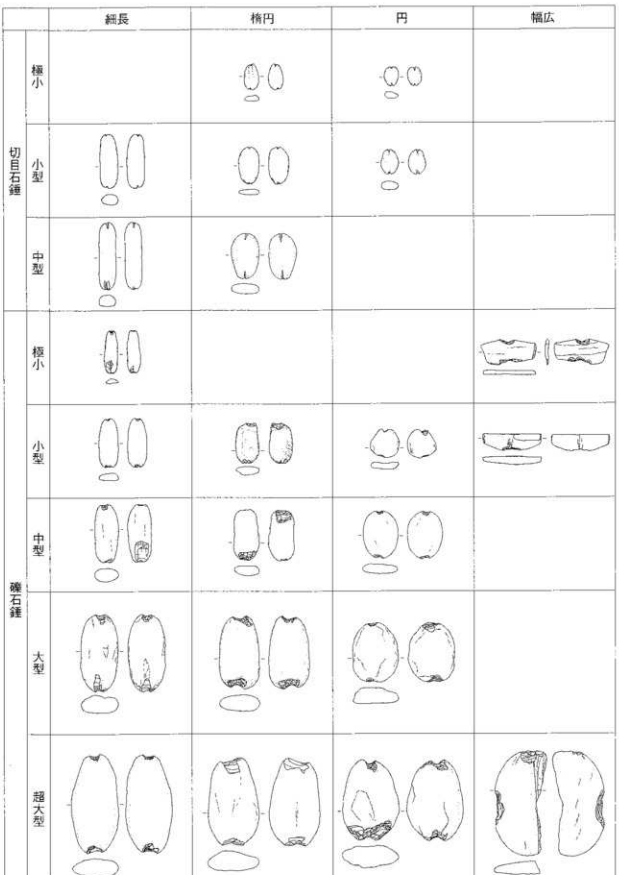
SX3010 から出土した土器は、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する広口壺、僅かに直立した口縁端部も有する無頸壺、口縁部が短く「く」の字に開く甕、杯部が深い椀形で口縁が外反し杯部と脚部の境の断面三角形の突帯に刻み目を施した高杯等が出土している（Ⅲ章 第 548 図）。これらの特徴から中期前半のⅢ -1 期頃の様相と位置付けられ、その他に出土量は少ないが、SX3011 も同時期と考えられる。

弥生時代中期の遺構は竪穴住居等の定型的な遺構が検出されておらず、流路や窪地状の落ち込み等が中心に構成されているため、集落の中心域は明らかではない。また前半期の遺構面と後半期の遺構（SU2001）との検出面にはレベル差が存在しており、時間の経過に伴い土壌の堆積が生じたものと考えられる。

(4) 第 5 遺構面 [縄文時代後期]

縄文時代後期の遺構面からは竪穴住居とみられる大型の遺構（SB5001）を中心に大小のピットが検出された。SB5001 の中央付近には地焼炉とみられる焼土のまとまりが検出されたが、柱穴などのピット類は住居跡内からは検出できなかった。こうした例は近隣の徳島市矢野遺跡から発見された住居跡群も同様で、中央付近に地焼炉が存在するのみで他の附属遺構が殆ど存在していない。徳島県下ではつるぎ町貞光前田遺跡や徳島市庄町庄遺跡の調査において検出された竪穴住居跡内からピットや石囲炉等が見つかっているが、明確な遺構はまだ少数の例に止まっている。

今回出土した石器で最も多いのは石錘である。用途としては主に淡水域における内水面漁労活動に利用されたと考えられ、石錘の出土例は隣接する石井城ノ内遺跡をはじめとして、矢野遺跡、貞光前田遺跡、三好郡東みよし町大柿遺跡など吉野川の中流～下流域にかけて広く分布している。その形態は多岐に渡るものであり、加工方法（切目・打欠）、大きさ（極小・小・中・大・超大）と平面形状（細長・楕円・円・幅広）により 32 種に分類できる（第 9 図・藤川編 2003）。167 点と最も多く石錘が出土した矢野遺跡では小型（切目・小型・細長タイプ、打欠・小型・細長タイプ）、中型（打欠・中型・楕円タイプ）、超大型（打欠・超大型・細長タイプ、打欠・超大型・楕円タイプ）等と異なる複数の形態が一定量存在



第 9 図　石錘の分類図（藤川編 2003 から転載）

遺跡名	形態	点数
矢野遺跡	切目・小型・細長	8
	打欠・小型・細長	12
	打欠・中型・楕円	13
	打欠・超大型・細長	22
	打欠・超大型・楕円	27
	打欠・超大型・円	12
	その他	73
檜寺前谷川遺跡	打欠・中型・円	1
	打欠・大型・円	2

遺跡名	形態	点数
大柿遺跡	打欠・中型・円	2
	打欠・大型・円	1
貞光前田遺跡	切目・小型・細長	1
	打欠・小型・円	1
	打欠・中型・円	1
	打欠・大型・細長	2
清成遺跡	**打欠・中型・円**	**3**
	打欠・大型・楕円	**1**
	その他	**1**

表1　吉野川流域の縄文時代遺跡出土石錘の形態組成

しているのに対して、その他の少数の石錘が出土した遺跡では中型（打欠・中型・円形タイプ）を中心として円形の形態が多くみられ、清成遺跡もそれに含まれている（表1）。大きさの異なる石錘はそれぞれ使用方法にも違いがあることが予想されるため、組成の異なりや偏りは遺跡毎での漁労の活動内容や対象とする獲物（魚種）の違いを反映しているものと考えられる。

2 吉野川下流域の古代～中世前半期の土器編年について

徳島県下においては1990年代以降、発掘調査によって古代～中世にかけての資料が増加してきた。これらの資料の年代的な位置付けについては、1999年に早渕隆人氏によって7～9世紀頃を中心とした編年案が示されている（栗林編1999）。ただし遺跡数は増加していても一括資料は限定的で、資料の全容が十分把握されていないものも含まれているため、全ての時期を網羅するには至らなかった。その後、2000年代以降になると徳島市国府町の観音寺遺跡、敷地遺跡、弥生遺跡等の国府関連資料を含んだ資料群の報告書が相次いで刊行され、それと伴に吉野川下流域の遺跡調査も清成遺跡を含めて数多く行われ、その成果が公表されてきている。今回はそれらの成果を基にして吉野川下流域における8世紀～13世紀までの編年案を示すと伴に、土師器を中心とした土器様相の変化について図示しながらまとめておきたい。

（1）7世紀代の遺跡

古墳時代の終末～飛鳥時代にあたる7世紀代の資料は前半段階では徳島市国府町敷地遺跡から検出された多くの竪穴住居内から一括性の高い資料群が得られているが（氏家2007a）、後半段階になると検出されている遺構数は減少傾向となる。資料がまとまって出土しているのは敷地遺跡（Ⅱ）と呼称されている北半部の集落から検出された竪穴住居（1998年3区SB2001・7世紀半ば）、土坑（2001年1区ST2025・7世紀後半）等が挙げられる（氏家2007b）。その他としては徳島市国府町観音寺遺跡6区SR1001の河川内に廃棄された資料中にも多くの遺物が出土している（田川編2010）。

(2) 8 世紀代の遺跡と土器の様相（第 10・11 図）

この時期の土師器は所謂「律令的土器様式」を示す一群であり、供膳具として杯、皿、蓋、高杯等の器種を中心として出土している。また出土する量としては須恵器と土師器が拮抗している。ここでは前半期と後半期の 2 時期に分けて様相を述べておく。

8 世紀前半期に位置付けられる資料群としては観音寺遺跡（Ⅲ）8 区 SD1021（田川編 2010）、徳島市国府町矢野遺跡（Ⅲ）SB1021（近藤編 2006）、徳島市庄町庄遺跡（学校施設建設工事）SA01・SA02（勝浦 1996）等が挙げられる。杯、皿には内面に暗文、そして古相のものには外面にヘラミガキが施される。また底部から体部下半の外面はヘラケズリによって整形されており、ユビオサエ痕なども残されている。口径は 10 ～ 20cm 前後までと様々なタイプが存在しており、20cm を超す大型の杯、皿には高台が付けられるものもある。器形は体部が斜め上方に開きながら口縁部で僅かに外反し、端部の内面に沈線が 1 条施されるものが多い。清成遺跡では SB1003、SX1001、SX1004 等の資料が該当すると考えられる（第 12 図）。また図示してはいないが、敷地遺跡（Ⅱ）1998 年 2 区 SA2001 出土の一群（氏家 2007b）も畿内からの搬入土器を含んでおり、この時期に位置付けられる。

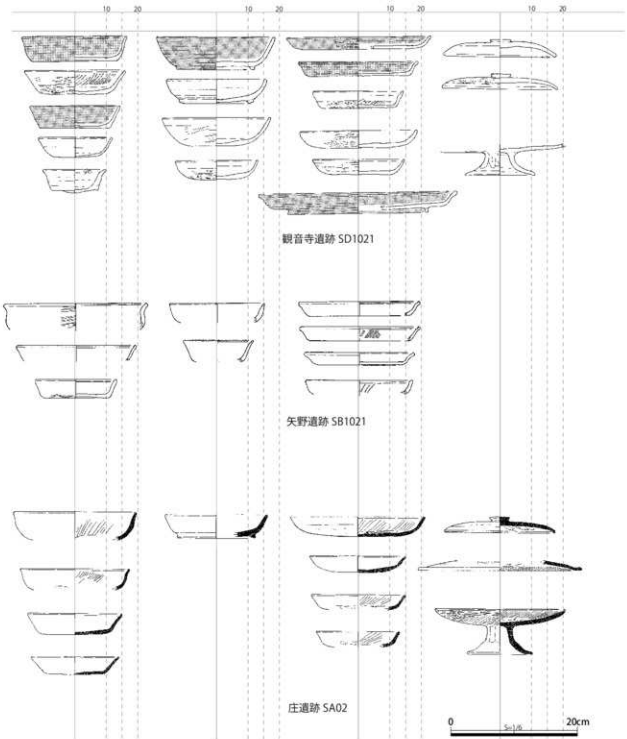
8 世紀後半に位置付けられる資料群としては徳島市国府町高畠遺跡土器溜まり（鳥巡 1990）、観音寺遺跡（Ⅲ）7 区 SP1086（田川編 2010）、敷地遺跡（Ⅰ）SK3158（氏家 2007a）等が挙げられる。前段階まで杯、皿類に施されていた暗文はほぼ消失する。底部には回転台による整形痕がみられ、それを丁寧にナデ消している。各器種の口径を前段階と比べると、皿では大きな変化はみられないが、杯では 15cm 程度のものが主体となってやや小型化傾向になる。器形は依然として口縁端部内面に沈線 1 条を施すものが多いが、斜め上方に直線的に開いて端部を丸、あるいはやや尖り気味に収めるものも一定量見られるようになる。また底部から体部にかけての境を斜めに削って丸底気味に仕上げた器形は減少している。

(3) 9 世紀代の遺跡と土器の様相（第 13・14 図）

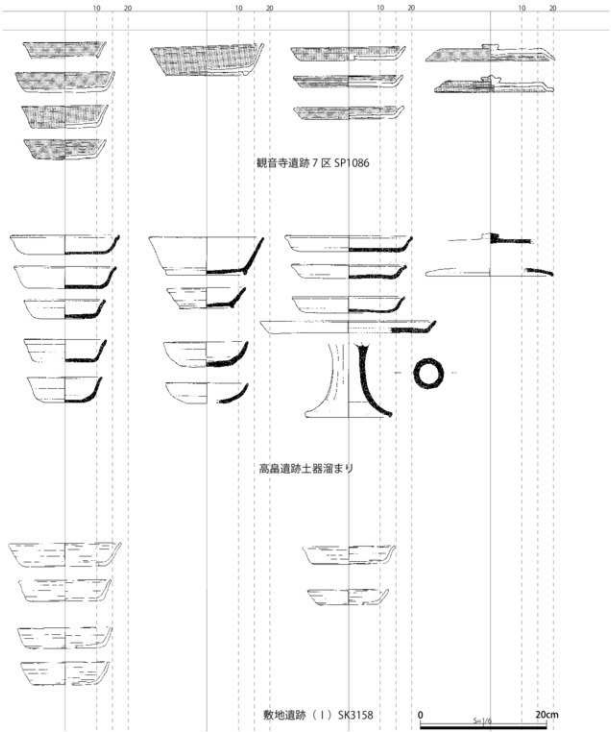
この時期の土師器は所謂「回転台土師器」と呼称される一群が中心に生産されており、供膳具に占める須恵器の割合は激減する。また杯、皿類に比べると蓋が減少している。以下、前後半の 2 期に分けて記述していく。

9 世紀前半に位置付けられる資料群としては矢野遺跡（Ⅲ）SD1039（近藤編 2006）、敷地遺跡（Ⅰ）SR3001、敷地遺跡（Ⅰ）SA3013（氏家 2007a）等が挙げられる。杯は前段階同様に口径が 15cm 以下のものが主体であるが、口縁端部内面に沈線 1 条を施すものはほぼ姿を消す。こうした形態とは別に須恵器の器形を模したとみられるもので、体部が直線的に立ち上がり、高台を貼り付けたタイプが一定量存在している。皿は高杯に組み合わせたり高台を貼り付けたりする口径 25cm 前後の大型のものから 15cm 弱のものまで、様々な大きさが存在しているが、主体は 20cm 弱程である。器高は 1.5cm 程度と前段階に比べると低くなる。器形は体部が大きく開き気味になり、杯と比べると口縁端部内面に沈線 1 条を施すものが多くみられる。図示していないが敷地遺跡（Ⅱ）1999 年 6-3 区 SE1001（氏家 2007b）、観音寺遺跡（Ⅲ）8 区 SA1008EP22（田川編 2010）、矢野遺跡（Ⅲ）SK1294（近藤編 2006）等もこの時期に位置付けられる。

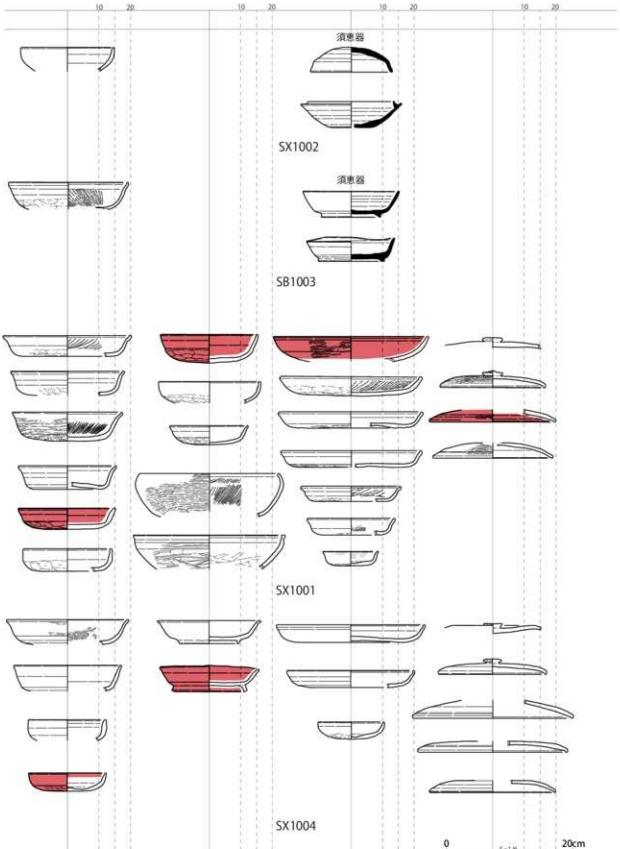
9 世紀後半に位置付けられる資料群としては敷地遺跡（Ⅰ）SD3029（氏家 2007a）、板野郡板野町古町遺跡 SK3030（斎藤 2002）、観音寺遺跡（Ⅲ）8 区 SK1043（田川編 2010）等が挙げられる。こ



第 10 図　吉野川下流域の土師器①（8 世紀前半）



第 11 図　吉野川下流域の土師器②（8 世紀後半）



第 12 図　清成遺跡出土の 7 ～ 8 世紀の土師器

の時期は土師器に伴うその他の供膳具として須恵器が減少して、新たに緑釉陶器、黒色土器A類が伴いはじめる。杯は口径が12cm程度で器高が4cm前後の小型のタイプと口径が15～20cmで器高が5～6cm程の大型のタイプに分かれている。大型のものには高台を貼り付けるものもみられ、一部椀形に近い丸みを帯びた形態も存在している。皿は前段階同様に大型のものも存在しているが、全体に15cm以下のものが主体で小型化が進む。器高も1.5cm以下と低めのものが多く、器形は口縁端部を外反気味に開くタイプが特徴的にみられる。図示していないが敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№8、敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№11（氏家2007a）、観音寺遺跡（Ⅲ）6区SX1008、観音寺遺跡（Ⅲ）8区SK1043（田川編2010）、古町遺跡SK3001、古町遺跡SD3003（斎藤2002）、石井城ノ内遺跡（石井・神山線地区）SK2014（日下1999）等もこの時期に位置付けられる。

(4) 10世紀代の遺跡と土器の様相（第15・16図）

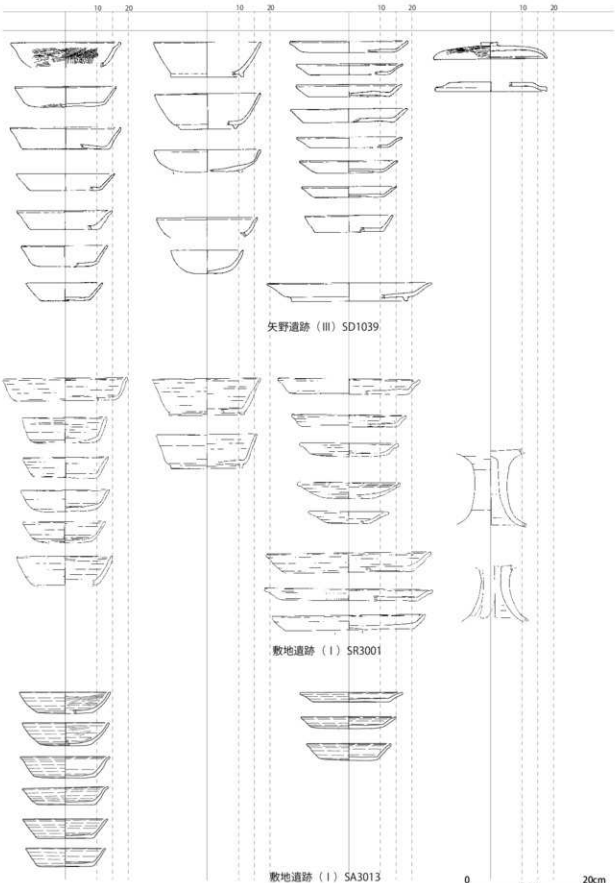
この時期の供膳具は土師器がほぼ大半を占めるようになっている。前段階から続き黒色土器A類が伴い、後半段階になると黒色土器B類が出現すると考えられる。以下、前後半の2期に分けて記述していく。

10世紀前半に位置付けられる資料群としては黒谷川宮ノ前遺跡SK1034、黒谷川宮ノ前遺跡SK1017（早渕1994）、敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№13（氏家2007a）、観音寺遺跡（Ⅲ）8区SE1003（田川編2010）等が挙げられる。杯は前段階同様に小型と大型に分けられるが、大型のものは法量が小型化すると伴に口縁端部が僅かに外反気味である。また高台の付くタイプは高台の高さがやや伸び気味である。皿についても口径が10cm強のものが多く、小型化は依然として進行している。観音寺遺跡（Ⅲ）8区SE1003をこの時期に含めたが、大型で丸底気味の杯が主体で、高台付きの皿が伴っていること、黒色土器B類が組成していることなどから10世紀半ば以降の可能性も考えられる。

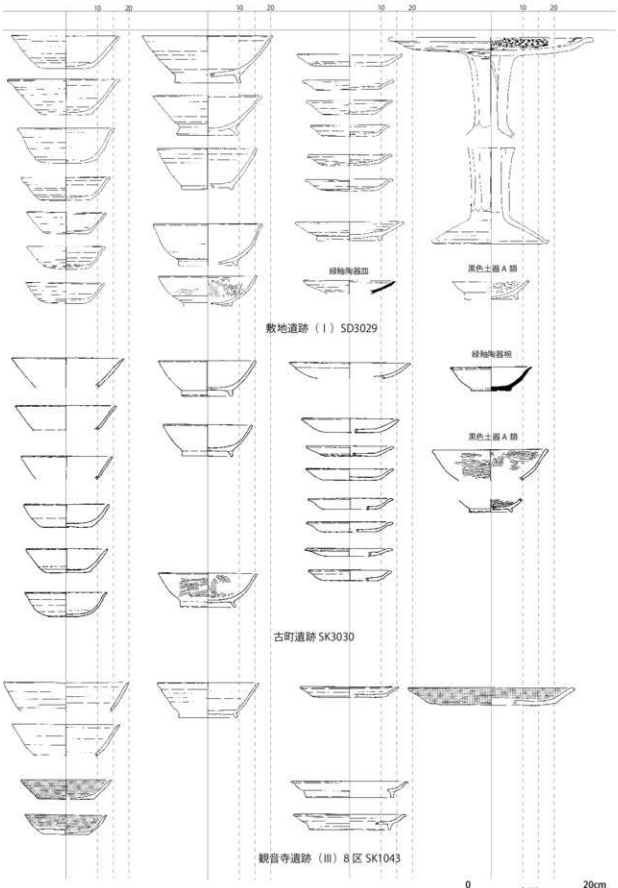
10世紀後半に位置付けられる資料群としては敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№14（氏家2007a）、敷地遺跡（Ⅱ）2001年1区SK2071（氏家2007b）、観音寺遺跡（Ⅲ）6区SE1001（田川編2010）等が挙げられる。先にも触れたが黒色土器B類がこの時期から供伴例が増加してくる。杯は口径15cm以下の小型のものが依然主体であるが、体部の開きが前段階に比べると弱くなる。また回転ヘラ切りによって切り離された底部への調整は余り行われなくなり、回転痕とその後の板目痕が残された状態のものが多い。高台付きの大型タイプの杯も器高（深さ）は浅くなり、高台部分の高さが1.5cm前後の高く伸びたものが多くみられるようになる。皿は薄型化（器高の低減化）が進み体部と底部の境が不明瞭なタイプと器高が2cm前後のやや深いタイプの2者が存在するが、口径が10cm前後の小型のもので占められている。また高台の付いたタイプが一定量組成する。図示していないが敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№18、（氏家2007a）敷地遺跡（Ⅱ）2001年1区SD2017（氏家2007b）、観音寺遺跡（Ⅲ）7区SP1166（田川編2010）等もこの時期に位置付けられる。

(5) 11世紀代の遺跡と土器の様相（第17図）

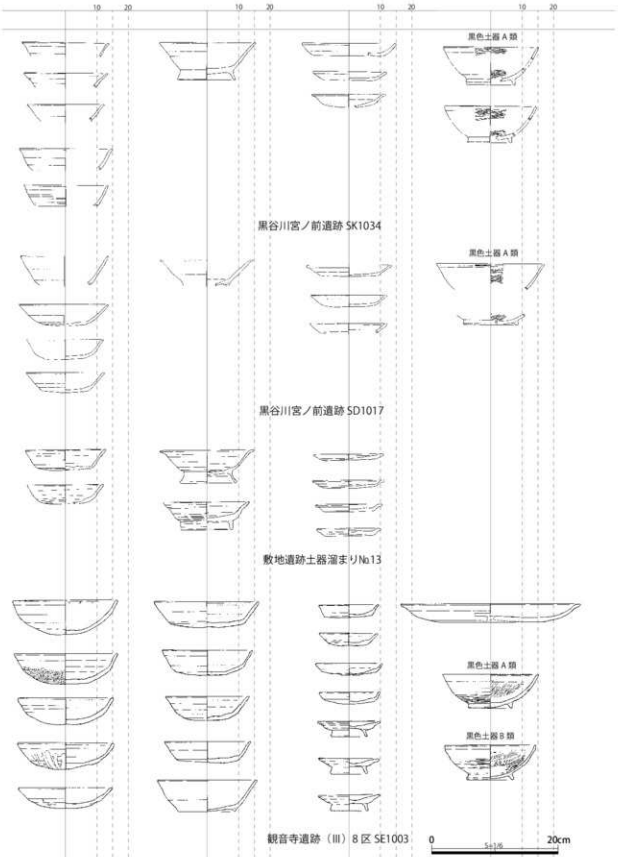
この時期は該当する遺跡数が減少傾向にあり、実体については不明な点も多い。土器の様相としては黒色土器は依然としてB類を中心に組成している。また後半期頃になると東播系須恵器や白磁が供伴するようになる。11世紀に位置付けられる資料群としては、前半期に矢野遺跡（Ⅲ）SP1332（近藤編2006）、観音寺遺跡（Ⅲ）2区SP1079（田川編2010）、後半期には徳島市川内町大松遺跡東調査



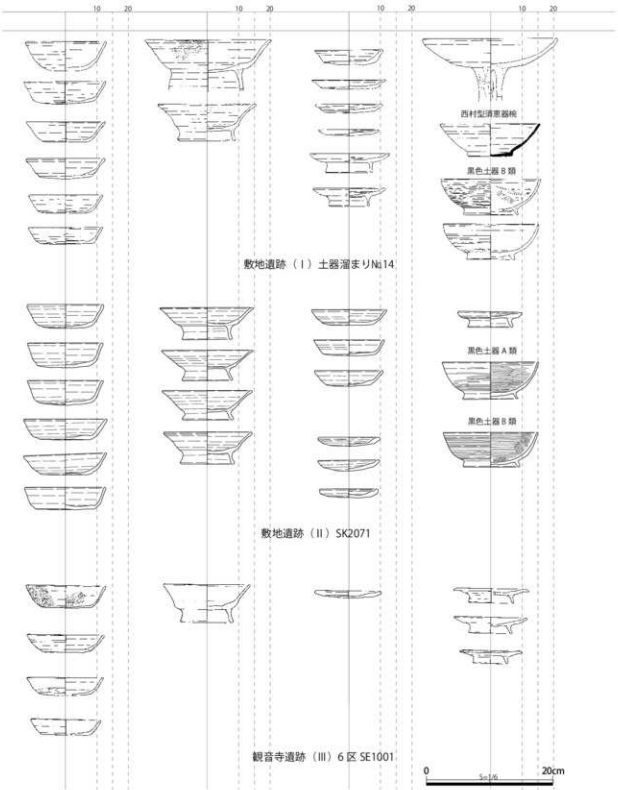
第 13 図　吉野川下流域の土師器③（9 世紀前半）



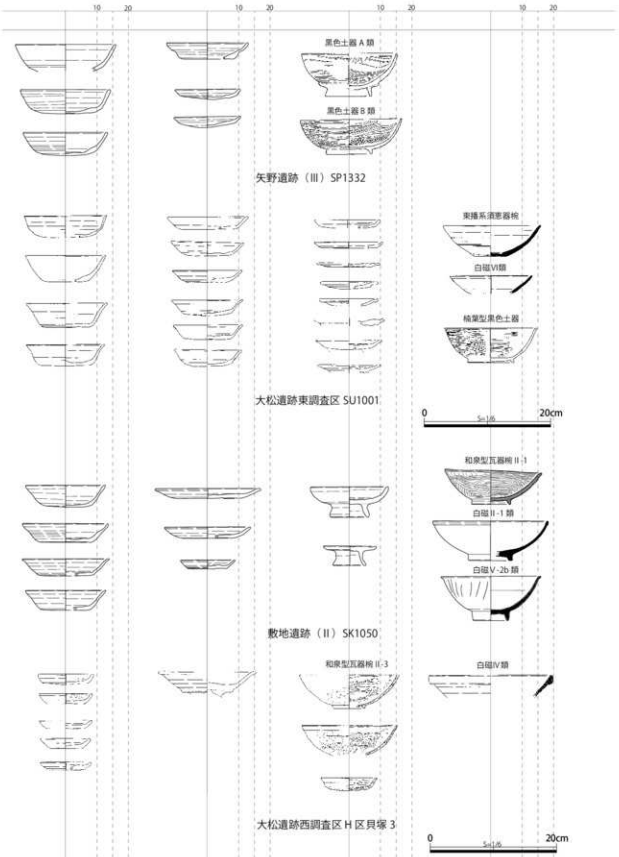
第 14 図　吉野川下流域の土師器④（9 世紀後半）



第 15 図　吉野川下流域の土師器⑤（10 世紀前半）



第16図　吉野川下流域の土師器⑥（10世紀後半）



第 17 図　吉野川下流域の土師器⑦（11 ～ 12 世紀）

区 SU1001（氏家編 2015）等が位置付けられる。土師器の形態は前半期は 10 世紀後半段階と比べても大きく変化はみられないが、後半期には体部が直線的に開き僅かに外反気味のものが増えてくる。皿は前段階同様に薄いタイプと深めのタイプの両者が存在しており、口径の変化は顕著ではない。皿の形態などから清成遺跡 SK1170 もこの時期と考えられる。

(6) 12 世紀代の遺跡と土器の様相（第 17 図）

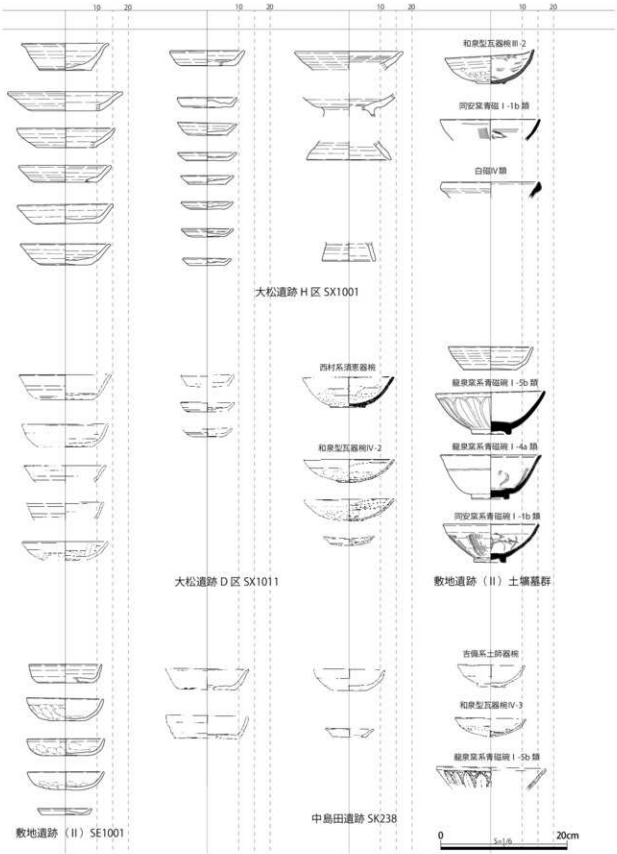
この時期も 11 世紀代と同様、前半期は遺跡数が少ない傾向にある。土器の様相としてはこの時期の前半から瓦器椀が出現し、後半期になると大松遺跡では土師器に並ぶ出土量となる。また東播系須恵器のこね鉢と白磁碗が多くみられるようになる。12 世紀に位置付けられる資料群としては前半期に敷地遺跡（Ⅱ）1998 年 3 区 SK1050（氏家 2007b）、後半期には大松遺跡西調査区 H 区貝塚 3（氏家編 2015）等が挙げられる。土師器の杯の形態は器高がやや低くなり 3 ～ 4cm のものが多くなる。また体部の開きが大きくなり皿の形状に近くなる。皿は口径が 10cm 程度の小型のもの以外に 15cm 前後の大型のタイプが現れる。体部は前段階に比べると底部との境が明瞭になり薄型であっても角が形成される。また後半期になると底部の切り離しに回転糸切りが行われるようになる。清成遺跡の SP1460、SP1482 は杯、皿の形態や瓦器椀の供伴などから 12 世紀前半頃に位置付けられる。

(7) 13 世紀代の遺跡と土器の様相（第 18 図）

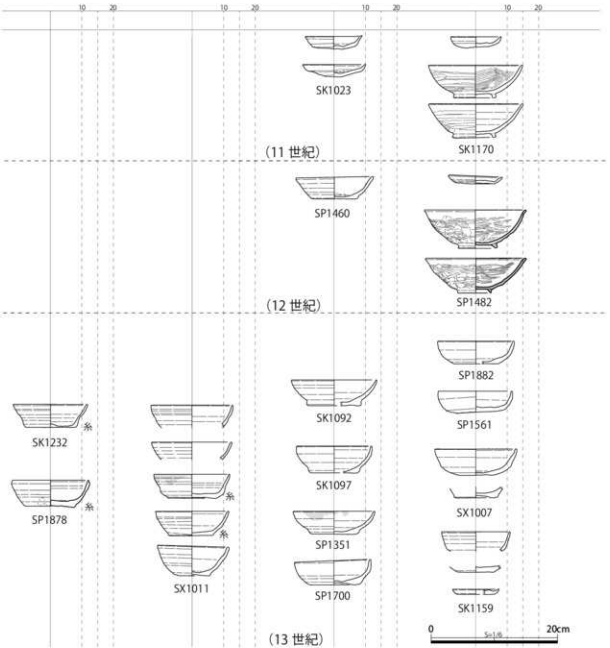
この時期になると吉野川下流域では遺跡数が増加する。土器の様相としては和泉型瓦器椀（Ⅲ -2 ～ Ⅳ期）、東播系須恵器のこね鉢（Ⅱ -2 ～ Ⅲ -1 期）等が供伴する。また白磁に変わって青磁が輸入磁器としては主体的に組成するようになる。13 世紀に位置付けられる資料群として前半期は大松遺跡西調査区 H 区 SX1001（氏家編 2015）、後半期には大松遺跡西調査区 D 区 SAX1011（氏家編 2015）、敷地遺跡（Ⅱ）2001 年土壙墓群、敷地遺跡（Ⅱ）1998 年 2 区 SE1001（氏家 2007b）、中島田遺跡 SK238（福家編 1989）等が挙げられる。前半期の土師器の杯は器高が 3cm 前後と低めで、前段階と同様に皿状に近い形態で、これに脚台が付くものもある。皿は再び小型化が進み口径が 10cm 未満の形態が主体となる。底部の切り離しは回転糸切りで占められている。図示していないが大松遺跡西調査区 G 区 SK1011、大松遺跡西調査区 H 区 SK1013、大松遺跡西調査区 5 区 SK1026、大松遺跡西調査区 5 区 SK2059（氏家編 2015）、敷地遺跡（Ⅱ）SK3012、敷地遺跡（Ⅱ）SP2031（氏家 2007b）等もこの時期に位置付けられる。

13 世紀後半から終末期にかけては杯が小型化して口径が 12cm 前後となる。京都系とみられる底部から体部下半にかけてユビオサエとナデが顕著で丸底気味の個体を除けば、体部が余り開かず直立気味で、回転ナデによる稜線が明確に残るものが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りの両者がみられる。図示していないが大松遺跡西調査区 4 区 SD1004、中島田遺跡溝 206 等もこの時期に位置付けられる。また清成遺跡第 1 遺構面の SK、SP から出土した土師器の杯、皿類は多くがこの時期に集中している（第 19 図）。

今回行った法量や形態の比較によって、8 ～ 13 世紀の土師器の供膳具を 12 段階程度に区分を行ってみた。形態の変化はある程度明瞭であるため、今後も増加する資料を加えながら編年の修正補強は可能である。また 8 ～ 10 世紀については須恵器の組成と形態分類の分析を加えることで、より編年の精度を上げられると考えられる。



第 18 図　吉野川下流域の土師器⑧（13 世紀）



第 19 図　清成遺跡出土の平安末～鎌倉時代の土師器

《参考文献》

菅原康夫 1987『黒谷川郡頭遺跡Ⅱ』徳島県教育委員会

福家清司編 1989『県道徳島鴨島線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　徳島市中島田遺跡　南島田遺跡』徳島県教育委員会

島巡賢二 1990『徳島県立国府養護学校プール建設工事に伴う高畑遺跡発掘調査概要報告書』徳島県教育委員会

橋本久和 1991「畿内周辺の回転台土師器」『考古学研究』第 38 巻第 1 号　考古学研究会

菅原康夫 1992『阿波弥生時代終末期社会の特質』『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズⅤ

湯浅利彦 1993『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 3　桜ノ岡遺跡（Ⅰ）桜ノ岡遺跡（Ⅲ）』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

久保脇美朗 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 6　北原～大法寺遺跡　十楽寺遺跡　椎ヶ丸～芝生遺跡』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

早渕隆人 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 9　黒谷川宮ノ前遺跡』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

森　清治 1994『鳴門市埋蔵文化財発掘調査報告書 1　桧はちまき山遺跡　桧松山遺跡　桧寺前谷川遺跡』鳴門市教育委員会

勝浦康守 1996「庄遺跡（学校施設建設工事）」『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 6』徳島市教育委員会

日下正剛 1999『石井城ノ内遺跡　石井・神山線地区　主要地方道石井・神山線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

栗林誠治編 1999『中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　金泉寺遺跡　川端遺跡』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

岡山真知子 2000『鮎喰遺跡　徳島県立城西高等学校施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

菅原康夫・梅木謙一編 2000『弥生土器の様式と編年　四国編』木耳社

近藤　玲編 2001『矢野遺跡（Ⅰ）一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

泊　強　2001『貞光前田遺跡　西部テクノスクール建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

斎藤　剛 2002『古町遺跡　一般県道板野川島線住宅宅地関連公共施設整備促進事業関連埋蔵文化財発掘調査報告』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

栗林誠治編 2002『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 18　大柿遺跡Ⅰ』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

岡山真知子編 2003『石井城ノ内遺跡　石井曽我団地地区　県営住宅（石井曽我団地）建設工事関連埋蔵文化財発掘調査報告』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

藤川智之編 2003『矢野遺跡（Ⅱ）一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之編 2005『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 31　大柿遺跡Ⅲ』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

近藤　玲編 2006『矢野遺跡（Ⅲ）一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2007a『敷地遺跡（Ⅰ）道路改築事業（徳島環状線国府地区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2007b『敷地遺跡（Ⅱ）道路改築事業（徳島環状線国府地区）関連埋蔵文化財発掘調査概報』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

田川　憲編 2010『観音寺遺跡Ⅲ（遺構・遺物篇）一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』(財) 徳島県埋蔵文化財センター

近藤　玲 2014『南蔵本遺跡　県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書』(公財) 徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之編 2015『四国横断自動車道（徳島～鳴門）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　試掘調査総括　大松遺跡』(公財) 徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2016『拝東遺跡　緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書』(公財) 徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第89集

清成遺跡

徳島県立農林水産総合技術支援センター整備運営事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

≪第１分冊≫

発行日　平成29(2017)年3月21日

編　集　公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番２
TEL（088）672-4545

発行　徳島県教育委員会
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印刷　株式会社　教育出版センター